

令和3年度

男女共同参画に関する市民意識調査

報告書

川口市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査内容	3
4. 回収結果	3
5. 調査結果の見方	3
6. 回答者の属性	4
第2章 調査結果の詳細	7
1. 男女の平等について	9
(1) 各分野における男女の平等	9
(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について	22
(3) 結婚、家庭等についての考え	25
2. 男女平等教育について	30
(1) 男女共同参画社会実現のために力を入れるべきこと	30
3. 家庭生活について	42
(1) 家事・育児・介護の役割分担意識	42
(2) 家事・育児・介護へ費やす時間	49
4. ワーク・ライフ・バランスについて	56
(1) ワーク・ライフ・バランスの周知度	56
(2) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の理想とする優先度	58
(3) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の現実の優先度	61
(4) 男性の育児休業・介護休業取得	64
(5) 仕事と家庭の両立に必要な条件	68
5. 就労について	72
(1) 女性の望ましい働き方	72
(2) 女性の管理職登用の推進度	75
(3) 女性の管理職登用における課題	77
6. 社会活動への参加について	79
(1) 施策において女性の意見の反映度	79
(2) 女性の意見が反映されていない理由について	82
(3) 社会活動への参加経験について	85
(4) 社会活動に参加しなかった理由	88
7. 男女間の暴力について	90
(1) 暴力についての認知度	90
(2) 「暴力にあたる」と思う行為を、パートナーから受けた経験について	111
(3) 「暴力にあたる」と思う行為を受けた際の相談相手について	117

(4) 「暴力にあたる」と思う行為を受けた際、相談しなかった理由	120
8. 防災について	123
(1) 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応の必要性	123
(2) 防災・災害復興対策において、性別に配慮して取り組む必要があるもの	125
9. 人権について	128
(1) ハラスメントを受けた経験	128
(2) ハラスメントを受けた際の相談相手について	130
(3) 性的マイノリティが困っていること	132
(4) 性的マイノリティの人権を守るために必要なこと	134
10. 男女共同参画の推進について	136
(1) 男女共同参画関連事項の認知度	136
(2) 市が取り組んでいる男女共同参画事業の認知度	151
(3) 男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきこと	161
(4) 自由意見	164

第3章 資料	169
---------------	------------

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、市民の男女共同参画に関する意識や実態を調査することにより、課題を把握し、今後の男女共同参画計画の策定及び男女共同参画施策の推進における基礎資料として活用することを目的として実施した。

2. 調査設計

- ①調査対象：川口市在住の満18歳以上の男女
- ②標本数：4,000人
- ③抽出方法：住民基本台帳から無作為に抽出
- ④調査方法：郵送配布一郵送回収法
- ⑤調査期間：令和3年9月1日（水）～9月30日（木）

3. 調査内容

- (1) 男女の平等について
- (2) 男女平等教育について
- (3) 家庭生活について
- (4) ワーク・ライフ・バランスについて
- (5) 就労について
- (6) 社会活動への参加について
- (7) 男女間の暴力について
- (8) 防災について
- (9) 人権について
- (10) 男女共同参画の推進について

4. 回収結果

- ①標本数：4,000人（男性：2,000人 女性：2,000人）
- ②有効回収数：1,468人（男性：563人 女性：863人 男性、女性以外：4人 無回答：38人）
- ③有効回収率：36.7%（男性：38.4% 女性：58.8% 男性、女性以外：0.3% 無回答：2.6%）

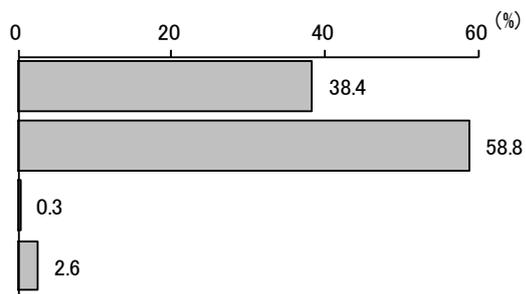
5. 調査結果の見方

- (1) 調査結果の数値は原則として回答率（%）で表記している。%の母数は、その質問項目に該当する回答者の数であり、n＝と表記している。また、複数回答についても回答者の数としている。
- (2) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記してある。このため、各%を足し上げても、100.0%にならない場合がある。また、複数回答可の設問では、母数に対する回答率のため、各回答率の足し上げは100.0%を超える場合がある。
- (3) 図表における数値の取扱いについては、実数値により計算している。そのため、合計値などでは四捨五入の関係上、比率の単純な合計とは多少の差がある。
- (4) 分析の軸（＝縦軸）としたプロフィールや設問は、無回答を除いているため、各プロフィールの基数の合計が全体と一致しない場合がある。また、分析によっては、必要な選択肢を抽出して使用したり、複数の選択肢をまとめて使用しているところもある。
- (5) グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票そのままの表現を用いているが、スペースなどの関係から一部省略した表現としている箇所がある。
- (6) 回答者数が30未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。

6. 回答者の属性

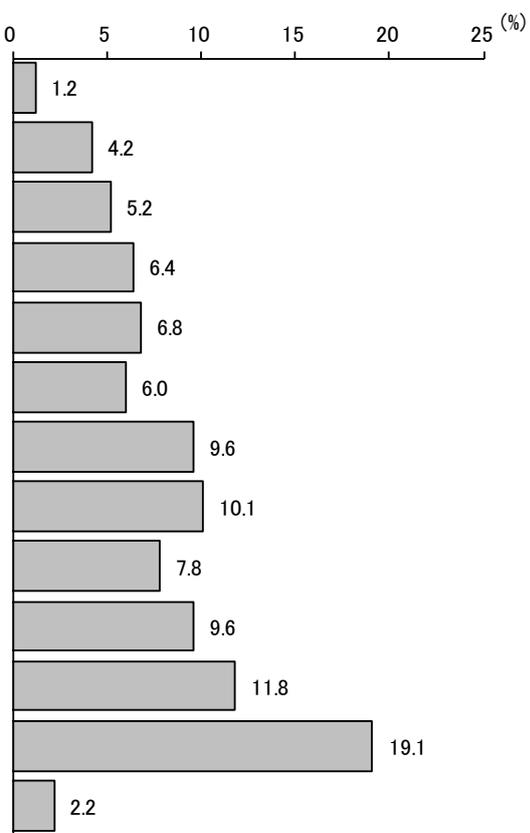
【性別】

	基数	構成比
男性	563	38.4%
女性	863	58.8%
1、2以外	4	0.3%
無回答	38	2.6%



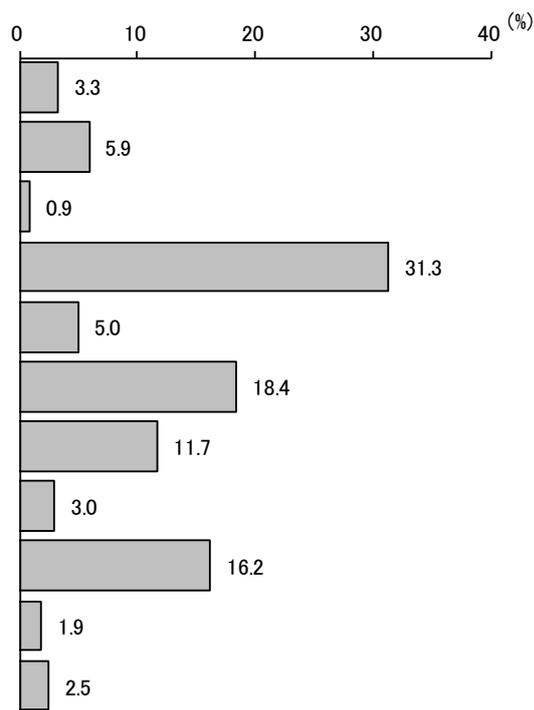
【年齢】

	基数	構成比
18～19歳	18	1.2%
20～24歳	61	4.2%
25～29歳	77	5.2%
30～34歳	94	6.4%
35～39歳	100	6.8%
40～44歳	88	6.0%
45～49歳	141	9.6%
50～54歳	148	10.1%
55～59歳	115	7.8%
60～64歳	141	9.6%
65～69歳	173	11.8%
70歳以上	280	19.1%
無回答	32	2.2%



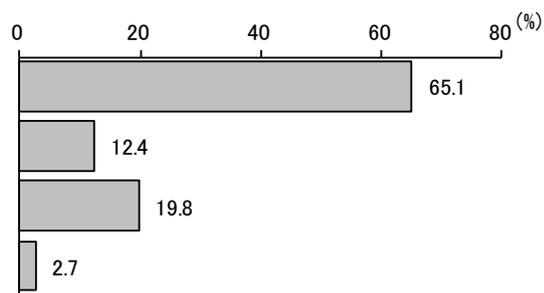
【職業】

	基数	構成比
事業主	49	3.3%
自営業・家業	86	5.9%
自由業	13	0.9%
会社員・団体職員	459	31.3%
派遣・契約・嘱託	73	5.0%
パート・アルバイト	270	18.4%
専業主婦・専業主夫	172	11.7%
学生	44	3.0%
無職	238	16.2%
その他	28	1.9%
無回答	36	2.5%



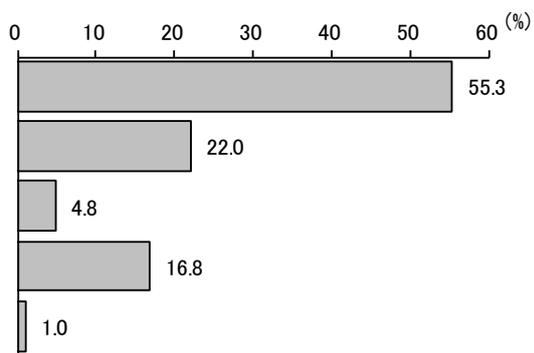
【既婚・未婚】

	基数	構成比
結婚している(事実婚を含む)	956	65.1%
結婚していたが、離別・死別した	182	12.4%
結婚していない(未婚)	291	19.8%
無回答	39	2.7%



【夫婦の働き方】

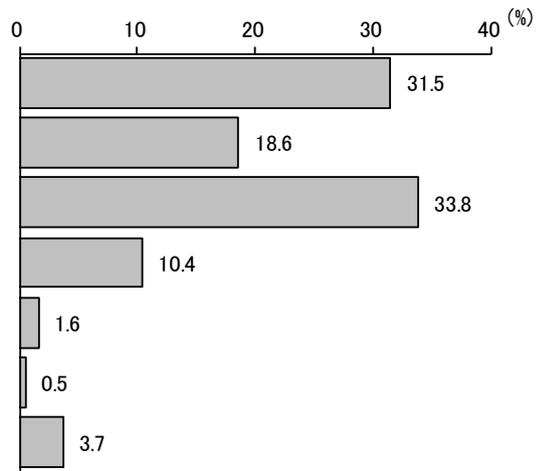
	基数	構成比
共働き	529	55.3%
夫だけ働いている	210	22.0%
妻だけ働いている	46	4.8%
夫婦とも無職	161	16.8%
無回答	10	1.0%



第1章 調査の概要

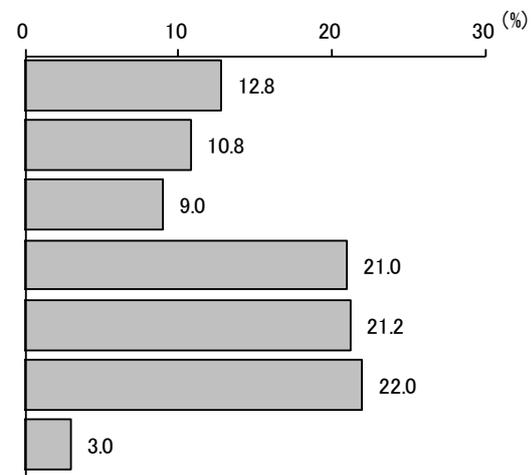
【子どもの数】

	基数	構成比
いない	462	31.5%
1人	273	18.6%
2人	496	33.8%
3人	152	10.4%
4人	23	1.6%
5人以上	7	0.5%
無回答	55	3.7%



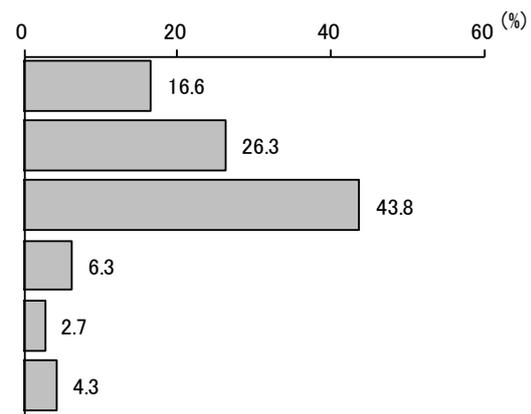
【一番下の子どもの年齢】

	基数	構成比
6歳未満	122	12.8%
6～12歳未満	103	10.8%
12～18歳未満	86	9.0%
18～30歳未満	200	21.0%
30～40歳未満	202	21.2%
40歳以上	209	22.0%
無回答	29	3.0%



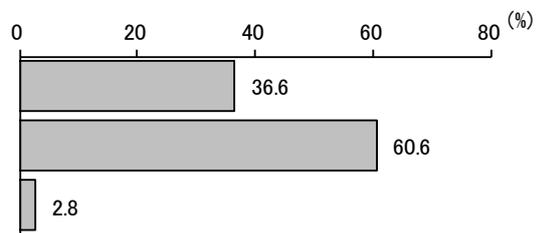
【家族構成】

	基数	構成比
一人世帯	244	16.6%
一世代世帯(夫婦のみ)	386	26.3%
二世世代世帯(親と子)	643	43.8%
三世世代世帯(親と子と孫)	93	6.3%
その他	39	2.7%
無回答	63	4.3%



【高齢者との同居】

	基数	構成比
同居している	425	36.6%
同居はしていない	704	60.6%
無回答	32	2.8%



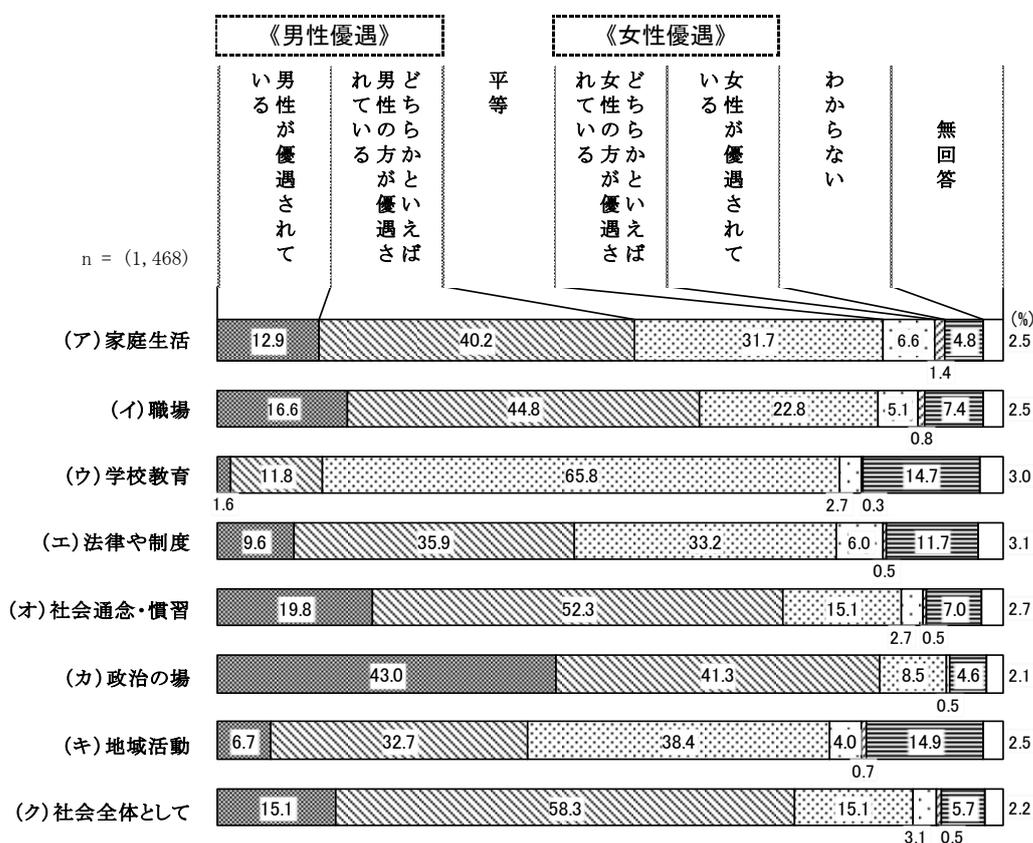
第2章 調査結果の詳細

1. 男女の平等について

(1) 各分野における男女の平等

問1 あなたは、次の分野において、男女は平等になっていると思いますか。また、社会全体としてはどうですか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

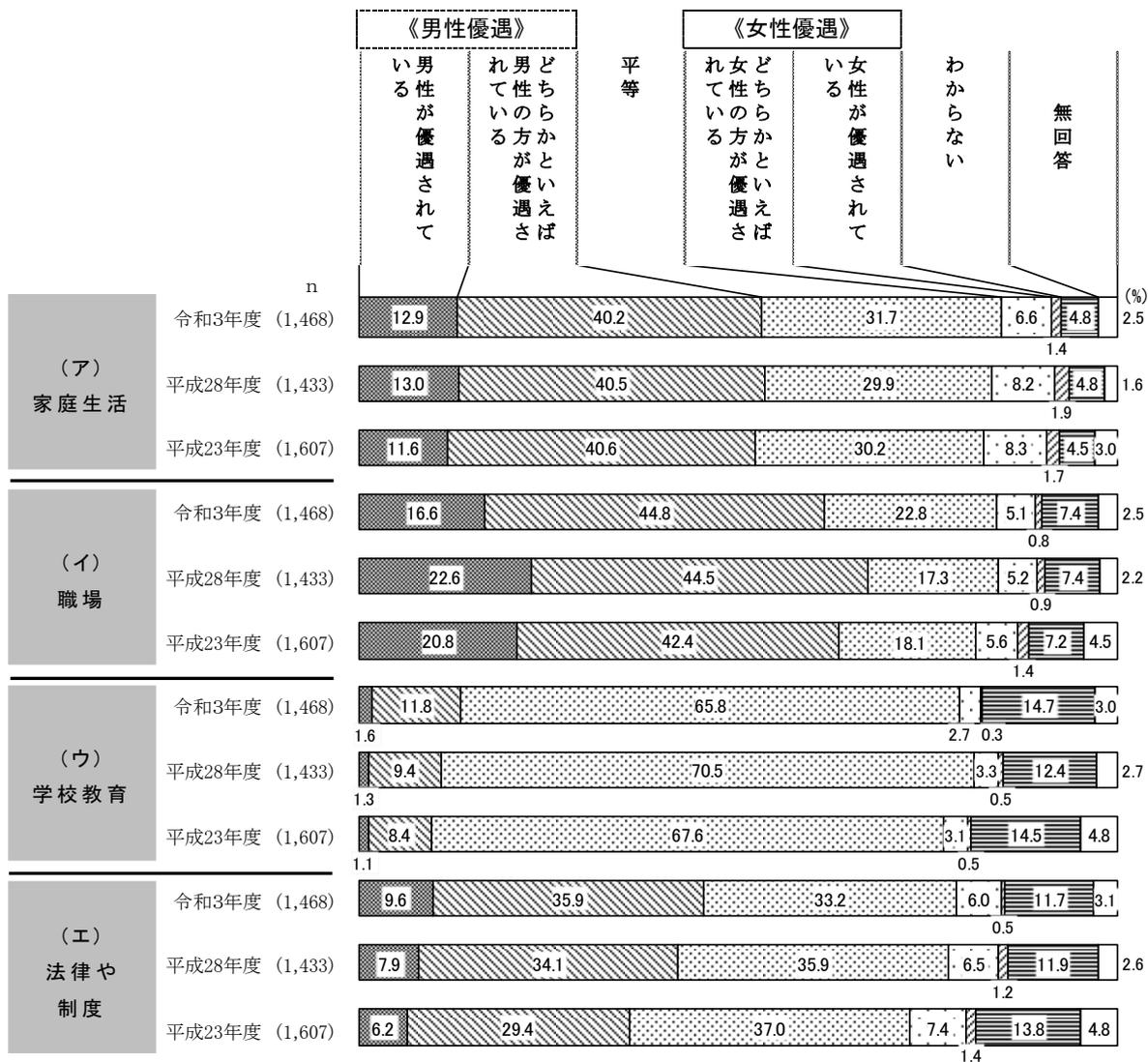
7つの分野と社会全体における男女の平等について、「平等」は、【学校教育】で65.8%と最も高く、以下、【地域活動】(38.4%)、【法律や制度】(33.2%)となっている。「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、すべての分野で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性が優遇されている」を合わせた《女性優遇》より高く、【政治の場】では84.3%と8割以上を占めているほか、【社会通念・慣習】(72.1%)で7割以上となっている。また、【社会全体として】では、《男性優遇》が73.4%となっている。

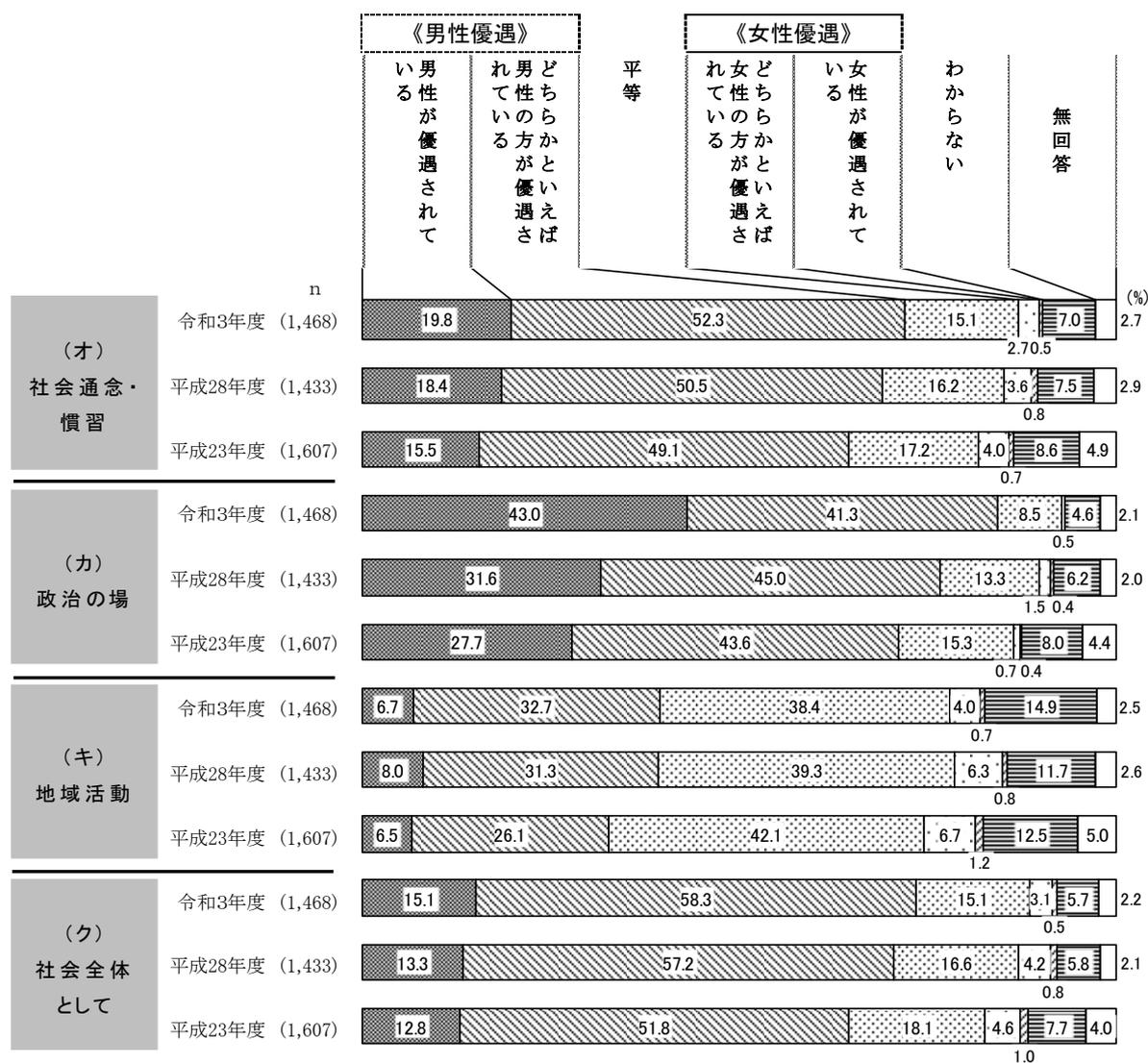


第2章 調査結果の詳細

【経年比較】

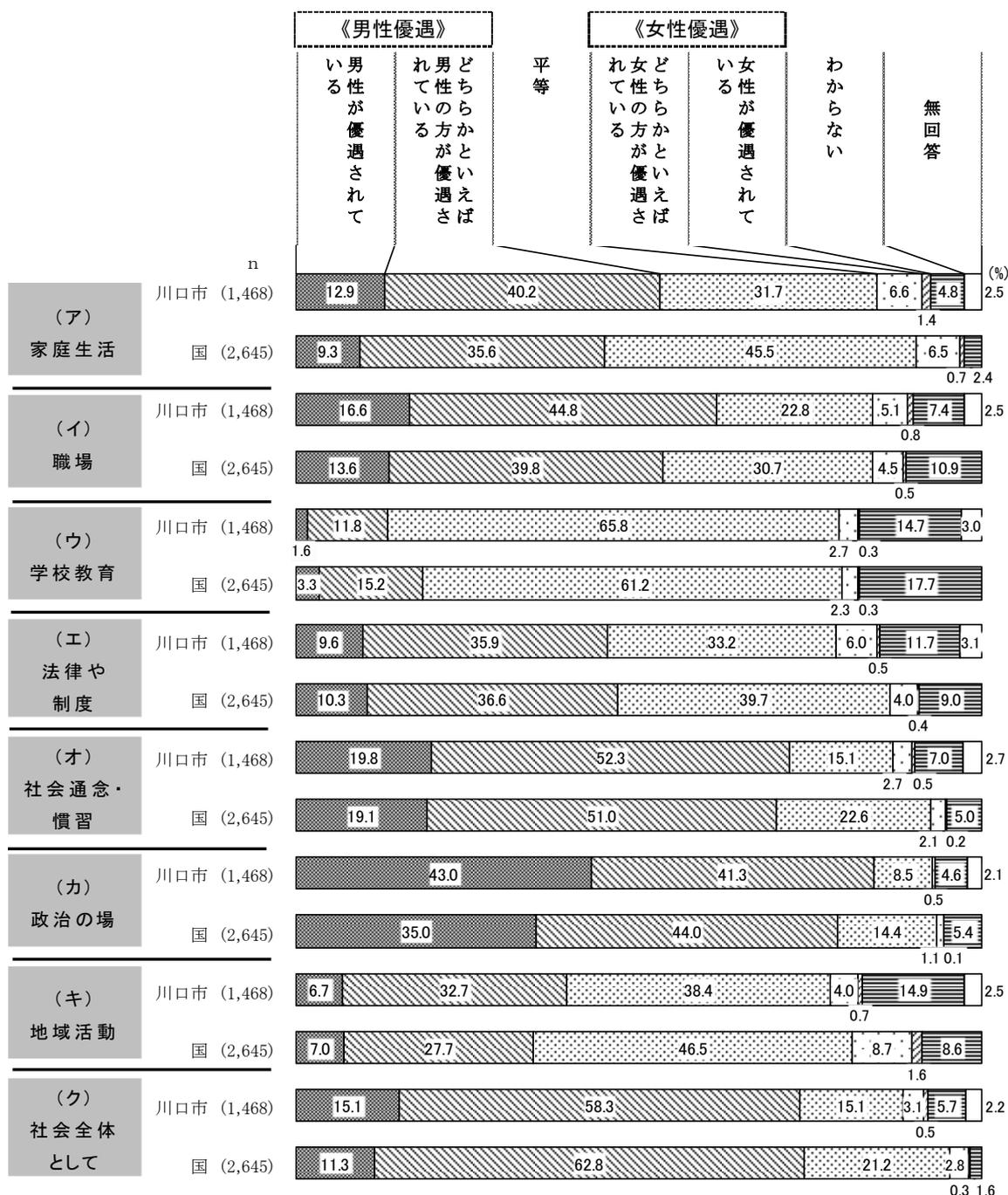
平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「平等」は【職場】で5.5ポイント増加している一方で、【学校教育】で4.7ポイント減少している。また、「男性優遇」は【政治の場】で7.7ポイント増加している。





【国との比較—内閣府 令和元年度 男女共同参画社会に関する世論調査】

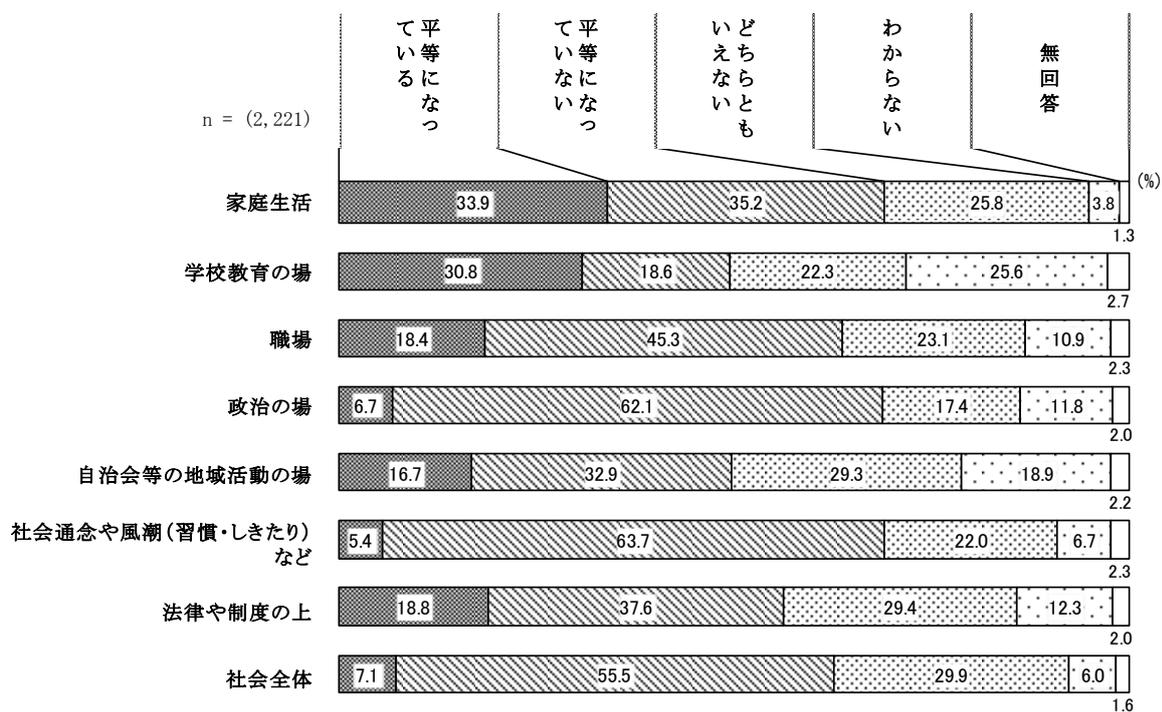
令和元年度に実施された国の調査結果と比較すると、「平等」は【学校教育】を除くすべての項目で国の調査結果が川口市の調査結果より高くなっている。一方で、《男性優遇》は【家庭生活】、【職場】、【社会通念・慣習】、【政治の場】、【地域活動】で川口市の調査結果が国の調査結果より高くなっている。



※【(オ) 社会通念・慣習】は、国で【社会通念・慣習・しきたりなど】

※【(キ) 地域活動】は、国で【自治会やPTAなどの地域活動の場】

【参考—埼玉県 令和2年度 男女共同参画に関する意識・実態調査】

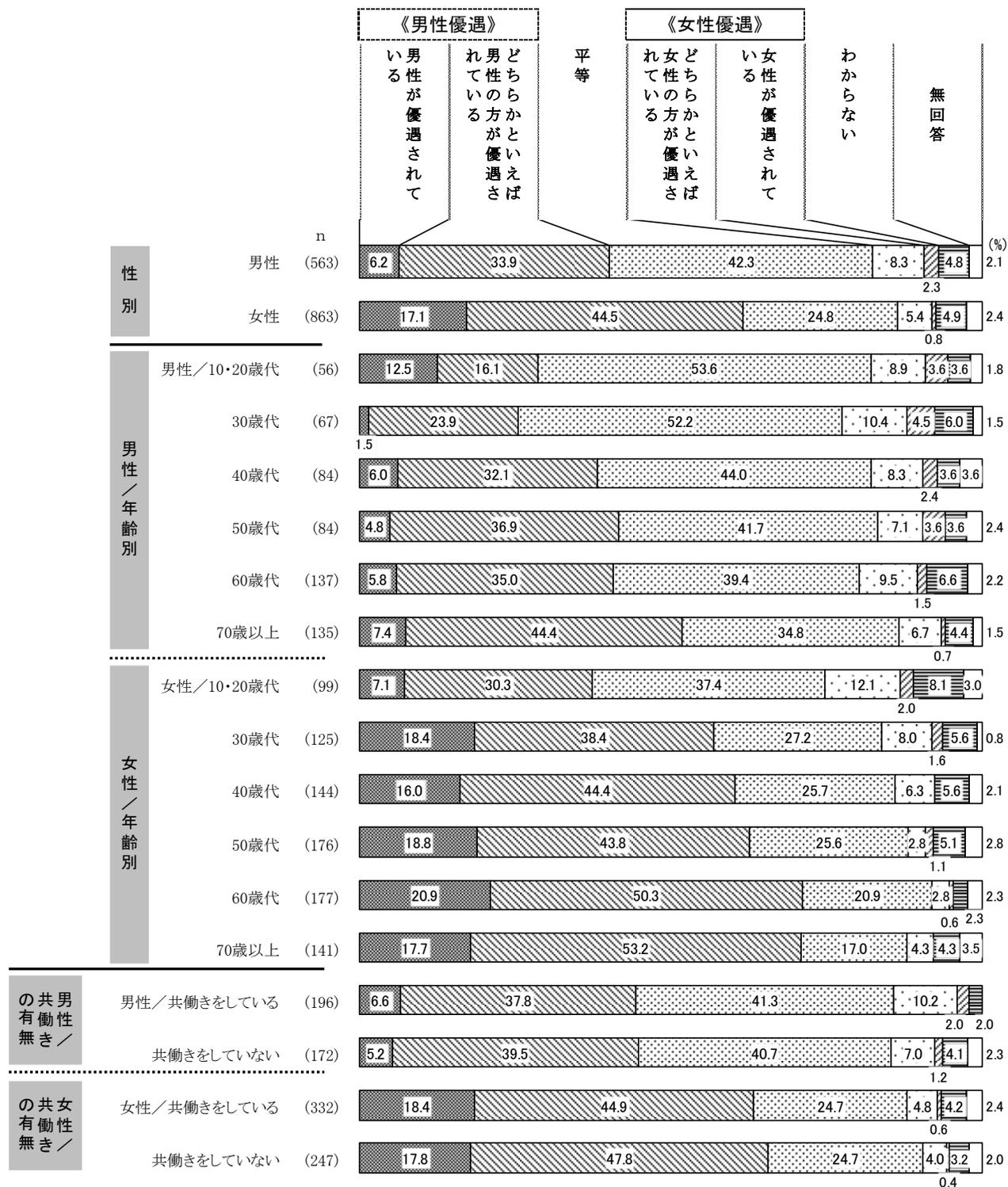


【(ア) 家庭生活 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「平等」は男性（42.3%）が女性（24.8%）より17.5ポイント高くなっている。一方で、《男性優遇》は女性（61.6%）が男性（40.1%）より21.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「平等」が10・20歳代、30歳代で5割以上を占めているが、年代が上がるほど低くなっている。女性では、「平等」がすべての年代で半数以下となっており、《男性優遇》は年代が上がるほど高く、60歳代、70歳以上で7割以上となっている。

性／共働きの有無別でみると、男性では共働きの有無にかかわらず、「平等」が4割以上となっている。一方で、女性では共働きの有無にかかわらず、《男性優遇》が6割以上となっている。

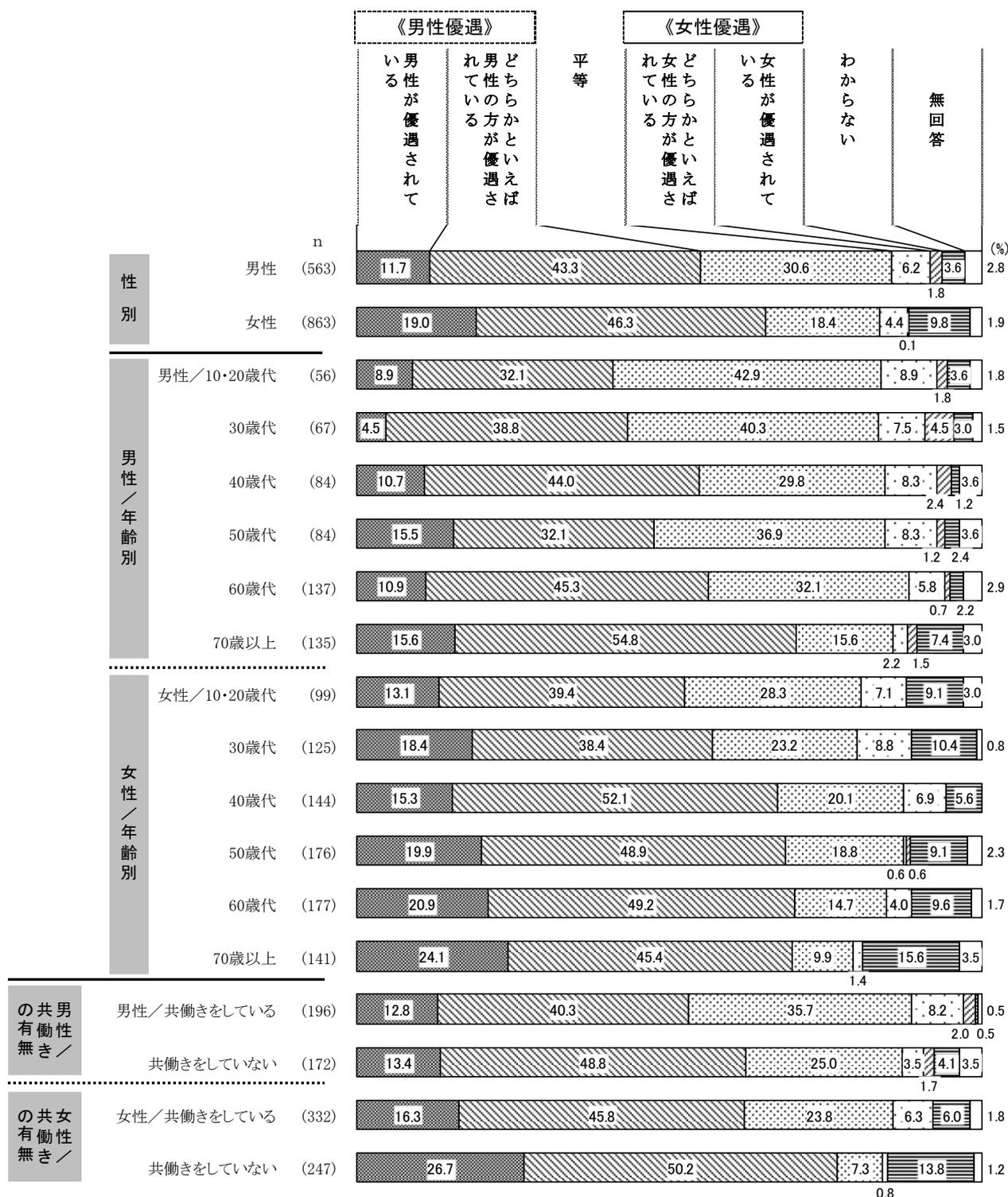


【(イ) 職場 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「平等」は男性（30.6%）が女性（18.4%）より12.2ポイント高くなっている。一方で、「男性が優遇されている」は、女性（19.0%）が男性（11.7%）より7.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、《男性優遇》が40歳代、60歳代、70歳以上で過半数を占めており、特に70歳以上（70.4%）で7割以上を占めている。女性では、《男性優遇》がすべての年代で過半数を占めており、特に40歳代から70歳以上で7割前後を占めている。

性／共働きの有無別でみると、男女とも共働きの有無にかかわらず、《男性優遇》が5割以上となっており、特に共働きをしていない女性（76.9%）で約8割となっている。

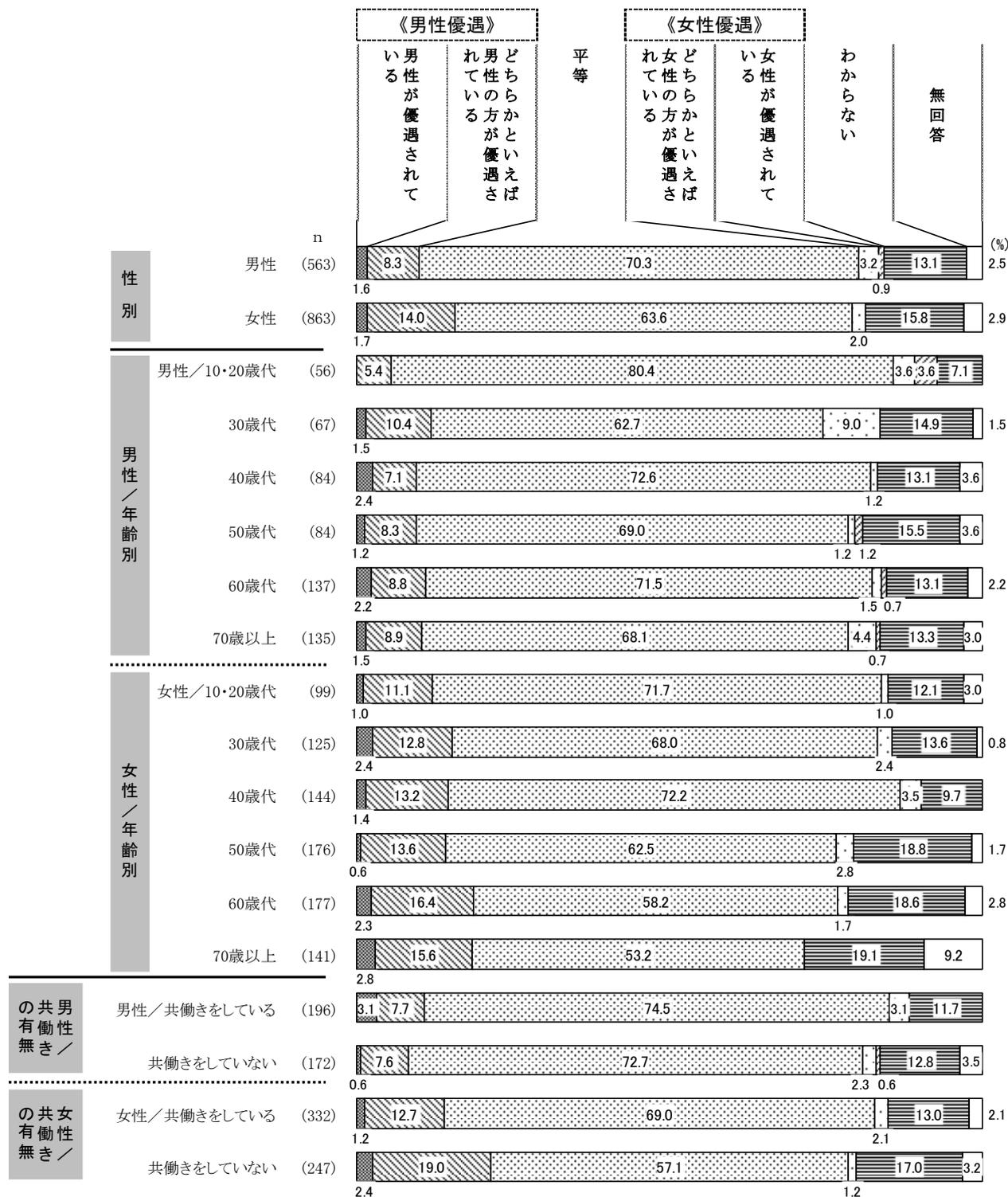


【(ウ) 学校教育 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「平等」は男性（70.3%）が女性（63.6%）より6.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男女ともに「平等」がすべての年代で過半数を占めており、特に男性の10・20歳代(80.4%)で8割以上を占めている。

性／共働きの有無別でみると、共働きをしている女性以外で「平等」が7割前後となっており、共働きをしていない女性（57.1%）では約6割となっている。

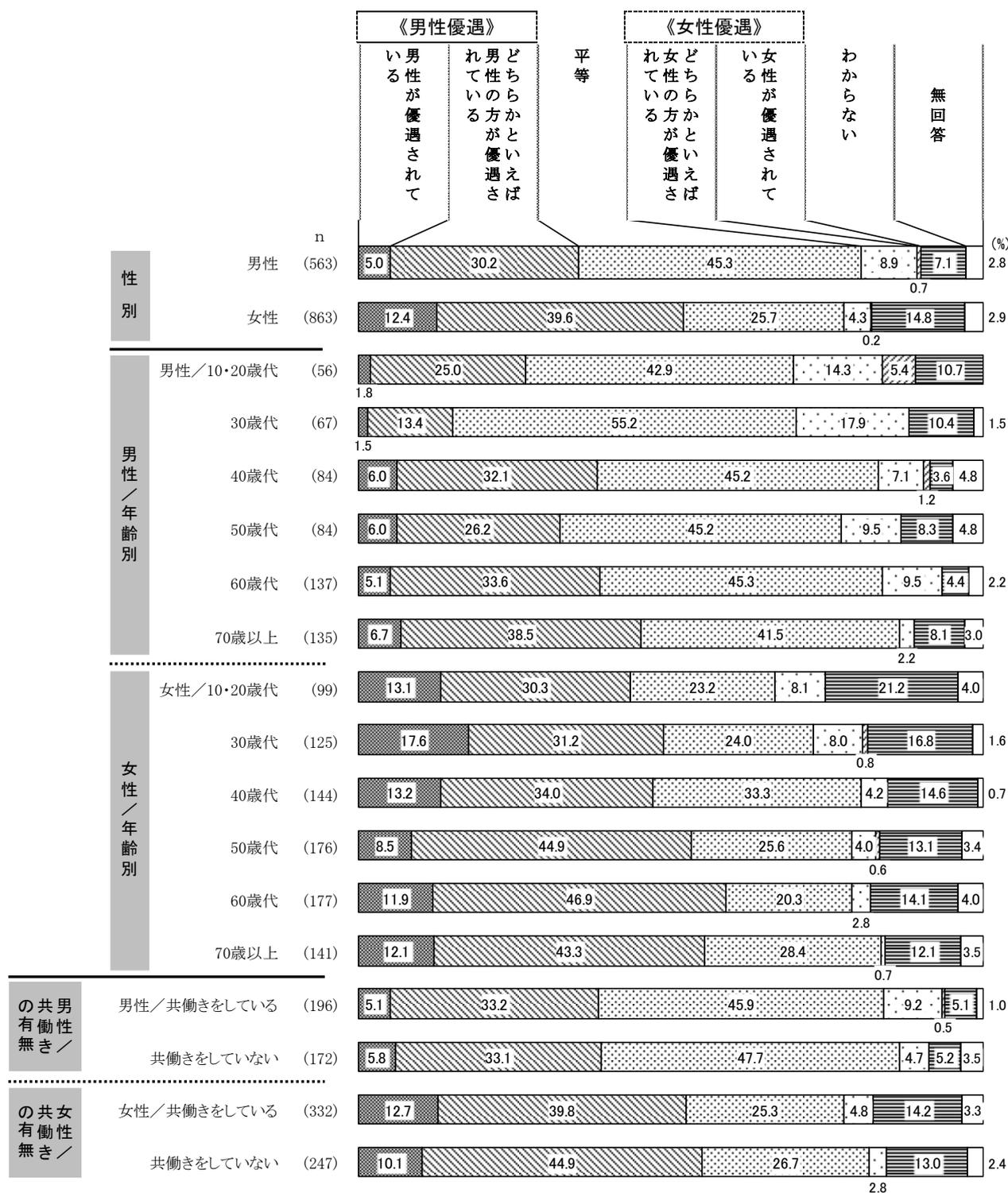


【(エ) 法律や制度 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「平等」は男性（45.3%）が女性（25.7%）より19.6ポイント高くなっている。一方で、「男性優遇」は、女性（52.0%）が男性（35.2%）より16.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「平等」が30歳代（55.2%）で過半数を占めており、その他の年代でも4割以上を占めている。女性では、「男性優遇」が50歳代から70歳以上で5割以上となっており、10・20歳代から40歳代でも4割以上となっている。

性／共働きの有無別でみると、男性では共働きの有無にかかわらず「平等」が約5割となっている。一方で、女性では共働きの有無にかかわらず「男性優遇」が5割以上となっている。

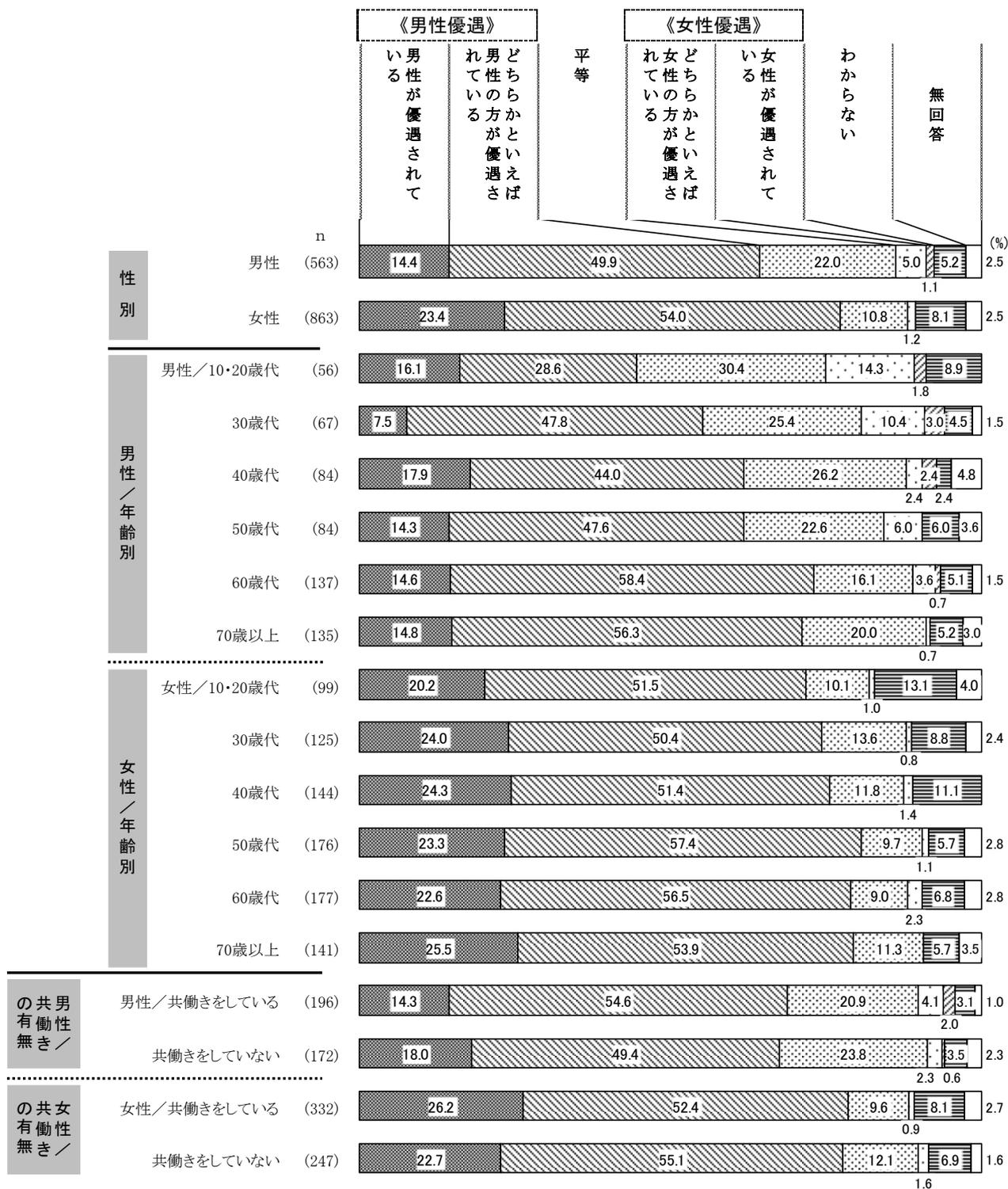


【(オ) 社会通念・慣習 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「平等」は男性（22.0%）が女性（10.8%）より11.2ポイント高くなっている。一方で、《男性優遇》は、女性（77.4%）が男性（64.3%）より13.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、《男性優遇》が10・20歳代を除くすべての年代で5割以上となっており、特に60歳代（73.0%）、70歳以上（71.1%）では7割以上となっている。女性では、《男性優遇》がすべての年代で7割以上となっており、特に50歳代（80.7%）で8割以上となっている。

性／共働きの有無別でみると、共働きの有無にかかわらず《男性優遇》が男性では約7割、女性では約8割となっている。

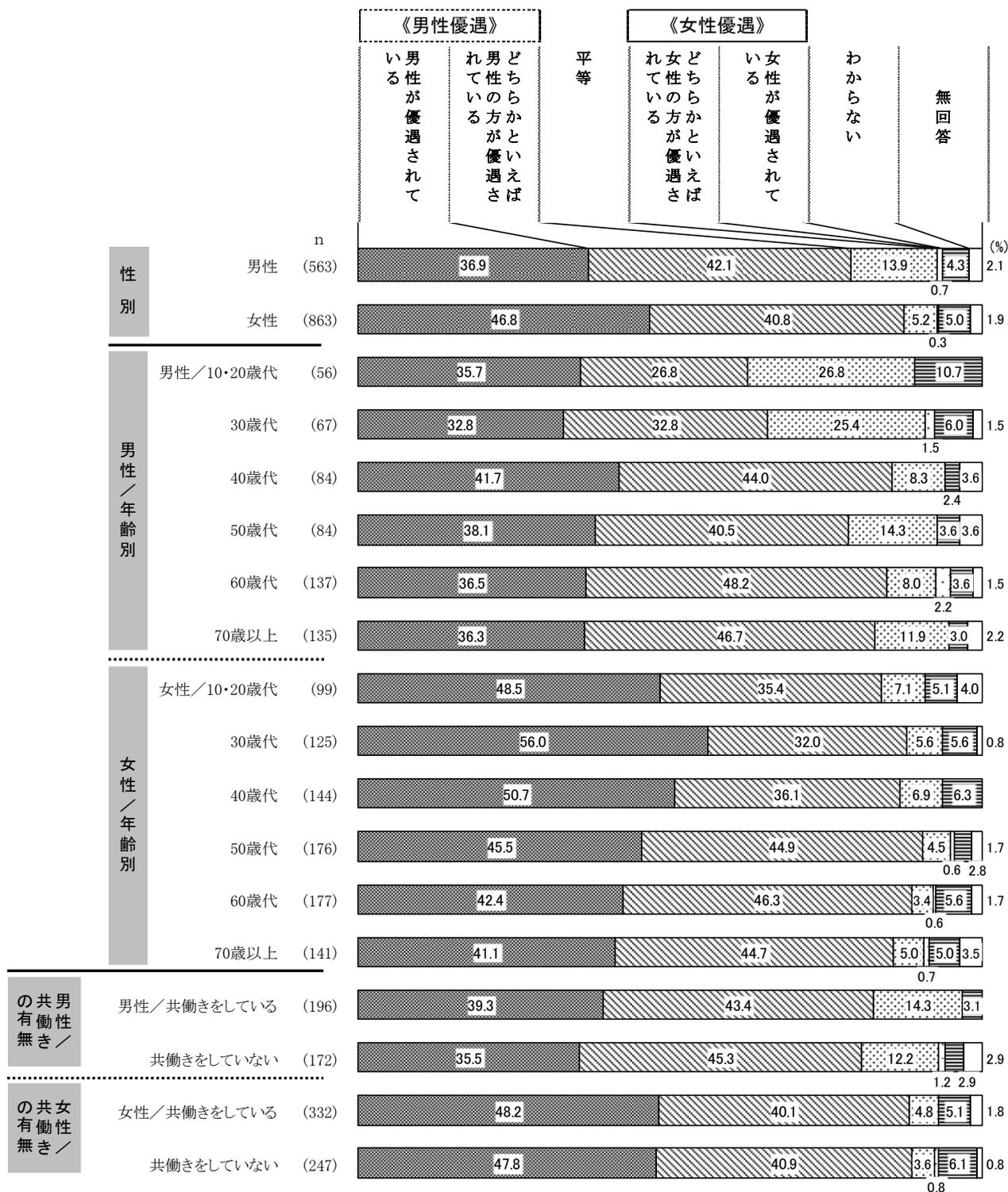


【(カ) 政治の場 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「平等」は男性（13.9%）が女性（5.2%）より8.7ポイント高くなっている。一方で、「男性が優遇されている」は女性（46.8%）が男性（36.9%）より9.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「平等」が10・20歳代、30歳代で約3割となっている。女性では、「平等」がすべての年代で1割未満となっており、《男性優遇》がすべての年代で8割以上を占め、特に50歳代（90.4%）で9割以上となっている。

性／共働きの有無別でみると、共働きの有無にかかわらず、《男性優遇》が男性では8割以上、女性では約9割を占めている。

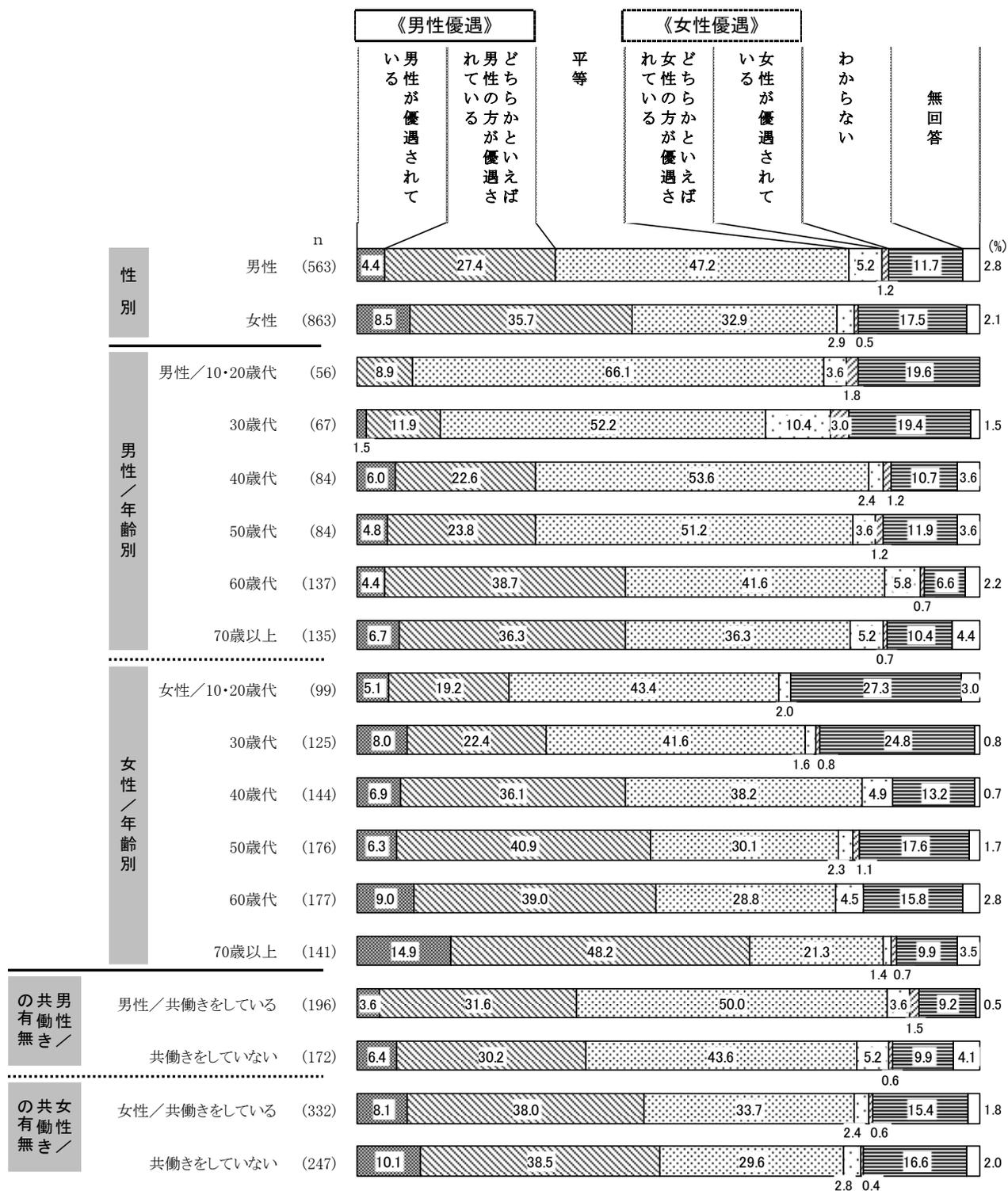


【(キ) 地域活動 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「平等」は男性（47.2%）が女性（32.9%）より14.3ポイント高くなっている。一方で、「女性優遇」は、女性（44.2%）が男性（31.8%）より12.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「平等」が10・20歳代（66.1%）で約7割、30歳代から50歳代で5割以上となっている一方で、60歳代、70歳以上では4割前後となっている。女性では、「平等」がすべての年代で半数以下となっており、特に70歳以上（21.3%）では2割台と低くなっている。

性／共働きの有無別でみると、男性で「平等」は共働きをしている層（50.0%）が共働きをしていない層（43.6%）より6.4ポイント高くなっている。

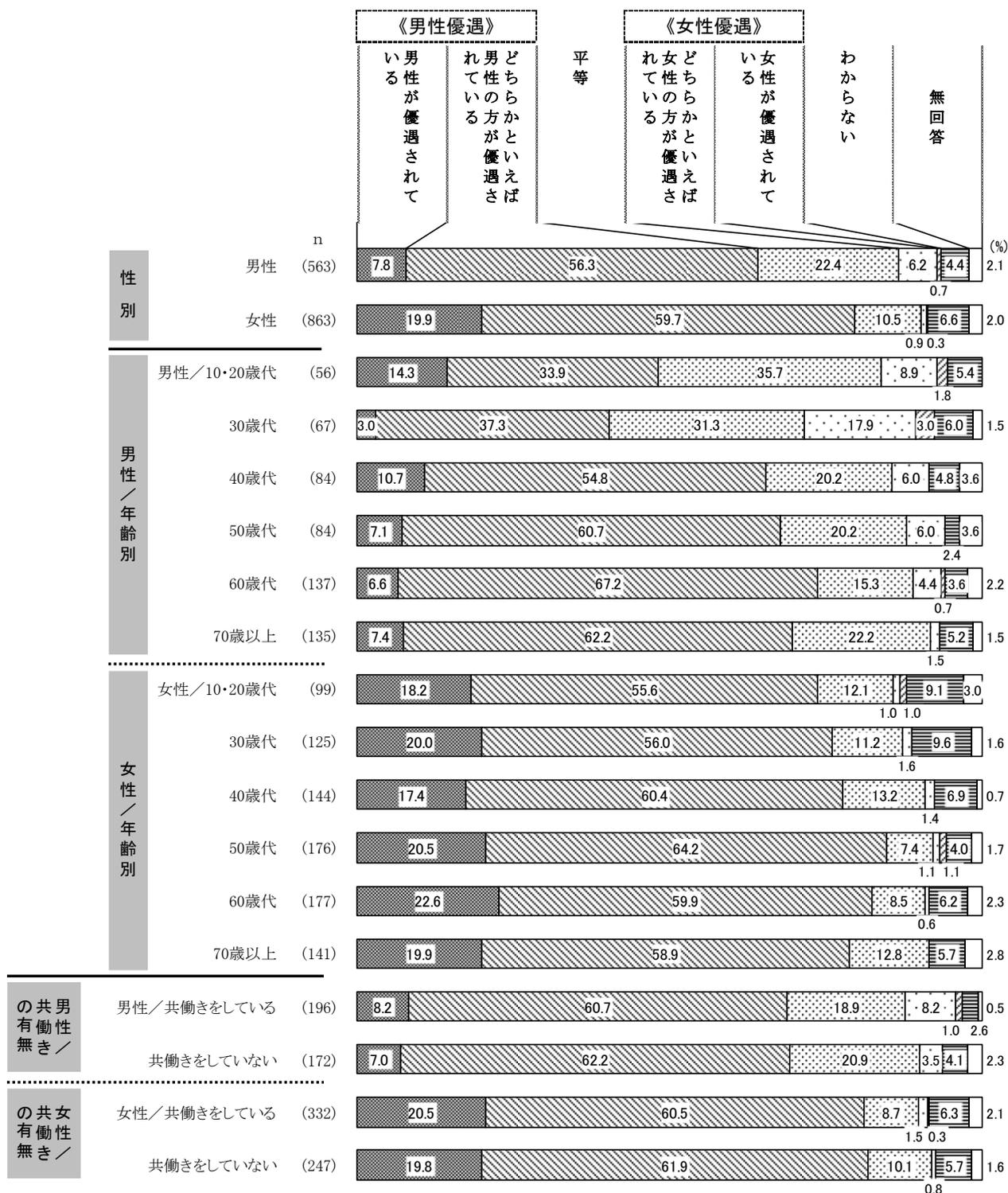


【(ク) 社会全体として 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「平等」は男性（22.4%）が女性（10.5%）より11.9ポイント高くなっている。一方で、「男性が優遇されている」は女性（19.9%）が男性（7.8%）より12.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「平等」が10・20歳代（35.7%）、30歳代（31.3%）で3割以上と他の年代に比べて高くなっている。女性では、すべての年代で《男性優遇》が7割以上となっており、特に50歳代（84.7%）、60歳代（82.5%）で8割以上を占めている。

性／共働きの有無別でみると、共働きの有無にかかわらず、《男性優遇》が男性では約7割、女性では8割以上を占めている。

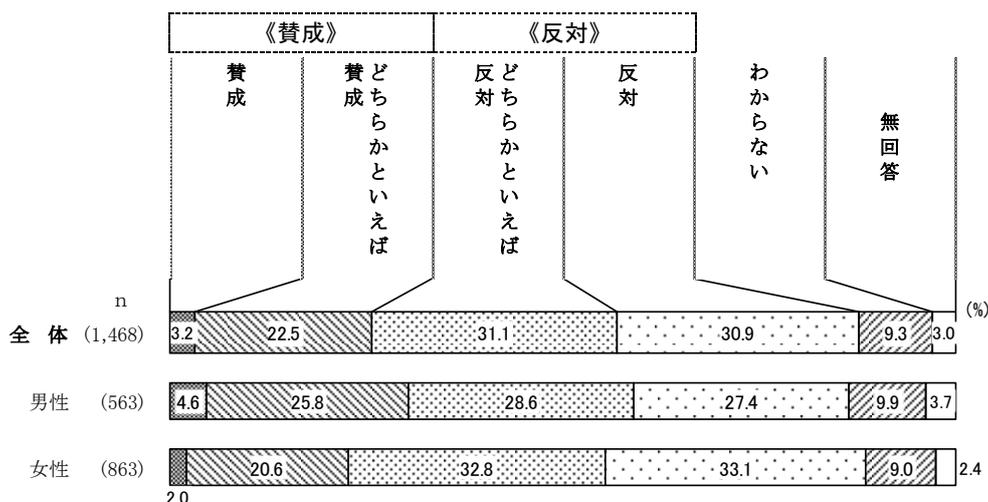


(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えになりますか。あてはまるものを1つお選びください。

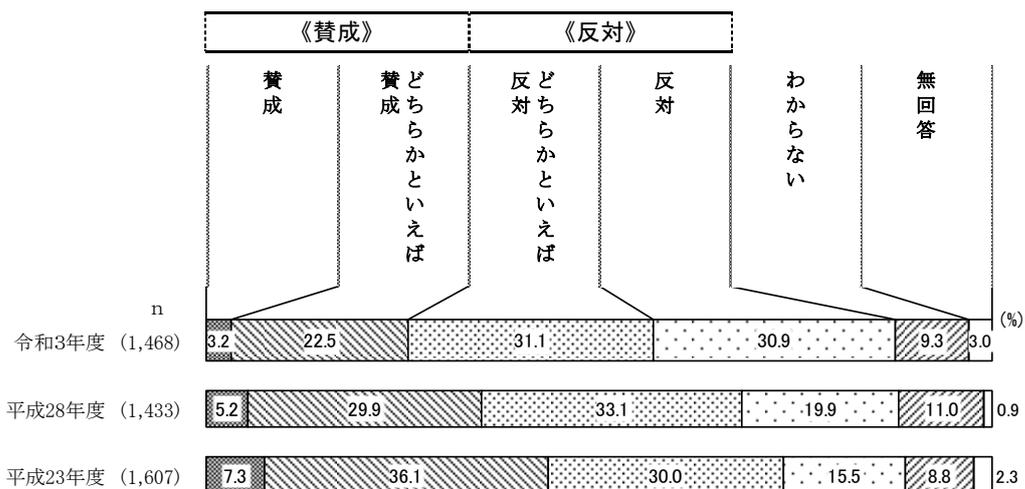
「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた《反対》は62.0%と過半数を占めている。一方で、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成》は25.7%となっている。

性別でみると、《反対》は女性（65.9%）が男性（56.0%）より9.9ポイント高くなっている。



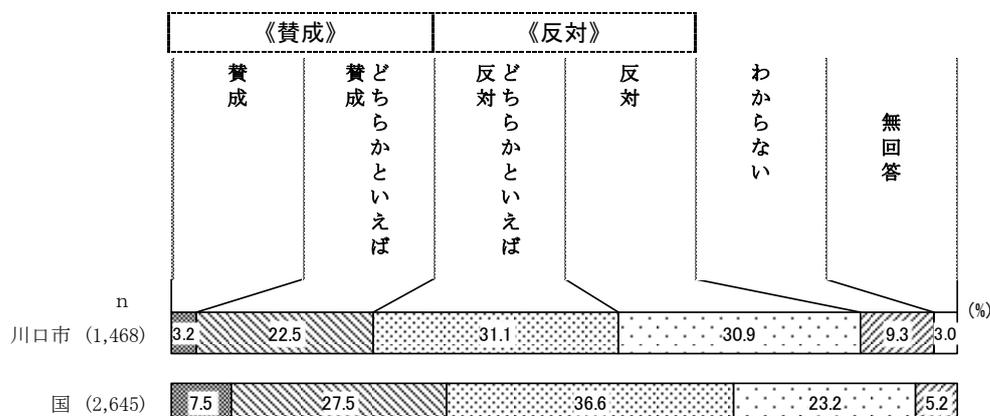
【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、《賛成》が9.4ポイント減少した一方で、《反対》が9.0ポイント増加している。

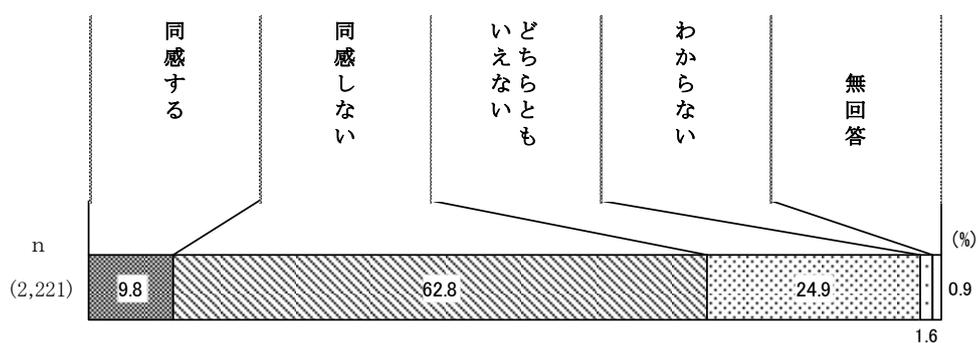


【国との比較－内閣府 令和元年度 男女共同参画社会に関する世論調査】

令和元年度に実施された国の調査結果と比較すると、《賛成》は国の調査結果（35.0%）が川口市の調査結果（25.7%）より9.3ポイント高くなっている。



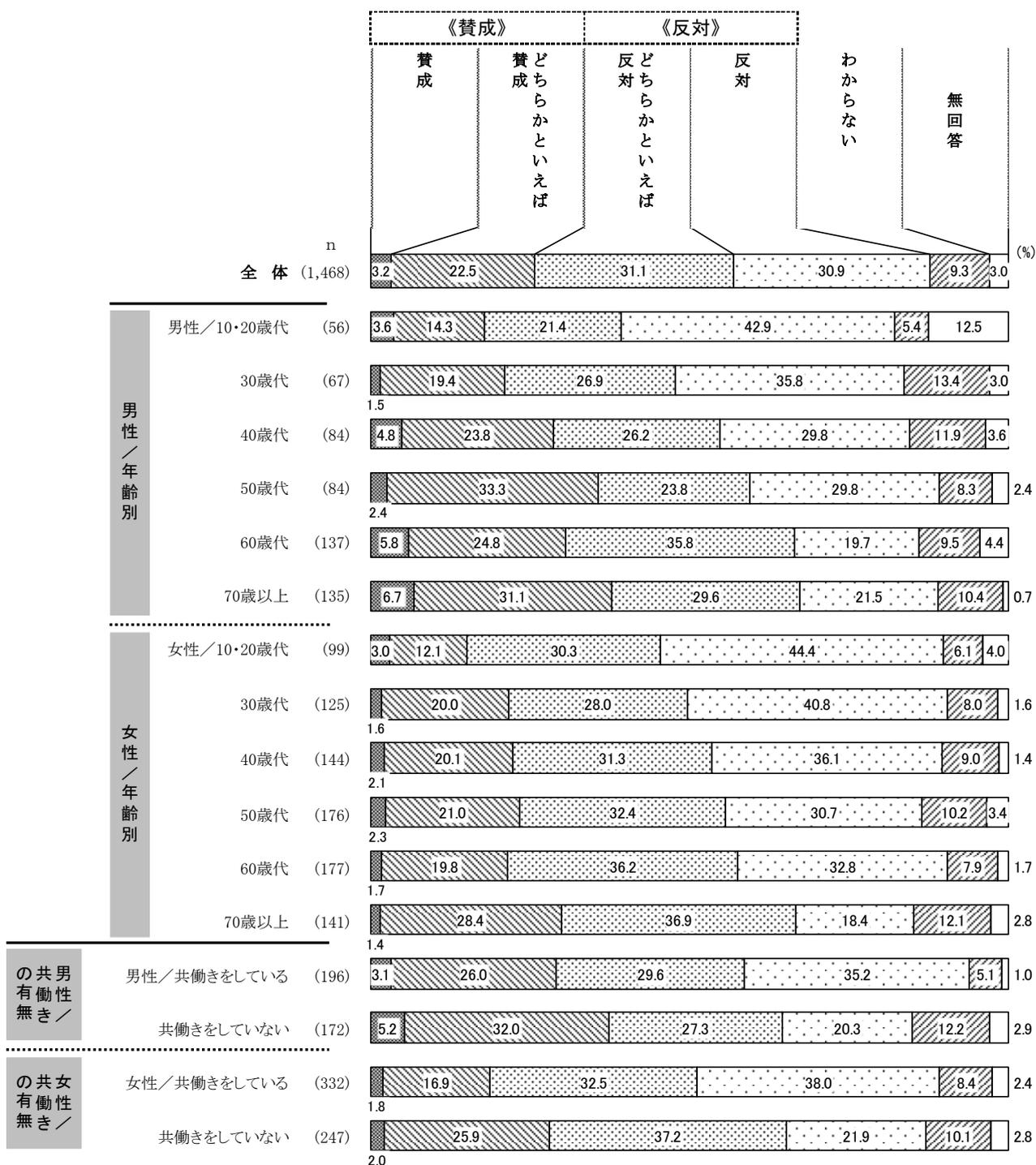
【参考－埼玉県 令和2年度 男女共同参画に関する意識・実態調査】



【性／年齢別・性／共働きの有無別】

性／年齢別で見ると、男女ともにすべての年代で《反対》が《賛成》を上回っており、《反対》は過半数を占めている。男性では《反対》が10・20歳代（64.3%）、30歳代（62.7%）で6割以上となっている。女性では《反対》が10・20歳代（74.7%）で7割以上となっており、30歳代、40歳代、60歳代でも約7割となっている。

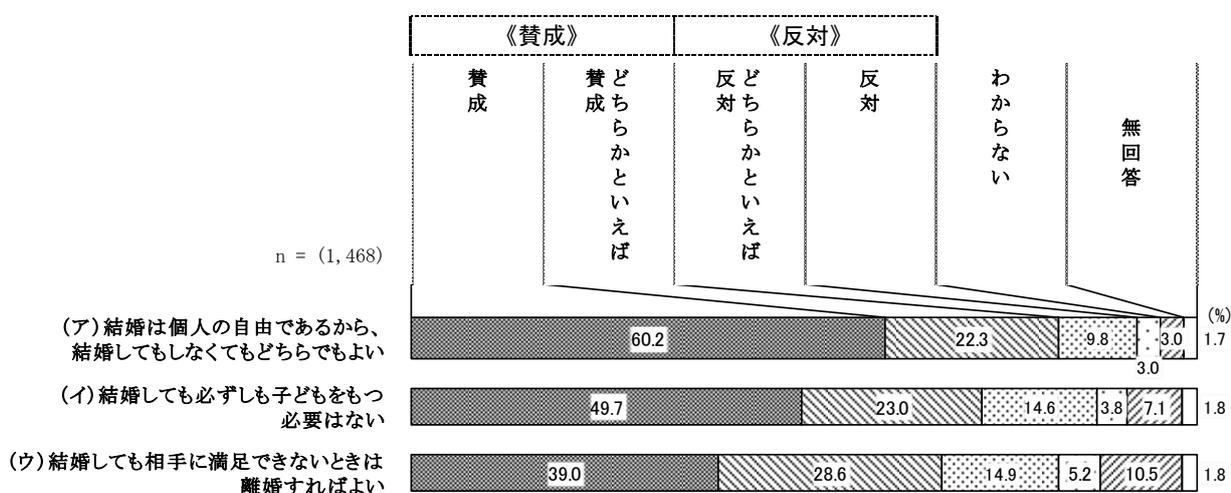
性／共働きの有無別で見ると、男女ともに共働きをしている層より共働きをしていない層で《賛成》が高く、特に共働きをしていない男性（37.2%）で約4割となっている。



(3) 結婚、家庭等についての考え

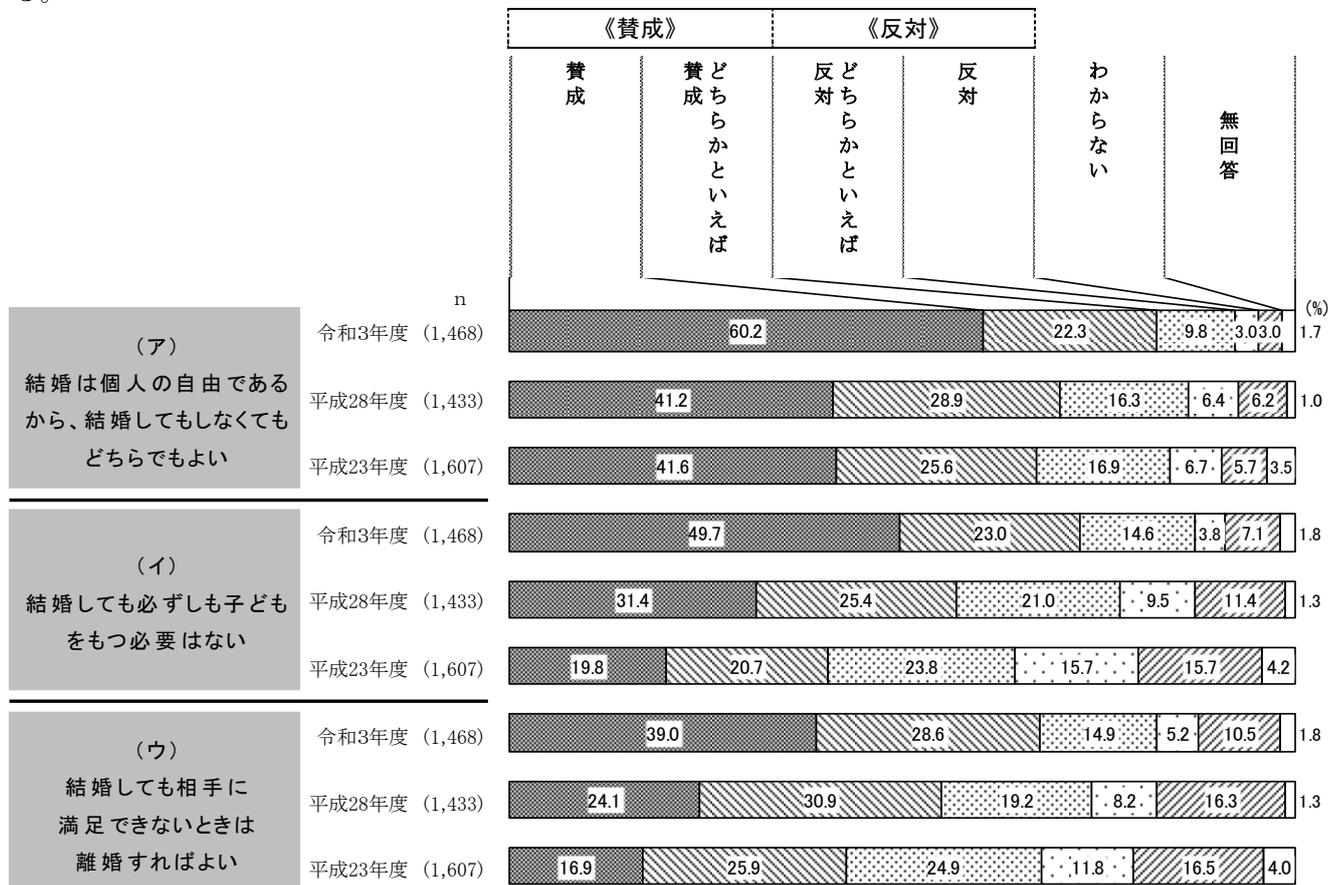
問3 結婚、家庭等について、あなたの考えはどれですか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

結婚、家庭等についての考えについて、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成》は、【結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい】で82.5%と最も高く、以下、【結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない】(72.7%)、【結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい】(67.6%)となっている。一方で、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた《反対》は、【結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない】(18.4%)、【結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい】(20.1%)で2割前後となっている。



【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比較すると、《賛成》はすべての項目で増加しており、特に【結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない】で15.9ポイント増加している。また、《反対》はすべての項目で減少しており、特に【結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない】で12.1ポイント減少している。



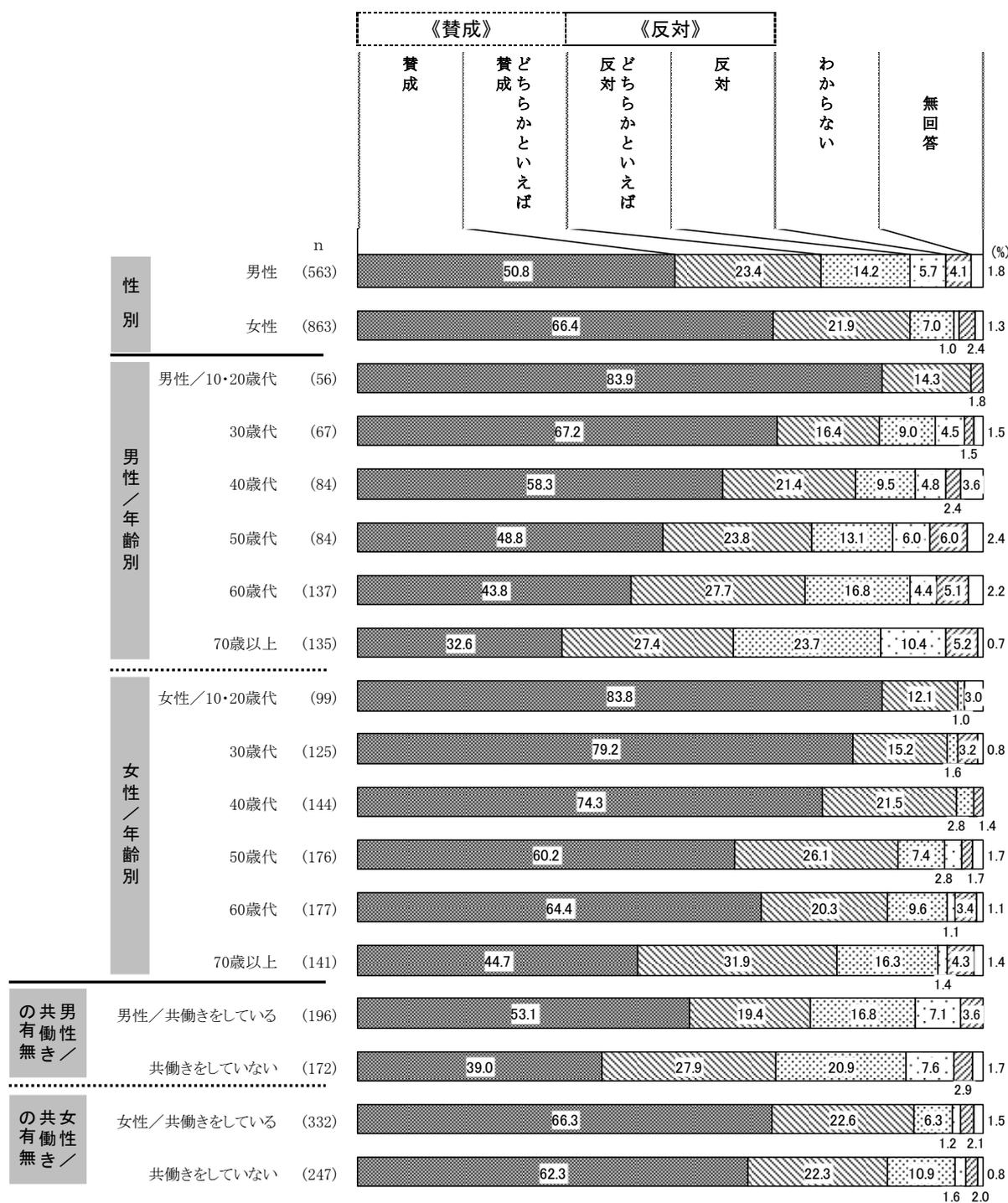
【(ア) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

性別・性／年齢別・性／共働きの有無別

性別でみると、「賛成」は女性（66.4%）が男性（50.8%）より15.6ポイント高くなっている。一方で、「反対」は男性（19.9%）が女性（8.0%）より11.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「賛成」が10・20歳代で98.2%を占めており、「反対」はみられなかったが、年代が上がるほど低くなる傾向がある。女性では、「賛成」が10・20歳代から40歳代で9割以上を占めている。一方で、「反対」は年代が上がるほど高くなる傾向があり、70歳以上（17.7%）で約2割となっている。

性／共働きの有無別でみると、男女ともに「賛成」は共働きをしている層が共働きをしていない層より高くなっている。

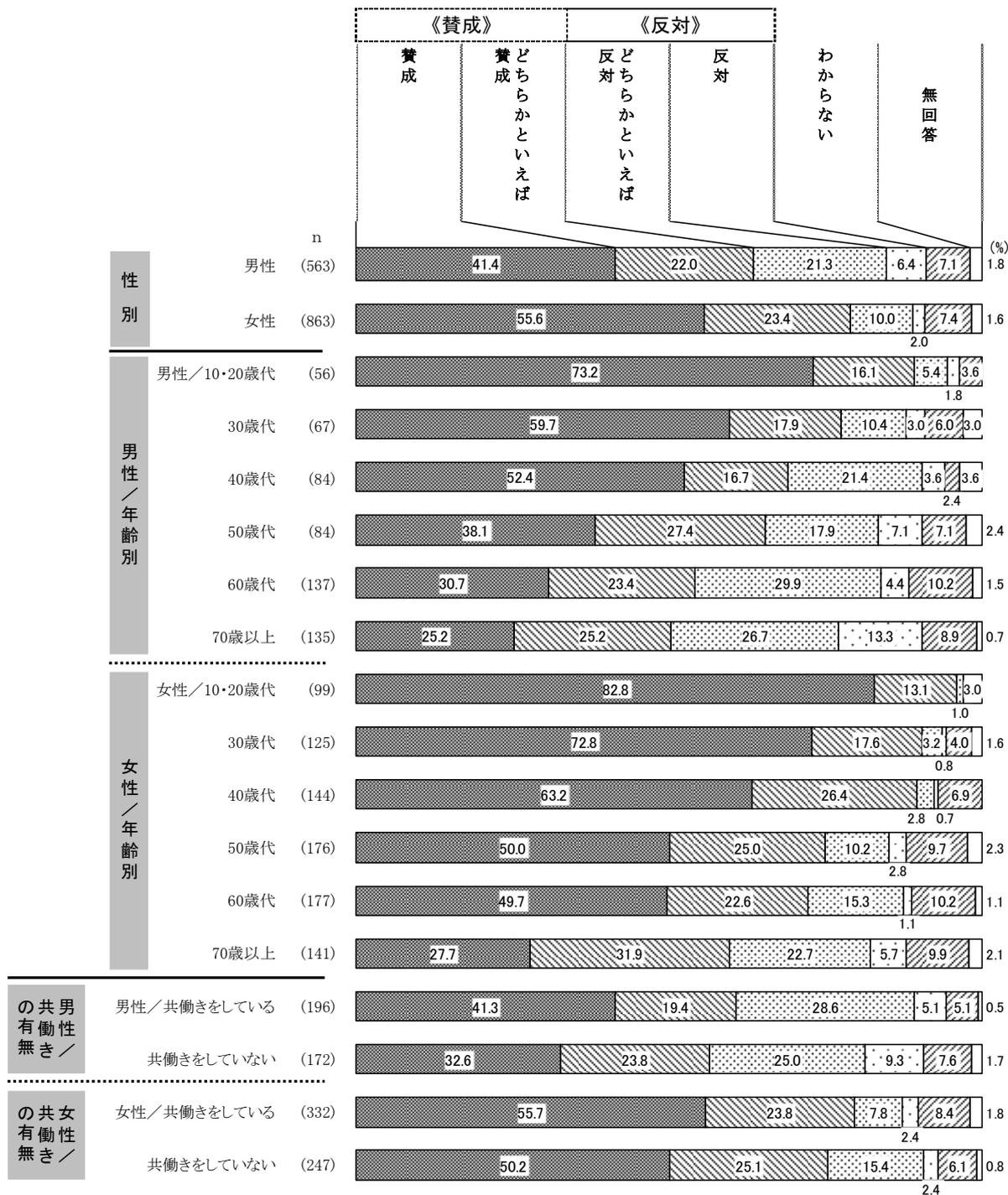


【(イ) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「賛成」は女性（55.6%）が男性（41.4%）より14.2ポイント高くなっている。一方で、「反対」は、男性（27.7%）が女性（12.0%）より15.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「賛成」が10・20歳代（89.3%）で約9割、女性でも、10・20歳代（95.9%）、30歳代（90.4%）で9割以上と高くなっているが、男女ともに年代が上がるほど「賛成」が低くなる傾向がある。

性／共働きの有無別でみると、女性で「反対」は共働きをしていない層（17.8%）が共働きをしている層（10.2%）より7.6ポイント高くなっている。



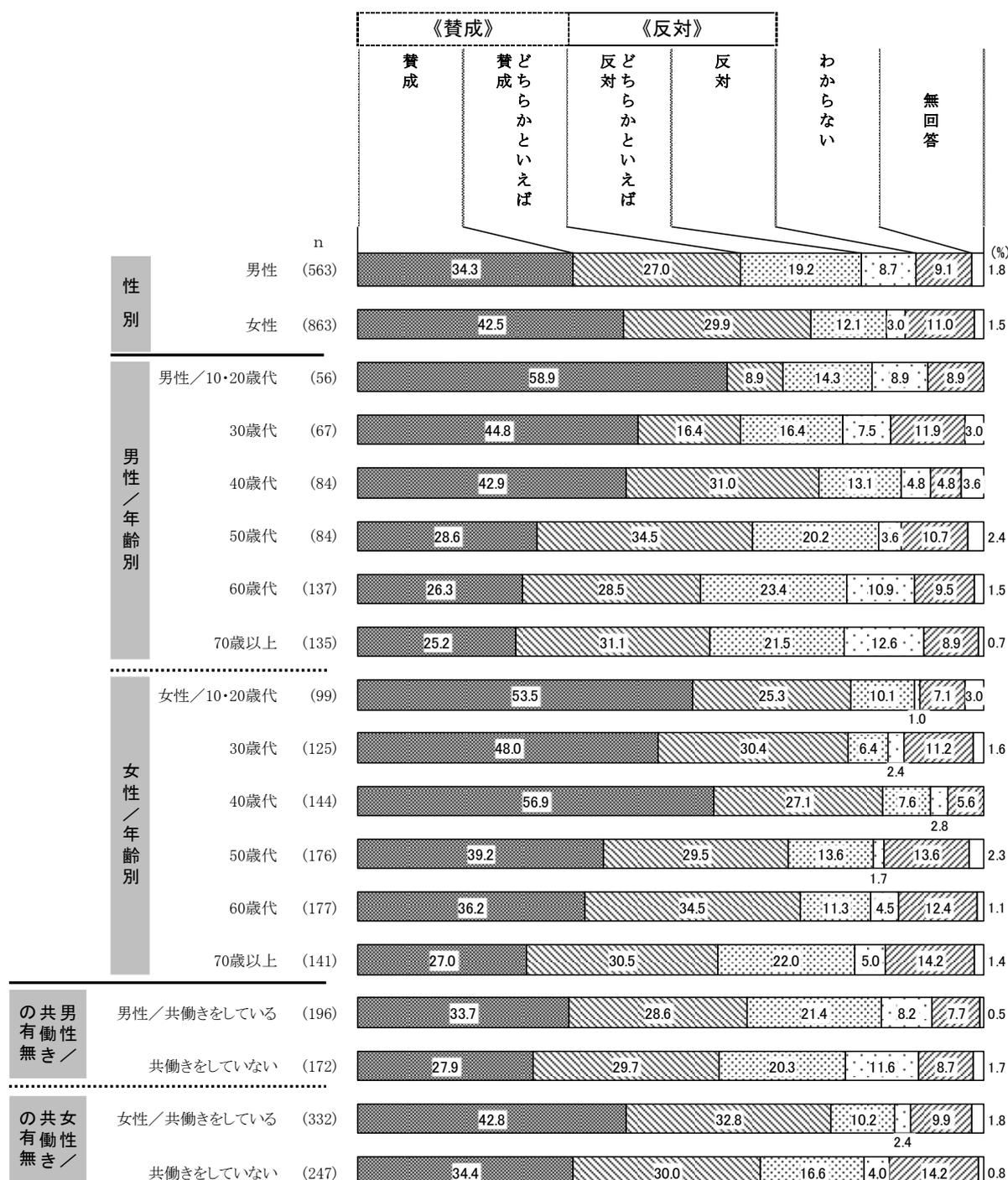
【(ウ) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

性別・性／年齢別・性／共働きの有無別

性別でみると、《賛成》は女性（72.4%）が男性（61.3%）より11.1ポイント高くなっている。一方で、《反対》は男性（27.9%）が女性（15.1%）より12.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、《賛成》が40歳代（73.9%）で7割以上、10・20歳代（67.8%）で約7割と高くなっている。女性では、《賛成》が40歳代（84.0%）で8割以上、10・20歳代（78.8%）、30歳代（78.4%）で約8割と高くなっている。

性／共働きの有無別でみると、女性で《賛成》は共働きをしている層（75.6%）が共働きをしていない層（64.4%）より11.2ポイント高くなっている。

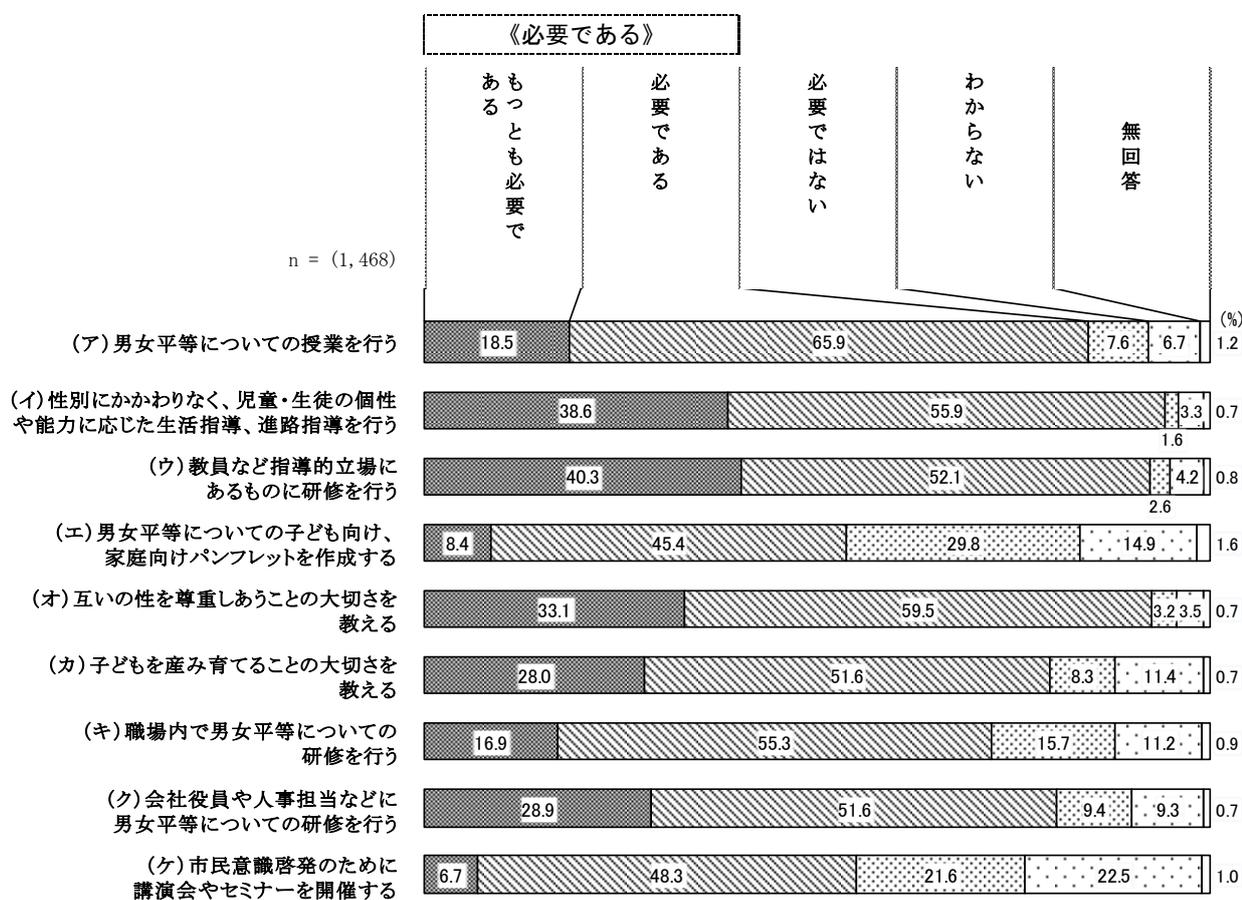


2. 男女平等教育について

(1) 男女共同参画社会実現のために力を入れるべきこと

問4 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、学校、家庭、職場、社会等のあらゆる場で特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

男女共同参画社会実現のために力を入れるべきことについて、「もっとも必要である」と「必要である」を合わせた《必要である》は、【性別にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた生活指導、進路指導を行う】で94.5%と最も高く、以下、【互いの性を尊重しあうことの大切さを教える】(92.6%)、【教員など指導的立場にあるものに研修を行う】(92.4%)となっている。



なお、「その他」として男女共同参画社会を実現するために教育の場で力を入れるべきことを記述していただき、以下のとおりに内容ごとに分類し、一部抜粋して掲載する。

■家庭

- ・妊娠し出産するまでの間に夫婦に対する講習（平等含む）を義務化

■学校

- ・（カ）の産み育てることの大切さを教えるという説問について、女子ばかりに重みを置かず、男子にも同等な教育が必用と思う。
- ・性教育含め、男女の体質の差異とそれに基づく必要な対応をタブーなく教えることが必要
- ・子育てについて、学校教育の中で指導を受けられるようになることよい
- ・児童に向けては、人道的なことから、中学生以上になり男女平等を根付かせる。
- ・職場での男女平等については、職場よりもそれ以前の学校教育で教えるべきだと考える。
- ・性としての尊重を教えるのではなく、個としての尊重を教える方が大切だし、平等だと思う。

■職場

- ・職場での研修は絶対に必要！特に上の方の人は、下の者を見下したりしている傾向がある。

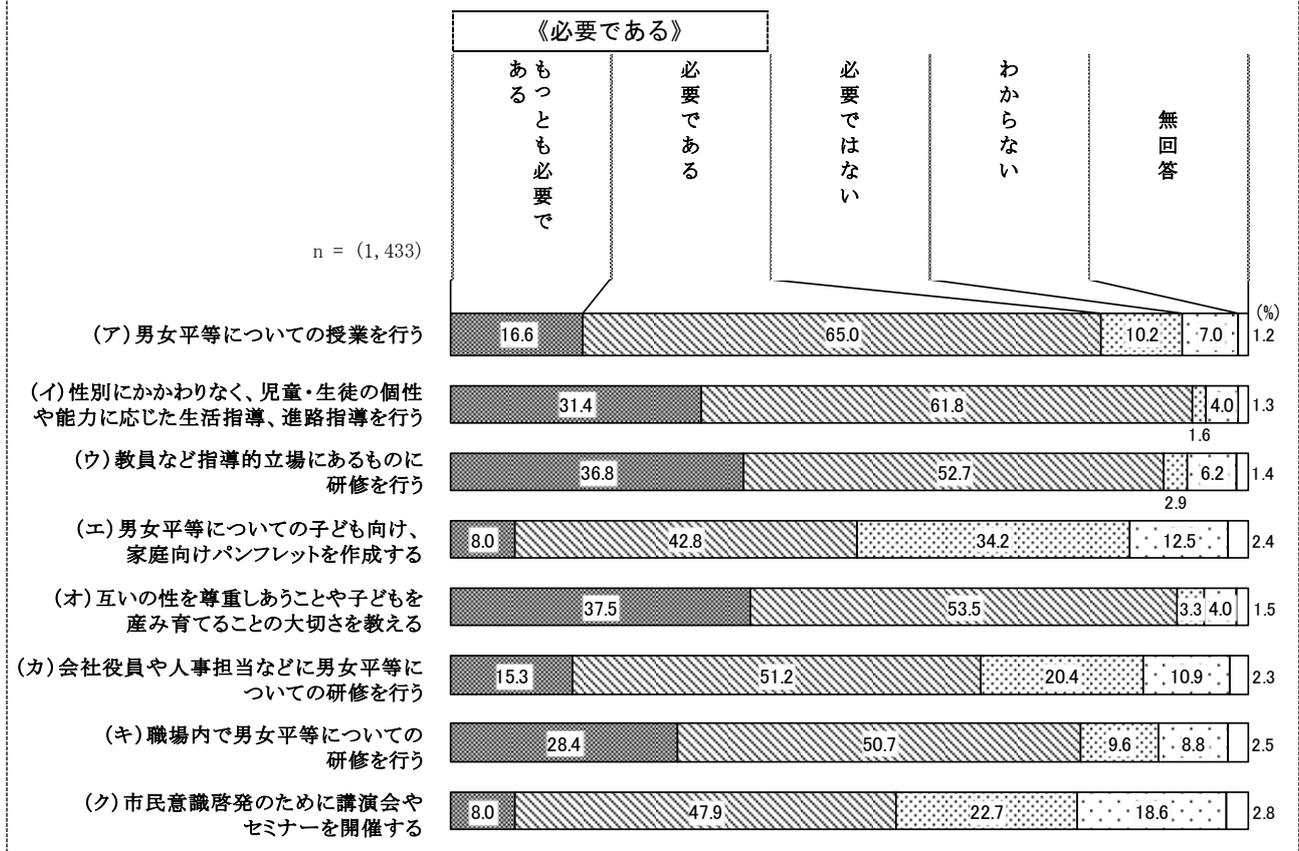
■政治

- ・政治家が男性が多い為、女性が増えない限り、男女平等社会にはなれない。
- ・国会等の議員について、一定割合を女性に割当てて。
- ・政治家に教育が必要である

■社会全体

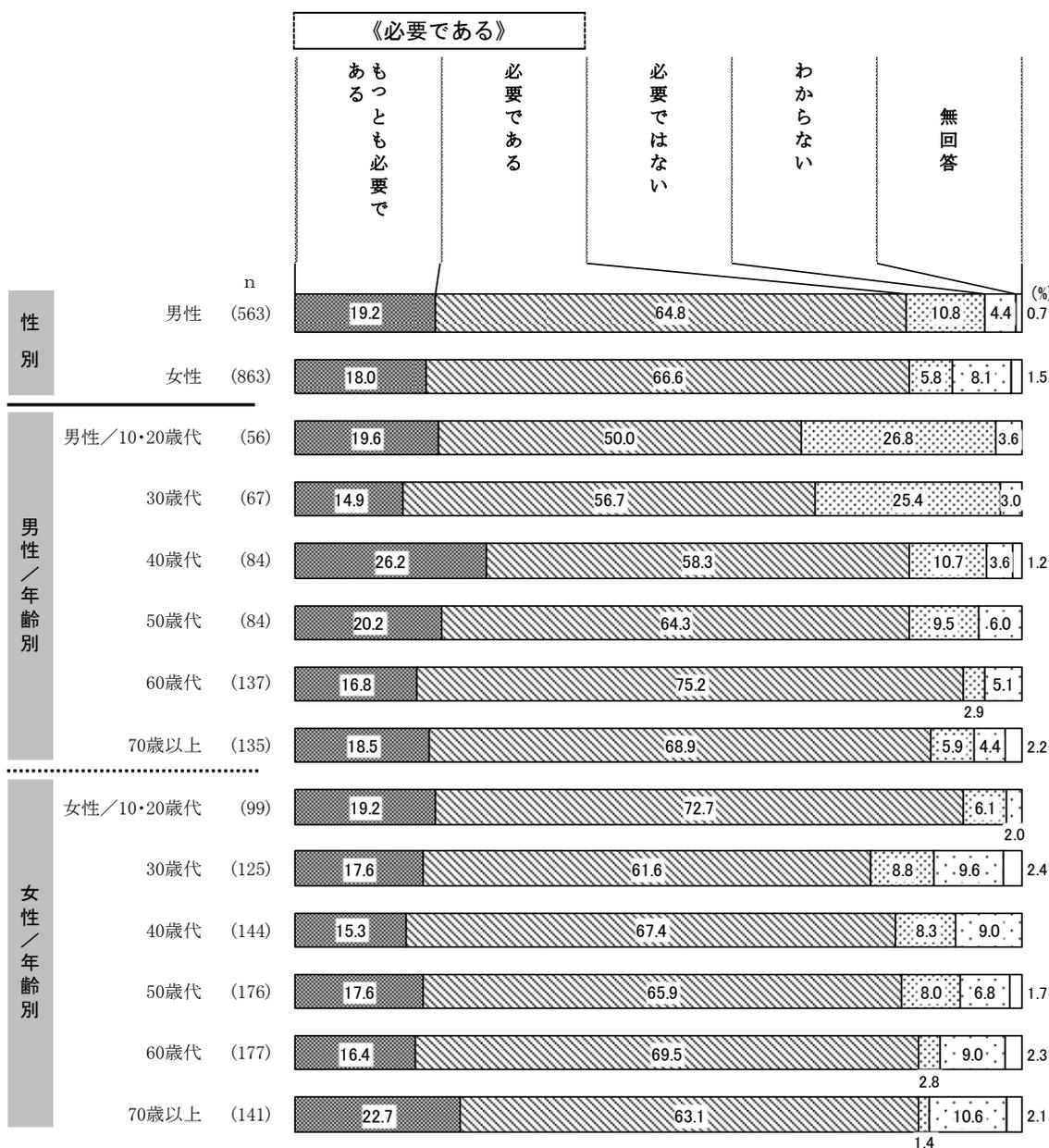
- ・男女平等についての考え方は年代の違いによっても大きいのでそのギャップをうめるような取り組みも必要なのでは？
- ・男女だけでなくLGBTQも含めて考えるべき。
- ・新聞、テレビ、SNS等のメディアを通して伝えることが認知してもらえるのでは？
- ・特に、昭和の価値観を引きずる男性世代に教育した方がよい。
- ・トップや指導する立場の人の意識
- ・研修や啓発を行うことが役立つ訳ではなく、その内容が重要
- ・憲法で定められている様に一人一人の尊厳が大切にされる社会に変えていくことを重点としていくべきと考えます

【参考一川口市 平成28年度 男女共同参画に関する市民意識調査】



【(ア) 男女平等についての授業を行う 性別・性／年齢別】

性別でみると、「必要ではない」は男性（10.8%）が女性（5.8%）より5.0ポイント高くなっている。
 性／年齢別でみると、男性では、「必要である」が60歳代（92.0%）で9割以上、70歳以上（87.4%）で約9割と高くなっている。女性では、「必要である」が10・20歳代（91.9%）で9割以上となっており、60歳代（85.9%）、70歳以上（85.8%）で約9割となっている。

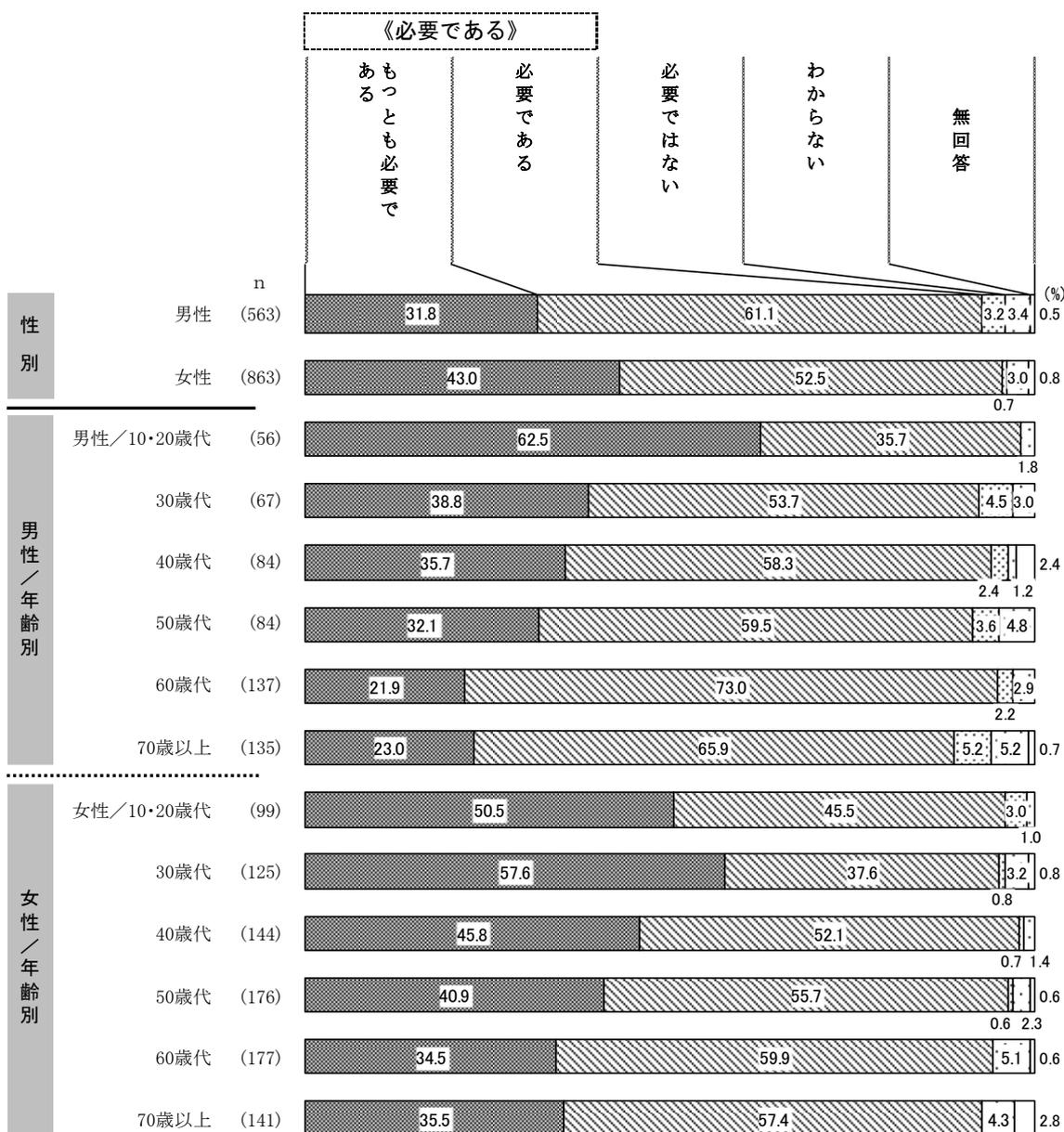


【(イ) 性別にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた生活指導、進路指導を行う

性別・性／年齢別

性別でみると、「必要である」は男性（61.1%）が女性（52.5%）より8.6ポイント高くなっている。一方で、「もっとも必要である」は、女性（43.0%）が男性（31.8%）より11.2ポイント高くなっている。

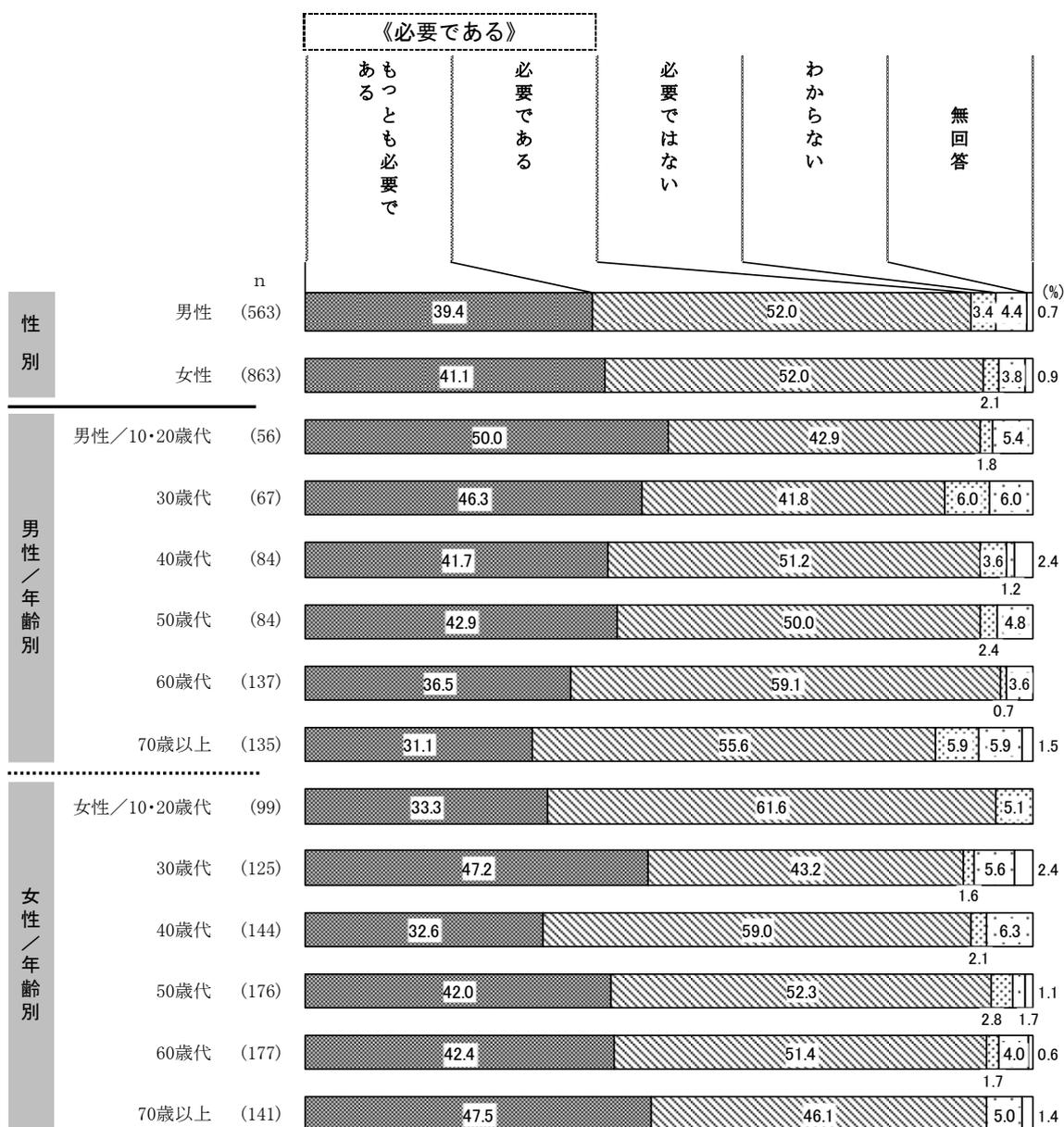
性／年齢別でみると、男性では、「必要である」が70歳以上を除くすべての年代で9割以上となっており、特に10・20歳代で98.2%と高くなっている。女性では、「必要である」がすべての年代で9割以上となっている。また、女性で「もっとも必要である」が10・20歳代（50.5%）、30歳代（57.6%）で過半数を占めている。



【(ウ) 教員など指導的立場にあるものに研修を行う 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

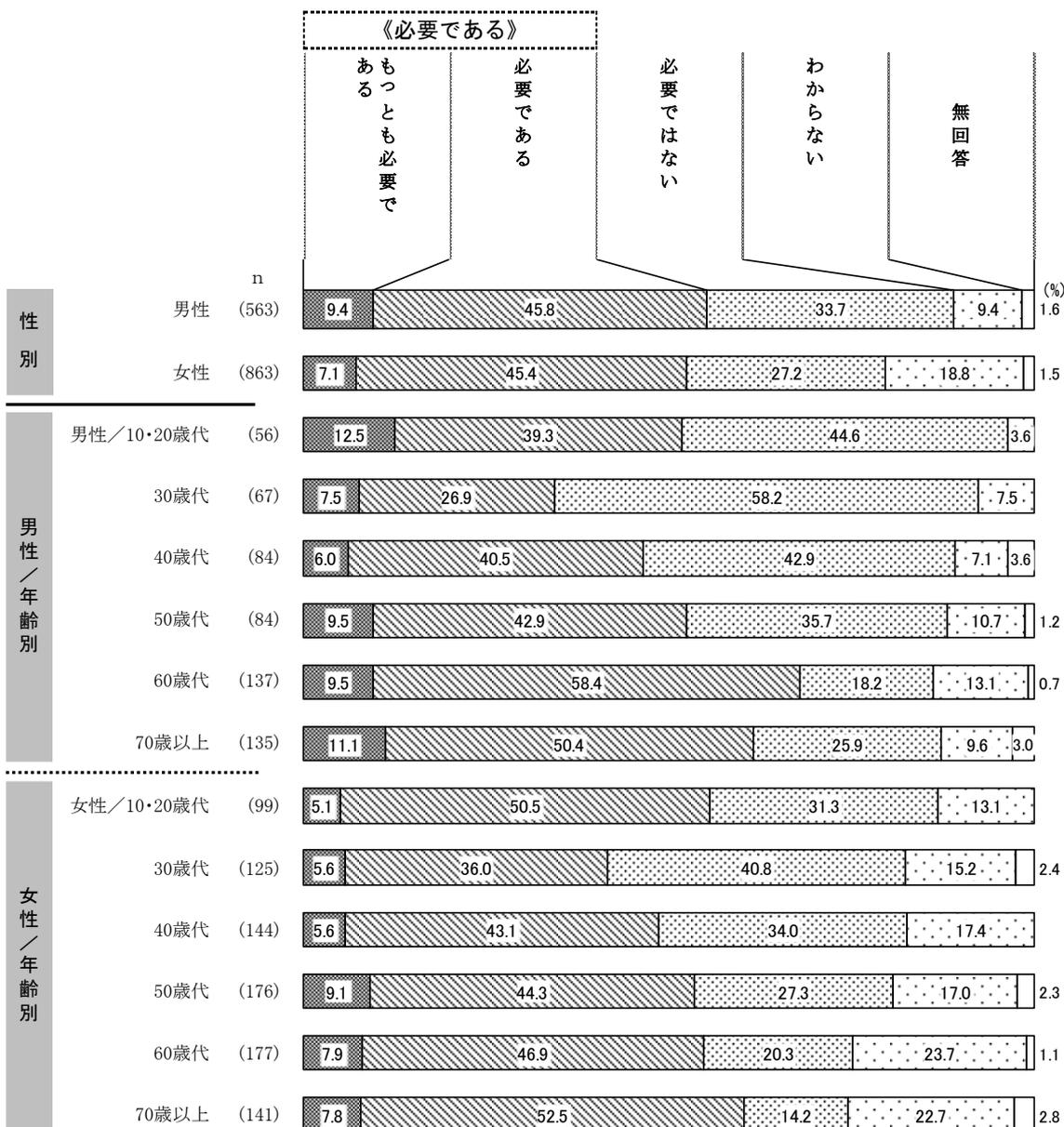
性／年齢別でみると、男性では、《必要である》が30歳代と70歳以上を除くすべての年代で9割以上となっている。女性では、《必要である》がすべての年代で9割以上となっている。



【(エ) 男女平等についての子ども向け、家庭向けパンフレットを作成する 性別・性／年齢別】

性別で見ると、「必要ではない」は男性（33.7%）が女性（27.2%）より6.5ポイント高くなっている。

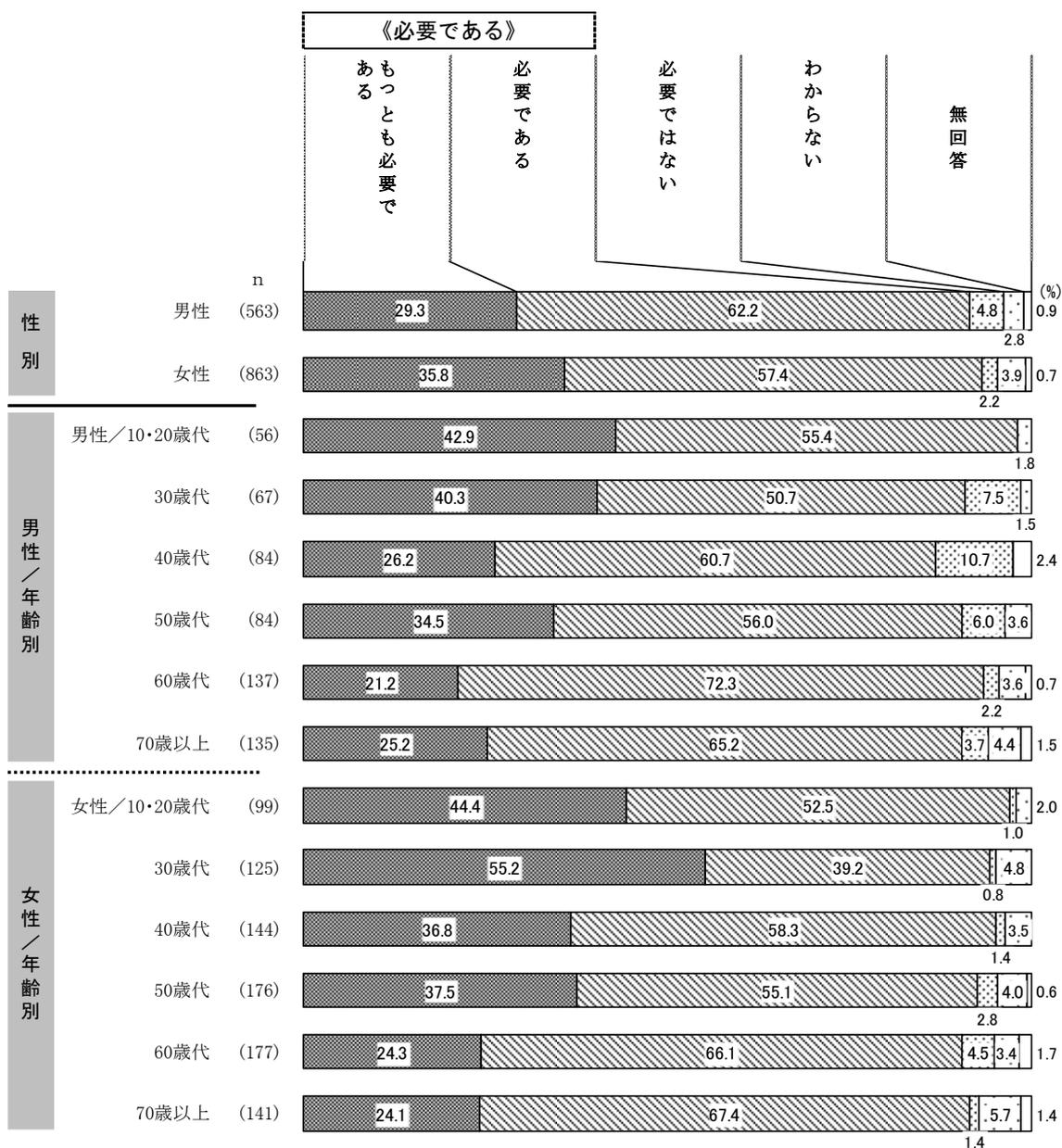
性／年齢別で見ると、男性では、《必要である》が60歳代（67.9%）で約7割、70歳以上（61.5%）で6割以上と高くなっており、10・20歳代（51.8%）と50歳代（52.4%）でも過半数を占めている。女性では、《必要である》が、70歳以上（60.3%）で6割以上、10・20歳代（55.6%）、50歳代（53.4%）、60歳代（54.8%）でも過半数を占めている。



【(オ) 互いの性を尊重しあうことの大切さを教える 性別・性／年齢別】

性別で見ると、「もっとも必要である」は女性（35.8%）が男性（29.3%）より6.5ポイント高くなっている。

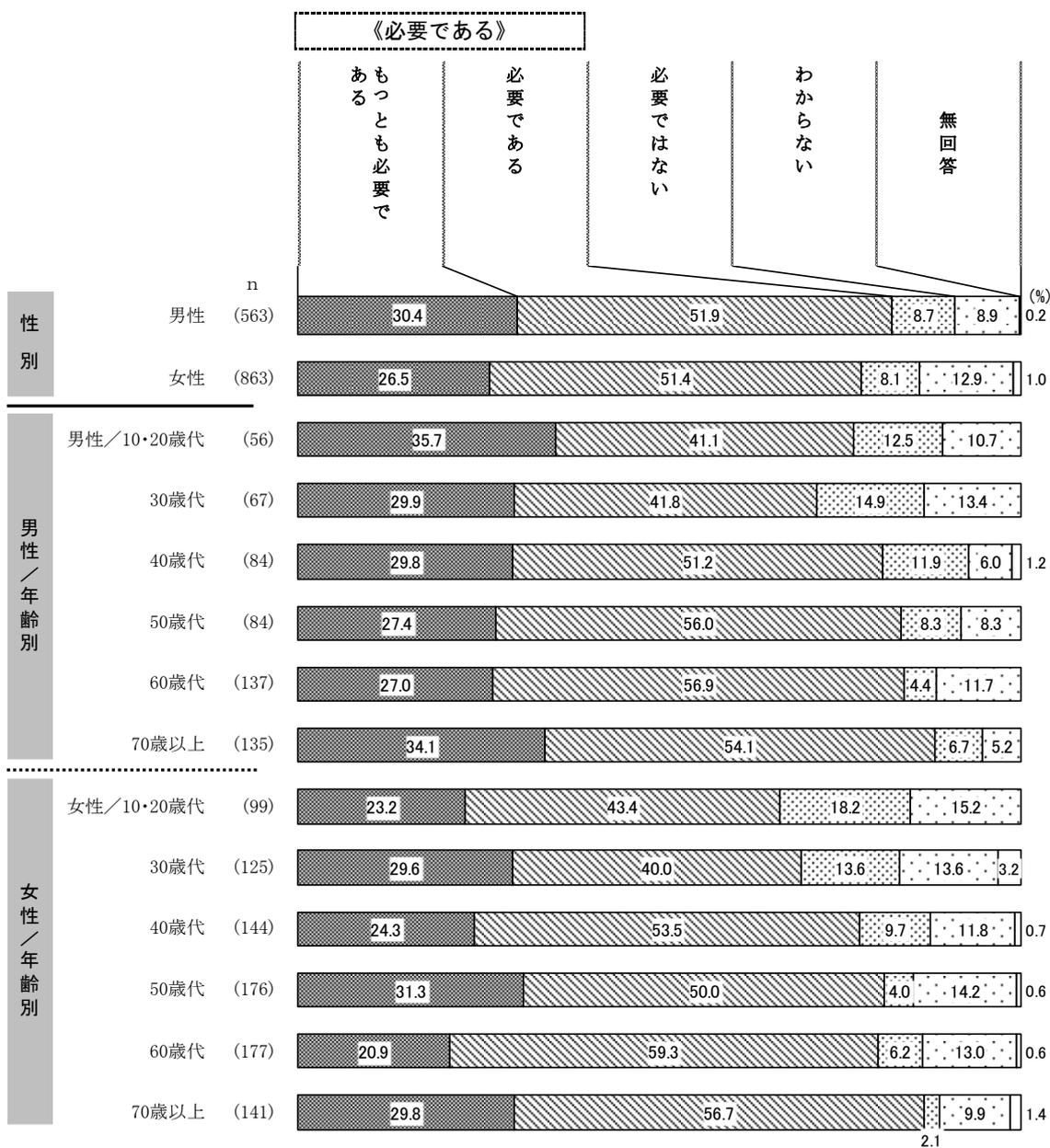
性／年齢別で見ると、男性では、《必要である》が、40歳代を除くすべての年代で9割以上となっており、特に10・20歳代で98.3%と高くなっている。女性では、《必要である》がすべての年代で9割以上となっており、特に10・20歳代で96.9%と高くなっている。また、「もっとも必要である」が30歳代（55.2%）で過半数を占めている。



【(カ) 子どもを産み育てることの大切さを教える 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

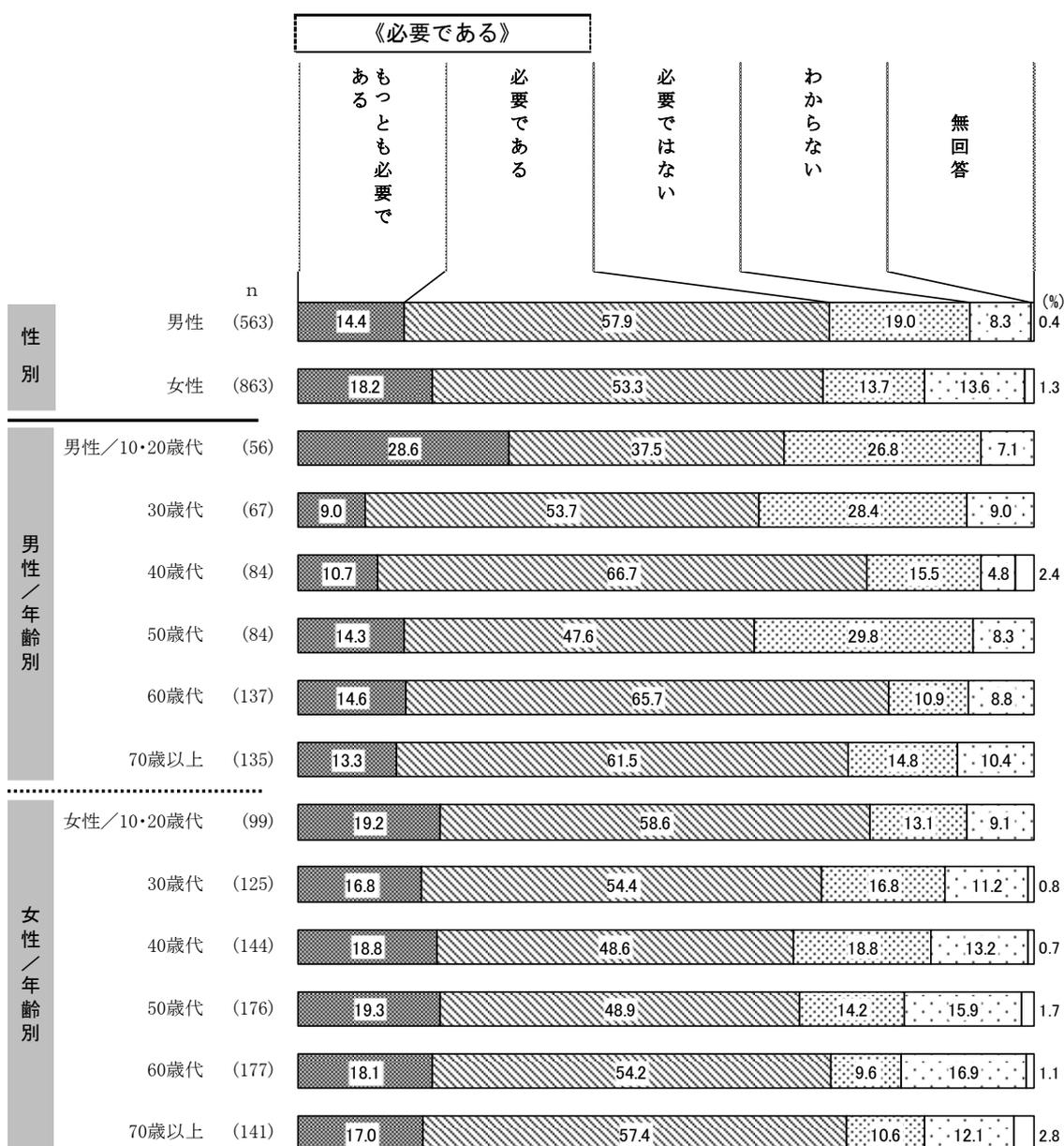
性／年齢別でみると、男性では、《必要である》が40歳代から70歳以上の各年代で8割以上を占めており、70歳以上（88.2%）で約9割となっている。女性では、《必要である》が50歳代から70歳以上で8割以上を占めており、特に70歳以上（86.5%）で約9割となっている。



【(キ) 職場内で男女平等についての研修を行う 性別・性／年齢別】

性別でみると、「必要ではない」は男性（19.0%）が女性（13.7%）より5.3ポイント高くなっている。

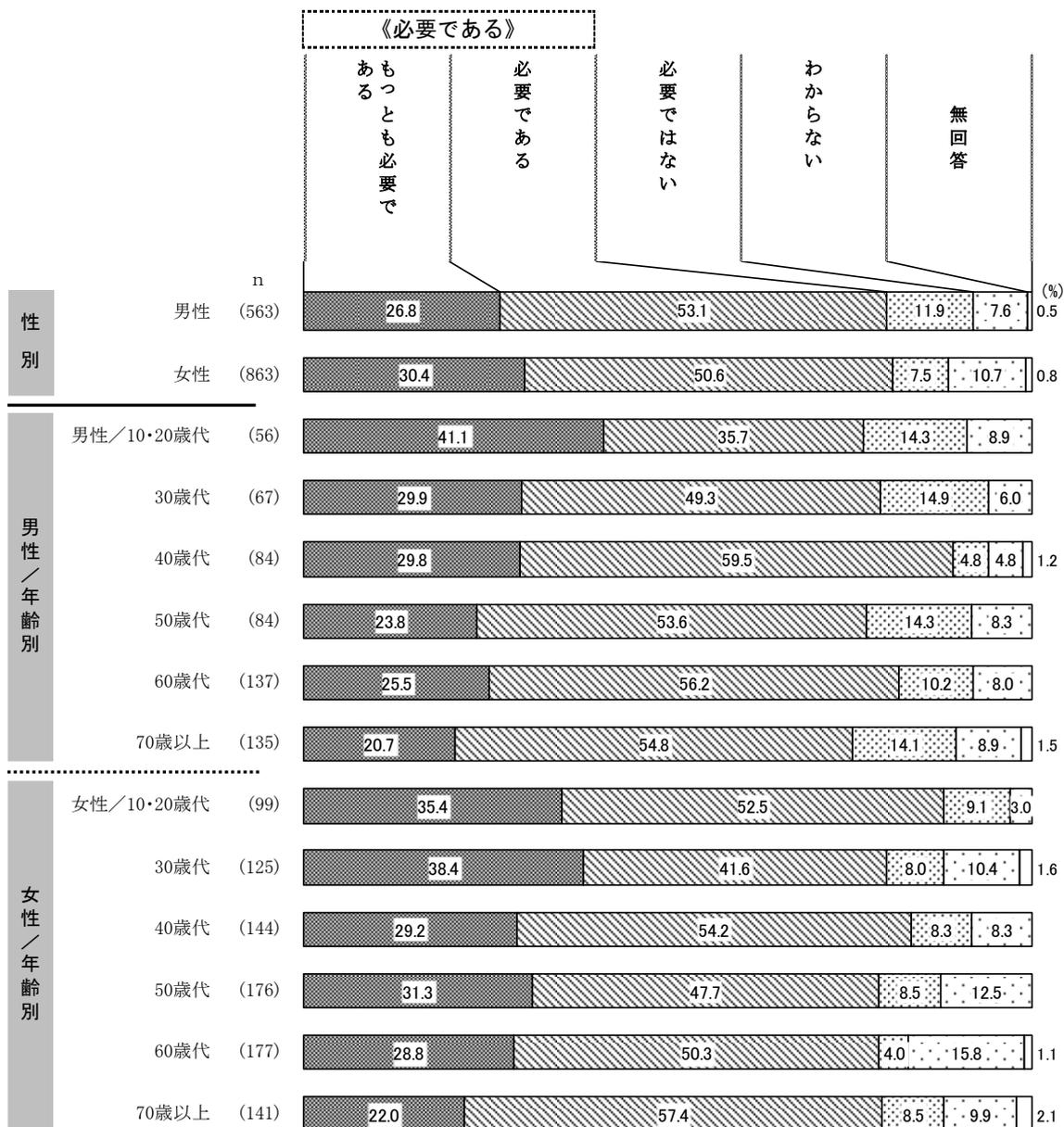
性／年齢別でみると、男性では、《必要である》が60歳代（80.3%）で8割以上となっており、40歳代（77.4%）、70歳以上（74.8%）でも7割以上となっている。女性では、《必要である》が10・20歳代（77.8%）で約8割となっており、その他の年代でも7割前後となっている。



【(ク) 会社役員や人事担当などに男女平等についての研修を行う 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

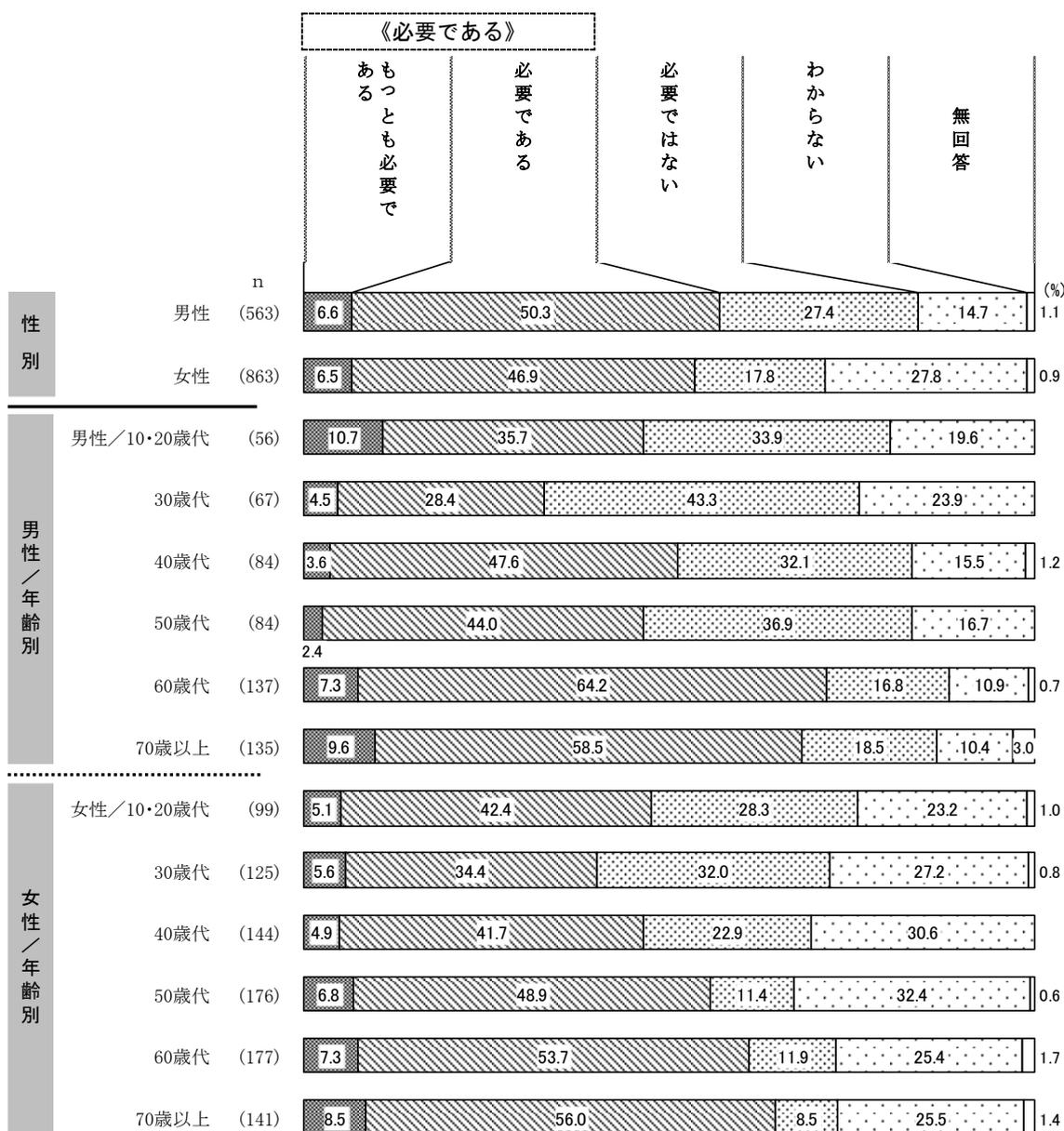
性／年齢別でみると、男性では、《必要である》が40歳代（89.3%）で約9割となっており、その他の年代でも8割前後となっている。女性では、《必要である》が10・20歳代（87.9%）で約9割となっており、その他の年代でも8割前後となっている。



【(ケ) 市民意識啓発のために講演会やセミナーを開催する 性別・性／年齢別】

性別で見ると、「必要ではない」は男性（27.4%）が女性（17.8%）より9.6ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、男性では、《必要である》が60歳代（71.5%）で7割以上、70歳以上（68.1%）で約7割となっており、40歳代（51.2%）でも過半数を占めている。女性では、《必要である》が、70歳以上（64.5%）、60歳代（61.0%）で6割以上となっており、50歳代（55.7%）でも過半数を占めている。

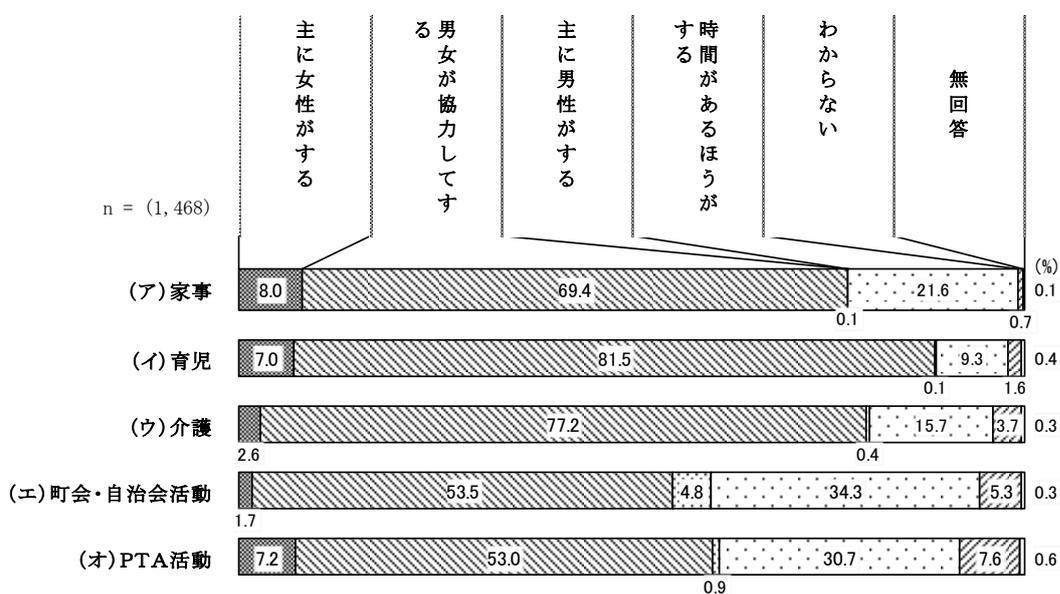


3. 家庭生活について

(1) 家事・育児・介護の役割分担意識

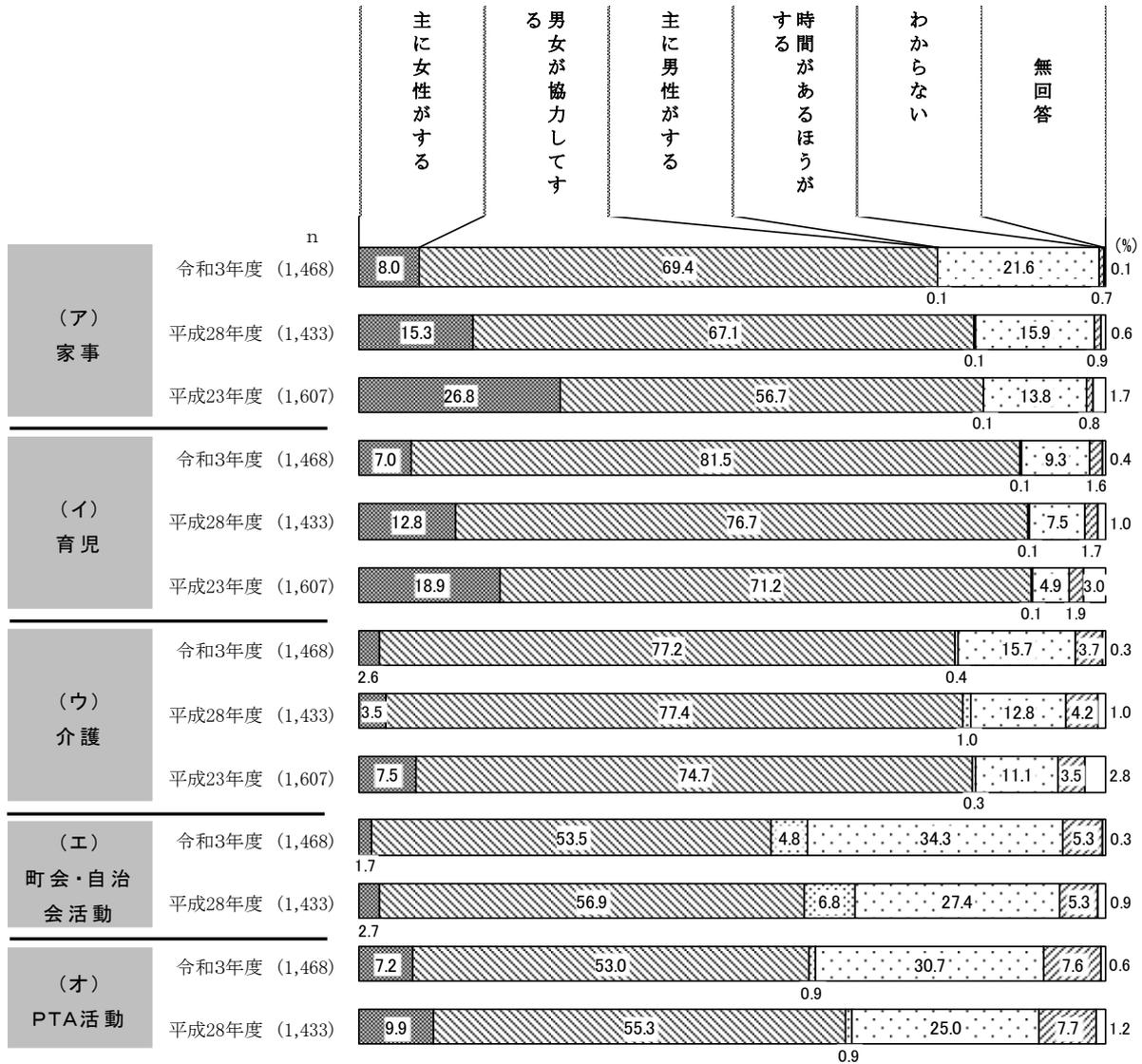
問5 あなたは、家事、育児、介護、町会・自治会活動、PTA活動の役割について、どのようにお考えですか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

5つの分野における役割分担意識について、すべての分野で「男女が協力してする」が最も高くなっており、特に【育児】(81.5%)で8割以上、【介護】(77.2%)で約8割となっている。また、「時間があるほうが」は、【町会・自治会活動】(34.3%)、【PTA活動】(30.7%)で3割以上となっている。

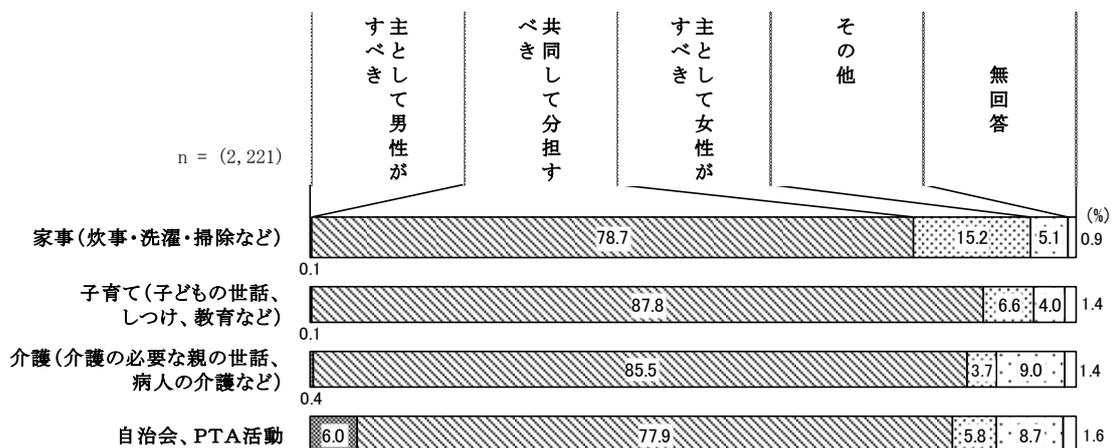


【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「主に女性がする」はすべての項目で減少しており、特に【家事】で7.3ポイント、【育児】で5.8ポイント減少している。また、「時間があるほうが」はすべての項目で増加しており、特に【町会・自治会活動】で6.9ポイント、【家事】と【PTA活動】で5.7ポイント増加している。



【参考—埼玉県 令和2年度 男女共同参画に関する意識・実態調査】

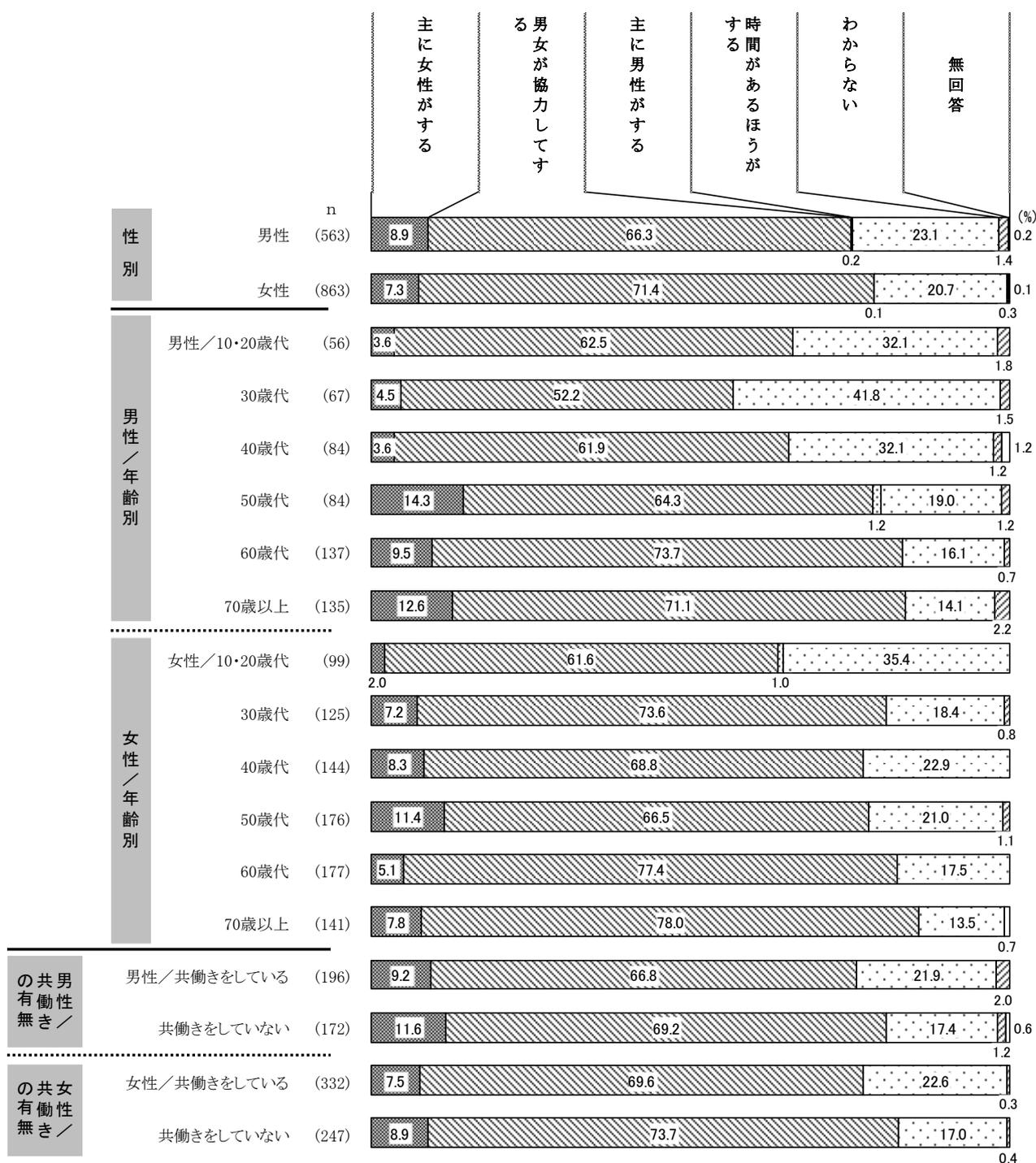


【(ア) 家事 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「男女が協力してする」は女性（71.4%）が男性（66.3%）より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「男女が協力してする」が60歳代（73.7%）、70歳以上（71.1%）で7割以上となっている。また、「時間があるほうが」が30歳代（41.8%）で4割以上、10・20歳代（32.1%）、40歳代（32.1%）で3割以上となっている。女性では、「男女が協力してする」が60歳代（77.4%）、70歳以上（78.0%）で約8割となっている。

性／共働きの有無別でみると、共働きの有無にかかわらず、「男女が協力してする」は男性では約7割、女性では7割前後となっている。

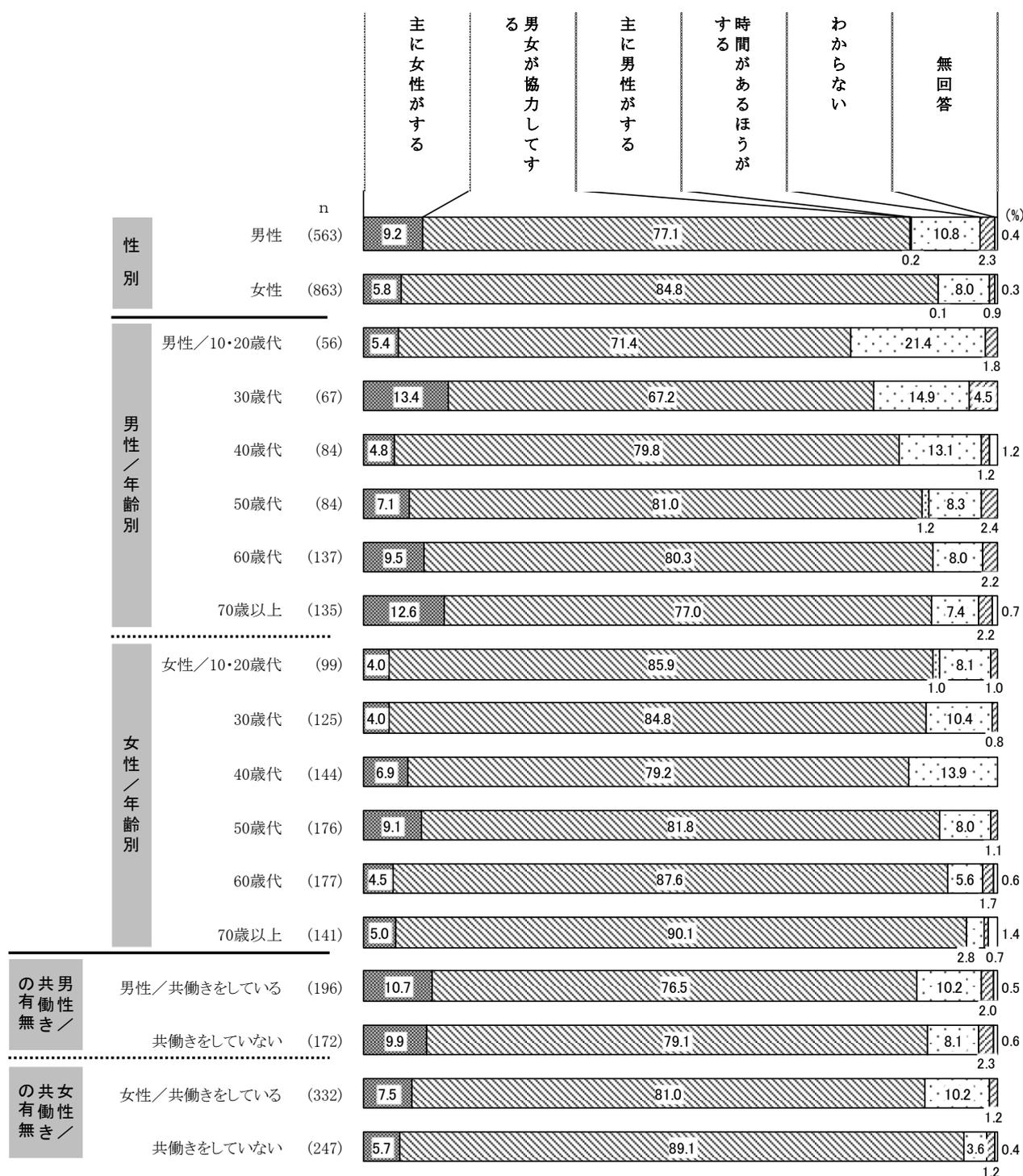


【(イ) 育児 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「男女が協力してする」は女性（84.8%）が男性（77.1%）より7.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「男女が協力してする」が40歳代（79.8%）、50歳代（81.0%）、60歳代（80.3%）で8割前後を占めている。女性では、「男女が協力してする」が、60歳代（87.6%）、70歳以上（90.1%）で約9割となっている。

性／共働きの有無別でみると、男性で共働きの有無にかかわらず、「男女が協力してする」が約8割を占めている。女性で「男女が協力してする」は共働きをしていない層（89.1%）が共働きをしている層（81.0%）より8.1ポイント高くなっている。

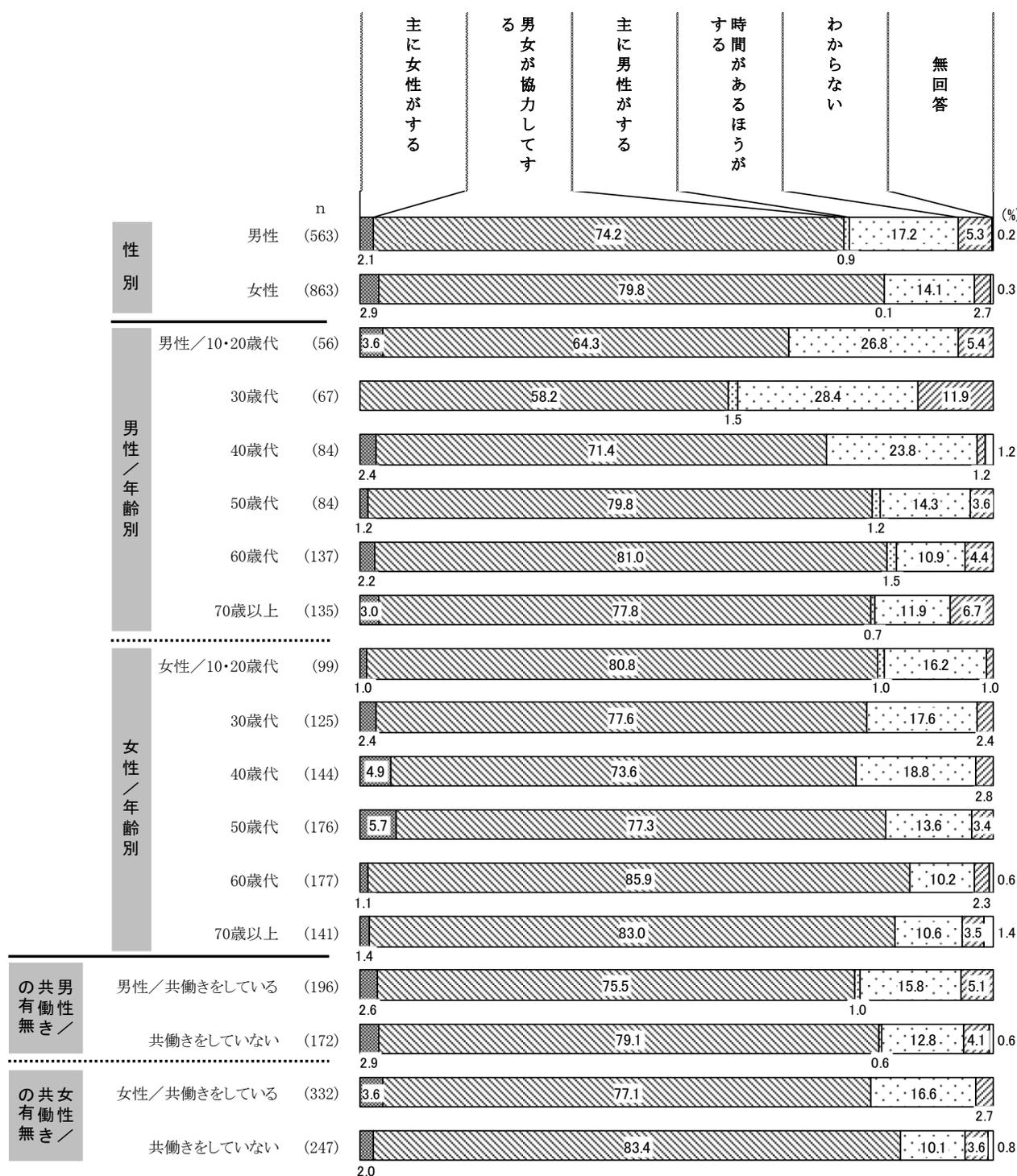


【(ウ) 介護 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「男女が協力してする」は女性（79.8%）が男性（74.2%）より5.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「男女が協力してする」が50歳代（79.8%）、60歳代（81.0%）で8割前後となっている。また、「時間があるほうが」が10・20歳代（26.8%）、30歳代（28.4%）で約3割となっている。女性では、「男女が協力してする」が10・20歳代（80.8%）、60歳代（85.9%）、70歳以上（83.0%）で8割台となっている。

性／共働きの有無別でみると、女性で「男女が協力してする」は共働きをしていない層（83.4%）が共働きをしている層（77.1%）より6.3ポイント高くなっている。

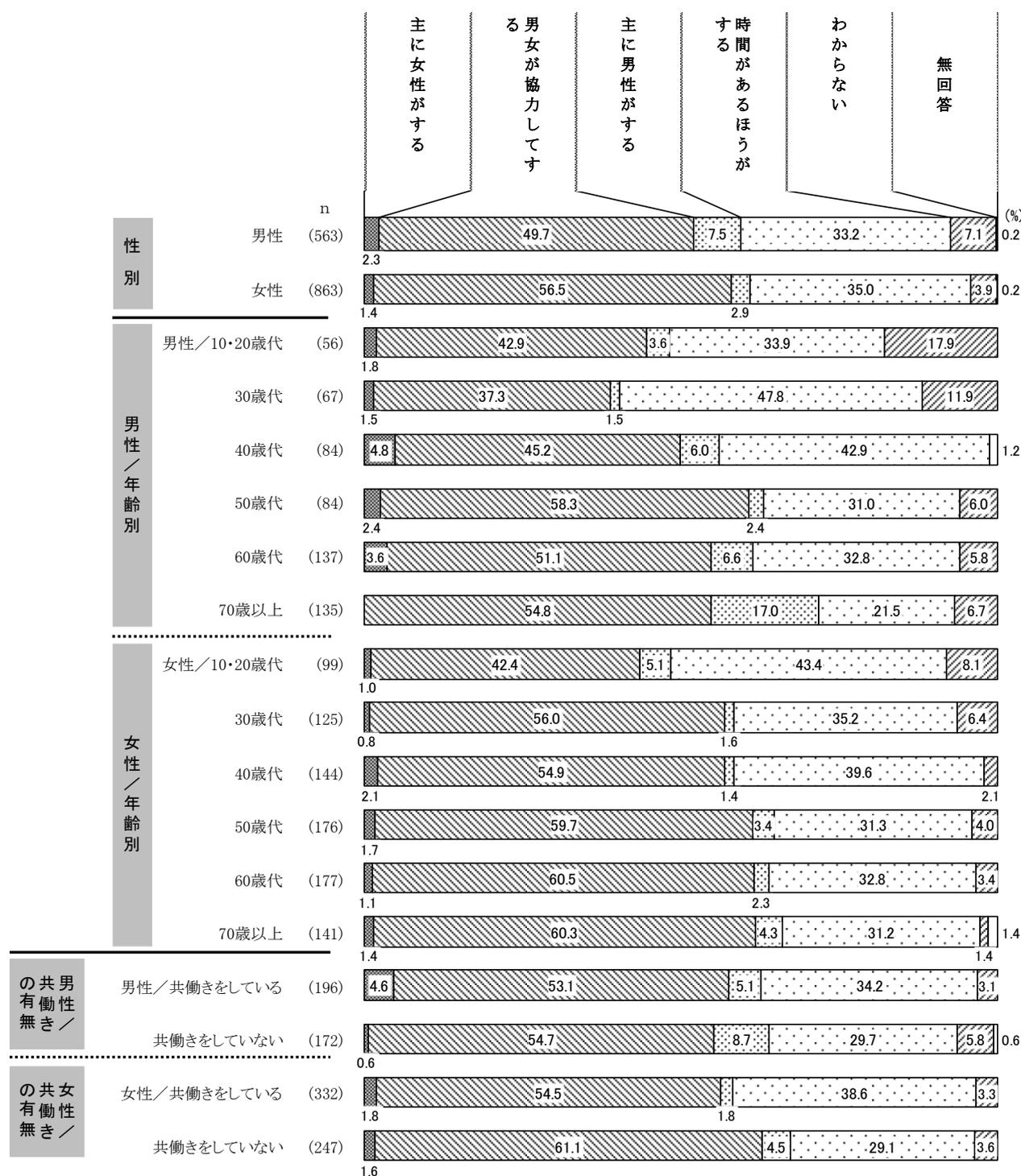


【(エ) 町会・自治会活動 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「男女が協力してする」は女性（56.5%）が男性（49.7%）より6.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「男女が協力してする」が50歳代（58.3%）で約6割、60歳代（51.1%）、70歳以上（54.8%）で5割以上となっている。また、「時間があるほうが」が30歳代（47.8%）で約5割となっている。女性では、「男女が協力してする」が50歳代（59.7%）、60歳代（60.5%）、70歳以上（60.3%）で6割前後となっている。

性／共働きの有無別でみると、女性で「男女が協力してする」は共働きをしていない層（61.1%）が共働きをしている層（54.5%）より6.6ポイント高くなっている。

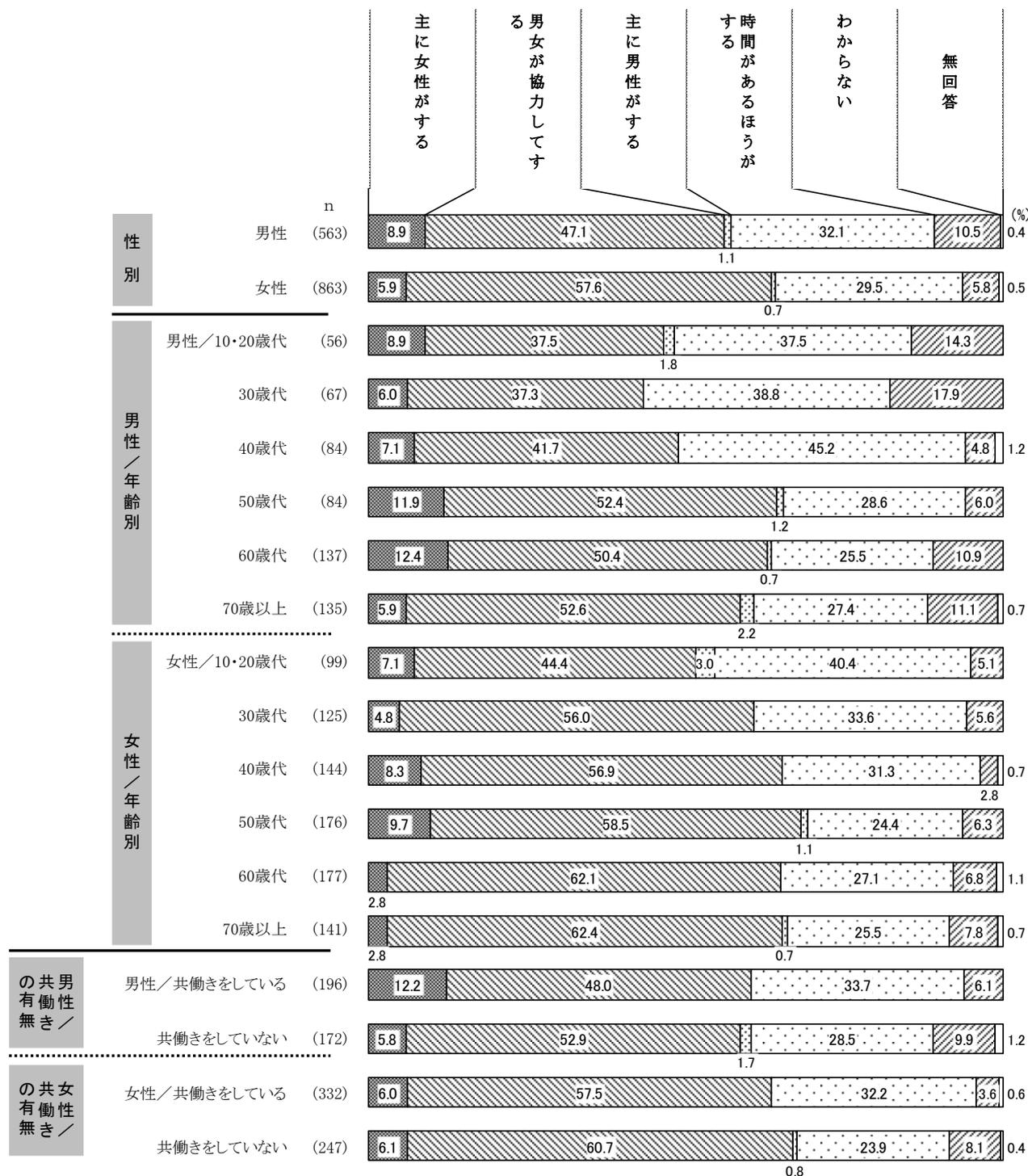


【(オ) PTA活動 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「男女が協力してする」は女性（57.6%）が男性（47.1%）より10.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「男女が協力してする」が50歳代（52.4%）、60歳代（50.4%）、70歳以上（52.6%）で5割以上となっている。女性では、「男女が協力してする」が60歳代（62.1%）、70歳以上（62.4%）で6割以上となっている。

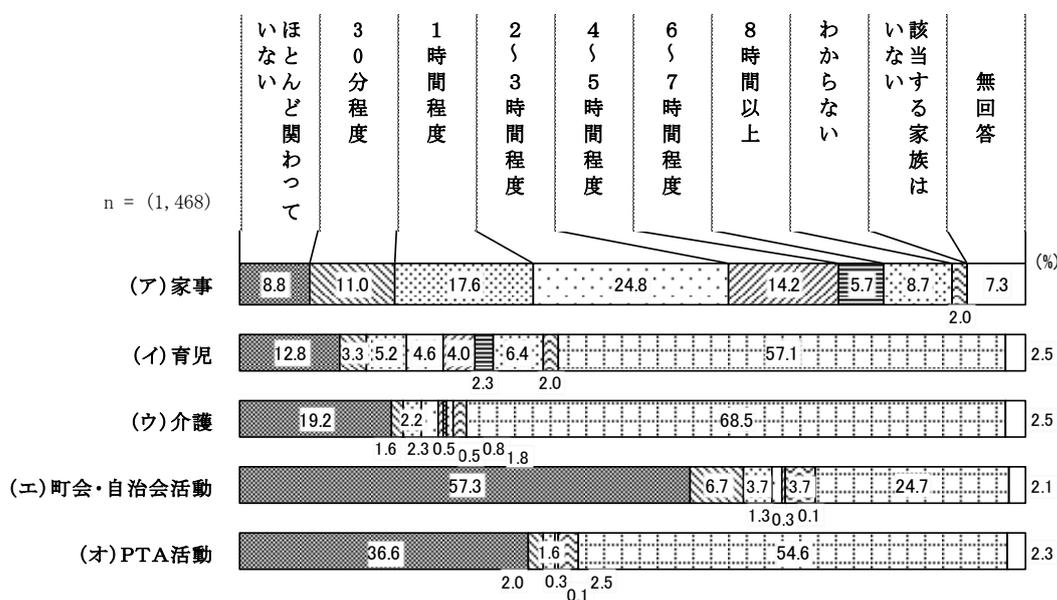
性／共働きの有無別でみると、共働きの有無にかかわらず「男女が協力してする」は男性では5割前後、女性では6割前後となっている。



(2) 家事・育児・介護へ費やす時間

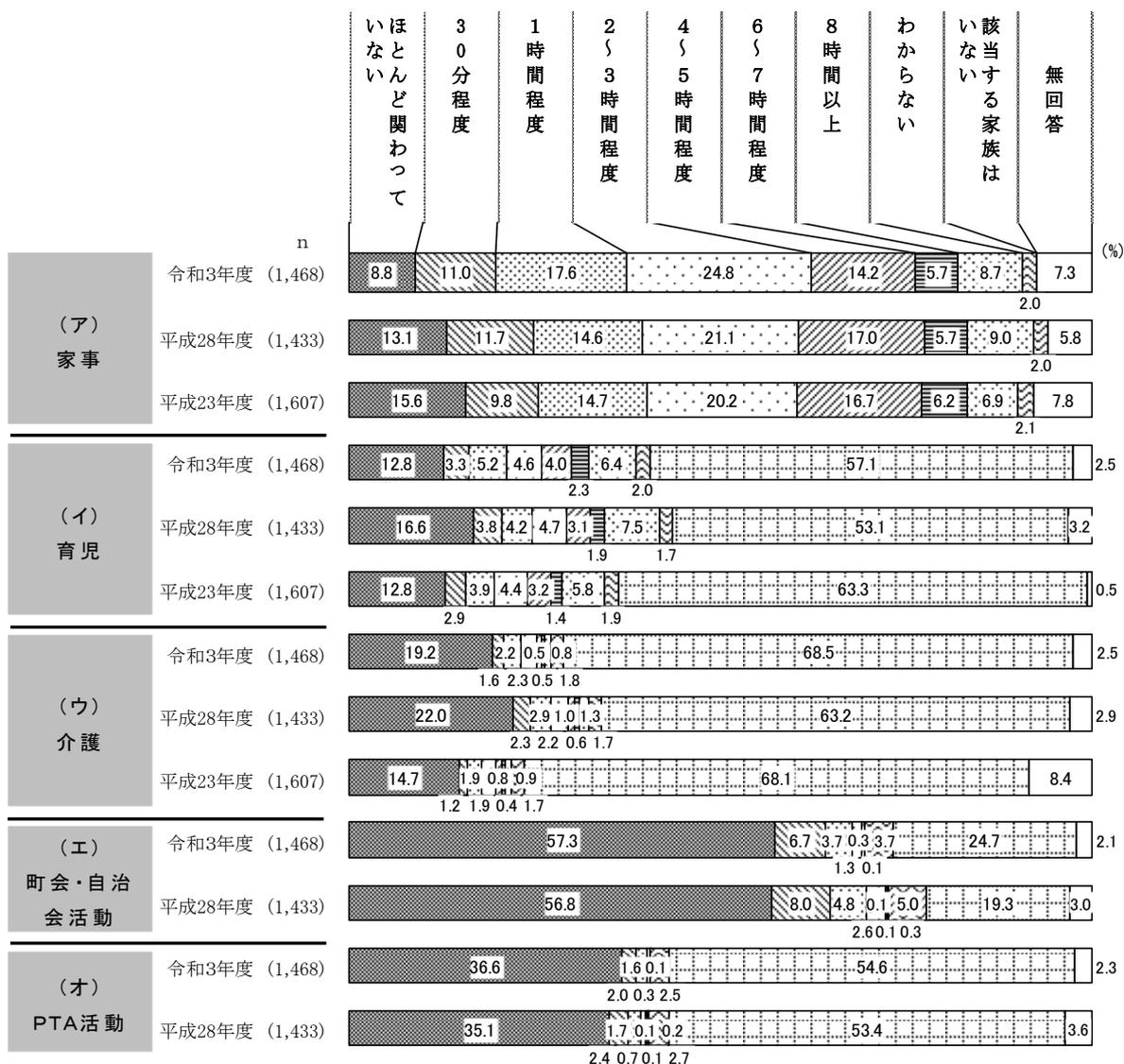
問6 あなたは、家事、育児、介護、町会・自治会活動、PTA活動について、現在、平日で平均どのくらい関わっていますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

5つの分野に費やす時間について、【家事】で「2～3時間程度」(24.8%)と「1時間程度」(17.6%)が高くなっている。一方で、「ほとんど関わっていない」は、【町会・自治会活動】が57.3%で最も高く、以下、【PTA活動】(36.6%)、【介護】(19.2%)となっている。



【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、特に大きな変化はみられない。

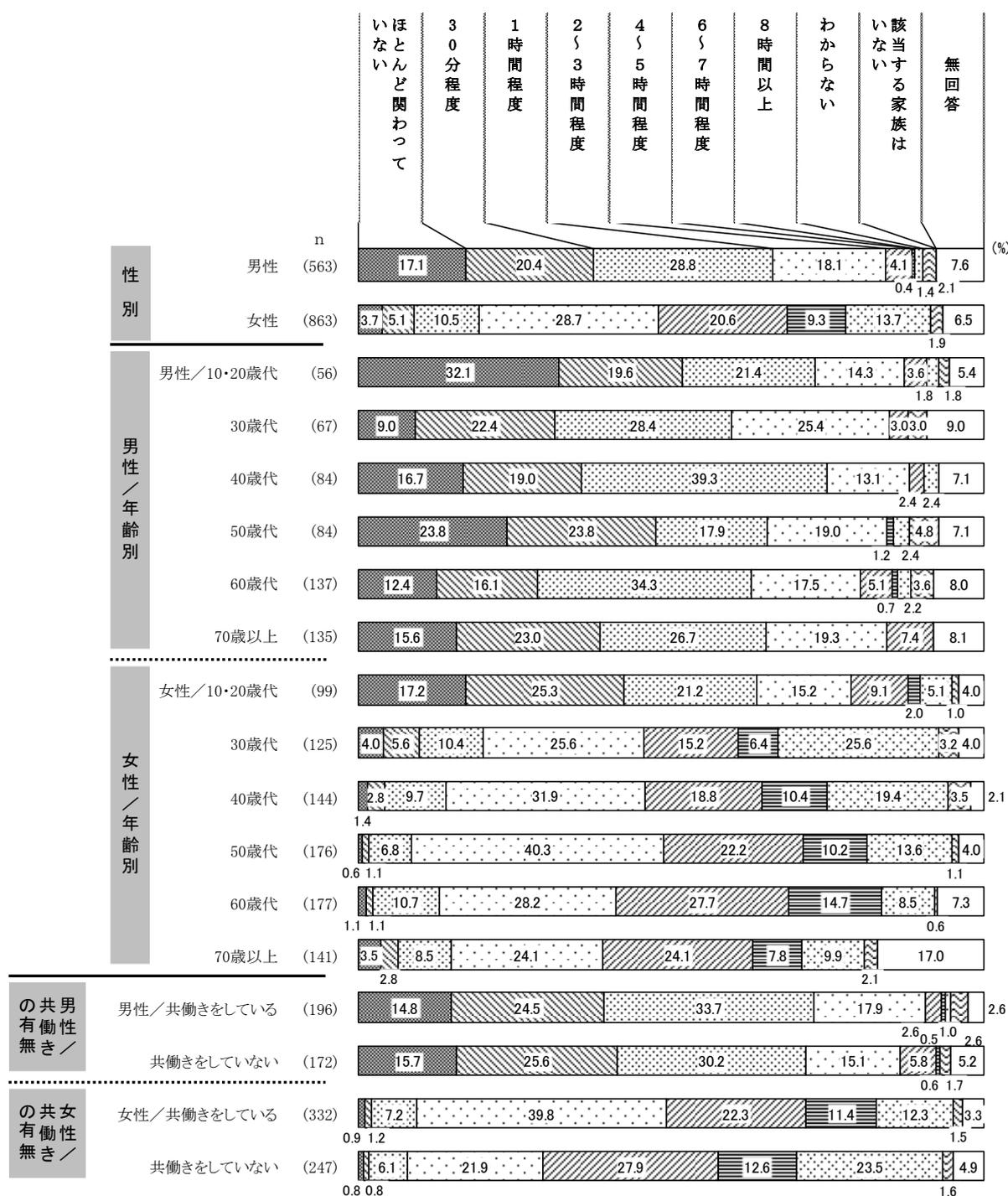


【(ア) 家事 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「ほとんど関わっていない」、「30分程度」、「1時間程度」は男性が女性より高く、「2～3時間程度」以上では女性が男性より高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「1時間程度」が40歳代（39.3%）、60歳代（34.3%）で他の年代に比べて高くなっている。また、「2～3時間程度」が30歳代（25.4%）で約3割となっている。女性では、10・20歳代を除くすべての年代で「2～3時間程度」が最も高く、70歳以上では「4～5時間程度」も同値となっている。

性／共働きの有無別でみると、男性で共働きの有無にかかわらず、「30分程度」が2割台半ば、「1時間程度」が3割以上となっている。女性では、「2～3時間程度」は共働きをしている層（39.8%）が共働きをしていない層（21.9%）より17.9ポイント高くなっている。

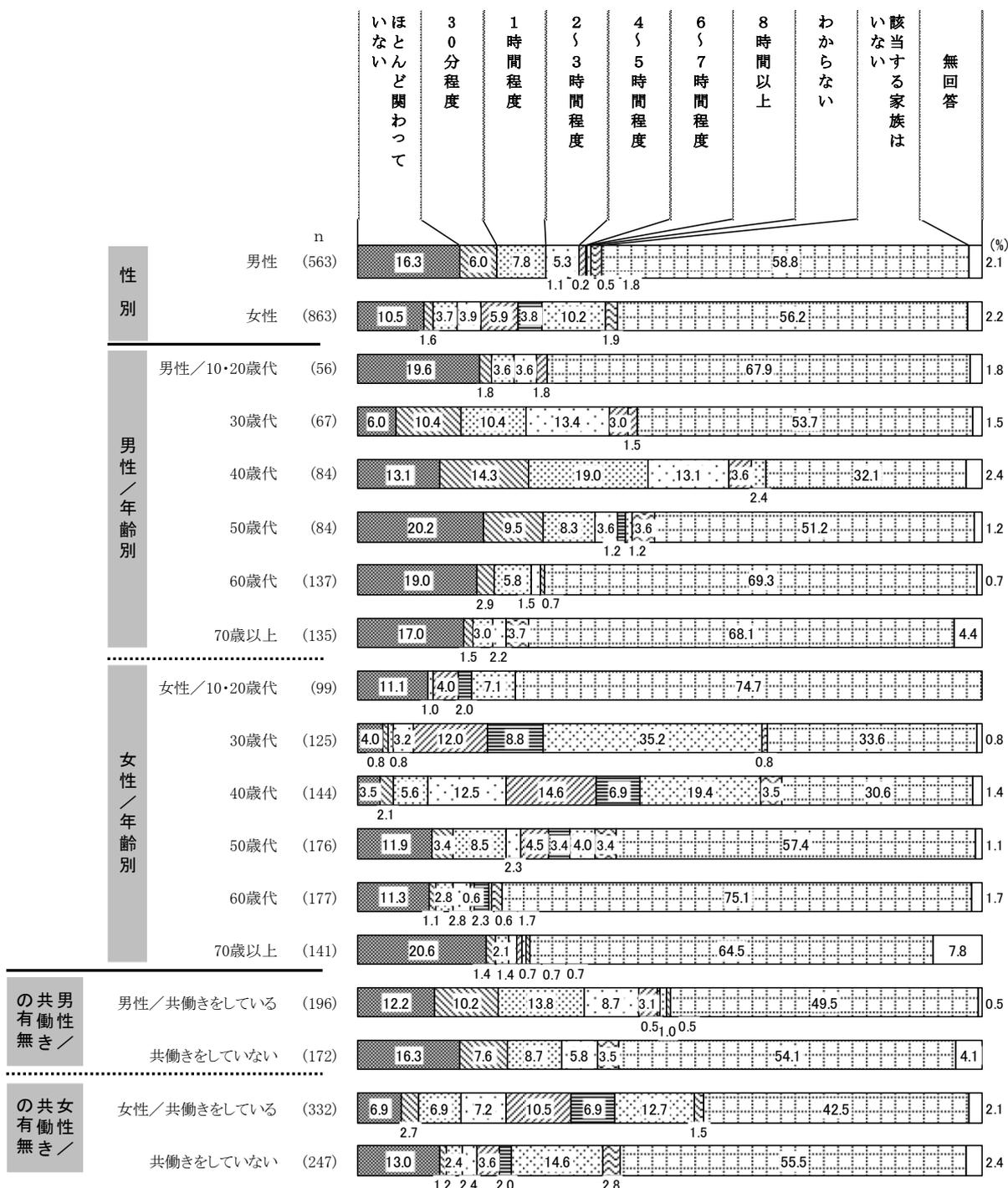


【(イ) 育児 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「ほとんど関わっていない」は男性（16.3%）が女性（10.5%）より5.8ポイント高くなっている。一方で、「8時間以上」は女性（10.2%）が男性（0.5%）より9.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「ほとんど関わっていない」が10・20歳代、50歳代から70歳以上で2割前後となっている。また、「8時間以上」は10・20歳代、30歳代の男性では回答がなかった一方で、女性では30歳代（35.2%）で約4割、40歳代（19.4%）で約2割となっている。

性／共働きの有無別でみると、男性で「1時間程度」は共働きをしている層（13.8%）が共働きをしていない層（8.7%）より5.1ポイント高く、その他の時間でも上回っている。女性で「4～5時間程度」は共働きをしている層（10.5%）が共働きをしていない層（3.6%）より6.9ポイント高くなっている。

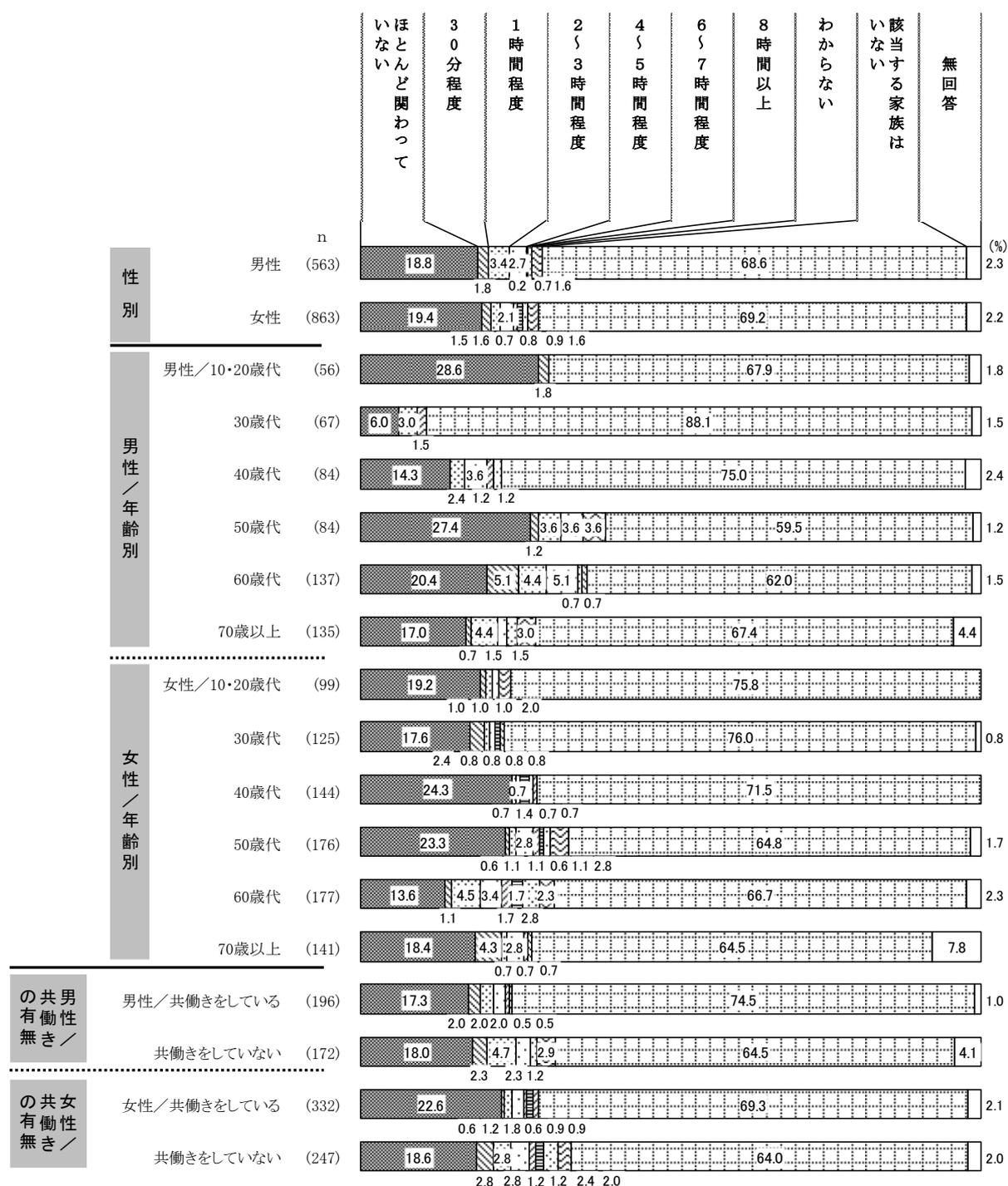


【(ウ) 介護 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

性／年齢別でみると、男性では、「ほとんど関わっていない」が10・20歳代（28.6%）、50歳代（27.4%）で約3割となっている。女性では、「ほとんど関わっていない」が40歳代（24.3%）と50歳代（23.3%）で2割以上となっている。

性／共働きの有無別でみると、共働きの有無にかかわらず、「ほとんど関わっていない」は男性では約2割、女性では2割前後となっている。

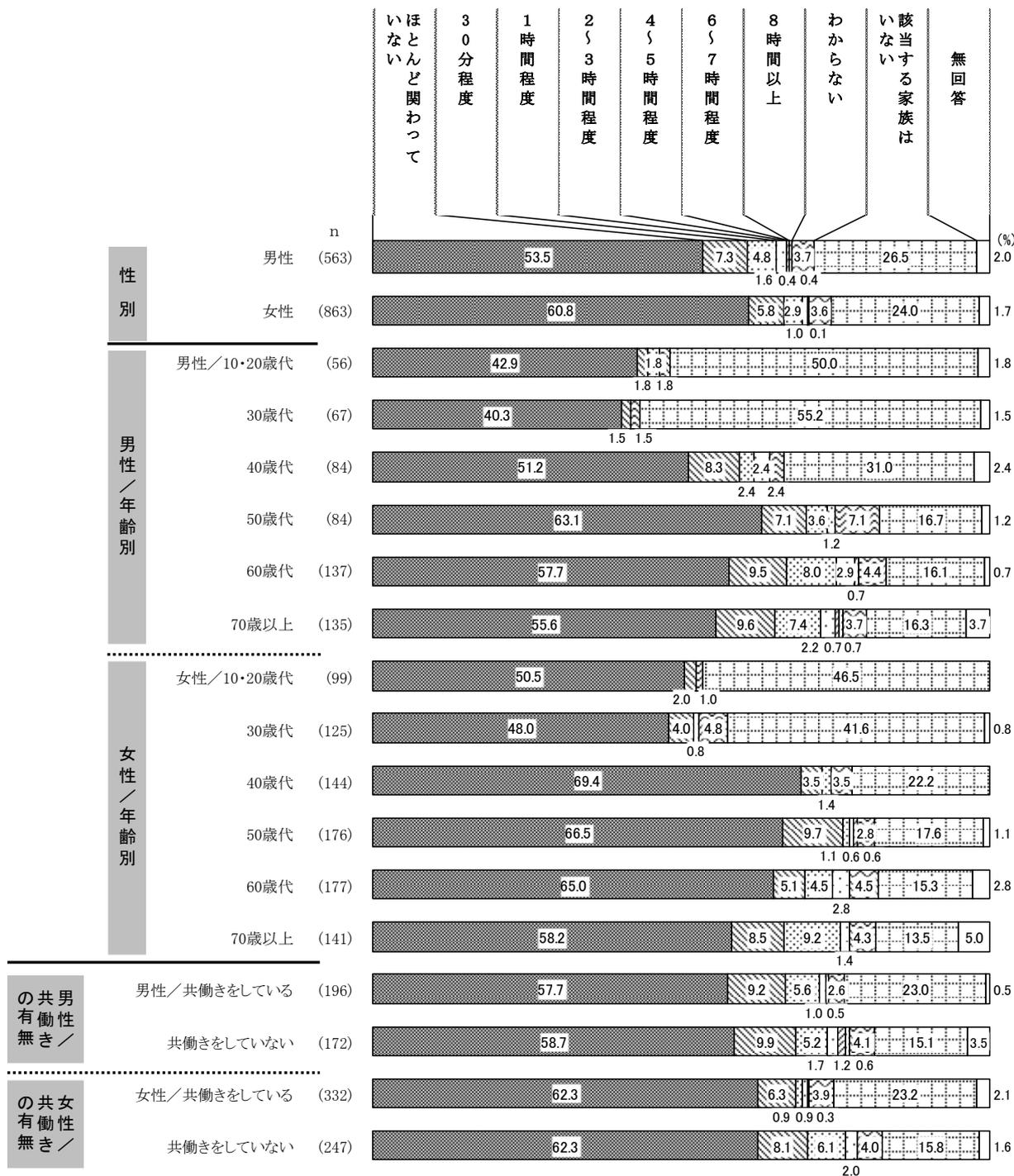


【(エ) 町会・自治会活動 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、「ほとんど関わっていない」は、女性（60.8%）が男性（53.5%）より7.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「ほとんど関わっていない」が50歳代（63.1%）で6割以上となっている。女性では、「ほとんど関わっていない」が30歳代を除くすべての年代で過半数を占めており、40歳代（69.4%）、50歳代（66.5%）、60歳代（65.0%）で約7割となっている。

性／共働きの有無別でみると、共働きの有無にかかわらず、「ほとんど関わっていない」は男性では約6割、女性では6割以上となっている。

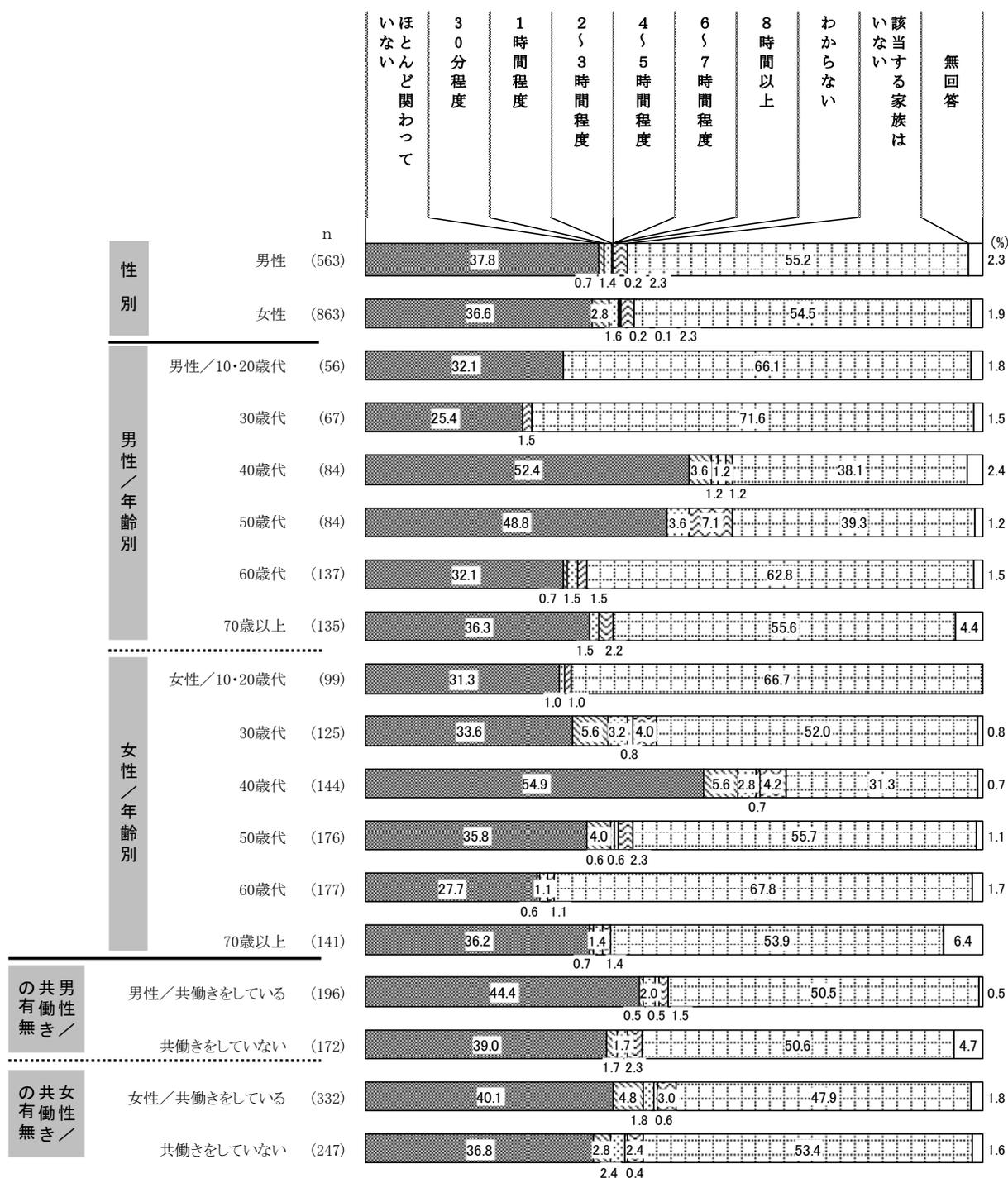


【(オ) P T A活動 性別・性／年齢別・性／共働きの有無別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

性／年齢別でみると、男性では、「ほとんど関わっていない」が40歳代（52.4%）で5割以上となっている。女性では、「ほとんど関わっていない」が40歳代（54.9%）で5割以上となっている。

性／共働きの有無別でみると、男女ともに「ほとんど関わっていない」は共働きをしている層では4割以上、共働きをしていない層では約4割となっている。



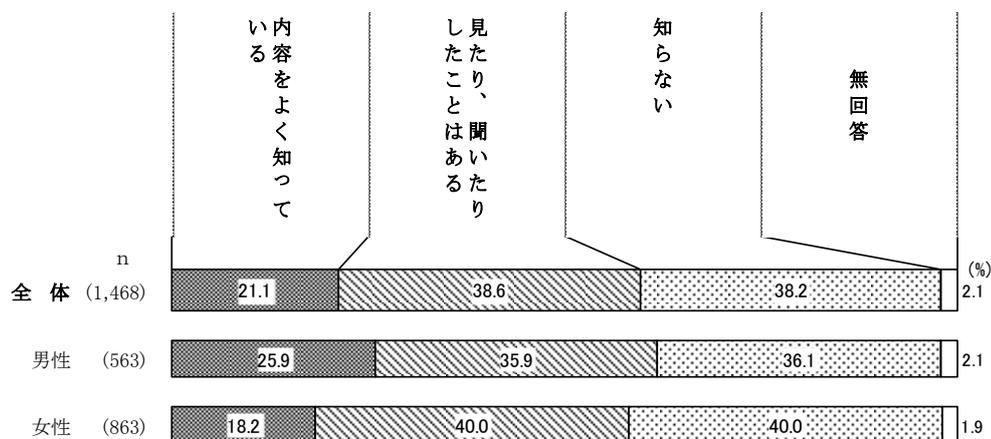
4. ワーク・ライフ・バランスについて

(1) ワーク・ライフ・バランスの周知度

問7 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。あてはまるものを1つお選びください。

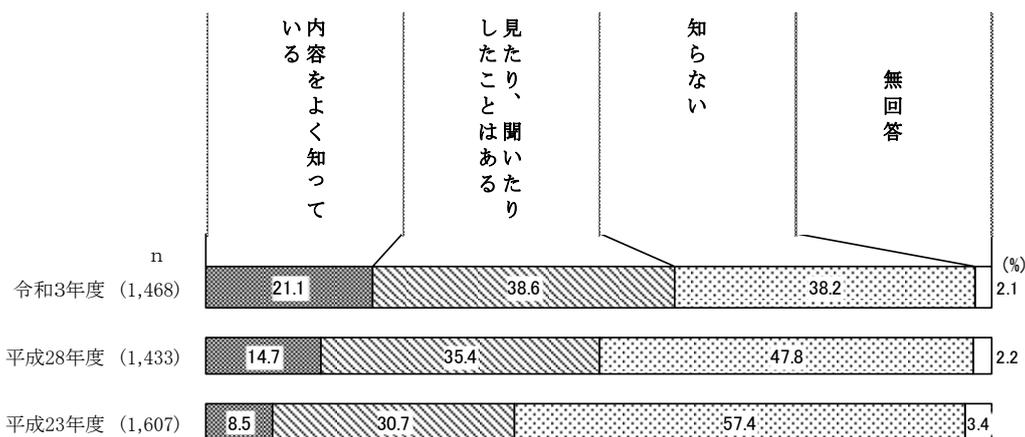
ワーク・ライフ・バランスの周知度について、「見たり、聞いたりしたことはある」が38.6%と最も高く、以下、「知らない」(38.2%)、「内容をよく知っている」(21.1%)となっている。

性別でみると、「内容をよく知っている」は男性(25.9%)が女性(18.2%)より7.7ポイント高くなっている。



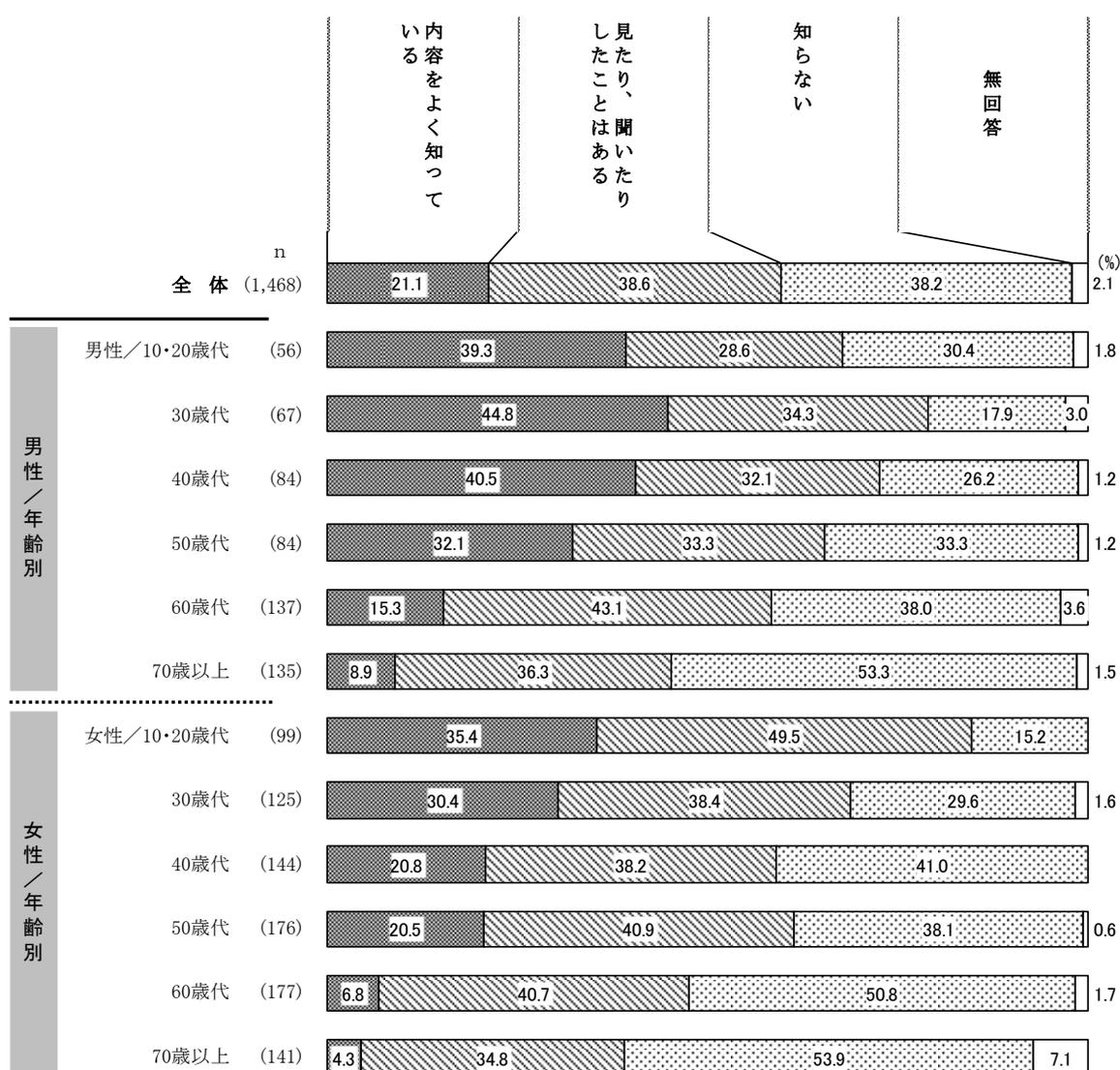
【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「内容をよく知っている」が6.4ポイント増加した一方で、「知らない」が9.6ポイント減少している。



【性別・性／年齢別】

性／年齢別で見ると、男性では、10・20歳代から40歳代で「内容をよく知っている」が最も高く、特に30歳代（44.8%）で4割以上を占めている。一方で、70歳以上では「知らない」が最も高く、53.3%と過半数を占めている。女性では、10・20歳代から50歳代で「見たり、聞いたりしたことはある」が最も高く、特に10・20歳代（49.5%）で約5割となっている。「内容をよく知っている」は年代が上がるほど低くなっている。

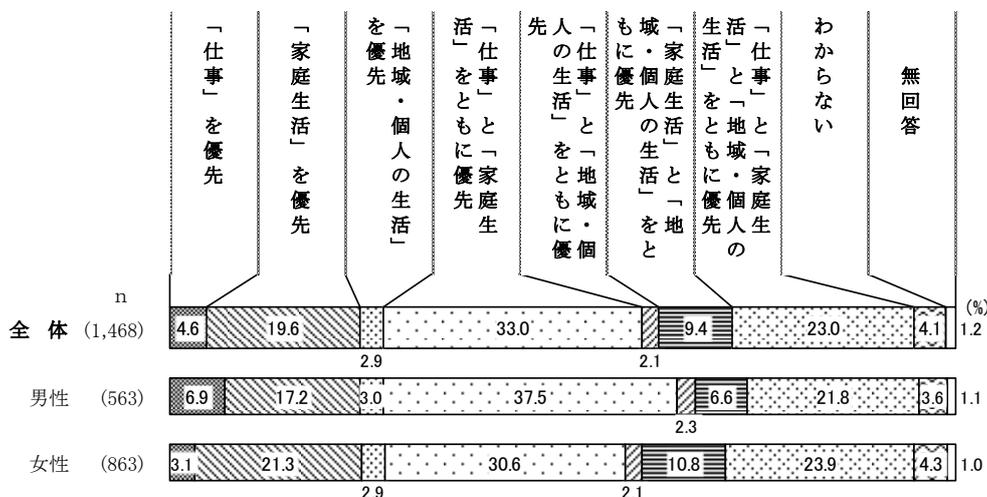


(2) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の理想とする優先度

問8 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望（理想）に最も近いものを1つお選びください。

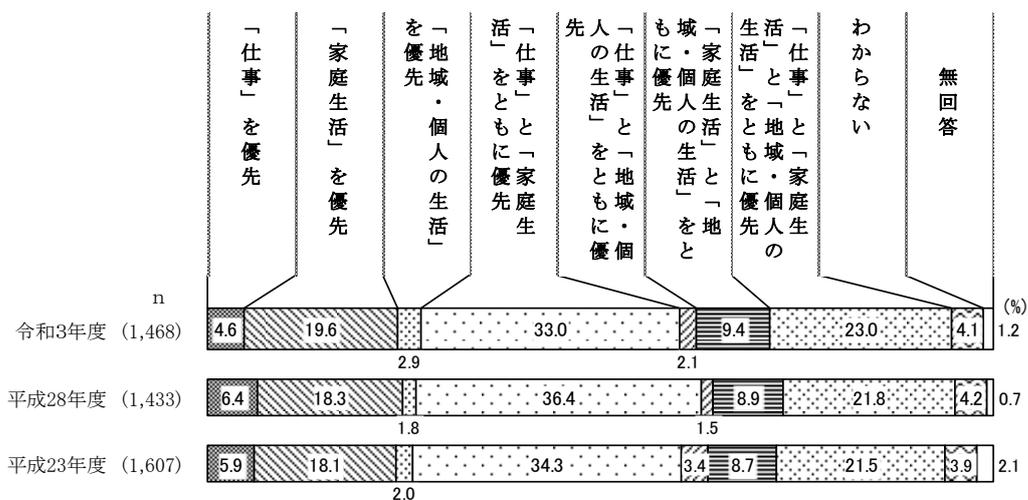
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の理想とする優先度について、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が33.0%と最も高く、以下、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」(23.0%)、『家庭生活』を優先」(19.6%)となっている。

性別でみると、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は男性(37.5%)が女性(30.6%)より6.9ポイント高くなっている。



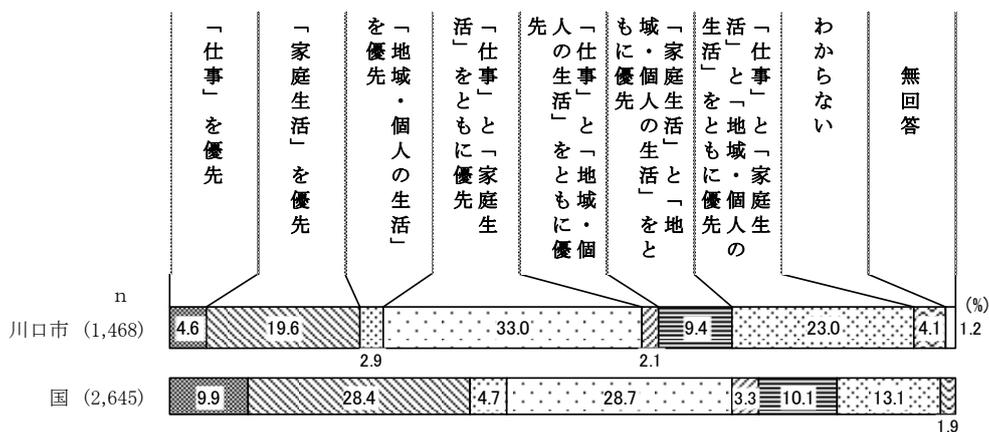
【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、特に大きな変化はみられない。



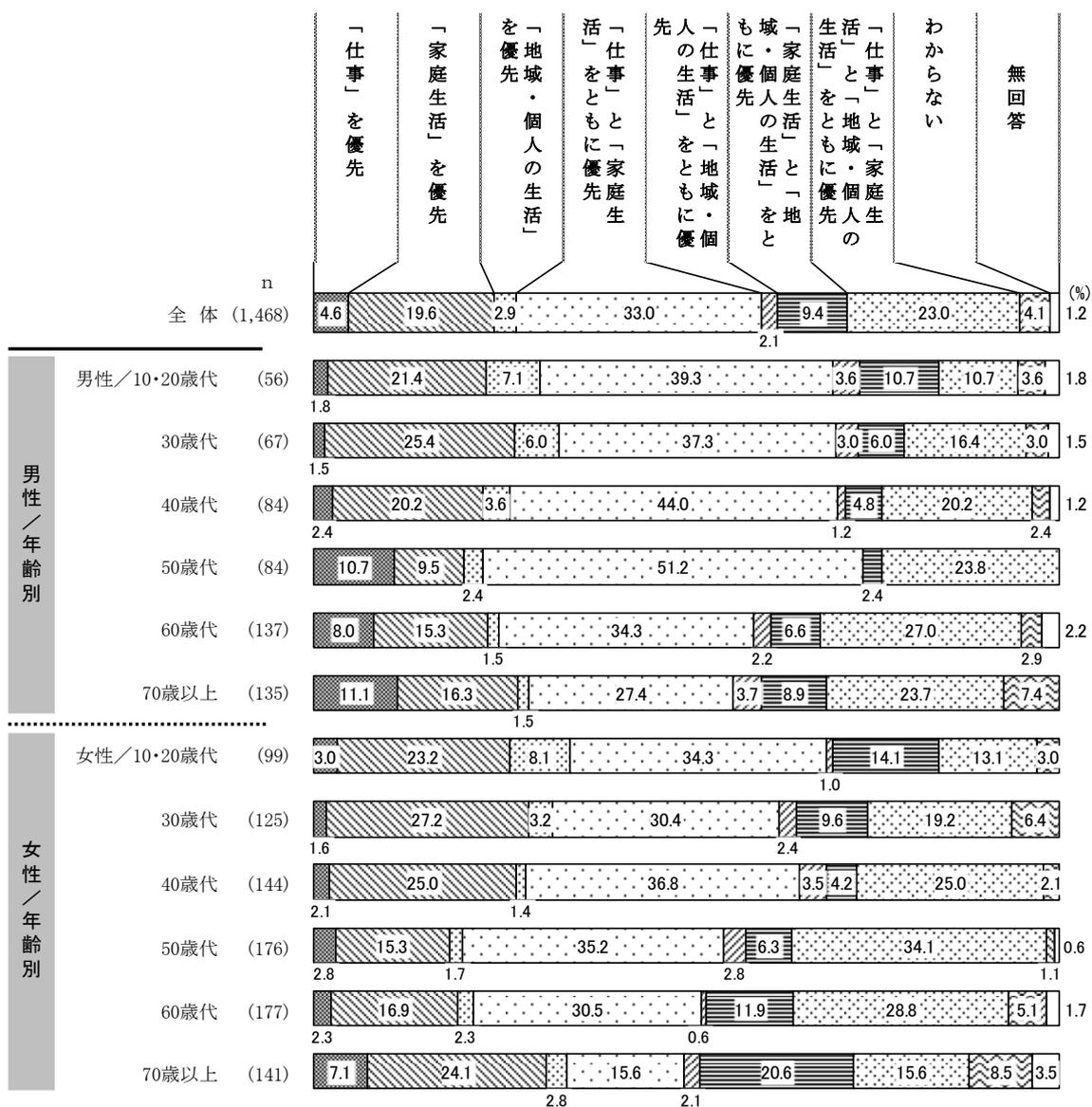
【国との比較—内閣府 令和元年度 男女共同参画社会に関する世論調査】

令和元年度に実施された国の調査結果と比較すると、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先は川口市の調査結果（23.0%）が国の調査結果（13.1%）より9.9ポイント高くなっている。一方で、『家庭生活』を優先は国の調査結果（28.4%）が川口市の調査結果（19.6%）より8.8ポイント、『仕事』を優先は国の調査結果（9.9%）が川口市の調査結果（4.6%）より5.3ポイント高くなっている。



【性／年齢別】

性／年齢別で見ると、男性では、すべての年代で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も高く、特に50歳代（51.2%）で5割以上、40歳代（44.0%）で4割以上となっている。女性では、70歳以上を除くすべての年代で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も高くなっている。50歳代、60歳代では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」と「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」が同程度となっている。70歳以上では「『家庭生活』を優先」が24.1%と最も高くなっている。

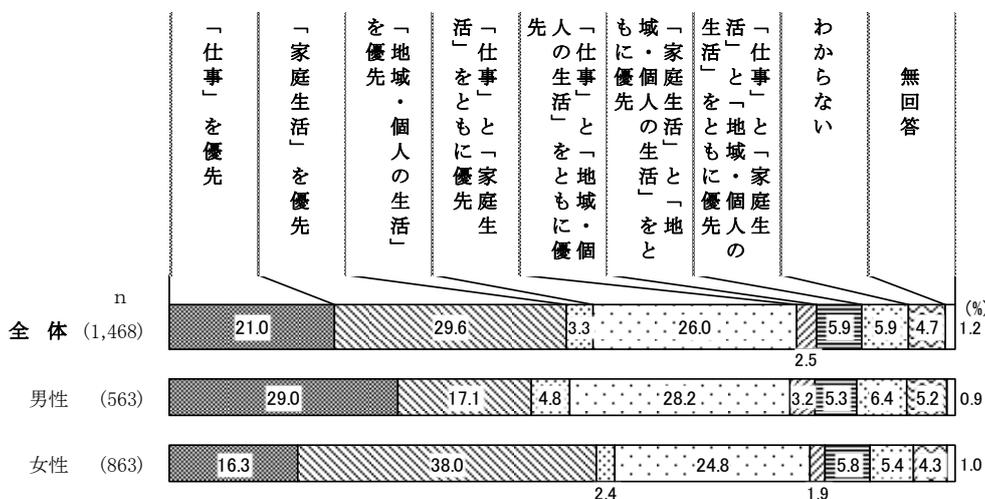


(3) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の現実の優先度

問9 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）に最も近いものを1つお選びください。

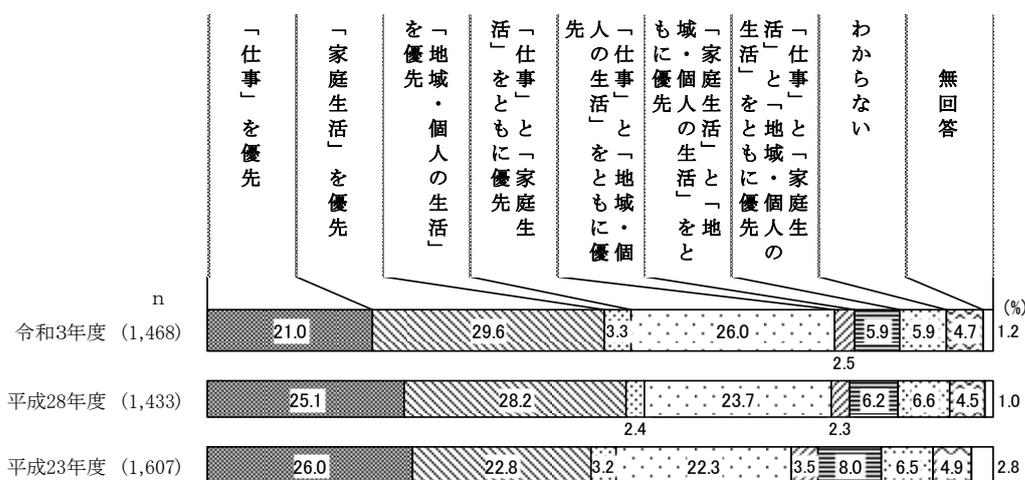
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の現実の優先度について、『家庭生活』を優先が29.6%と最も高く、以下、『仕事』と『家庭生活』をともに優先(26.0%)、『仕事』を優先(21.0%)となっている。

性別でみると、『仕事』を優先は男性(29.0%)が女性(16.3%)より12.7ポイント高くなっている。一方で、『家庭生活』を優先は女性(38.0%)が男性(17.1%)より20.9ポイント高くなっている。



【経年比較】

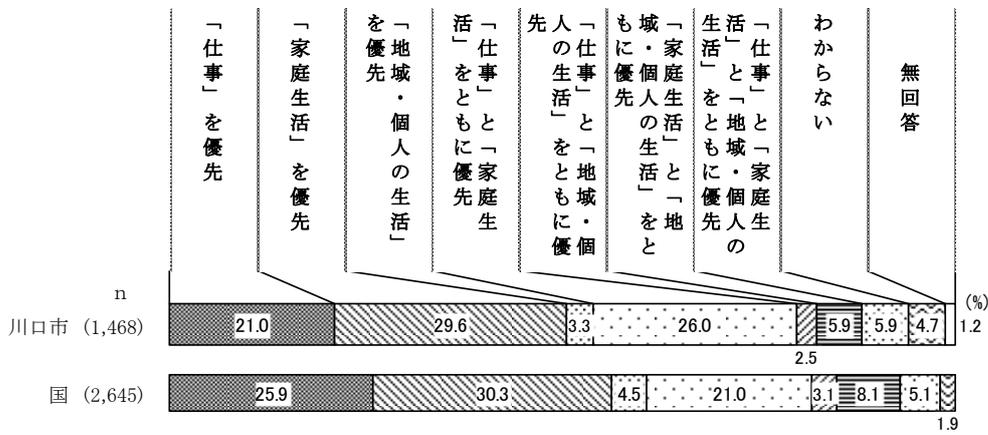
平成28年度の川口市の調査結果と比べると、特に大きな変化はみられない。



第2章 調査結果の詳細

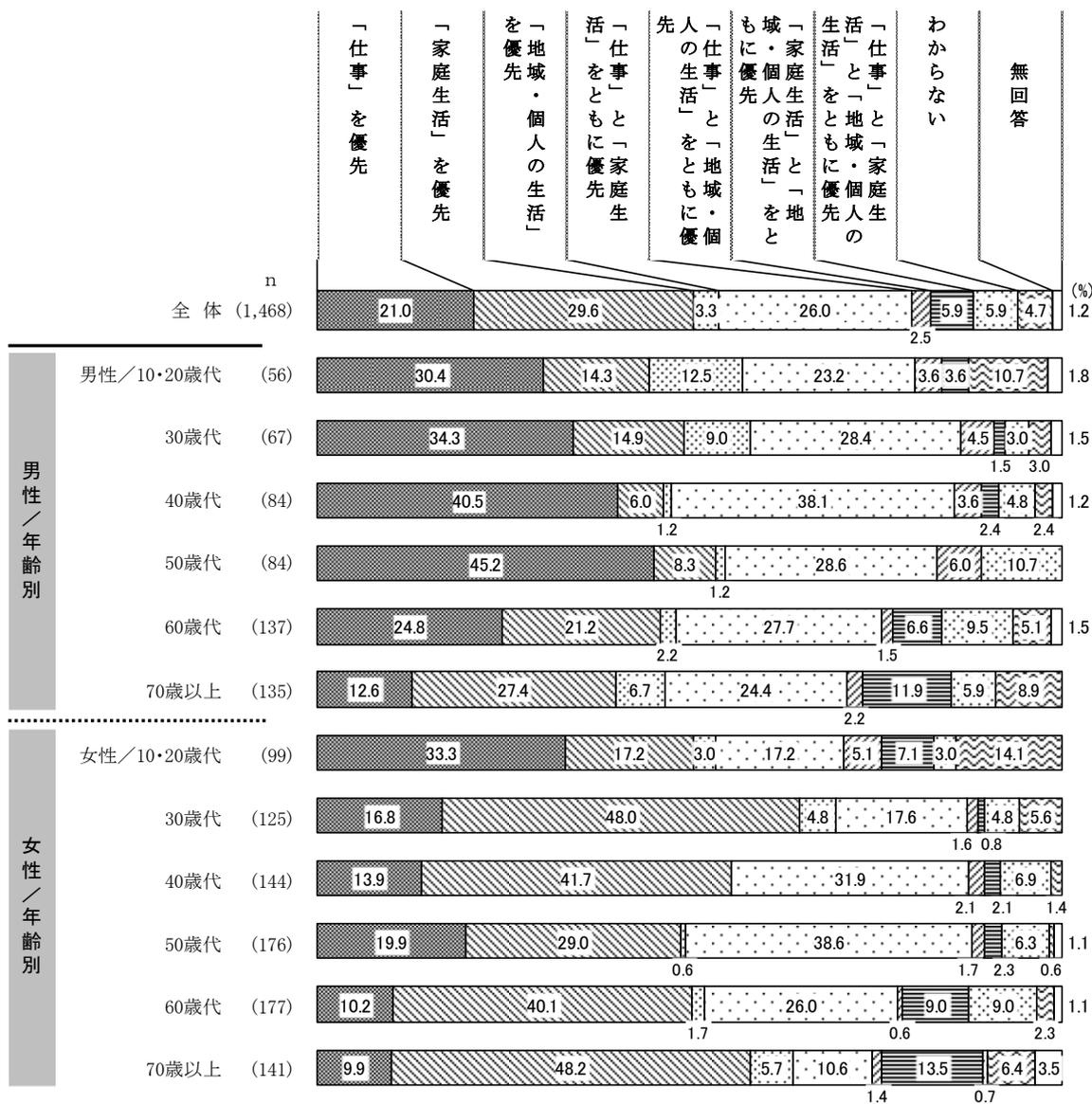
【国との比較－内閣府 令和元年度 男女共同参画社会に関する世論調査】

令和元年度に実施された国の調査結果と比較すると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は川口市の調査結果（26.0%）が国の調査結果（21.0%）より5.0ポイント高くなっている。



【性／年齢別】

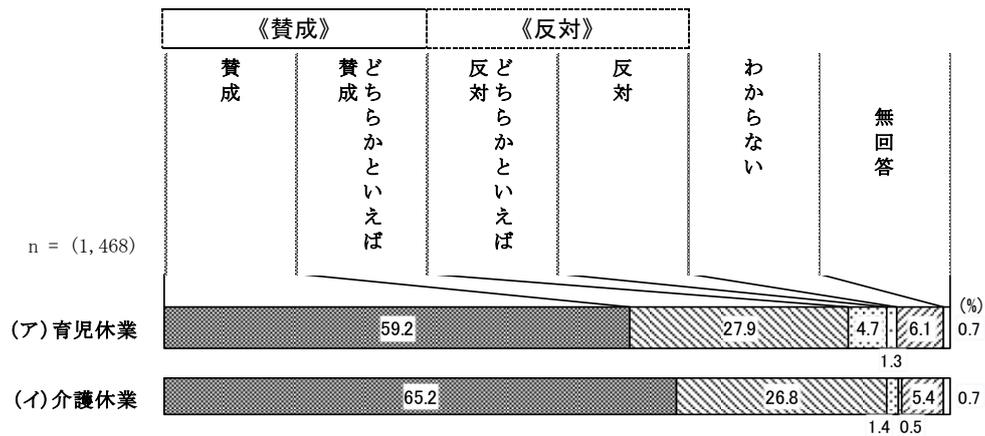
性／年齢別でみると、男性では、10・20歳代から50歳代で『仕事』を優先が最も高く、特に50歳代で45.2%を占めており、40歳代では『仕事』と『家庭生活』をともに優先が同程度となっている。60歳代では『仕事』と『家庭生活』をともに優先が最も高く、70歳以上では『家庭生活』を優先が最も高くなっている。女性では、10・20歳代と50歳代を除くすべての年代で『家庭生活』を優先が最も高く、30歳代（48.0%）と70歳以上（48.2%）で約5割となっている。10・20歳代で『仕事』を優先が33.3%と最も高く、50歳代で『仕事』と『家庭生活』をともに優先が38.6%と最も高くなっている。



(4) 男性の育児休業・介護休業取得

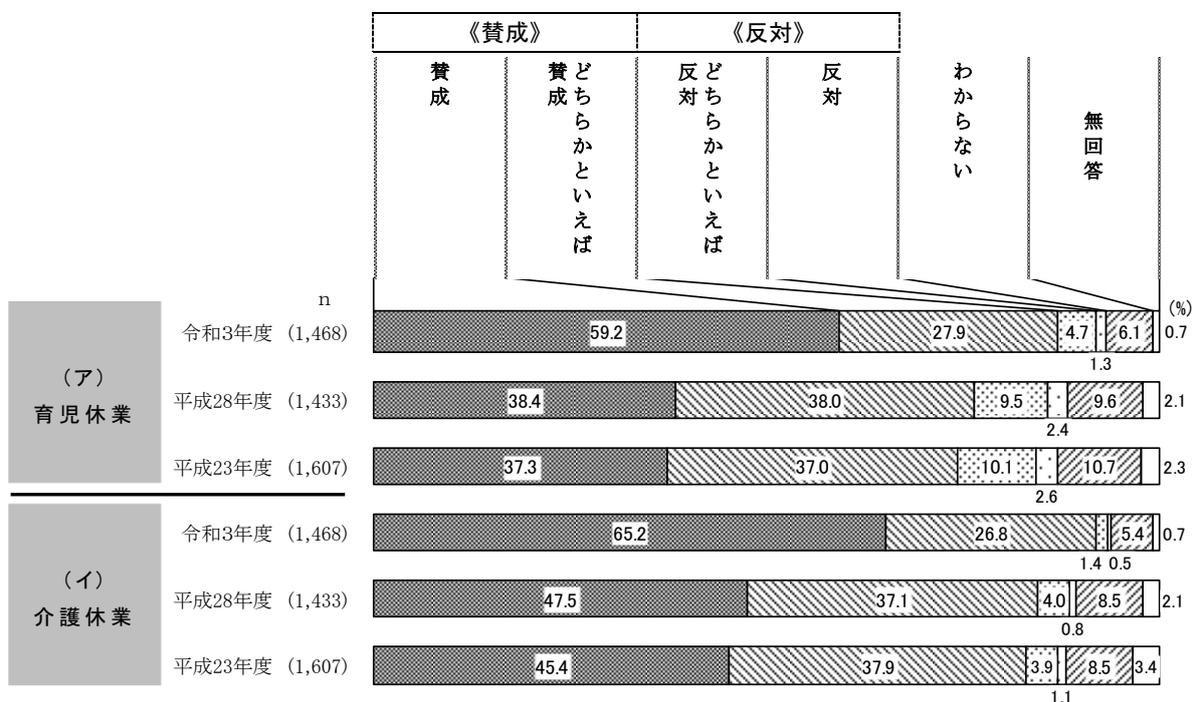
問10 あなたは、男性の育児休業、介護休業取得についてどのようにお考えですか。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つずつお選びください。

男性の育児休業・介護休業取得について、【育児休業】では、「賛成」が59.2%と最も高くなっている。また、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた《賛成》は87.1%となっている。【介護休業】では、「賛成」が65.2%と最も高くなっている。また、《賛成》は92.0%となっている。

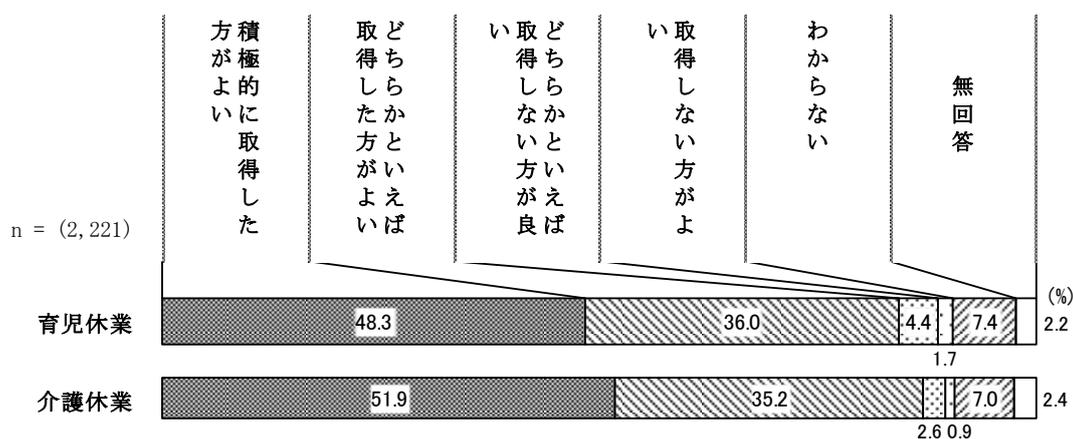


【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、《賛成》は【育児休業】で10.7ポイント、【介護休業】で7.4ポイント高くなっている。



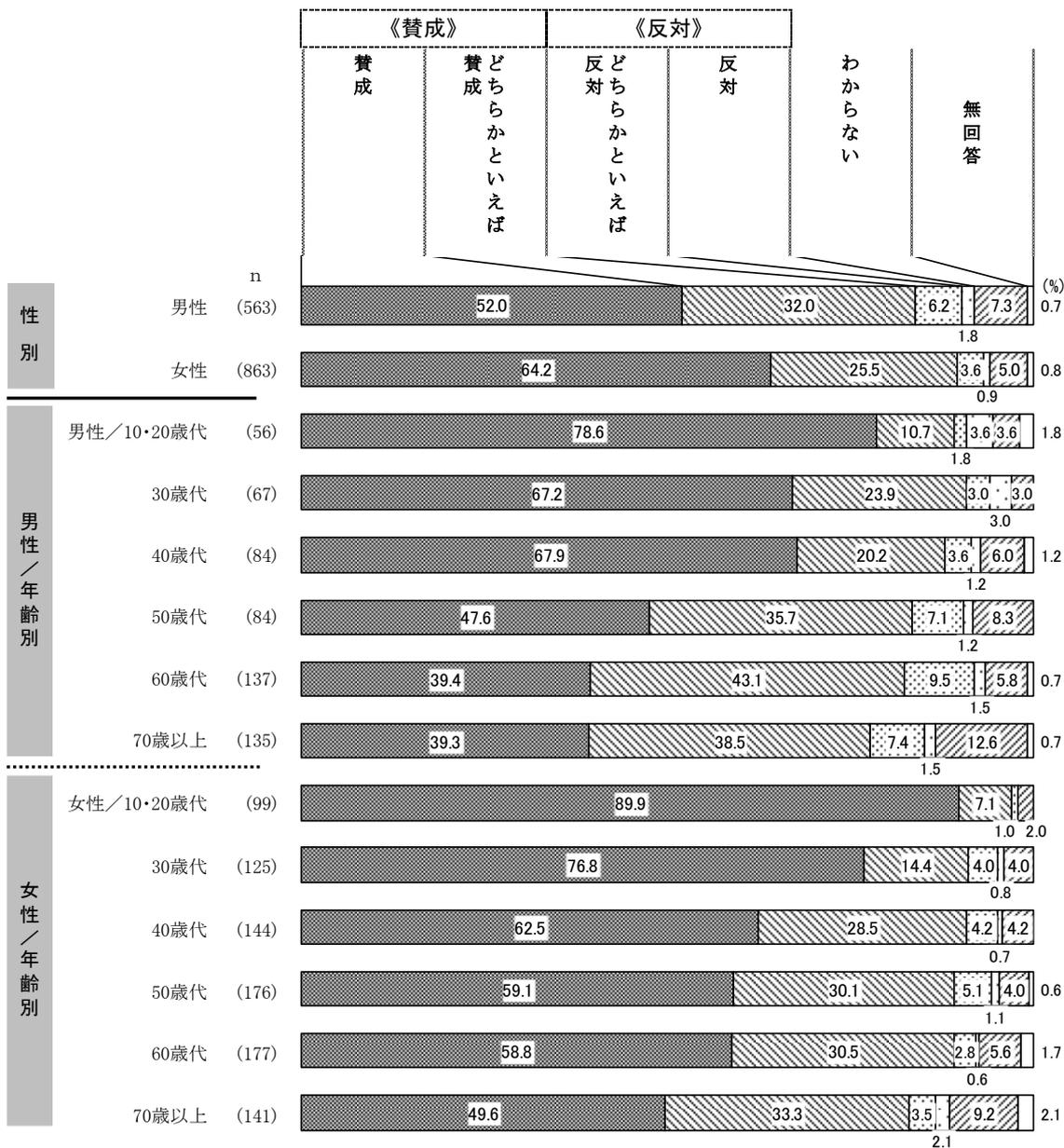
【参考—埼玉県 令和2年度 男女共同参画に関する意識・実態調査】



【(ア) 育児休業 性別・性／年齢別】

性別でみると、《賛成》は男性で84.0%、女性で89.7%となっており、「賛成」は女性（64.2%）が男性（52.0%）より12.2ポイント高くなっている。

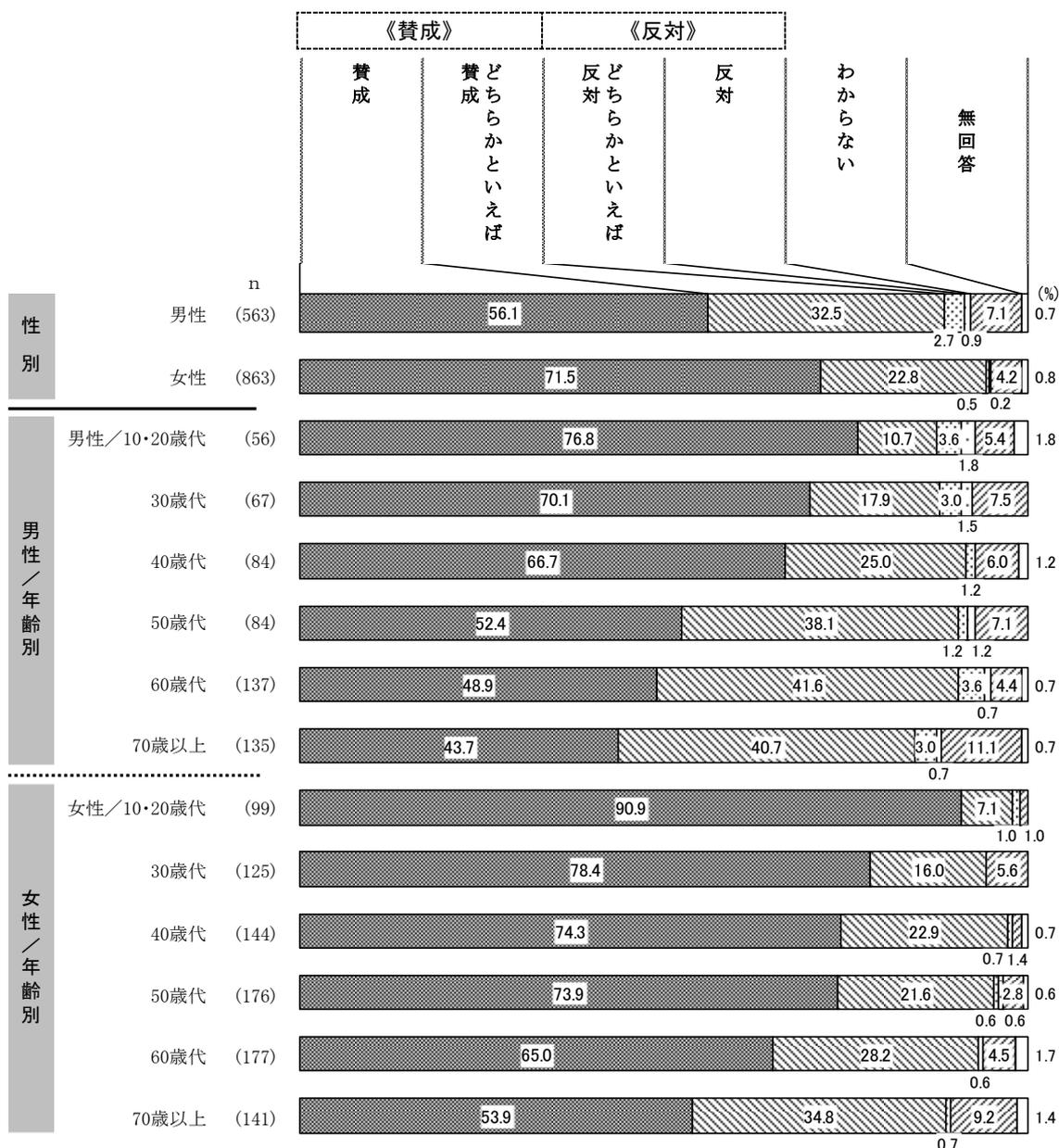
性／年齢別でみると、男性では、《賛成》が10・20歳代から40歳代で9割前後となっているが、年齢が上がるほど低くなる傾向がある。女性では、《賛成》が10・20歳代で97.0%を占めており、30歳代から60歳代で9割前後となっている。



【(イ) 介護休業 性別・性／年齢別】

性別でみると、《賛成》は男性で88.6%、女性で94.3%となっており、「賛成」は女性（71.5%）が男性（56.1%）より15.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、すべての年代で「賛成」が最も高く、《賛成》は40歳代から60歳代で9割以上を占めている。女性では、すべての年代で「賛成」が過半数を占めて最も高く、《賛成》は70歳以上を除くすべての年代で9割以上を占めている。

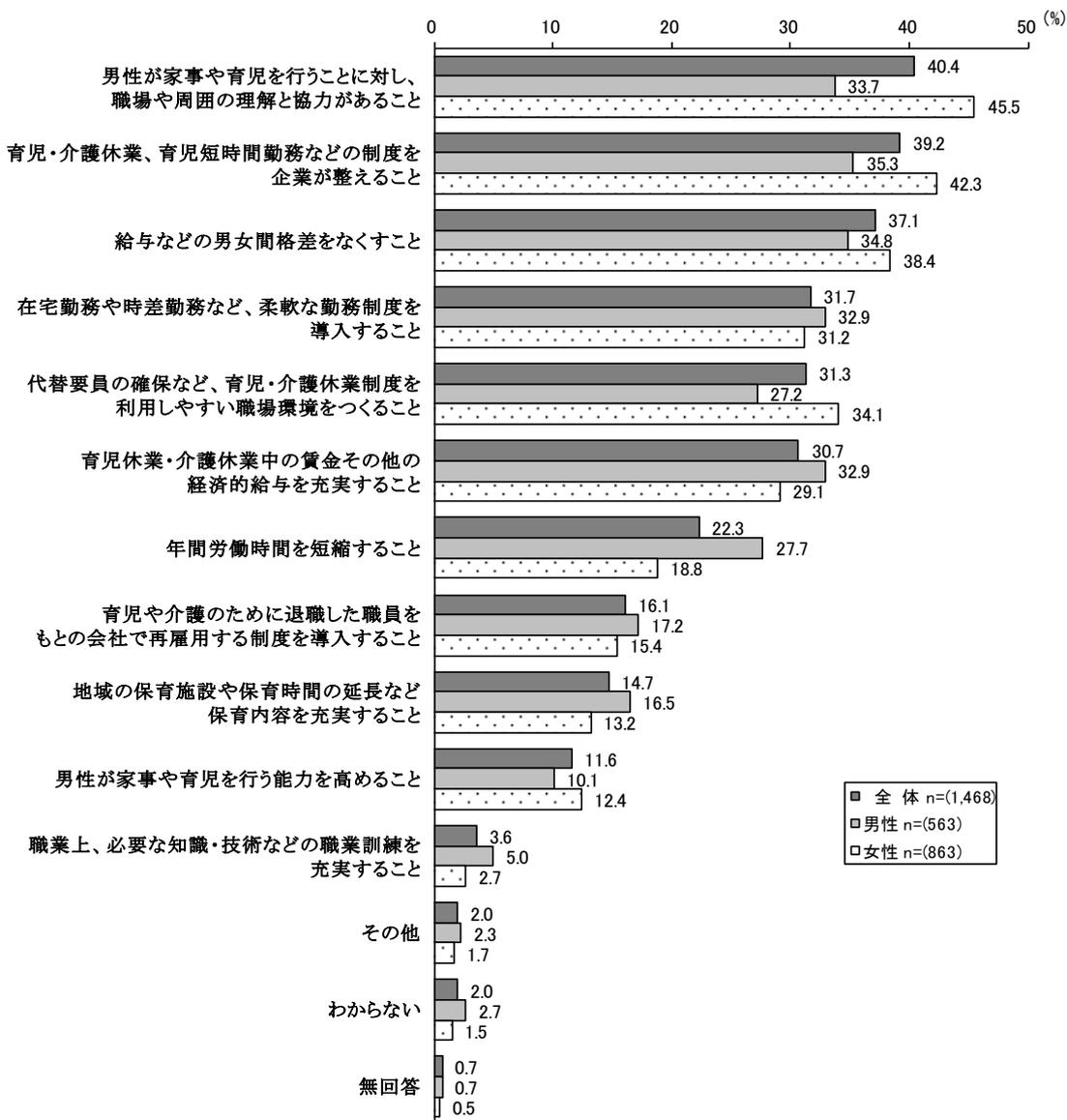


(5) 仕事と家庭の両立に必要な条件

問11 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまでお選びください。

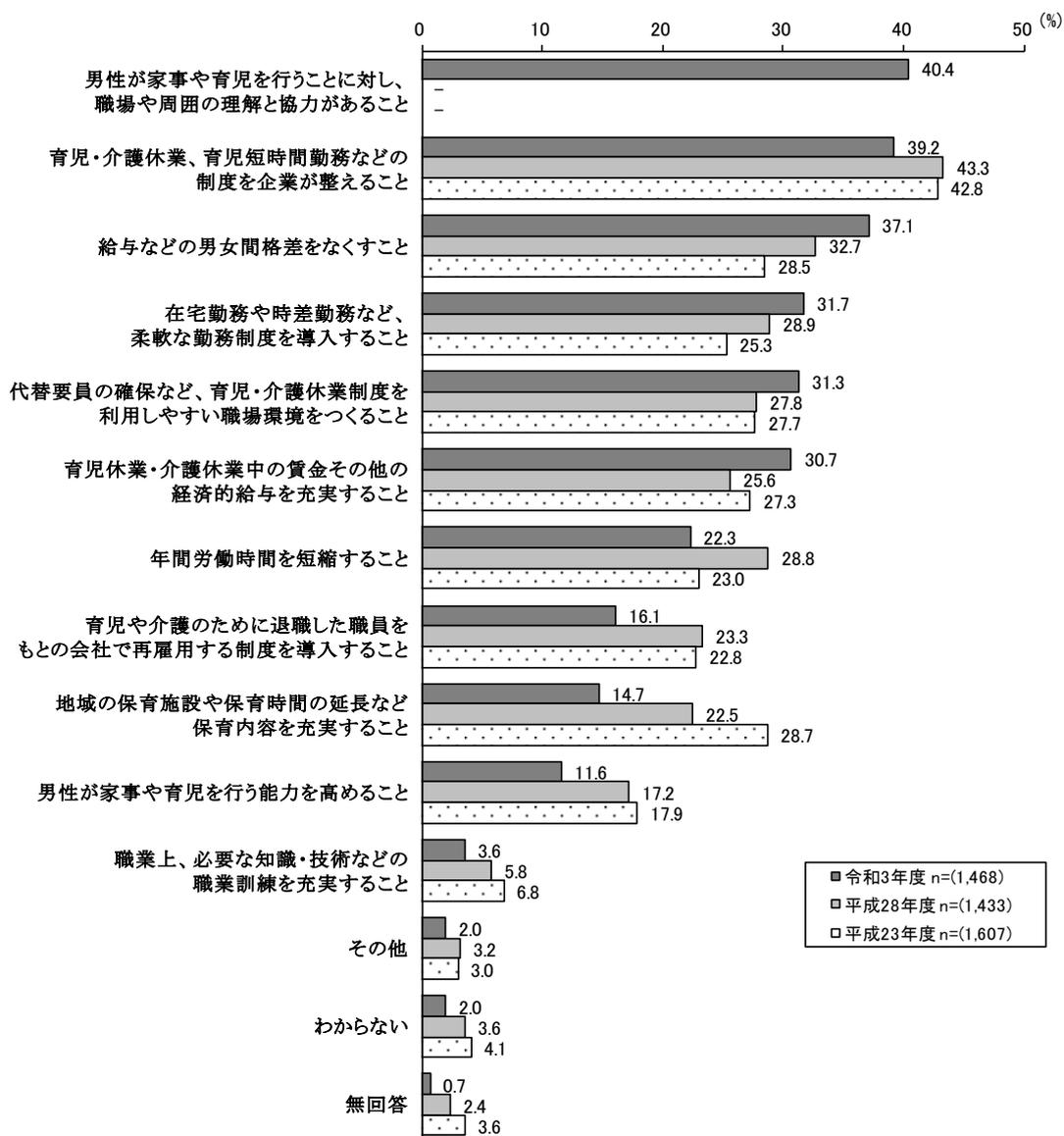
仕事と家庭の両立に必要な条件について、「男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること」が40.4%と最も高く、以下、「育児・介護休業、育児短時間勤務などの制度を企業が整えること」(39.2%)、「給与などの男女間格差をなくすこと」(37.1%)となっている。

性別で見ると、「年間労働時間を短縮すること」は男性(27.7%)が女性(18.8%)より8.9ポイント高くなっている。一方で、「男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること」は女性(45.5%)が男性(33.7%)より11.8ポイント、「育児・介護休業、育児短時間勤務などの制度を企業が整えること」は女性(42.3%)が男性(35.3%)より7.0ポイント、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること」は女性(34.1%)が男性(27.2%)より6.9ポイント高くなっている。



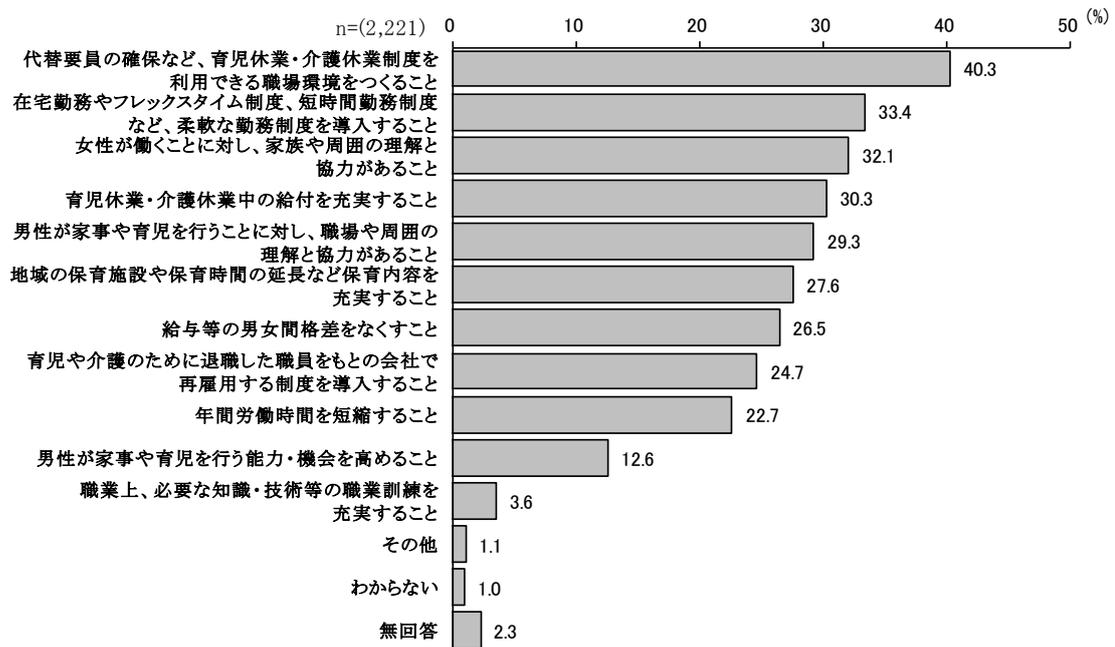
【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」は7.8ポイント、「育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること」は7.2ポイント、「年間労働時間を短縮すること」は6.5ポイント減少している。一方で、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」は5.1ポイント増加している。



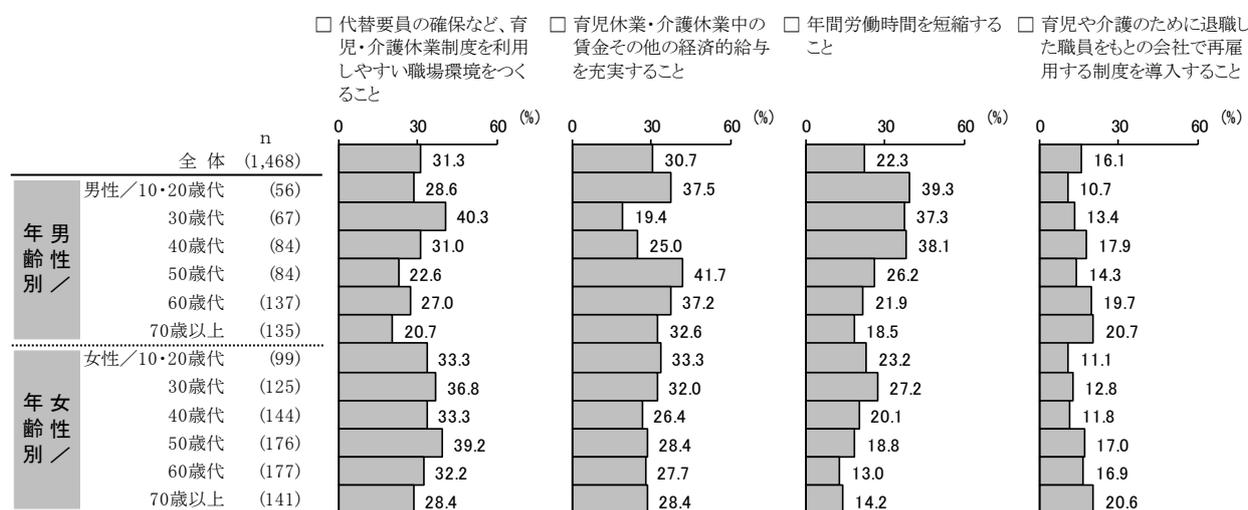
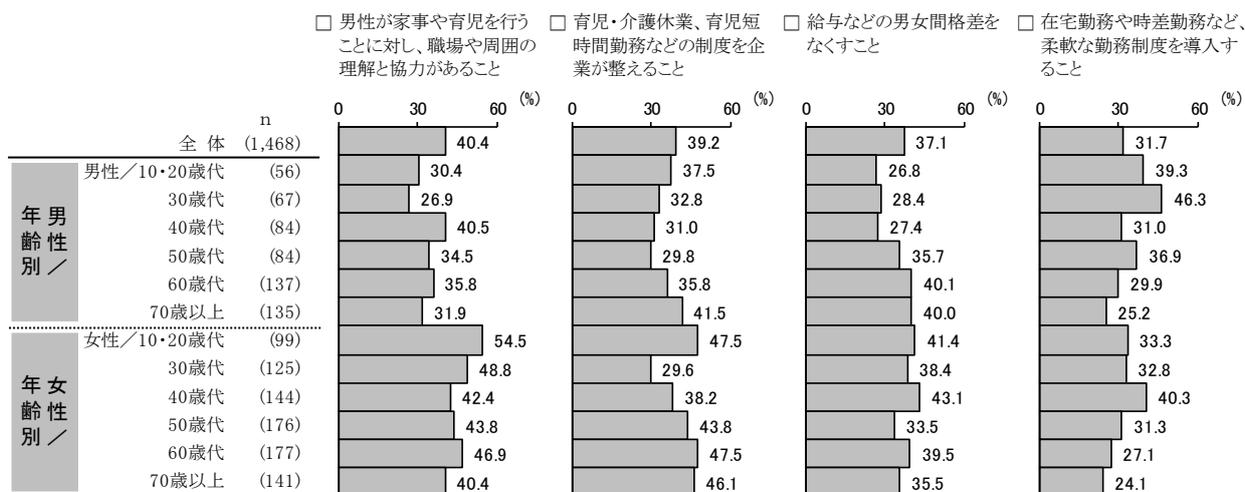
※「男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること」は令和3年度調査からの新規項目

【参考一埼玉県 令和2年度 男女共同参画に関する意識・実態調査】



【性／年齢別（上位8項目）】

性／年齢別でみると、男性では、10・20歳代、30歳代で「在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること」が最も高く、10・20歳代では「年間労働時間を短縮すること」も同値となっている。女性では、10・20歳代、30歳代で「男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること」が最も高く、10・20歳代では54.5%と5割以上となっている。60歳代、70歳以上では「育児・介護休業、育児短時間勤務などの制度を企業が整えること」が最も高く、10・20歳代でも「男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること」に次いで高くなっている。また、50歳代で「男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること」と「育児・介護休業、育児短時間勤務などの制度を企業が整えること」が同値となっている。



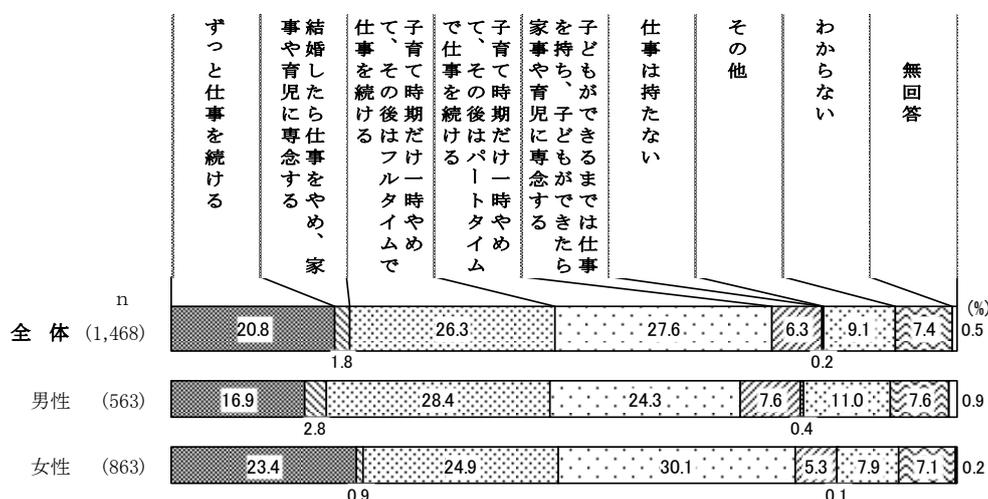
5. 就労について

(1) 女性の望ましい働き方

問12 女性の働き方は、どのようなかたちが望ましいと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

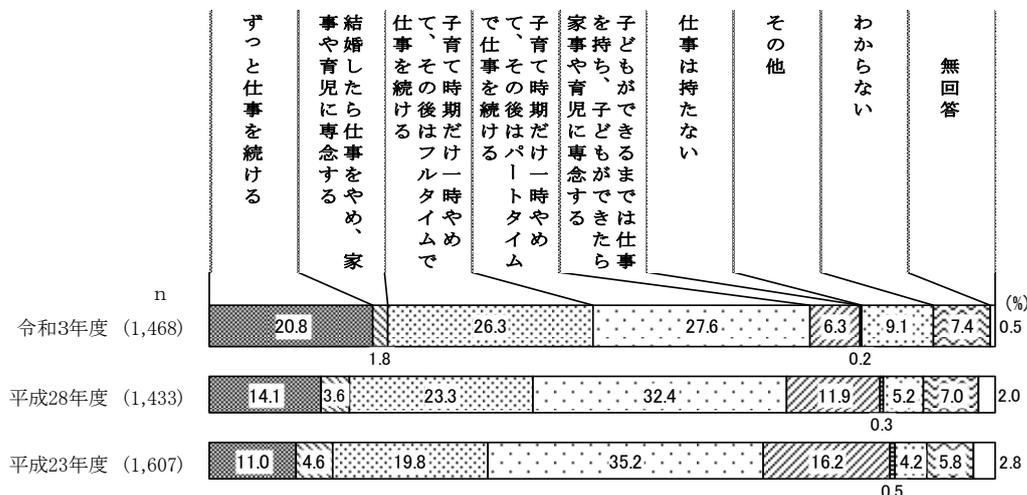
女性の望ましい働き方について、「子育て時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」が27.6%と最も高く、以下、「子育て時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」(26.3%)、「ずっと仕事を続ける」(20.8%)となっている。

性別でみると、「ずっと仕事を続ける」は女性(23.4%)が男性(16.9%)より6.5ポイント、「子育て時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」は女性(30.1%)が男性(24.3%)より5.8ポイント高くなっている。

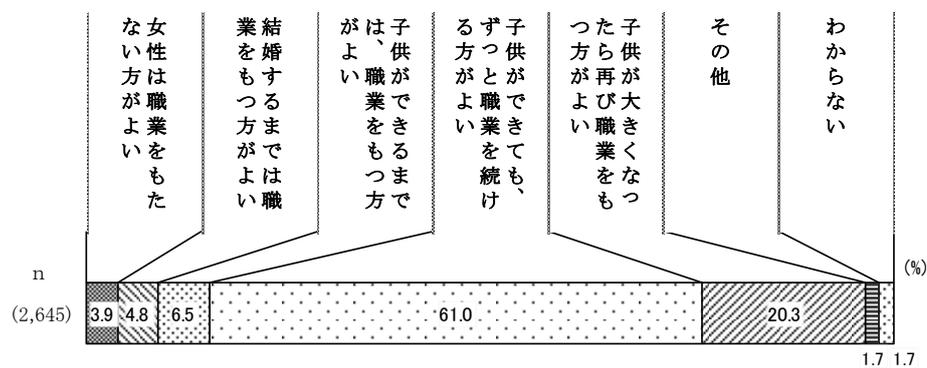


【経年比較】

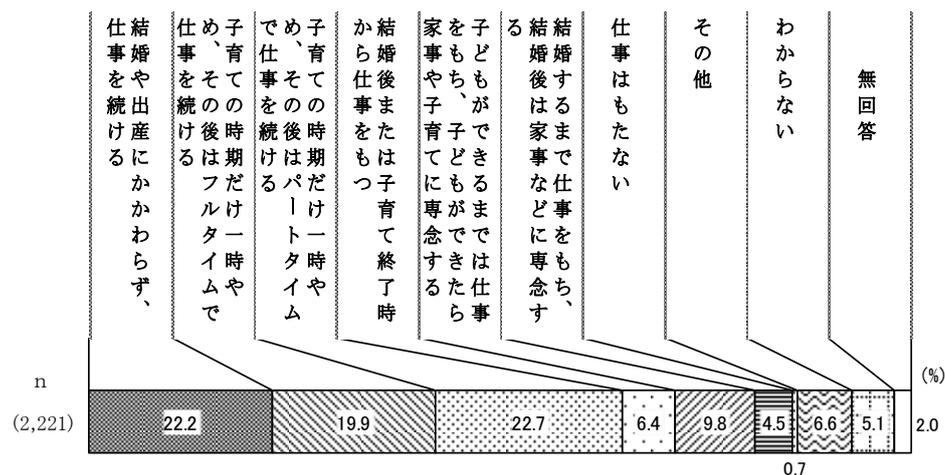
平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「ずっと仕事を続ける」が6.7ポイント増加している一方で、「子どもができるまでは仕事をもち、子どもができたらか家事や育児に専念する」が5.6ポイント減少している。



【参考一内閣府 令和元年度 男女共同参画に関する世論調査】



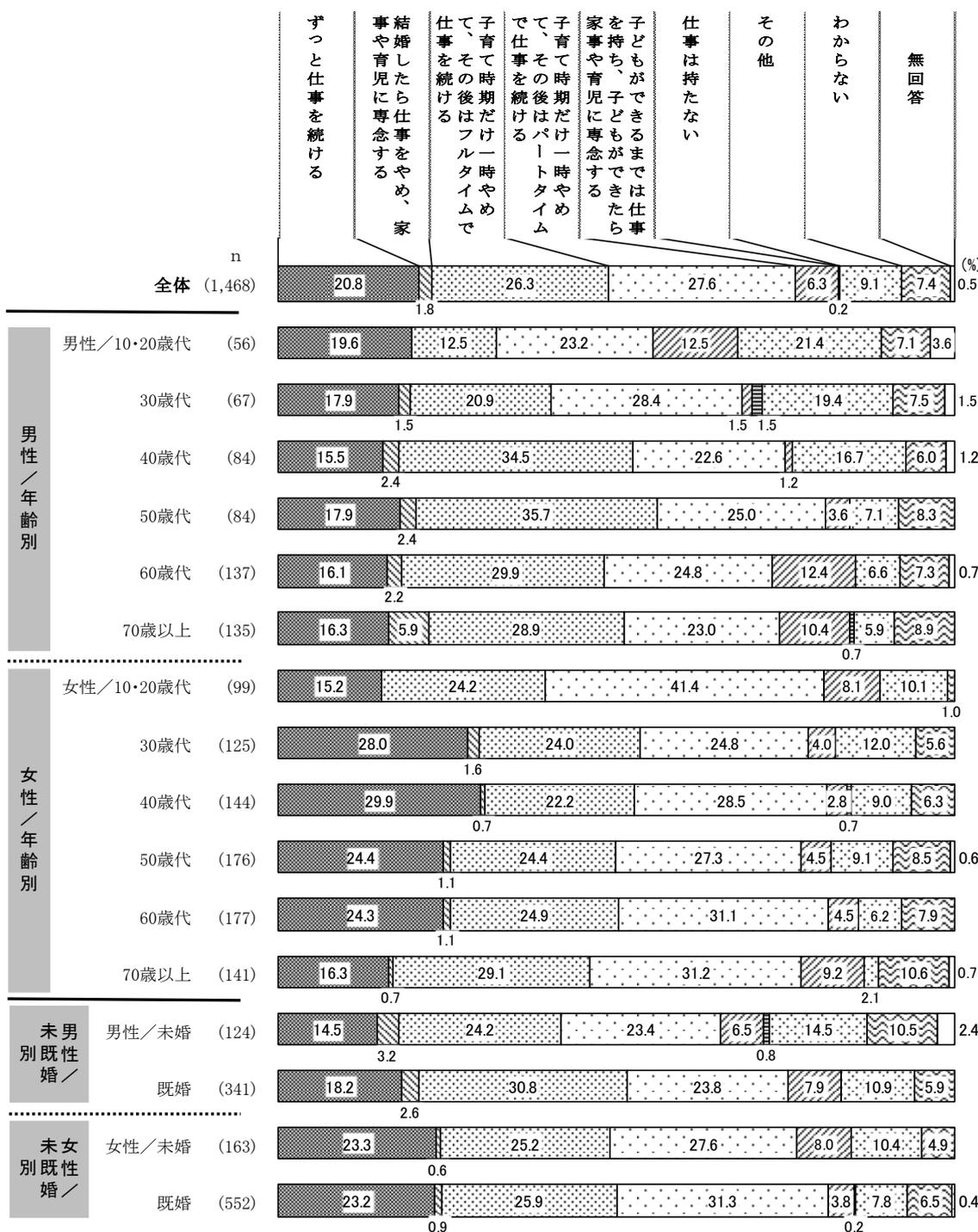
【参考一埼玉県 令和2年度 男女共同参画に関する意識・実態調査】



【性／年齢別・性／未既婚別】

性／年齢別で見ると、男性では、10・20歳代、30歳代で「子育て時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」が最も高くなっており、その他の年代でも2割以上を占めている。40歳代から70歳以上では「子育て時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」が最も高く、特に40歳代（34.5%）、50歳代（35.7%）で3割台半ばとなっている。女性では、30歳代、40歳代を除くすべての年代で「子育て時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」が最も高く、10・20歳代（41.4%）では4割以上となっている。30歳代、40歳代では「ずっと仕事を続ける」が最も高く、約3割を占めている。

性／未既婚別で見ると、男性で「子育て時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」は既婚層（30.8%）が未婚層（24.2%）より6.6ポイント高くなっている。

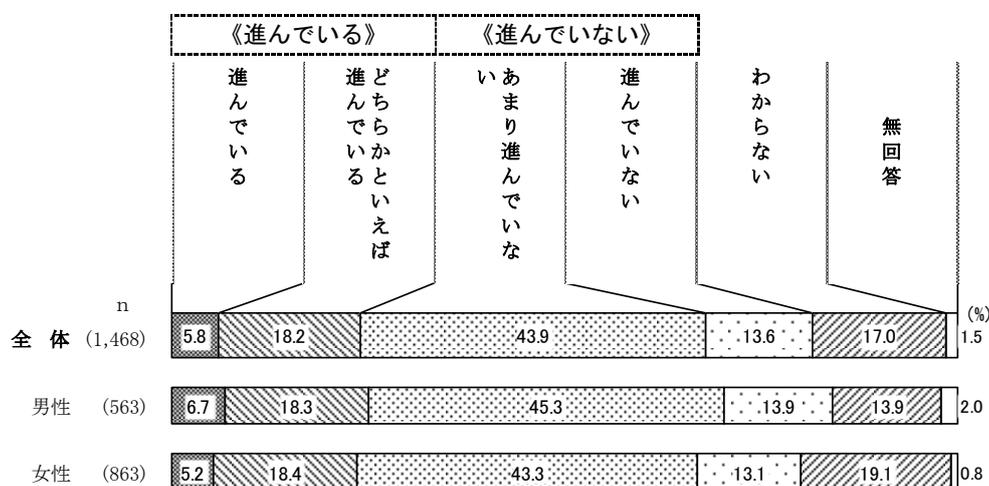


(2) 女性の管理職登用の推進度

問13 一般的に働く場において、女性の管理職への登用について、どのように感じますか。
あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

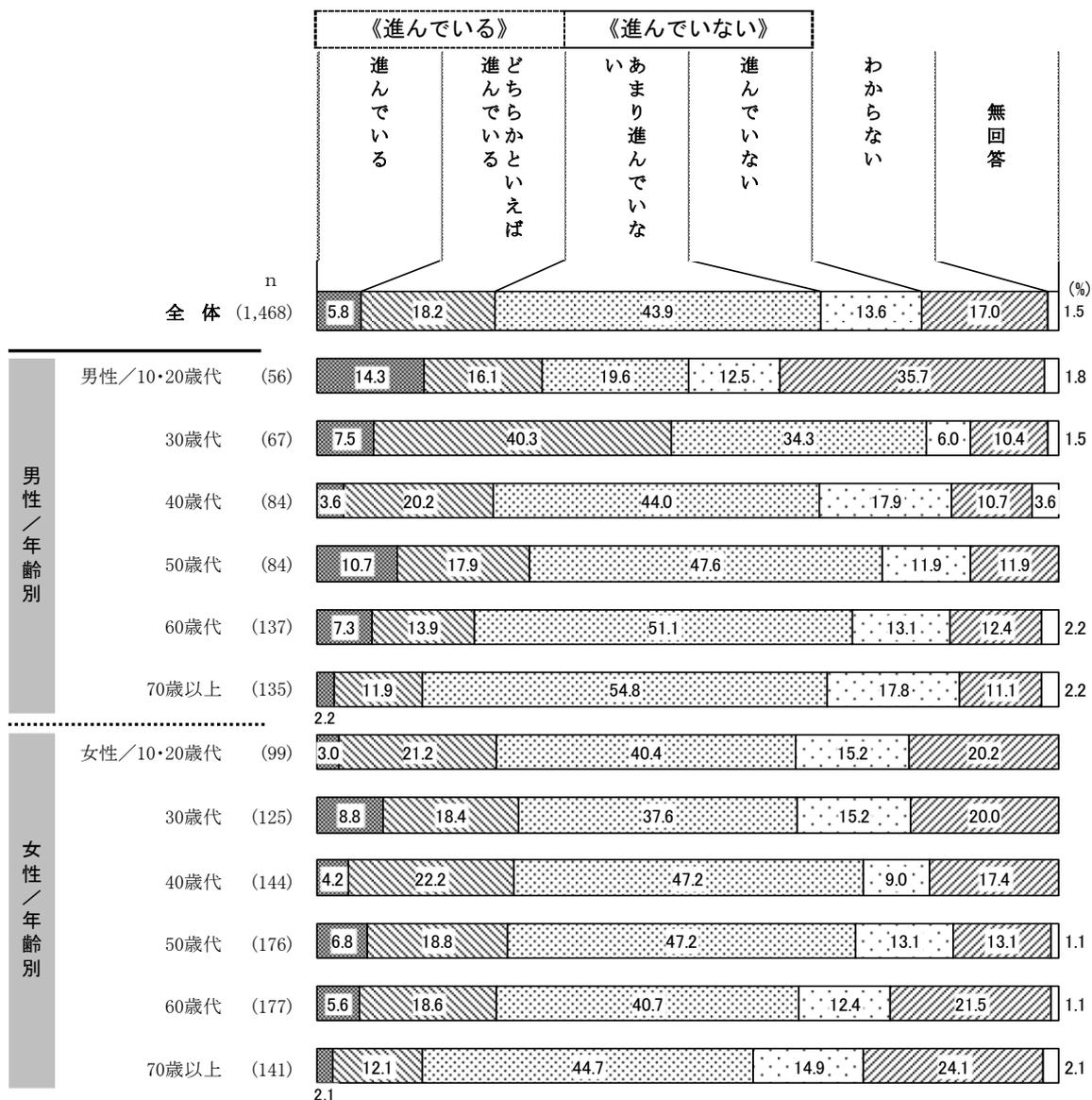
女性の管理職登用の推進度について、「あまり進んでいない」が43.9%と最も高く、以下、「どちらかといえば進んでいる」(18.2%)、「進んでいない」(13.6%)となっている。一方で、「わからない」は17.0%だった。また、「進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」を合わせた《進んでいる》は24.0%、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合わせた《進んでいない》は57.5%となっている。

性別でみると、《進んでいる》は男性で25.0%、女性で23.6%となっており、男女間で特に大きな差はみられない。



【性／年齢別】

性／年齢別でみると、男性では、10・20歳代で《進んでいる》(30.4%)、《進んでいない》(32.1%)、「わからない」(35.7%)がそれぞれ3割台と同程度になっている。また、30歳代を除くすべての年代で《進んでいない》が《進んでいる》より高くなっている。女性では、すべての年代で《進んでいない》が《進んでいる》より高くなっており、50歳代で《進んでいない》(60.3%)は6割以上となっている。

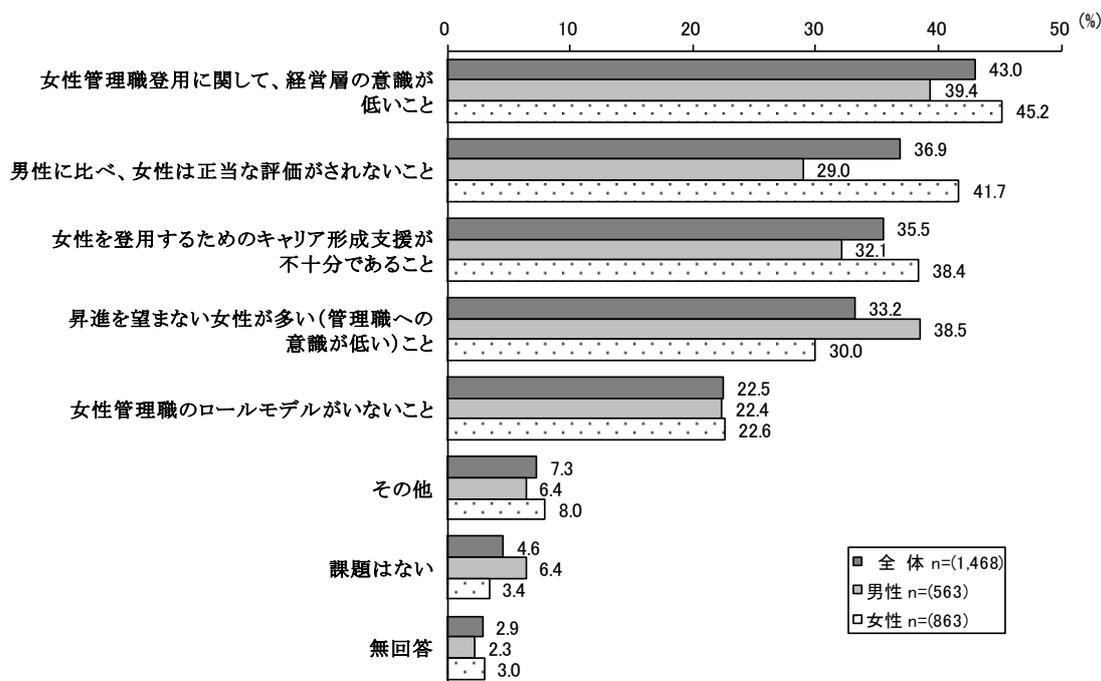


(3) 女性の管理職登用における課題

問14 一般的に働く場において、女性の管理職への登用に関して、どのような課題があると思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

女性の管理職登用における課題について、「女性管理職登用に関して、経営層の意識が低いこと」が43.0%と最も高く、以下、「男性に比べ、女性は正当な評価がされないこと」(36.9%)、「女性を登用するためのキャリア形成支援が不十分であること」(35.5%)、「昇進を望まない女性が多い(管理職への意識が低い)こと」(33.2%)となっている。

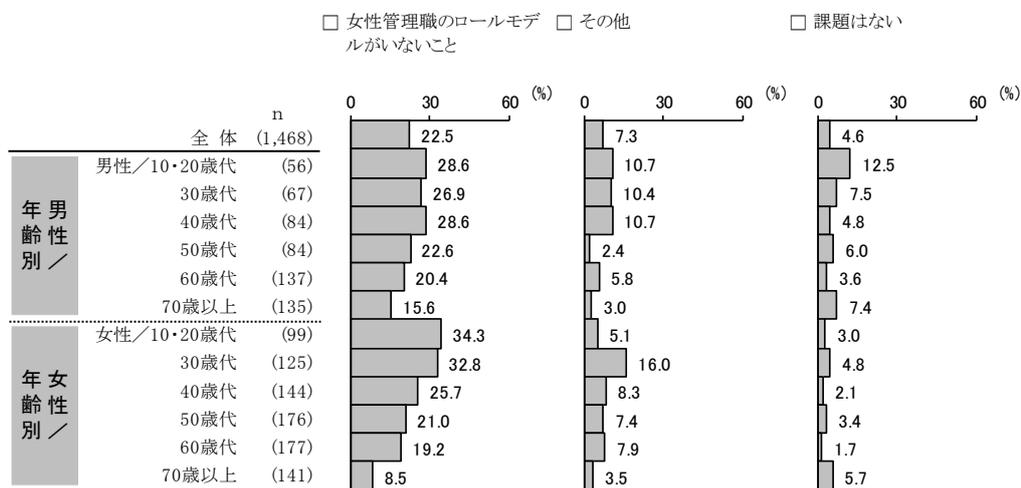
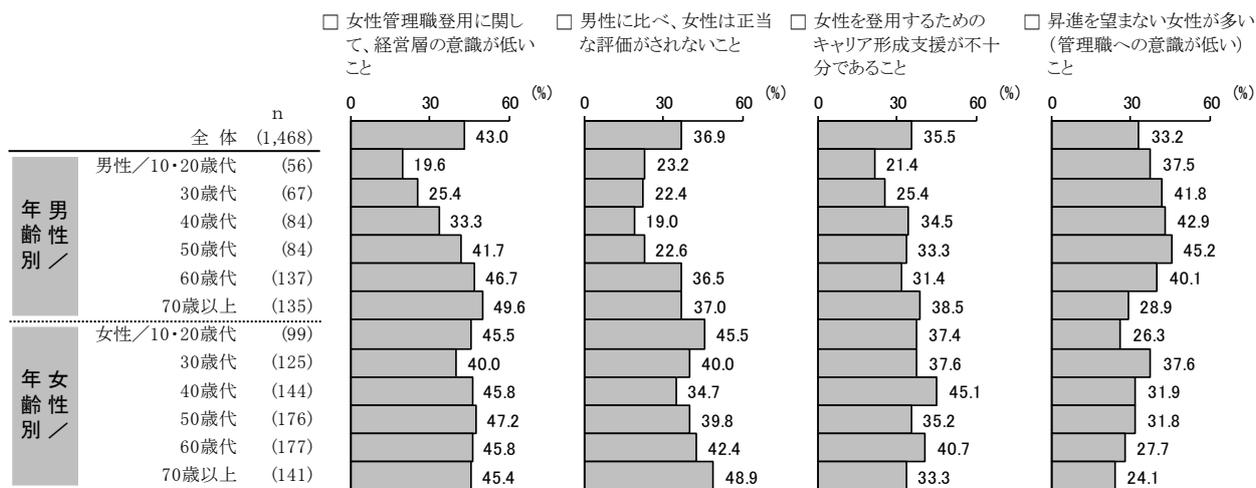
性別でみると、「昇進を望まない女性が多い(管理職への意識が低い)こと」は男性(38.5%)が女性(30.0%)より8.5ポイント高くなっている。一方で、「男性に比べ、女性は正当な評価がされないこと」は女性(41.7%)が男性(29.0%)より12.7ポイント、「女性を登用するためのキャリア形成支援が不十分であること」は女性(38.4%)が男性(32.1%)より6.3ポイント、「女性管理職登用に関して、経営層の意識が低いこと」は女性(45.2%)が男性(39.4%)より5.8ポイント高くなっている。



第2章 調査結果の詳細

【性／年齢別】

性／年齢別でみると、男性では、10・20歳代から50歳代で「昇進を望まない女性が多い（管理職への意識が低い）こと」が最も高く、60歳代、70歳以上で「女性管理職登用に関して、経営層の意識が低いこと」が最も高くなっている。「女性管理職登用に関して、経営層の意識が低いこと」は年代が上がるほど高くなる傾向があり、70歳以上で49.6%となっている。女性では、70歳以上を除くすべての年代で「女性管理職登用に関して、経営層の意識が低いこと」が最も高く、すべての年代で4割以上となっており、10・20歳代、30歳代では「男性に比べ、女性は正当な評価がされないこと」と同値となっている。70歳以上では「男性に比べ、女性は正当な評価がされないこと」が最も高く、50歳代、60歳代でも「女性管理職登用に関して、経営層の意識が低いこと」に次いで高くなっている。



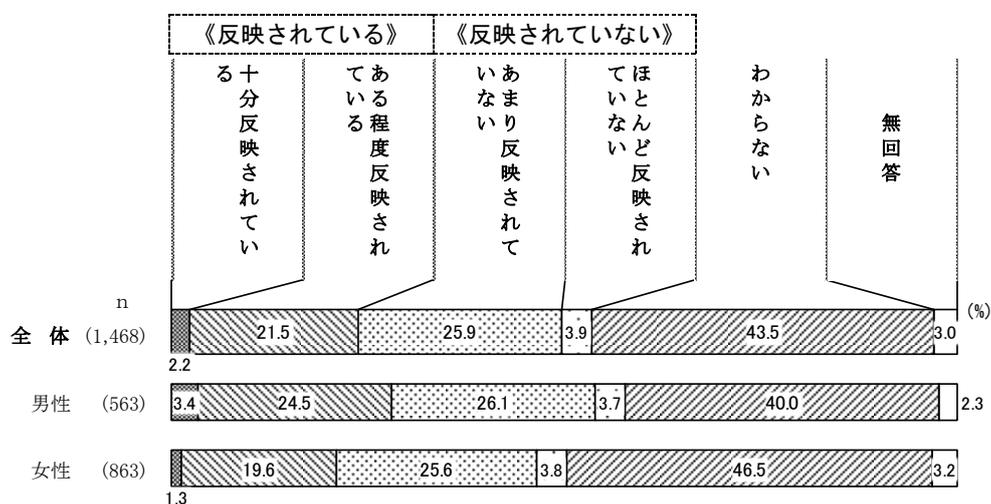
6. 社会活動への参加について

(1) 施策において女性の意見の反映度

問15 あなたは、地方自治体（県や市町村）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

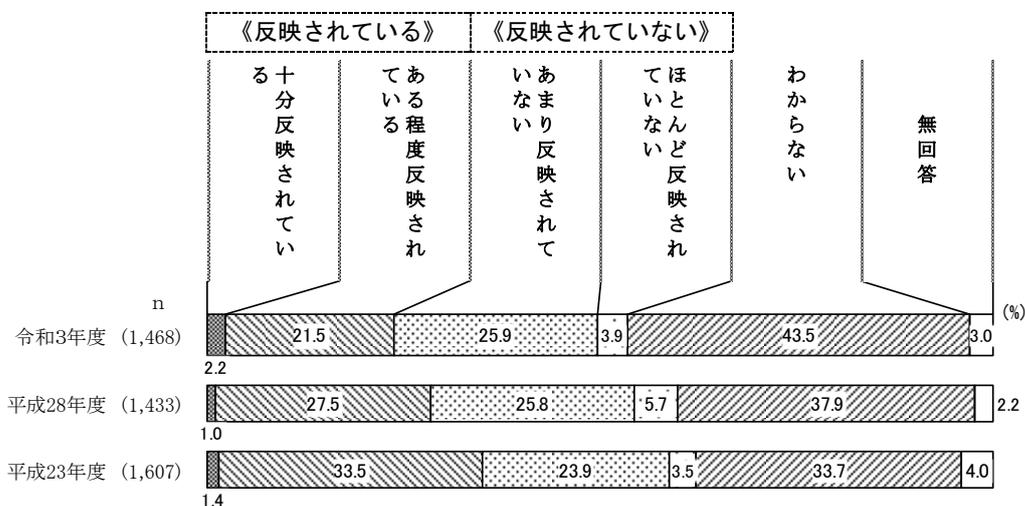
施策において女性の意見の反映度について、「あまり反映されていない」が25.9%と最も高く、以下、「ある程度反映されている」(21.5%)となっている。また、「十分反映されている」と「ある程度反映されている」を合わせた《反映されている》は23.7%、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた《反映されていない》は29.8%となっている。一方で、「わからない」が43.5%を占めている。

性別でみると、《反映されている》は男性（27.9%）が女性（20.9%）より7.0ポイント高くなっている。また、《反映されていない》は男性で29.8%、女性で29.4%と同程度となっている。



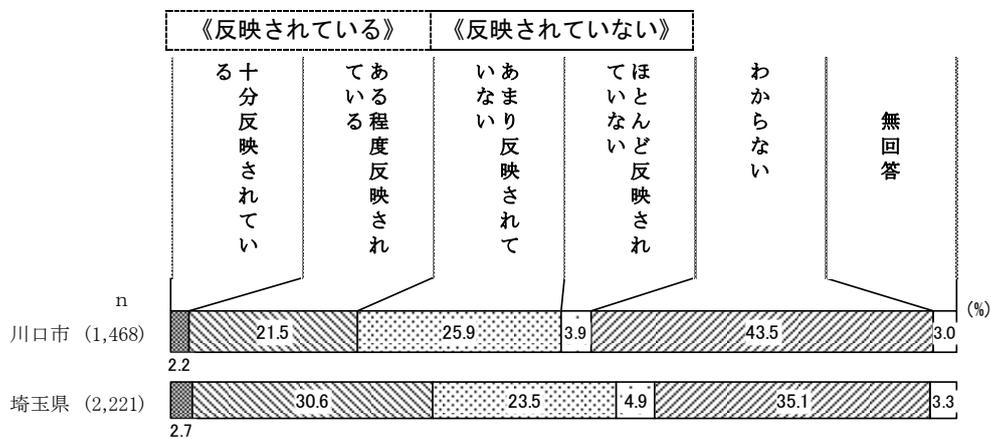
【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「ある程度反映されている」は6.0ポイント減少している。



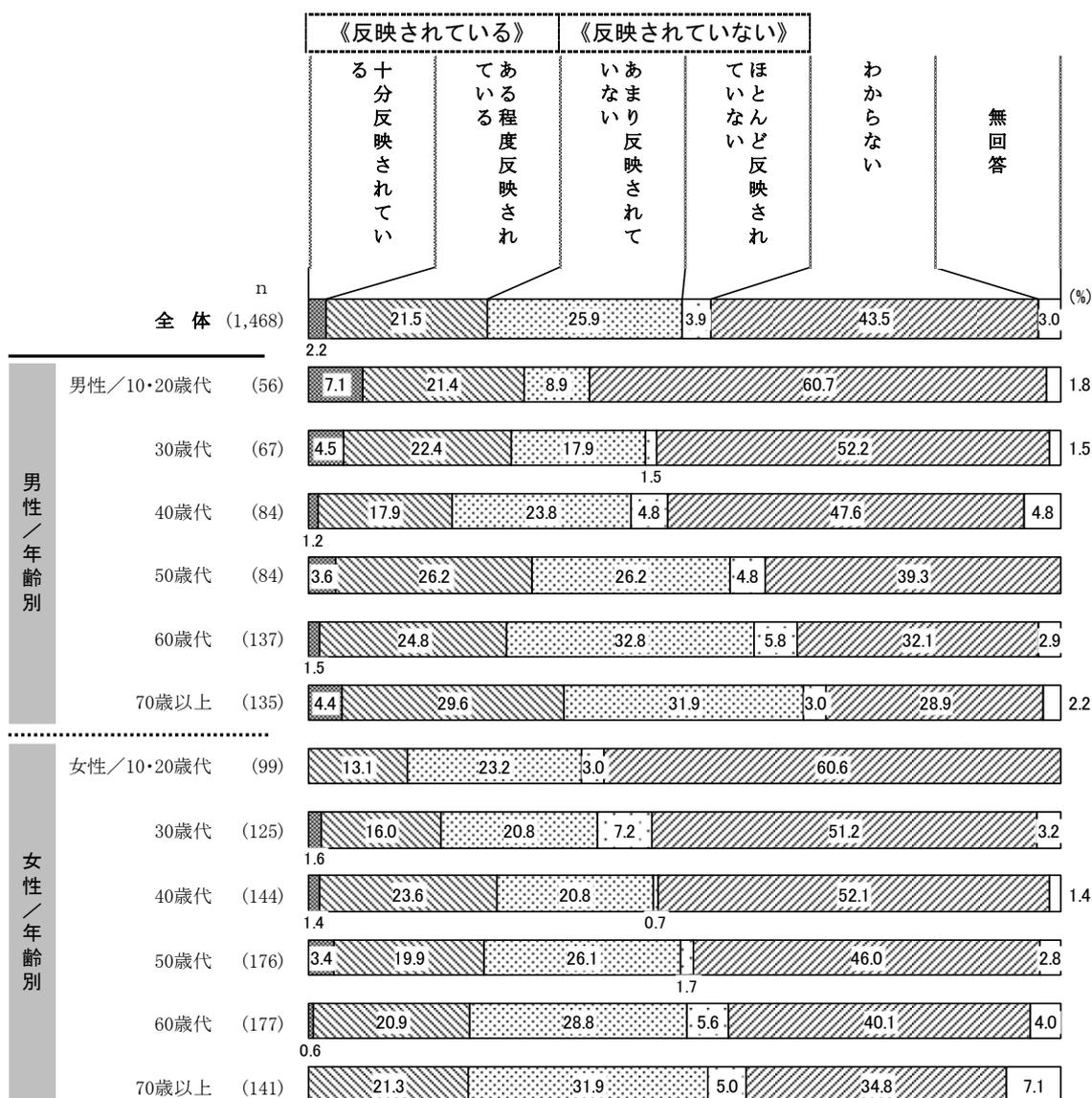
【県との比較—埼玉県 令和2年度 男女共同参画に関する意識・実態調査】

令和2年度に実施された埼玉県の調査結果と比べると、《反映されている》は埼玉県の調査結果(33.3%)が川口市の調査結果(23.7%)より9.6ポイント高くなっている。



【性／年齢別】

性／年齢別でみると、男性では、10・20歳代、30歳代で《反映されている》が《反映されていない》を上回っているが、「わからない」が過半数を占めている。40歳代から70歳以上は《反映されていない》が《反映されている》を上回っており、60歳代（38.6%）で約4割となっている。女性では、40歳代を除くすべての年代で《反映されていない》が《反映されている》を上回っており、70歳以上（36.9%）で約4割となっている。一方で、10・20歳代から40歳代で「わからない」が過半数を占めている。

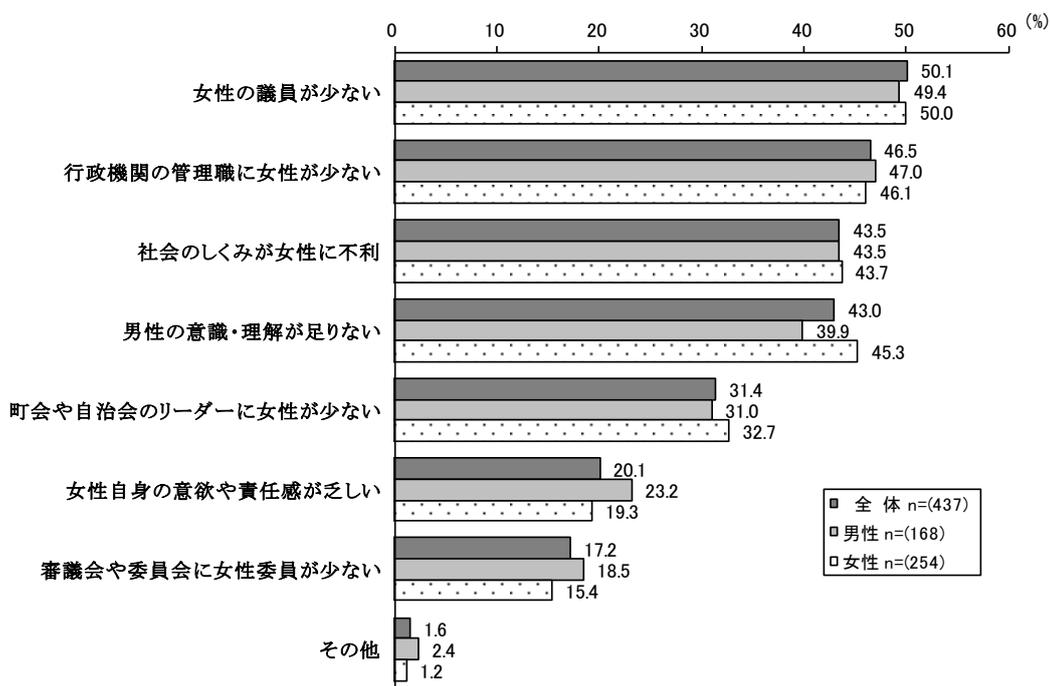


(2) 女性の意見が反映されていない理由について

(問15で「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」と答えた方に)
 問15-1 その理由は何ですか。あてはまるものを3つまでお選びください。

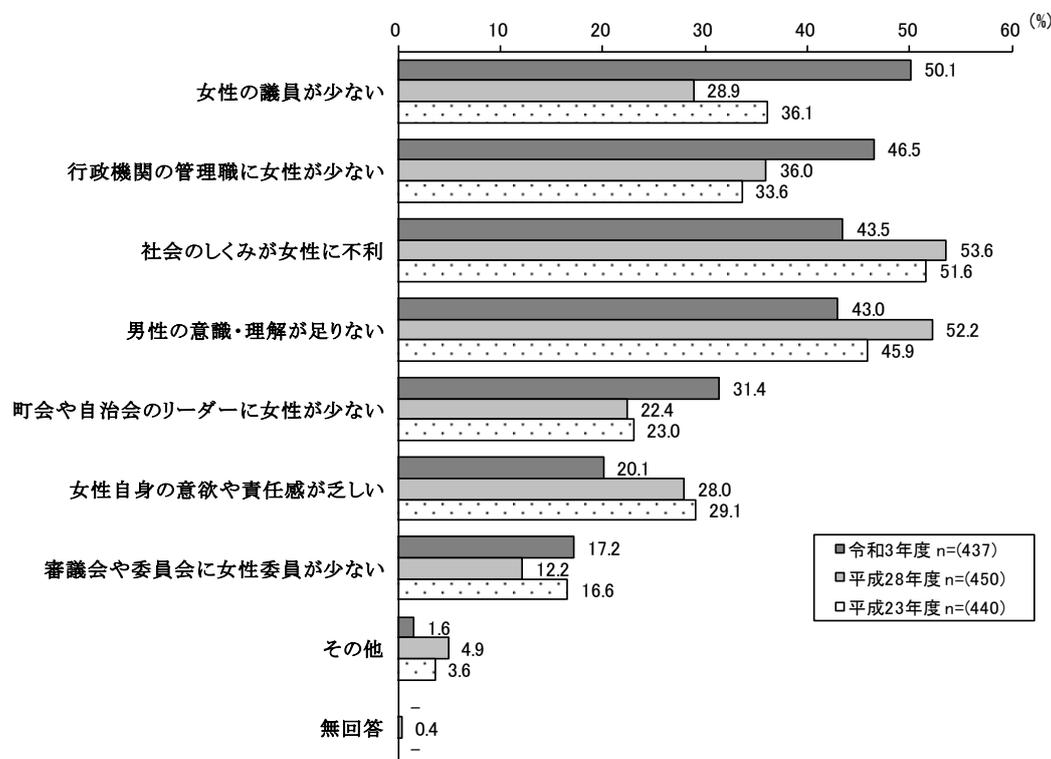
女性の意見が反映されていない理由について、「女性の議員が少ない」が50.1%と最も高く、以下、「行政機関の管理職に女性が少ない」(46.5%)、「社会のしくみが女性に不利」(43.5%)、「男性の意識・理解が足りない」(43.0%)となっている。

性別でみると、「男性の意識・理解が足りない」は女性(45.3%)が男性(39.9%)より5.4ポイント高くなっている。



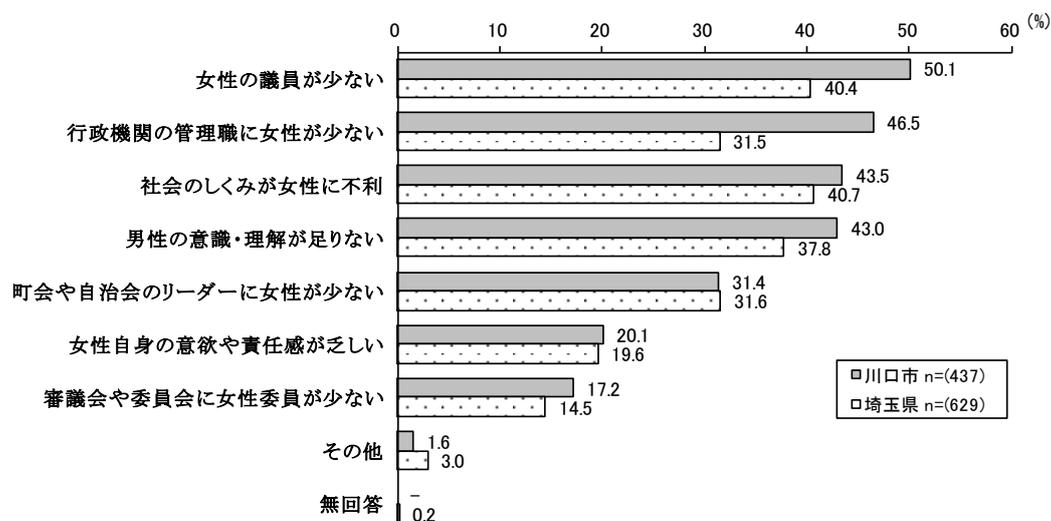
【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「女性の議員が少ない」が21.2ポイント、「行政機関の管理職に女性が少ない」が10.5ポイント、「町会や自治会のリーダーに女性が少ない」が9.0ポイント増加している。一方で、「社会のしくみが女性に不利」が10.1ポイント、「男性の意識・理解が足りない」が9.2ポイント、「女性自身の意欲や責任感が乏しい」が7.9ポイント減少している。



【県との比較—埼玉県 令和2年度 男女共同参画に関する意識・実態調査】

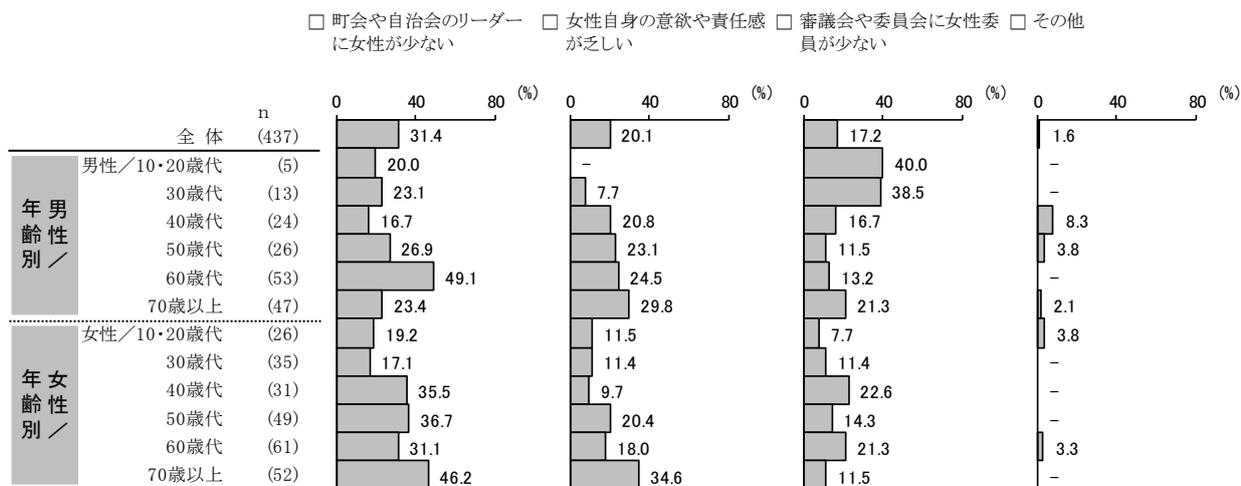
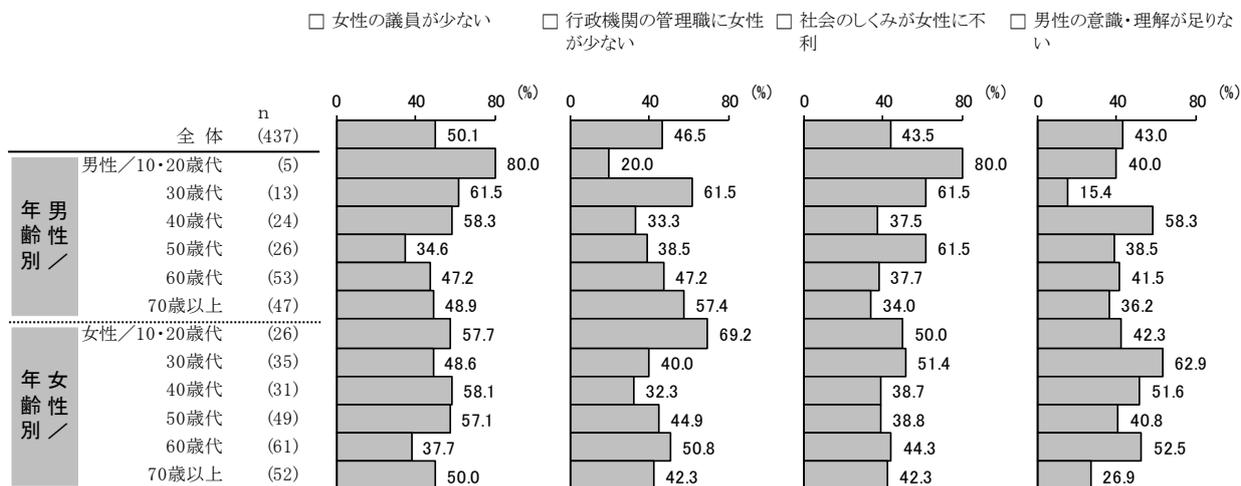
令和2年度に実施された埼玉県の調査結果と比べると、「行政機関の管理職に女性が少ない」は15.0ポイント、「女性の議員が少ない」は9.7ポイント、川口市の調査結果が埼玉県の調査結果より高くなっている。



※「町会や自治会のリーダーに女性が少ない」は、埼玉県で「自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない」

【性／年齢別】

性／年齢別は一部回答者数が少ないため参考にとみると、男性では、60歳代で「町会や自治会のリーダーに女性が少ない」が49.1%、70歳以上では「行政機関の管理職に女性が少ない」が57.4%と最も高くなっている。女性では、40歳代、50歳代、70歳以上で「女性の議員が少ない」が最も高く、5割以上となっている。30歳代、60歳代では「男性の意識・理解が足りない」が最も高くなっている。

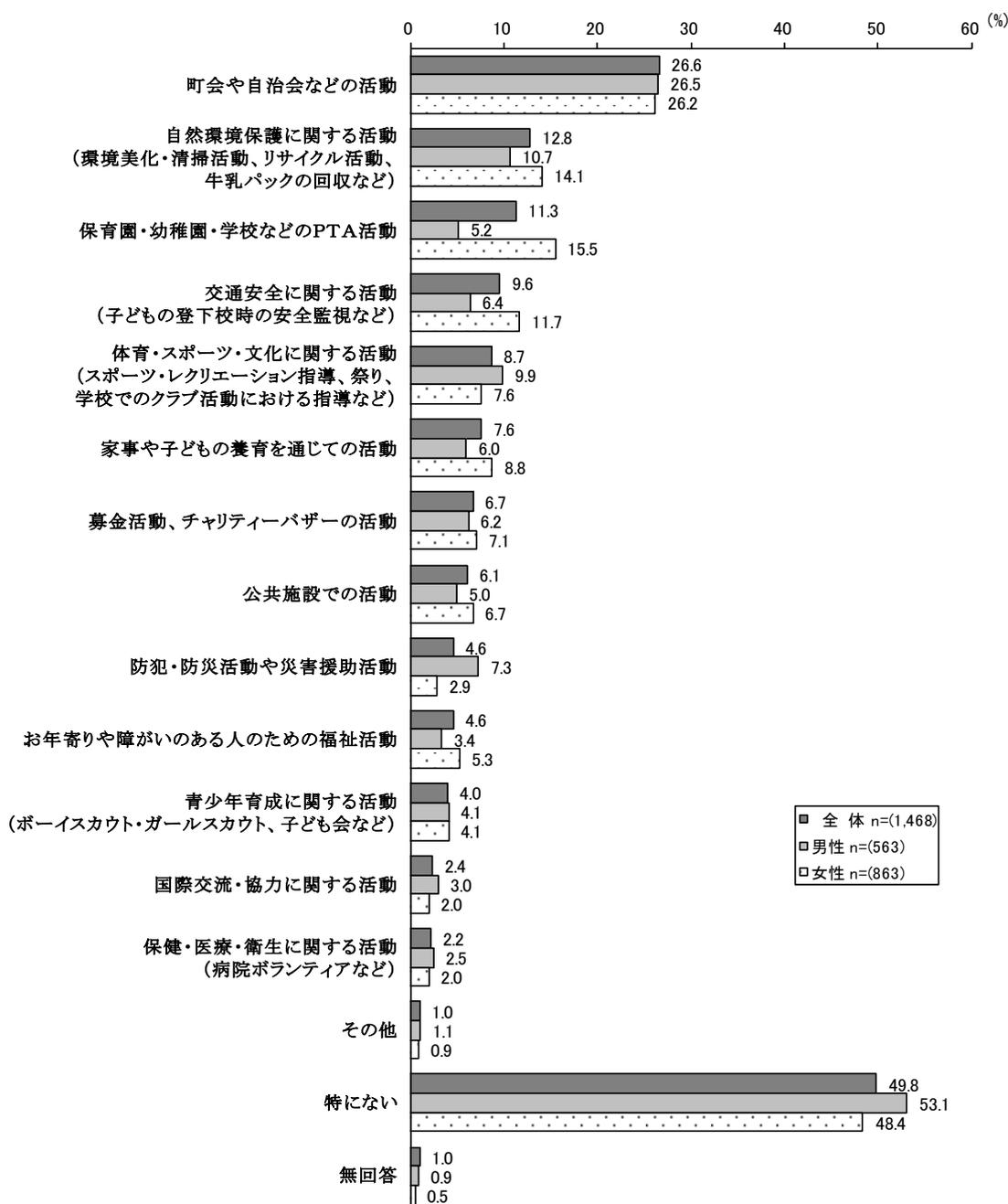


(3) 社会活動への参加経験について

問16 あなたは、以下に挙げる活動の中で、過去2年の間に行ったことがある活動はありますか。あてはまるものをすべてお選びください。

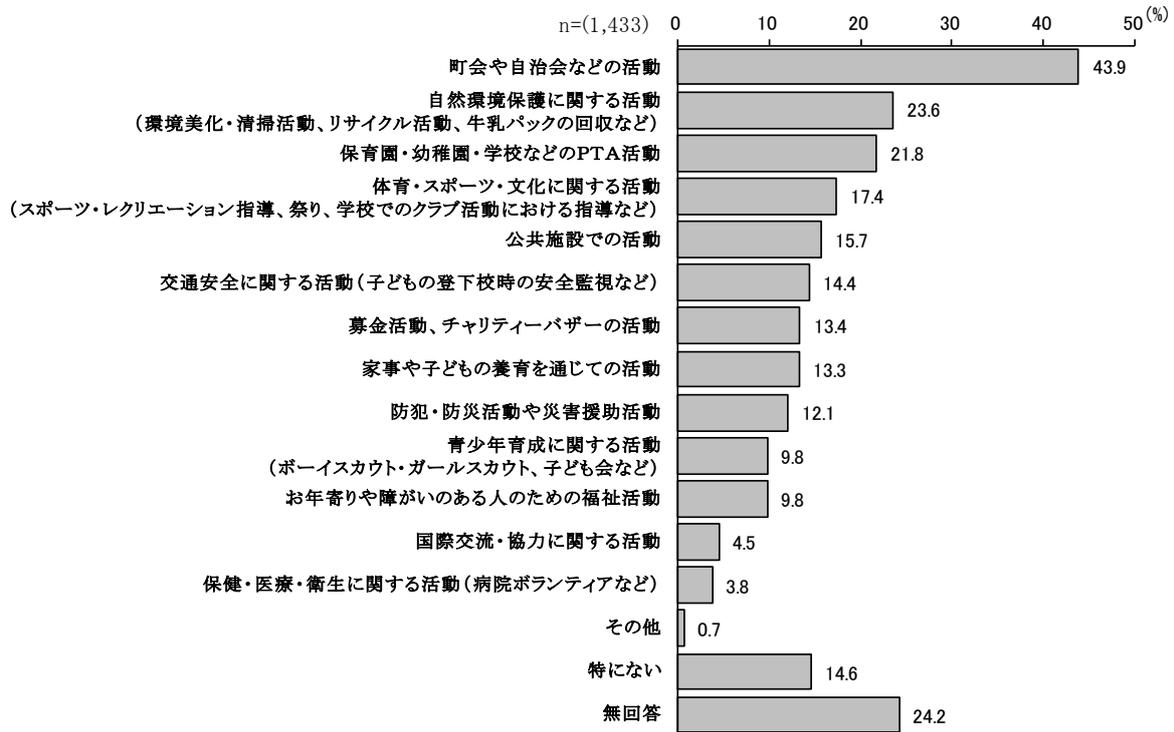
社会活動への参加経験について、「町会や自治会などの活動」が26.6%と最も高く、以下、「自然環境保護に関する活動」(12.8%)、「保育園・幼稚園・学校などのPTA活動」(11.3%)、「交通安全に関する活動」(9.6%)となっている。一方で、「特にない」が49.8%を占めている。

性別でみると、「保育園・幼稚園・学校などのPTA活動」は女性(15.5%)が男性(5.2%)より10.3ポイント、「交通安全に関する活動」は女性(11.7%)が男性(6.4%)より5.3ポイント高くなっている。



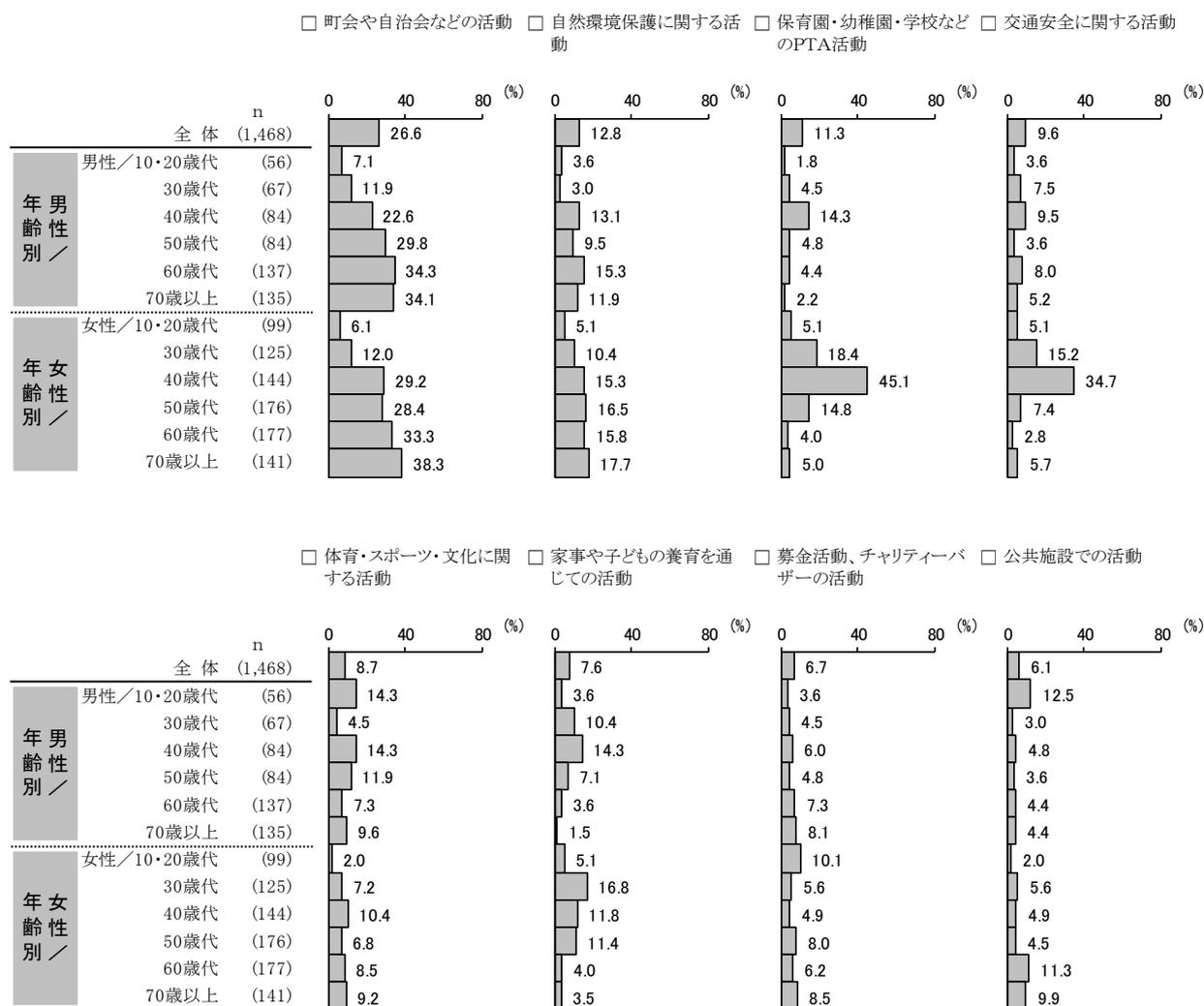
【参考—川口市 平成28年度 男女共同参画に関する市民意識調査】

◆社会活動への参加経験について—過去2年の間に行ったことがある活動



【性／年齢別（上位8項目）】

性／年齢別で見ると、男性では、30歳代から70歳以上で「町会や自治会などの活動」が最も高く、特に60歳代（34.3%）、70歳以上（34.1%）で3割以上となっている。10・20歳代で「体育・スポーツ・文化に関する活動」が14.3%と最も高くなっている。一方で、「特にない」は10・20歳代（66.1%）、30歳代（65.7%）で約7割を占めており、50歳代（56.0%）、70歳以上（51.1%）でも5割台となっている。女性では、10・20歳代で「募金活動、チャリティーバザーの活動」、30歳代、40歳代で「保育園・幼稚園・学校などのPTA活動」、50歳代から70歳以上で「町会や自治会などの活動」が最も高くなっている。一方で、「特にない」は10・20歳代（65.7%）、30歳代（56.0%）で過半数を占めている。

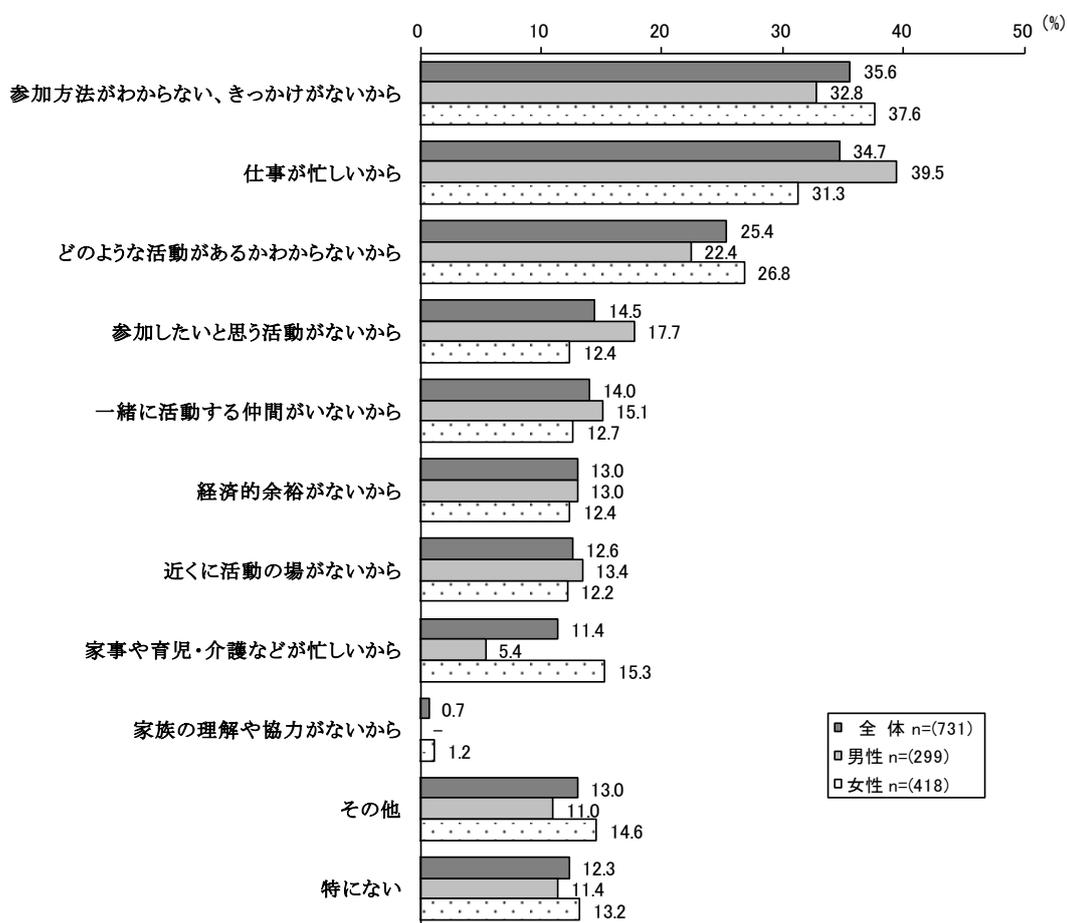


(4) 社会活動に参加しなかった理由

(問16で「特にない」と答えた方に)
 問16-1 あなたが活動しなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべてお選びください。

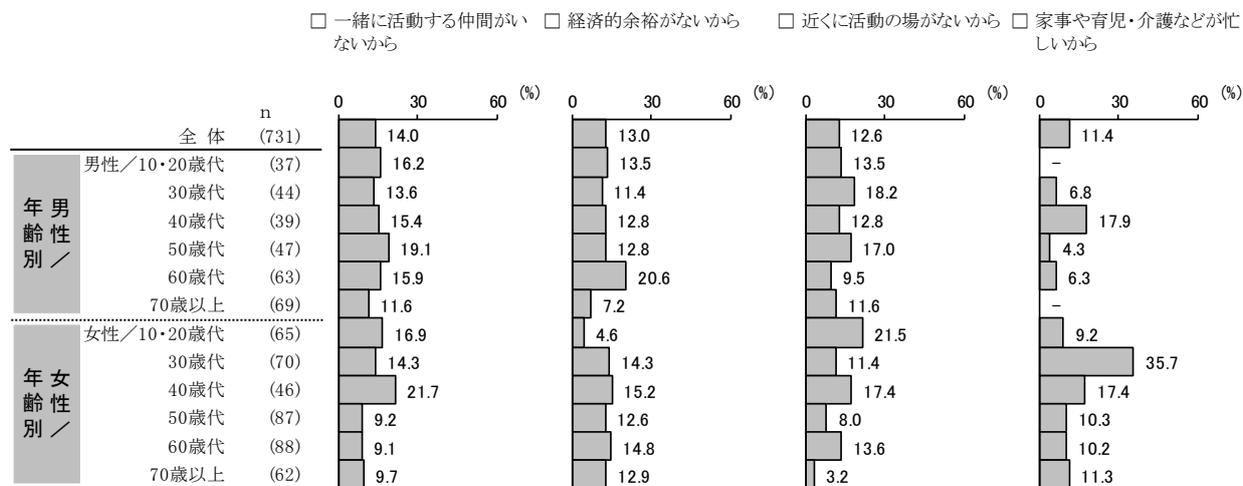
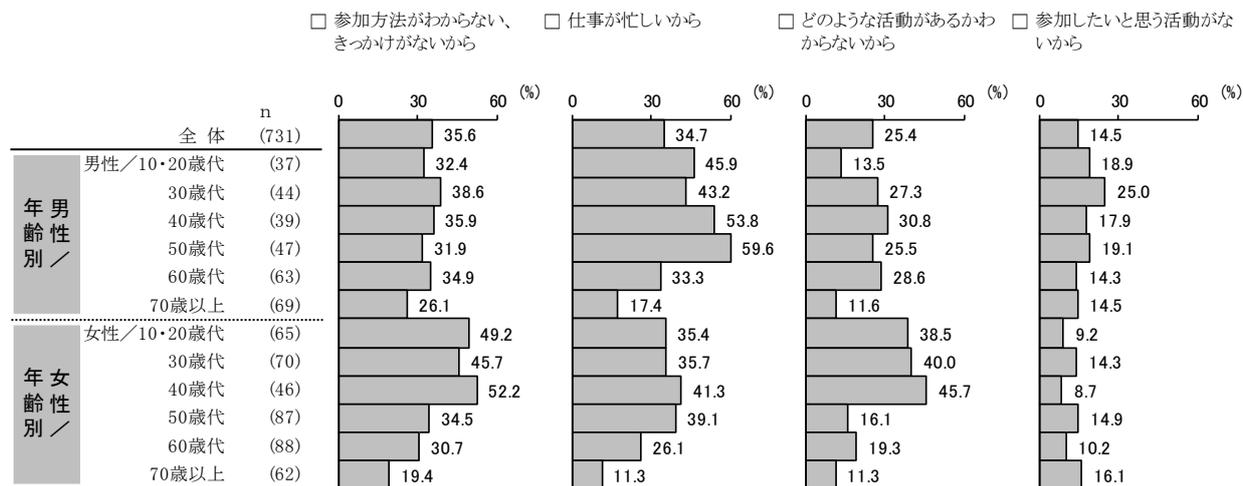
社会活動に参加しなかった理由について、「参加方法がわからない、きっかけがないから」が35.6%と最も高く、以下、「仕事が忙しいから」(34.7%)、「どのような活動があるかわからないから」(25.4%)となっている。

性別でみると、「仕事が忙しいから」は男性(39.5%)が女性(31.3%)より8.2ポイント、「参加したいと思う活動がないから」は男性(17.7%)が女性(12.4%)より5.3ポイント高くなっている。一方で、「家事や育児・介護などが忙しいから」は女性(15.3%)が男性(5.4%)より9.9ポイント高くなっている。



【性／年齢別（上位8項目）】

性／年齢別で見ると、男性では、10・20歳代から50歳代で「仕事が忙しいから」が最も高く、特に40歳代(53.8%)、50歳代(59.6%)で5割以上となっている。60歳代、70歳以上では「参加方法がわからない、きっかけがないから」が最も高く、10・20歳代から50歳代でも3割以上となっている。女性では、50歳代を除くすべての年代で「参加方法がわからない、きっかけがないから」が最も高く、40歳代(52.2%)で5割以上となっている。50歳代では「仕事が忙しいから」が最も高くなっている。

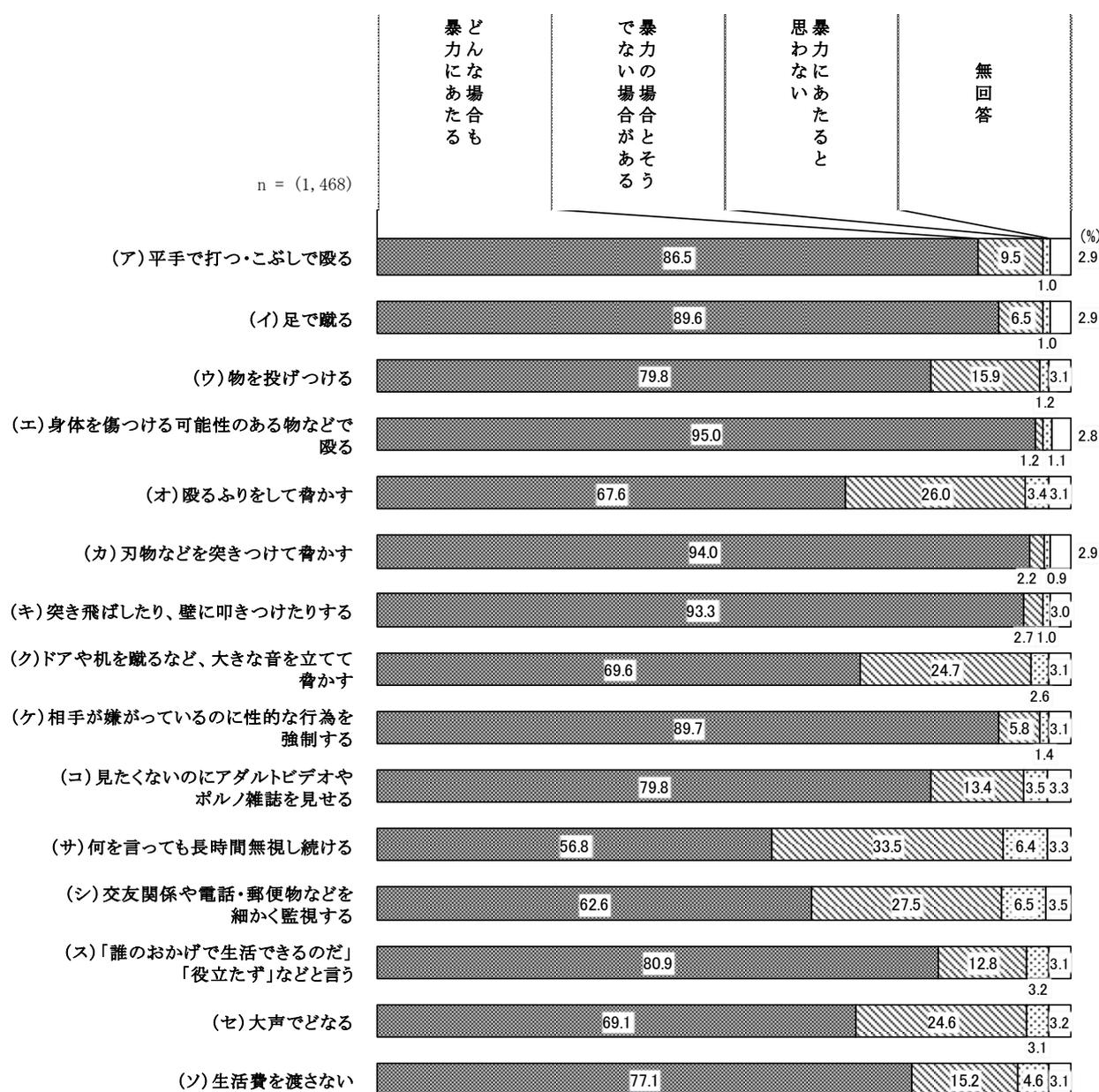


7. 男女間の暴力について

(1) 暴力についての認知度

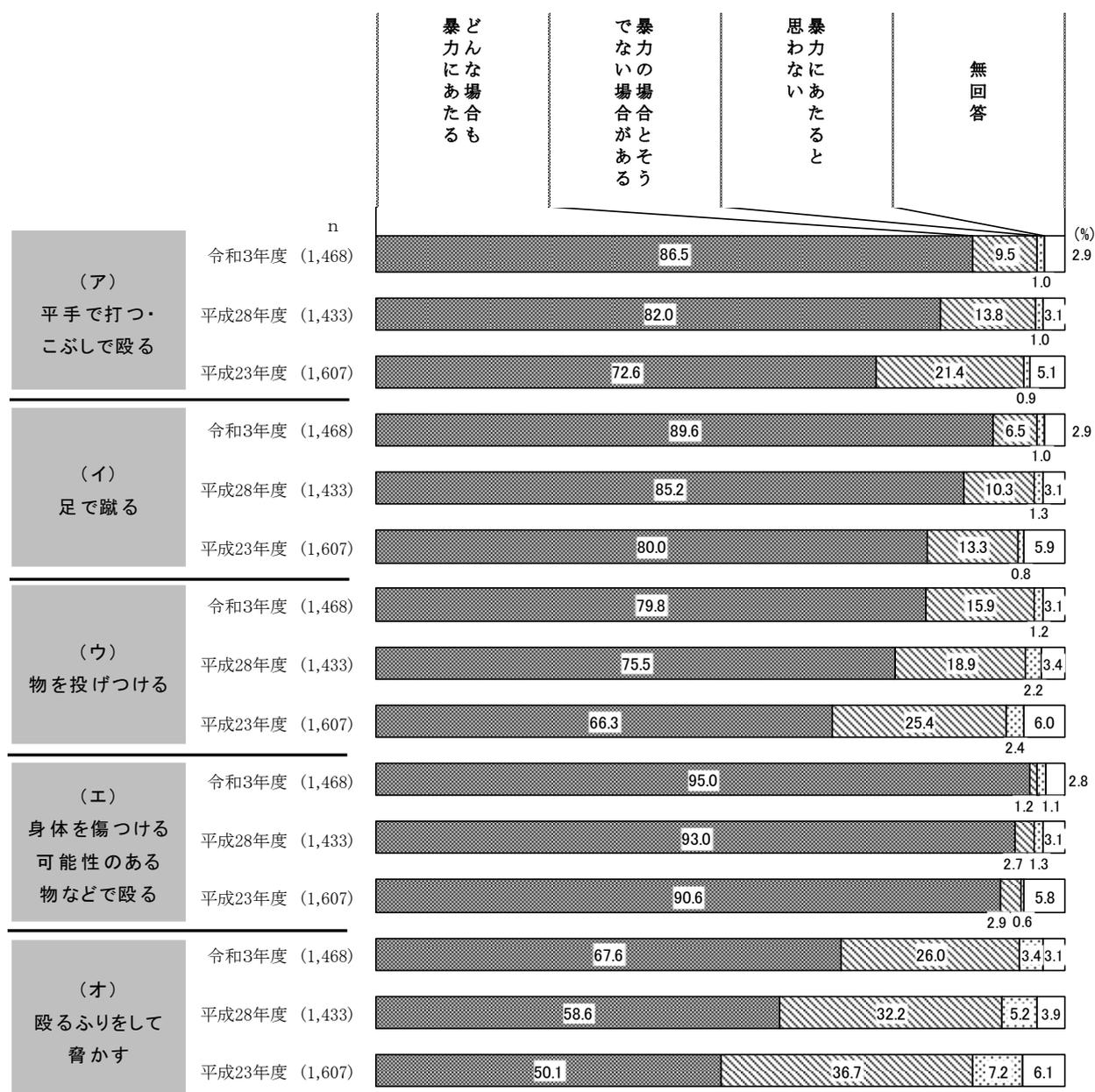
問17 あなたは、次のようなことが配偶者（事実婚や別居、離別を含む）やパートナー、恋人間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

15の行為が暴力にあたるかどうかについて、「どんな場合も暴力にあたる」は、【身体を傷つける可能性のある物などで殴る】で95.0%と最も高く、以下、【刃物などを突きつけて脅かす】（94.0%）、【突き飛ばしたり、壁に叩きつけたりする】（93.3%）、【相手が嫌がっているのに性的な行為を強制する】（89.7%）、【足で蹴る】（89.6%）となっている。

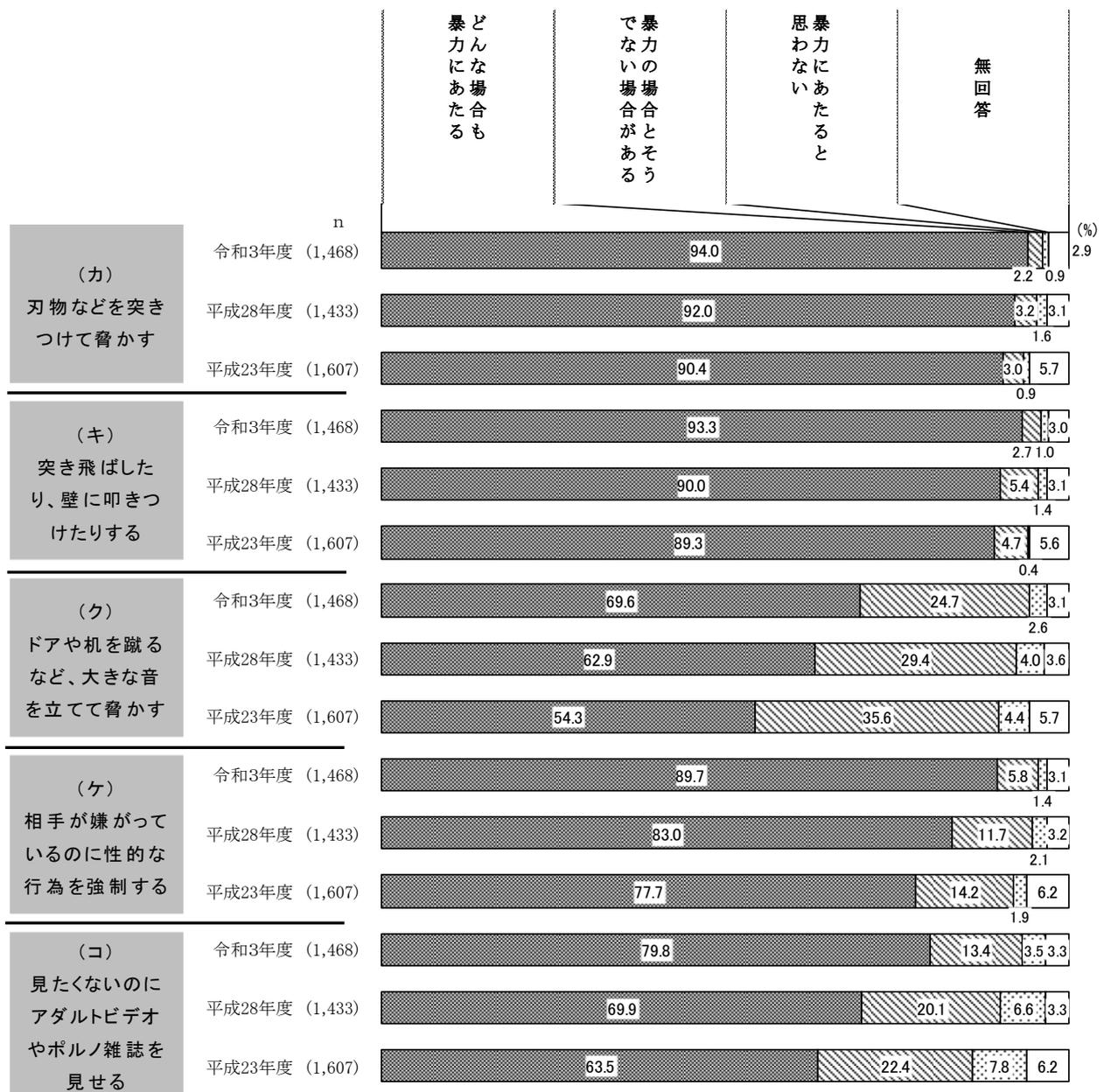


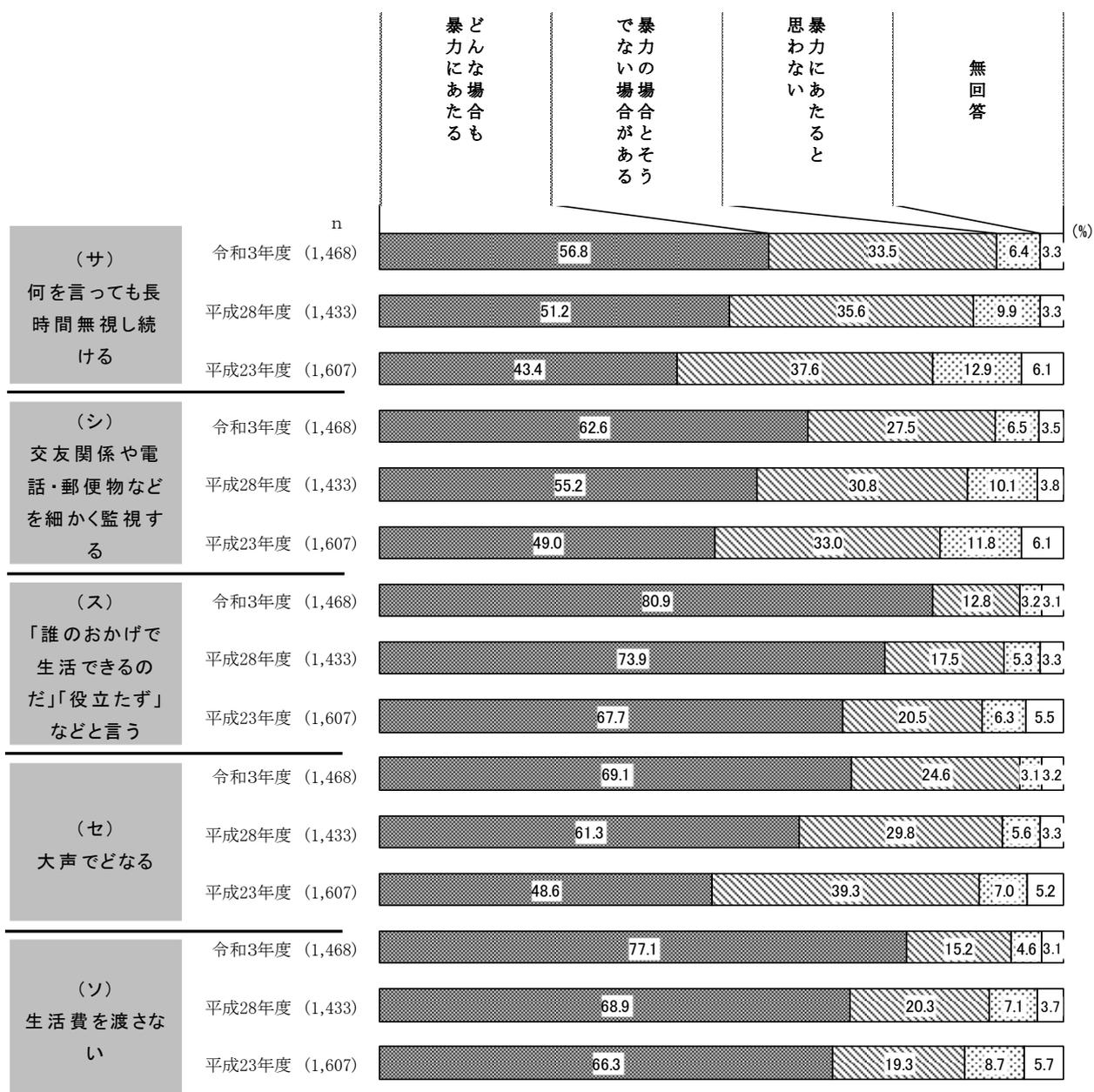
【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「どんな場合も暴力にあたる」はすべての項目で増加しており、特に【見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる】で9.9ポイント、【殴るふりをして脅かす】で9.0ポイント、【生活費を渡さない】で8.2ポイント、【大声でどなる】で7.8ポイント、【交友関係や電話・郵便物などを細かく監視する】で7.4ポイントと大きく増加している。

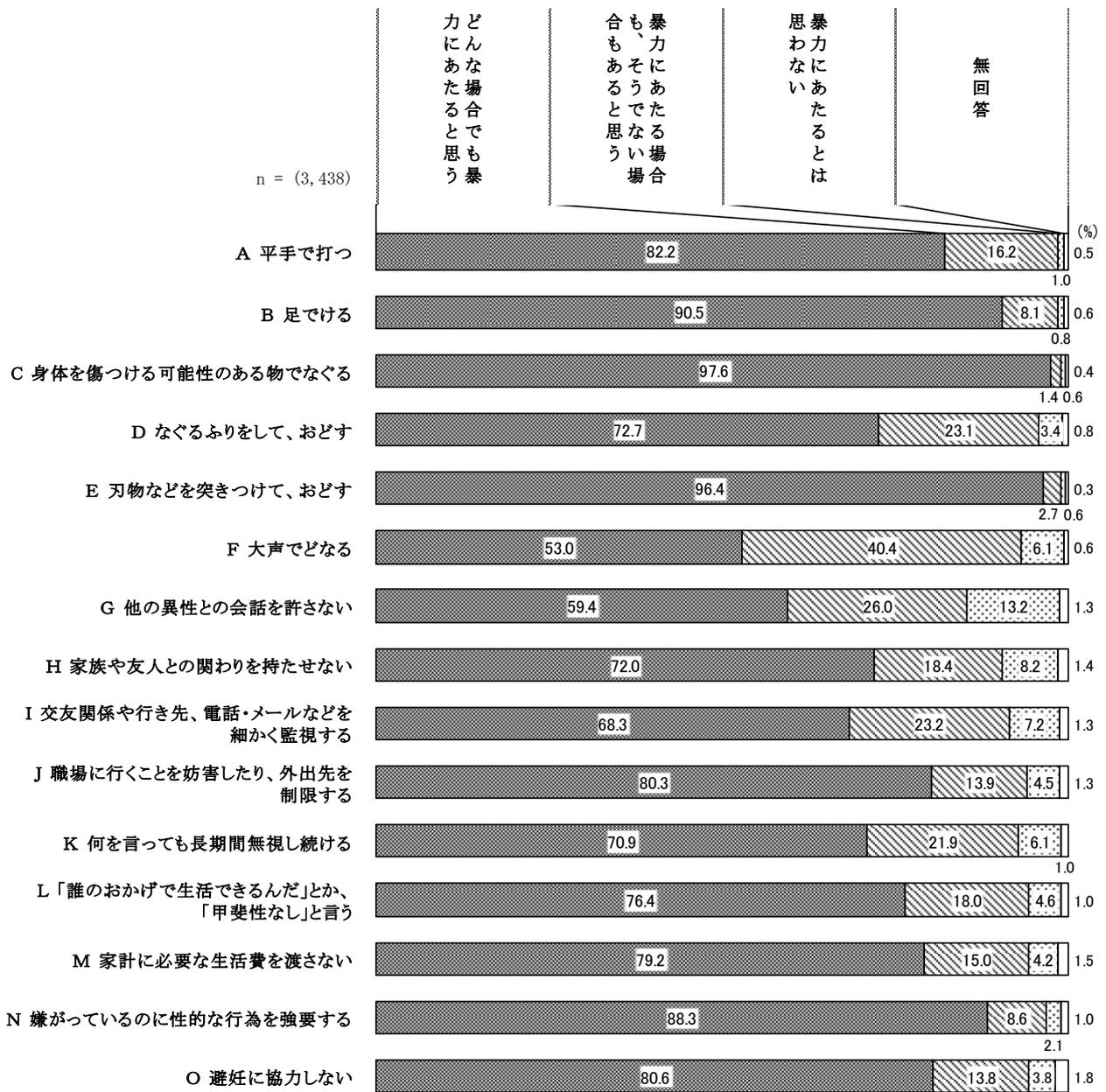


第2章 調査結果の詳細

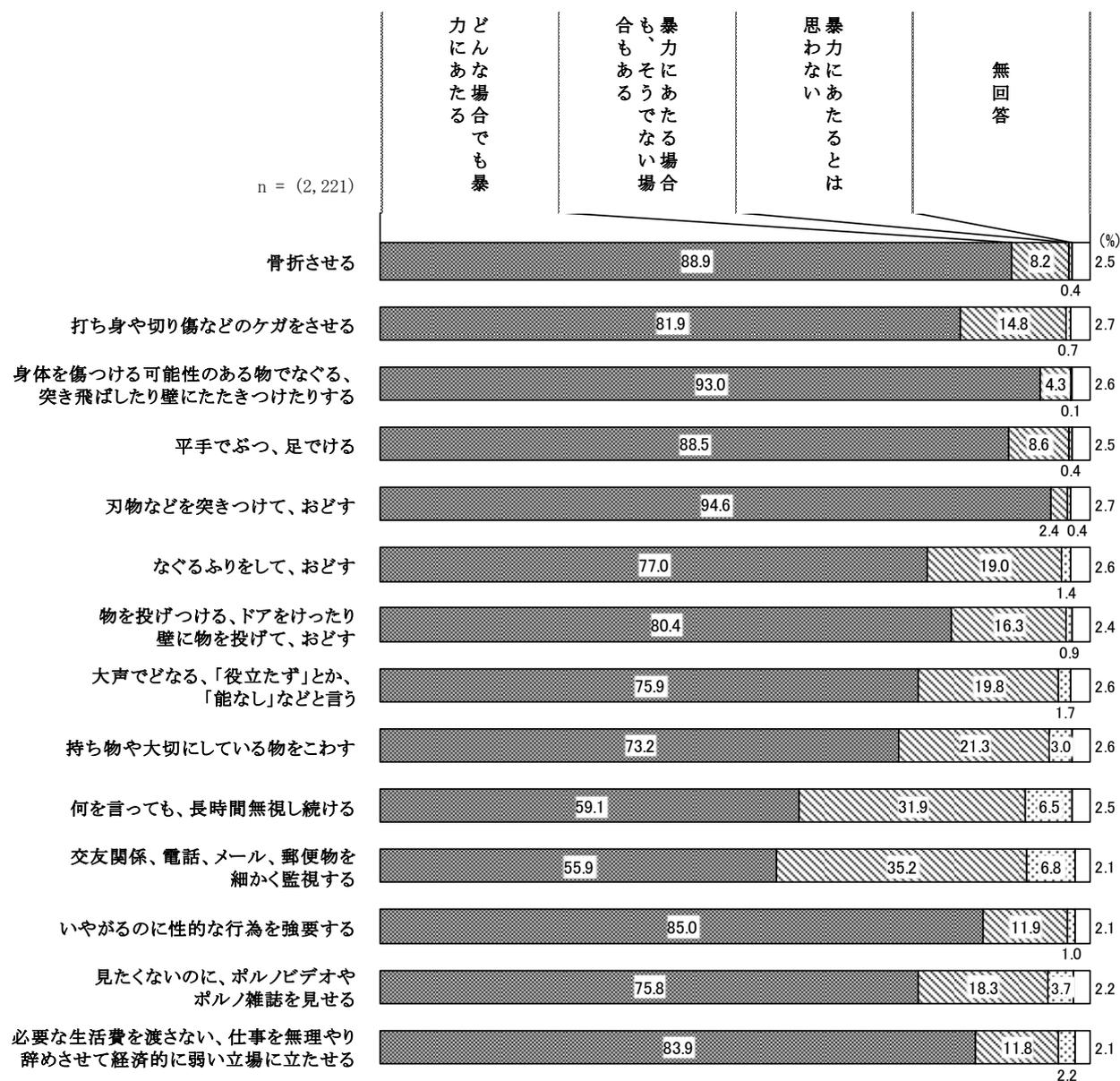




【参考—内閣府 令和元年度 男女共同参画に関する世論調査】



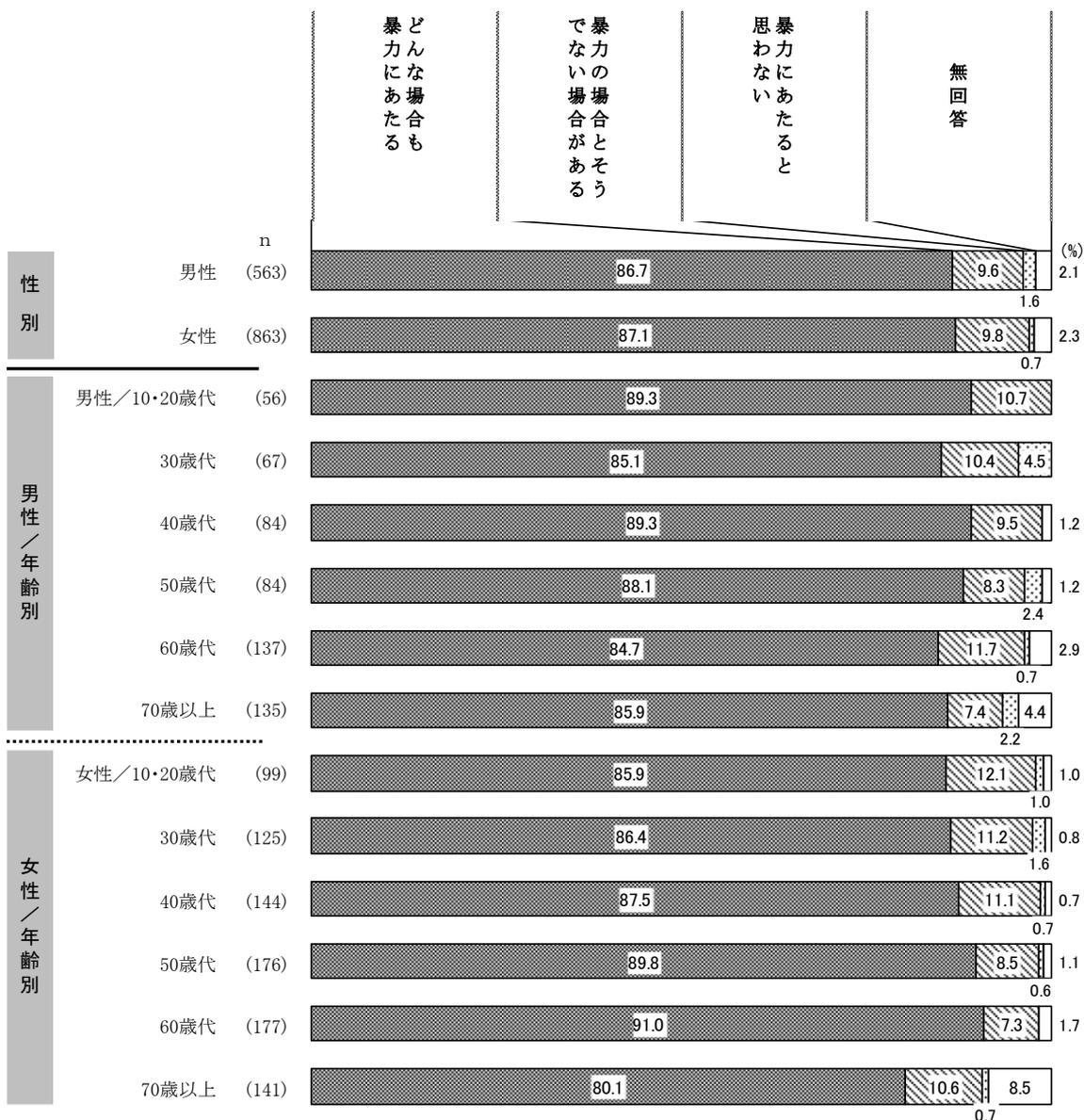
【参考一埼玉県 令和2年度 男女共同参画に関する意識・実態調査】



【(ア) 平手で打つ・こぶしで殴る 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

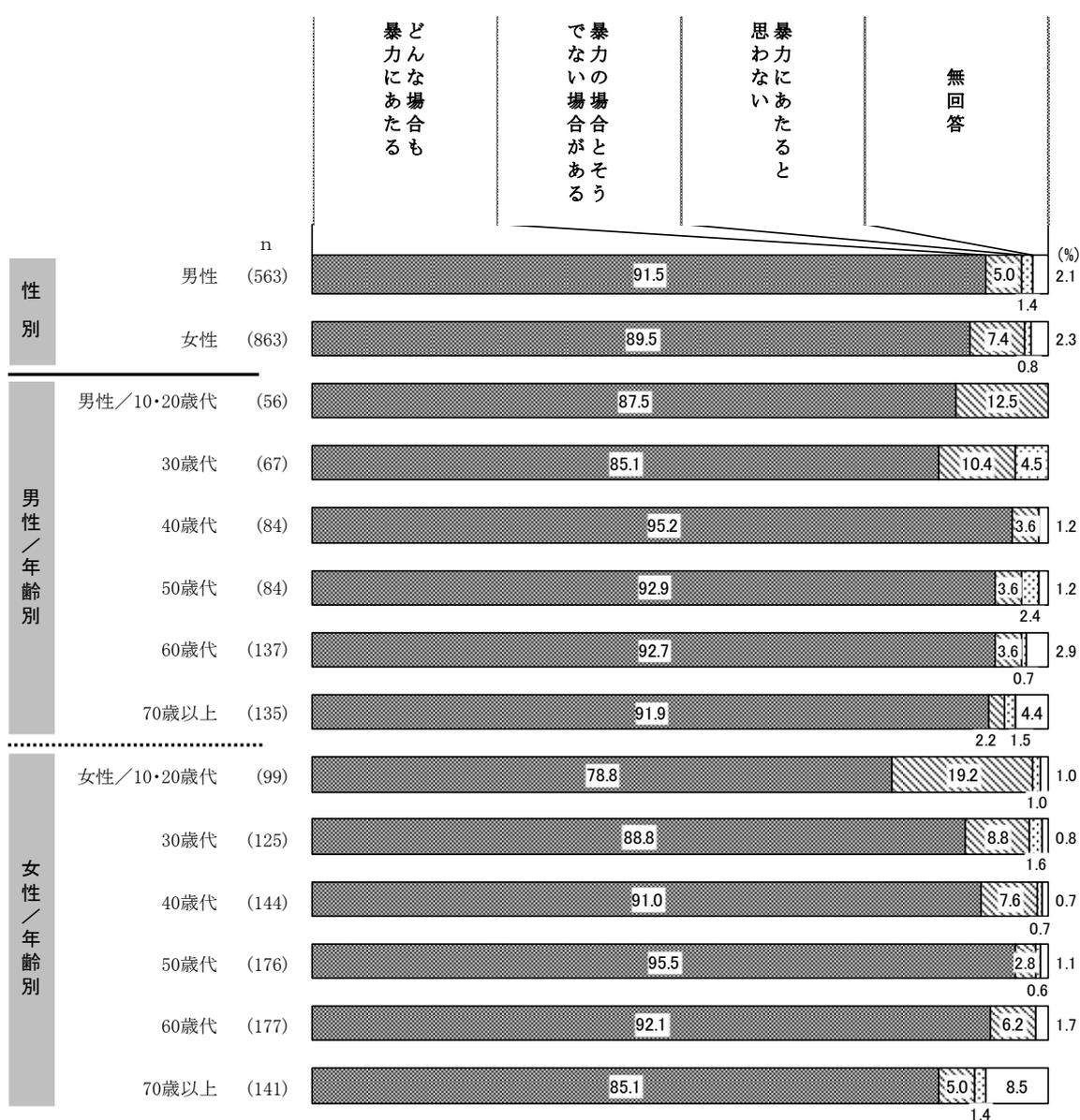
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」がすべての年代で8割以上となっており、特に10・20歳代と40歳代で89.3%となっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」がすべての年代で8割以上となっており、特に60歳代（91.0%）で9割以上となっている。



【(イ) 足で蹴る 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間で特に大きな差はみられない。

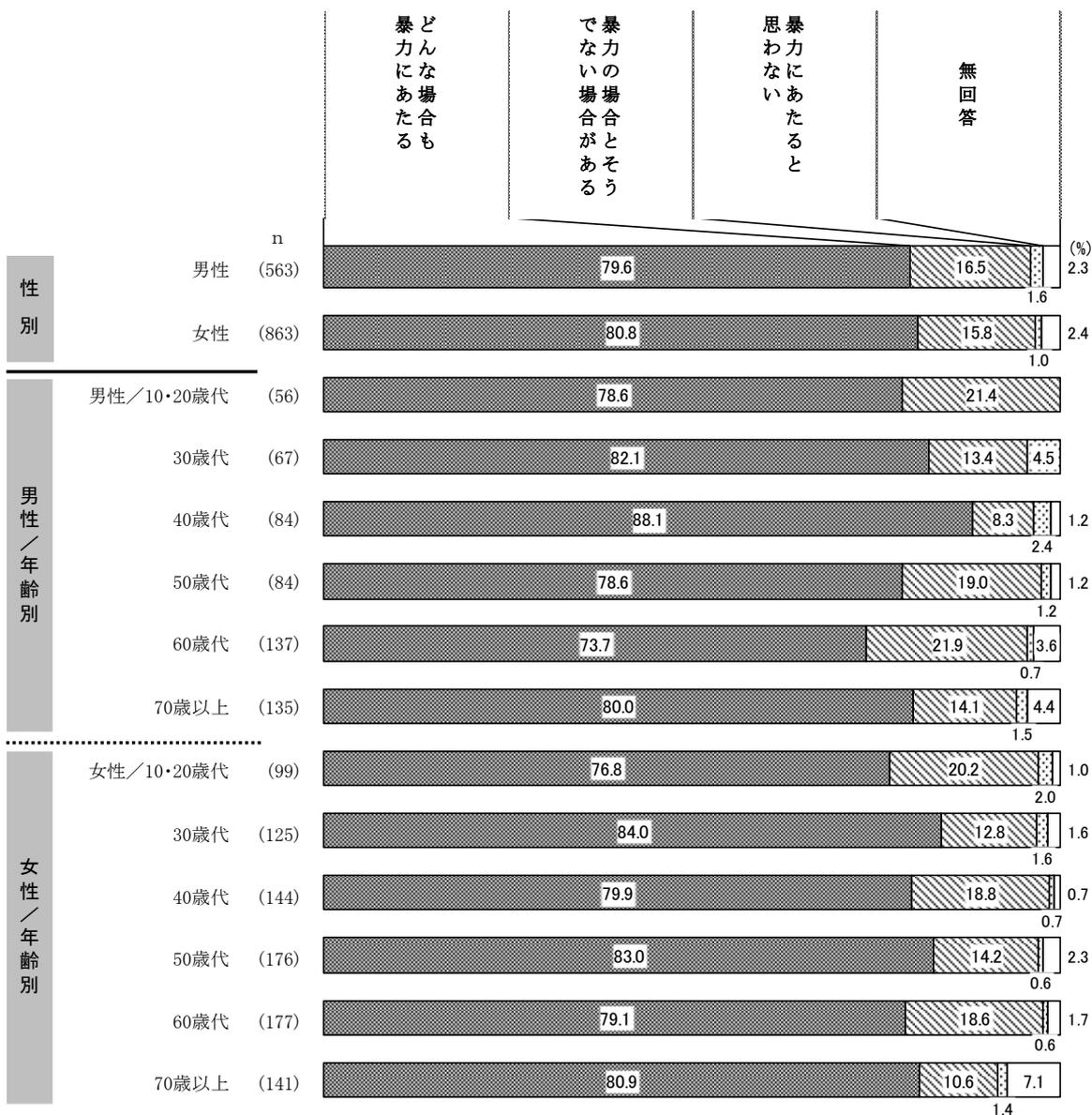
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」が40歳代から70歳以上で9割以上、10・20歳代、30歳代で約9割となっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」が40歳代から60歳代で9割以上、30歳代、70歳以上で約9割となっている。10・20歳代では「どんな場合も暴力にあたる」が約8割となっており、「暴力の場合とそうでない場合がある」が19.2%と他の年代に比べて高くなっている。



【(ウ)物を投げつける 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

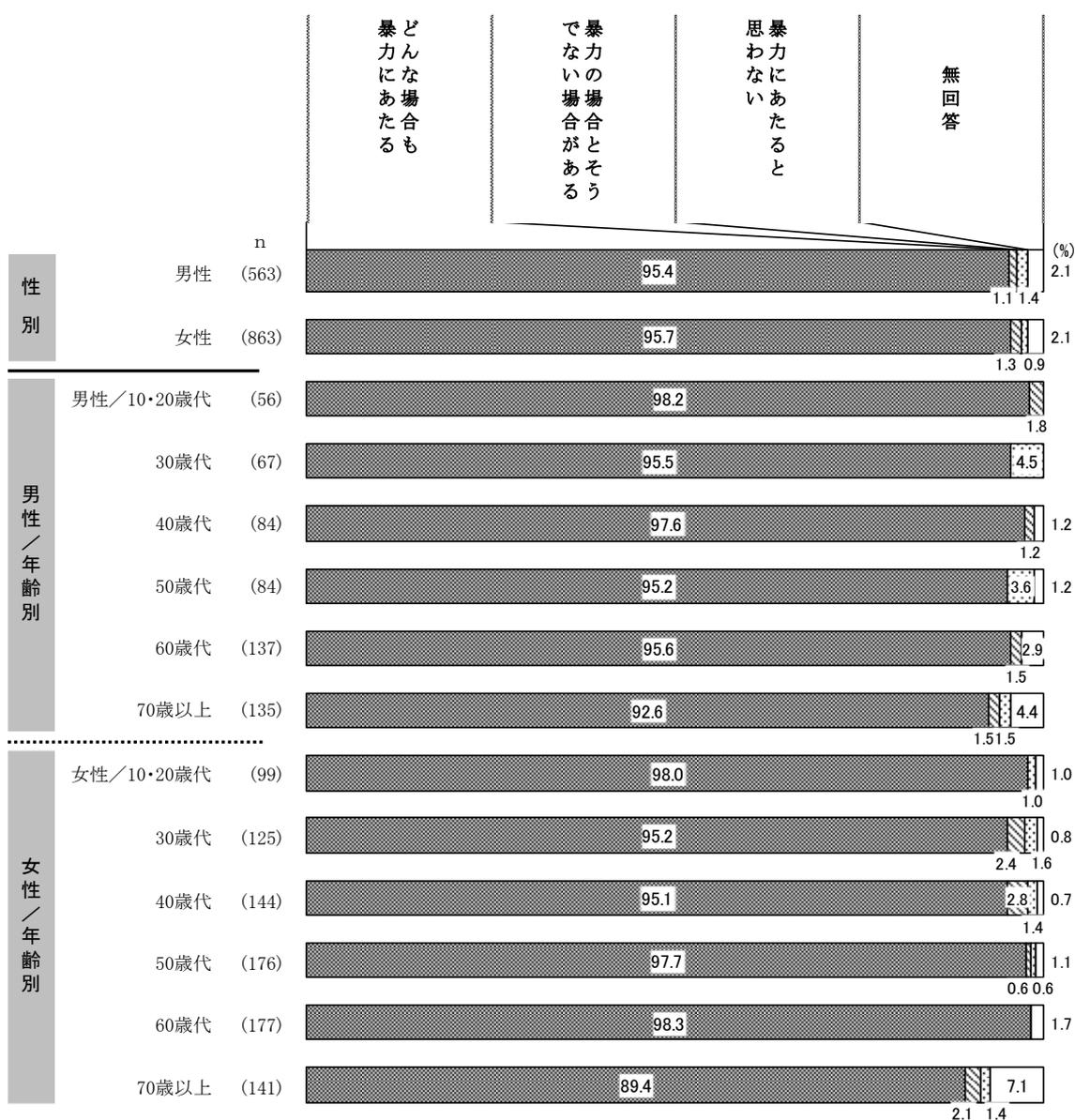
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」が40歳代（88.1%）で約9割と特に高くなっており、30歳代（82.1%）、70歳以上（80.0%）で8割以上となっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」が30歳代（84.0%）、50歳代（83.0%）、70歳以上（80.9%）で8割以上となっている。一方で、10・20歳代、40歳代、60歳代で「暴力の場合とそうでない場合がある」が2割前後と他の年代に比べて高くなっている。



【(エ) 身体を傷つける可能性のある物などで殴る 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

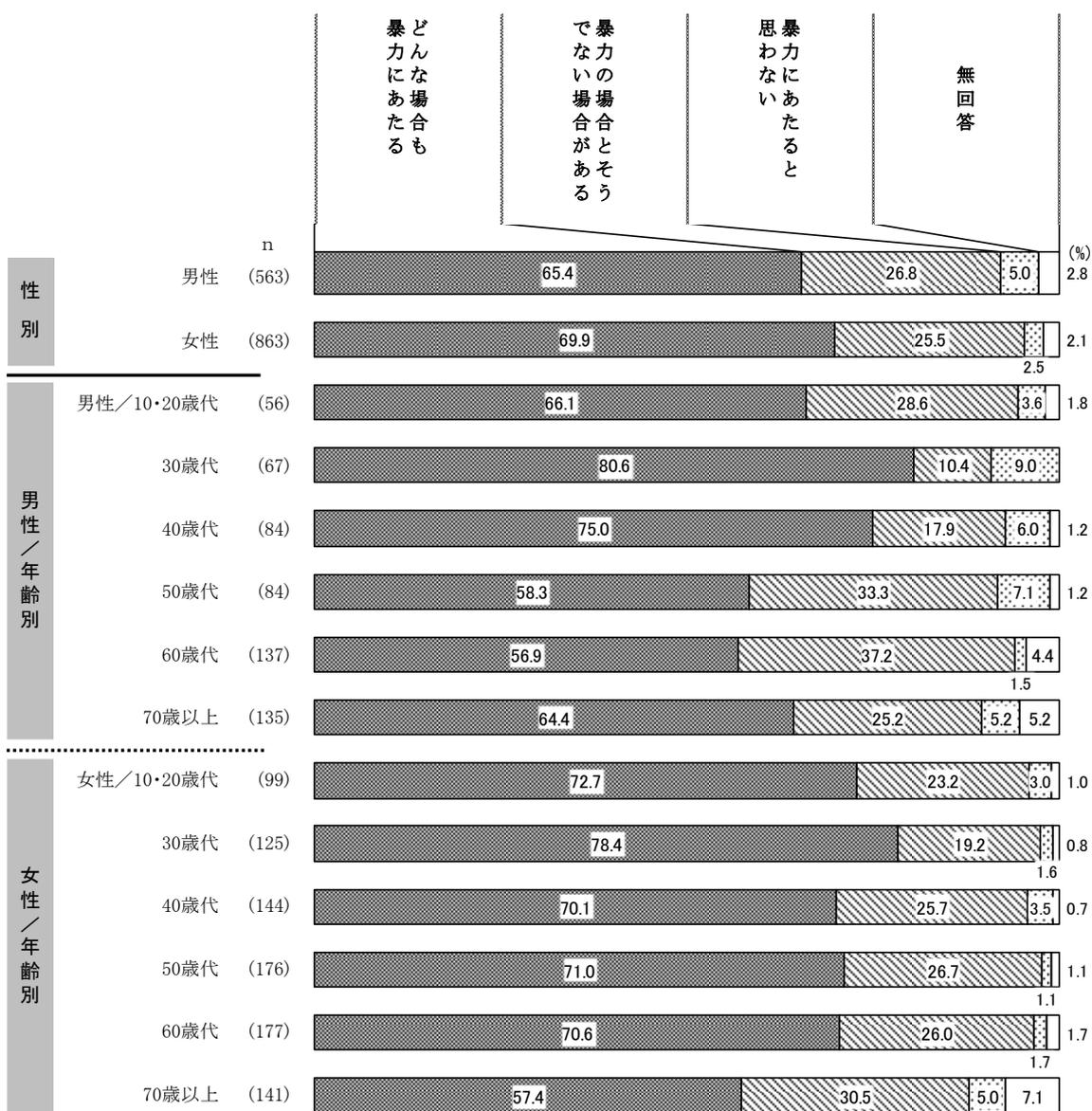
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」がすべての年代で9割以上となっており、特に10・20歳代（98.2%）、40歳代（97.6%）で高くなっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」が70歳以上を除くすべての年代で9割以上となっている。



【(オ) 殴るふりをして脅かす 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

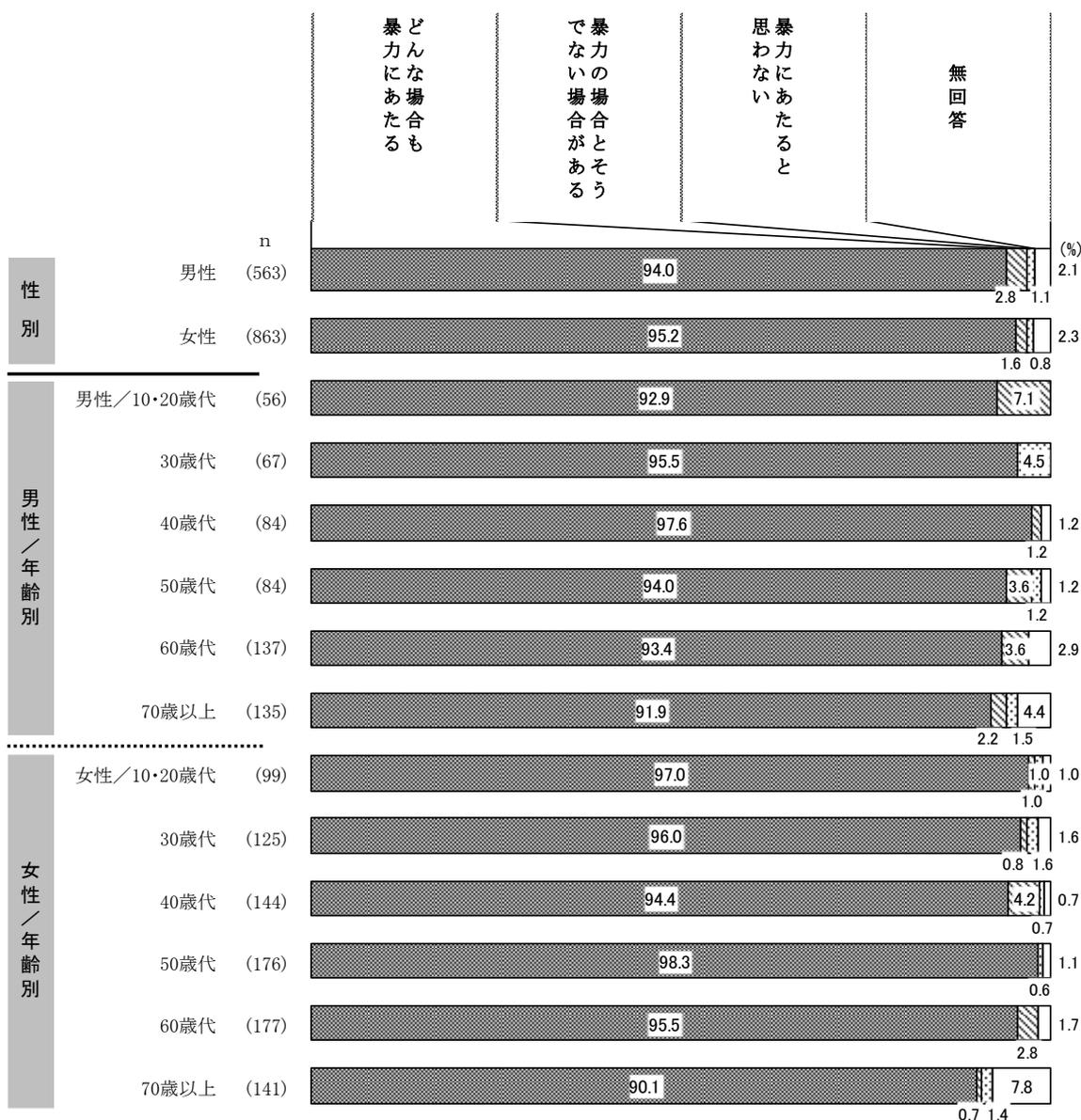
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」が30歳代（80.6%）で8割以上、40歳代（75.0%）で約8割となっている。一方で、「暴力の場合とそうでない場合がある」が60歳代（37.2%）で約4割、50歳代（33.3%）で3割以上と他の年代に比べて高くなっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」が70歳以上を除くすべての年代で7割以上となっており、特に30歳代（78.4%）で約8割となっている。



【(カ) 刃物などを突きつけて脅かす 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

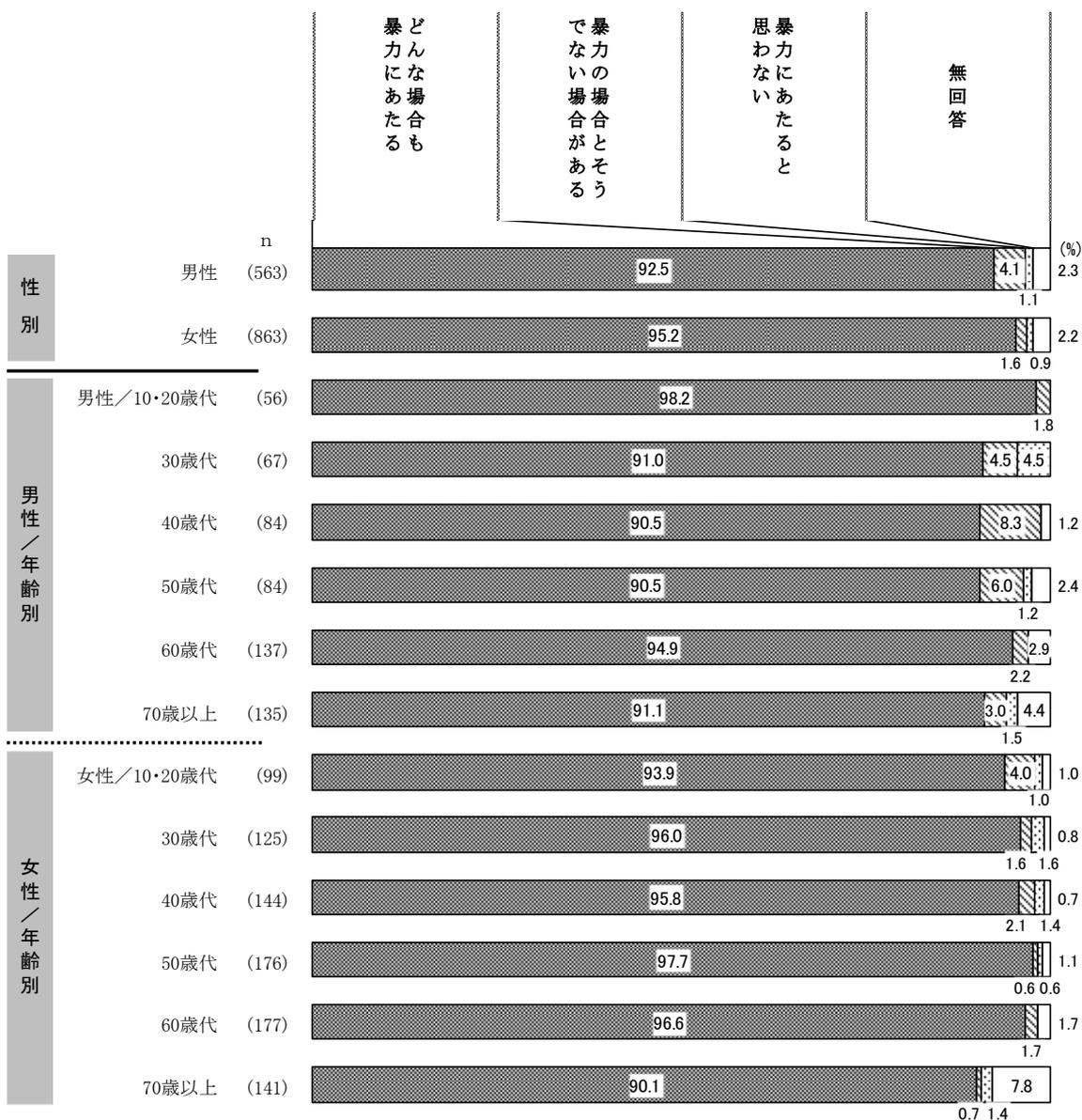
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」がすべての年代で9割以上となっており、特に40歳代（97.6%）で高くなっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」がすべての年代で9割以上となっているが、70歳以上で90.1%と他の年代に比べて低くなっている。



【(キ) 突き飛ばしたり、壁に叩きついたりする 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

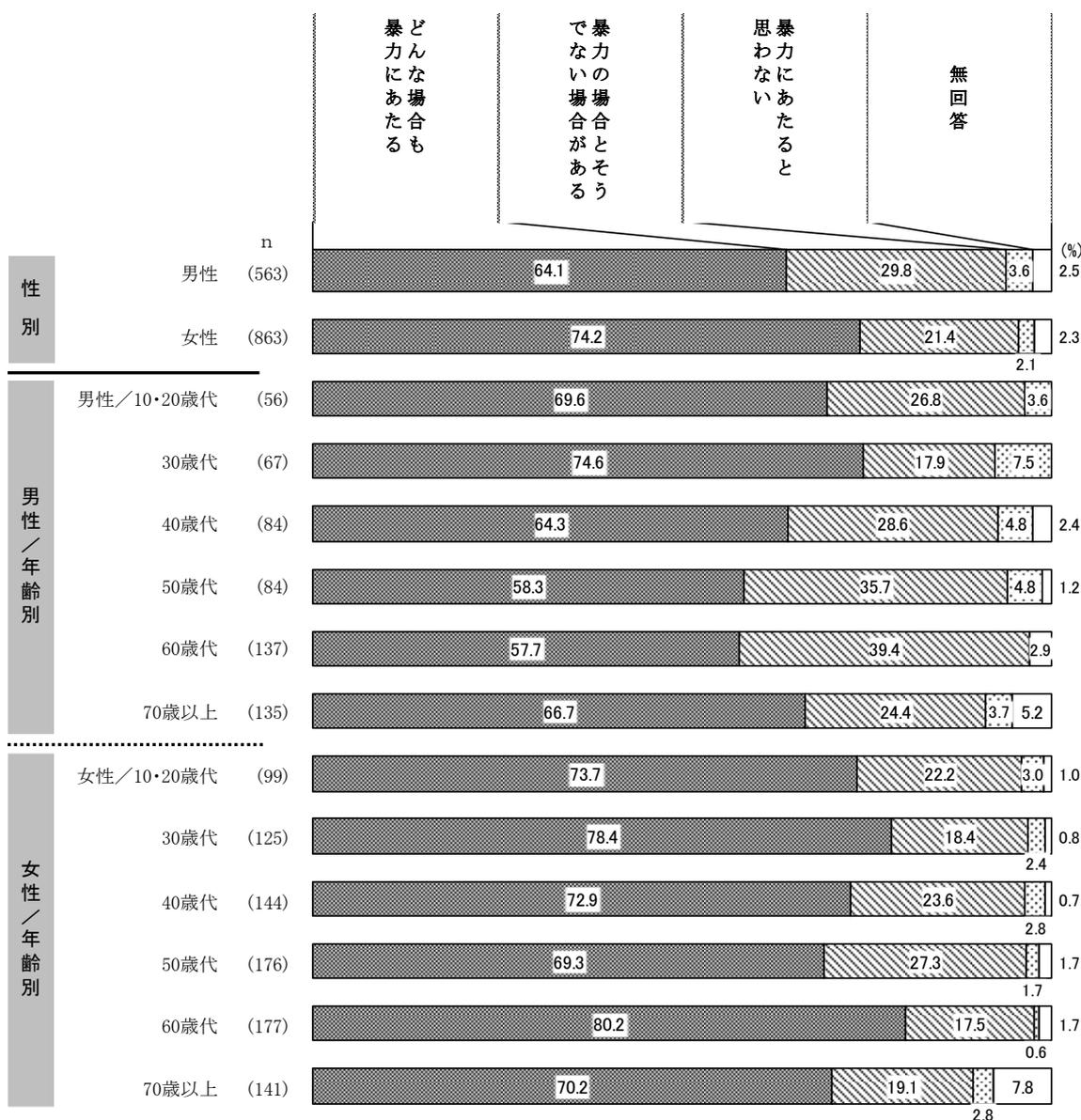
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」がすべての年代で9割以上となっており、特に10・20歳代（98.2%）で高くなっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」がすべての年代で9割以上となっており、特に50歳代（97.7%）で高くなっている。



【(ク) ドアや机を蹴るなど、大きな音を立てて脅かす 性別・性／年齢別】

性別でみると、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（29.8%）が女性（21.4%）より8.4ポイント高くなっている。一方で、「どんな場合も暴力にあたる」は女性（74.2%）が男性（64.1%）より10.1ポイント高くなっている。

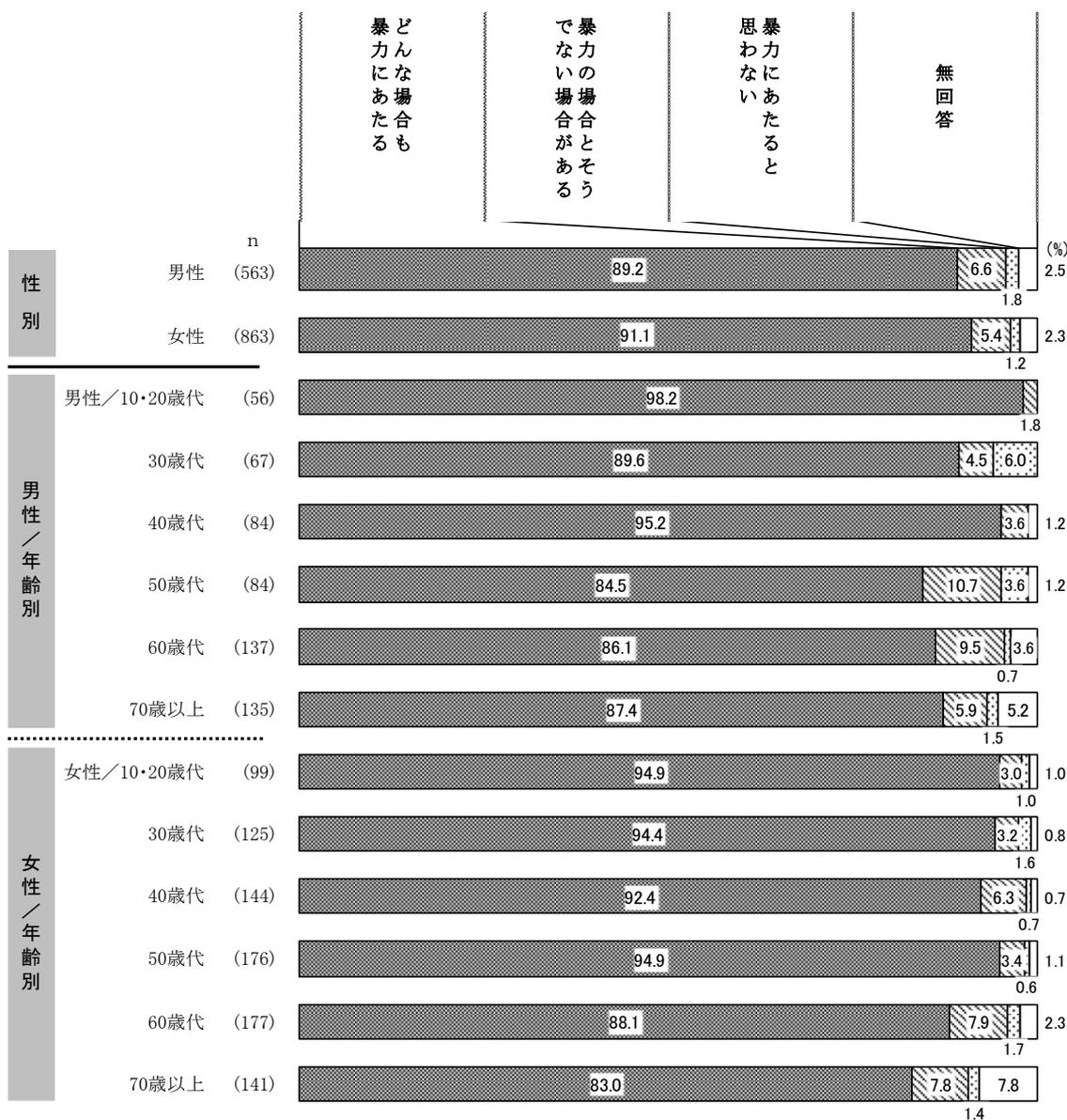
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」が30歳代（74.6%）で7割以上、10・20歳代（69.6%）、70歳以上（66.7%）で約7割となっている。一方で、「暴力の場合とそうでない場合がある」が50歳代（35.7%）、60歳代（39.4%）で約4割と他の年代に比べて高くなっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」が60歳代（80.2%）で8割以上、30歳代（78.4%）で約8割となっている。一方で、「暴力の場合とそうでない場合がある」が50歳代（27.3%）で約3割と他の年代に比べて高くなっている。



【(ケ) 相手が嫌がっているのに性的な行為を強制する 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間に特に大きな差はみられない。

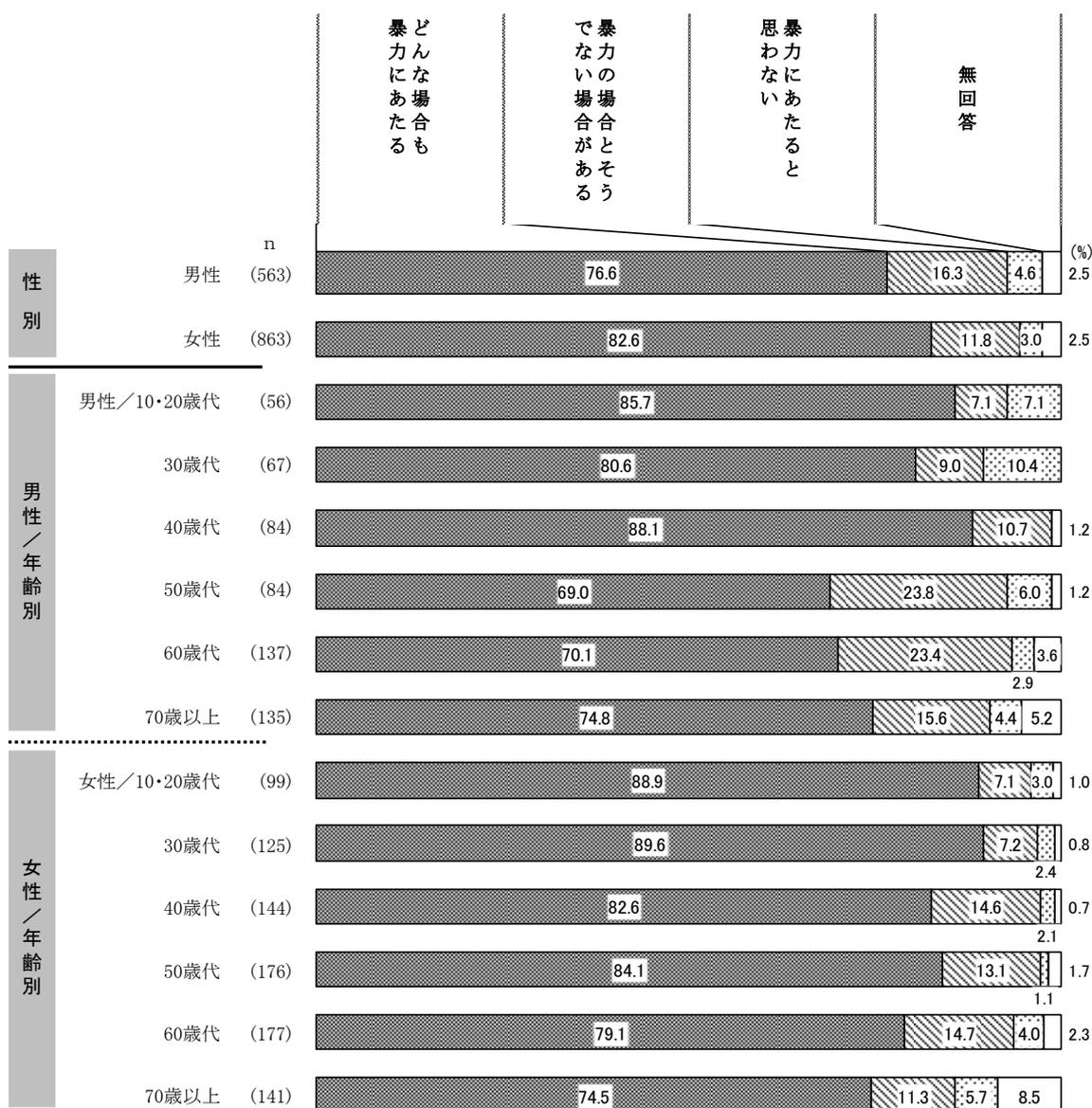
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」が10・20歳代（98.2%）、40歳代（95.2%）で高くなっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」が10・20歳代から50歳代で9割以上となっているが、70歳以上で83.0%と他の年代に比べて低くなっている。



【(コ) 見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる 性別・性／年齢別】

性別でみると、「どんな場合も暴力にあたる」は女性（82.6%）が男性（76.6%）より6.0ポイント高くなっている。

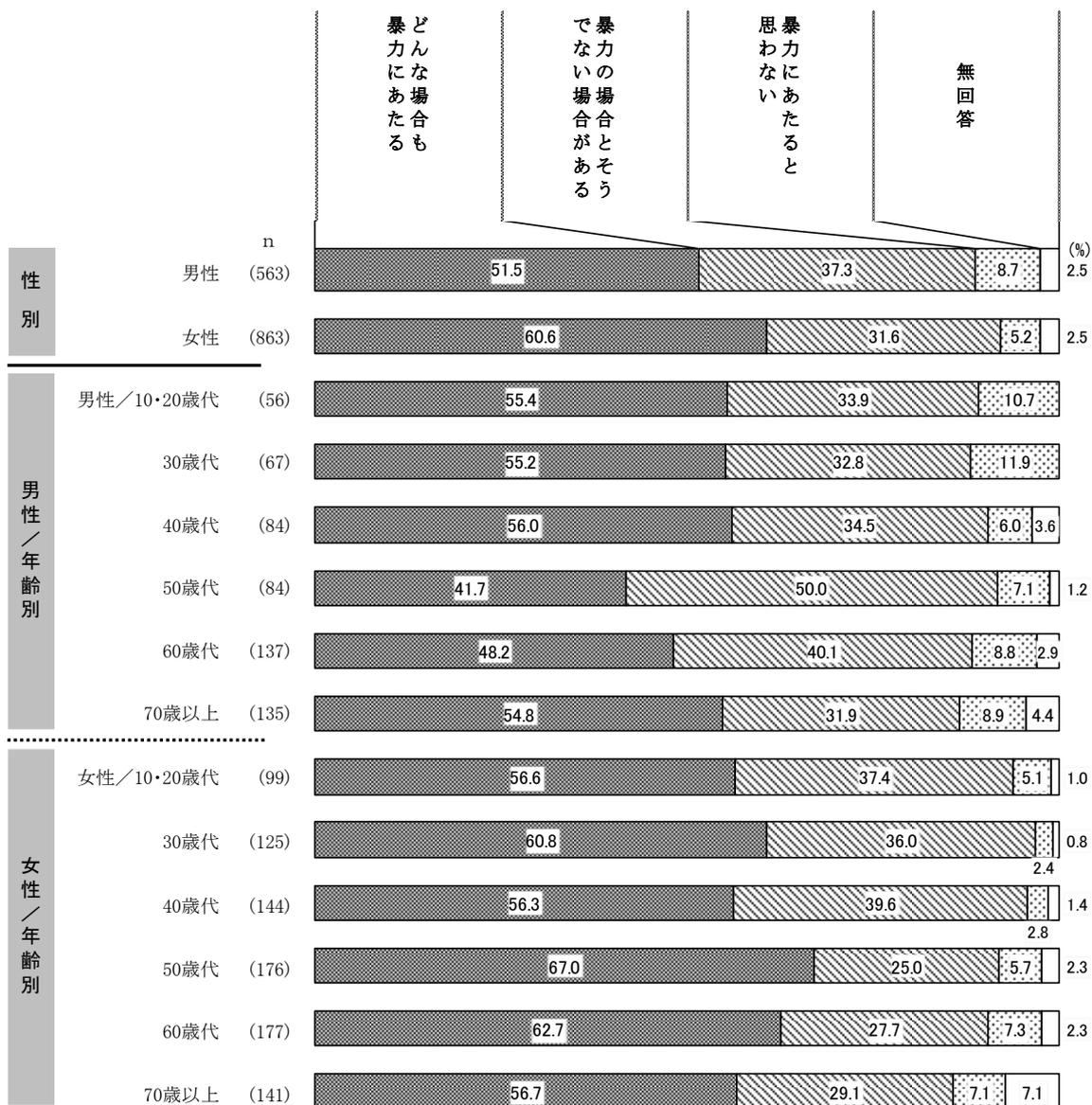
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」が10・20歳代（85.7%）、40歳代（88.1%）で約9割と他の年代に比べて高くなっている。一方で、「暴力の場合とそうでない場合がある」が50歳代（23.8%）、60歳代（23.4%）で2割以上となっている。女性では、「どんな場合でも暴力にあたる」が10・20歳代（88.9%）、30歳代（89.6%）で約9割と他の年代に比べて高くなっている。



【(サ) 何を言っても長時間無視し続ける 性別・性／年齢別】

性別でみると、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（37.3%）が女性（31.6%）より5.7ポイント高くなっている。一方で、「どんな場合も暴力にあたる」は女性（60.6%）が男性（51.5%）より9.1ポイント高くなっている。

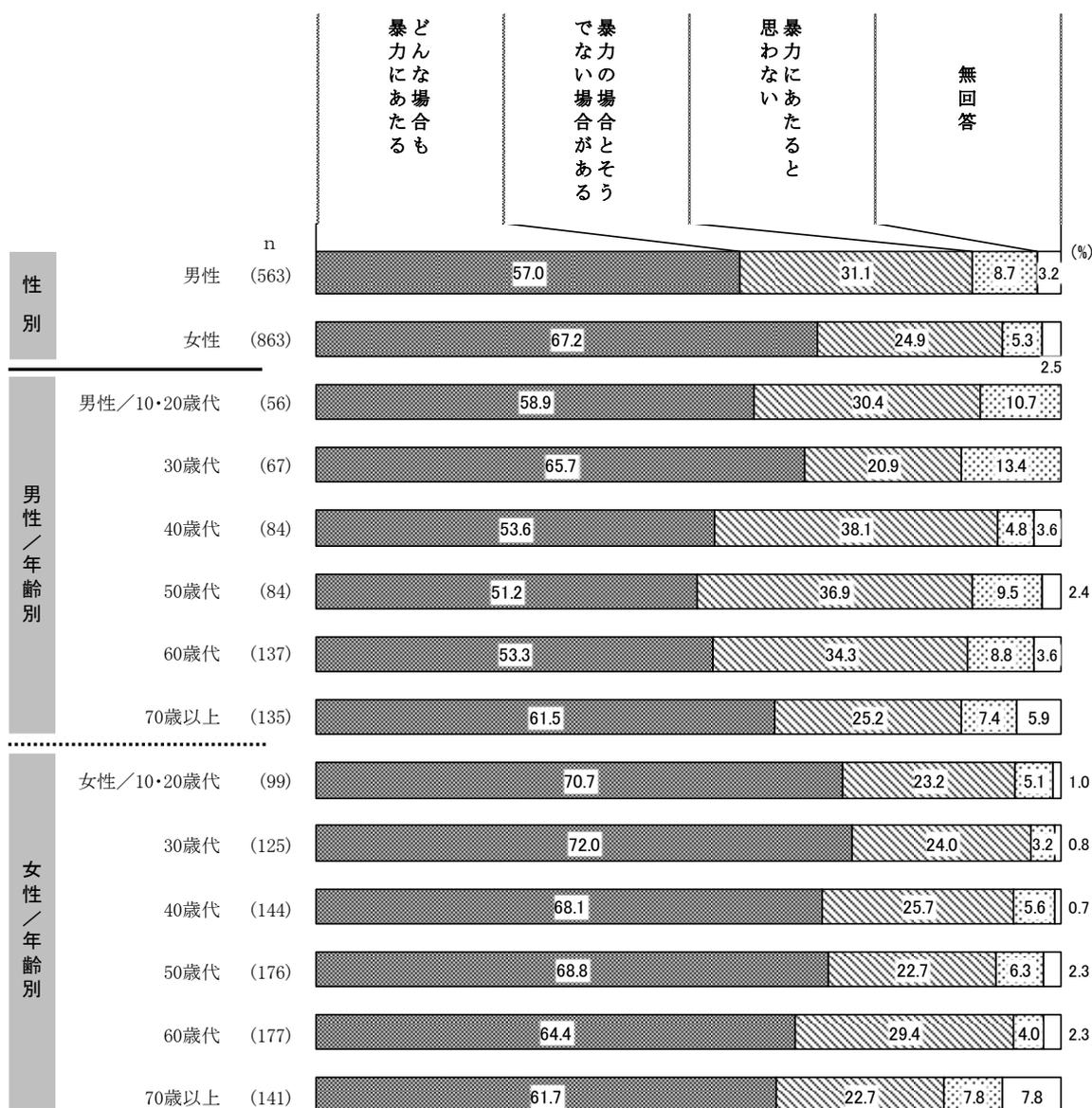
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」が10・20歳代から40歳代、70歳以上で過半数を占めている。一方で、「暴力の場合とそうでない場合がある」が50歳代（50.0%）で半数を占めており、「どんな場合も暴力にあたる」を上回り最も高くなっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」がすべての年代で過半数を占めており、50歳代（67.0%）で約7割と高くなっている。



【シ）交友関係や電話・郵便物などを細かく監視する 性別・性／年齢別】

性別でみると、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（31.1%）が女性（24.9%）より6.2ポイント高くなっている。一方で、「どんな場合も暴力にあたる」は女性（67.2%）が男性（57.0%）より10.2ポイント高くなっている。

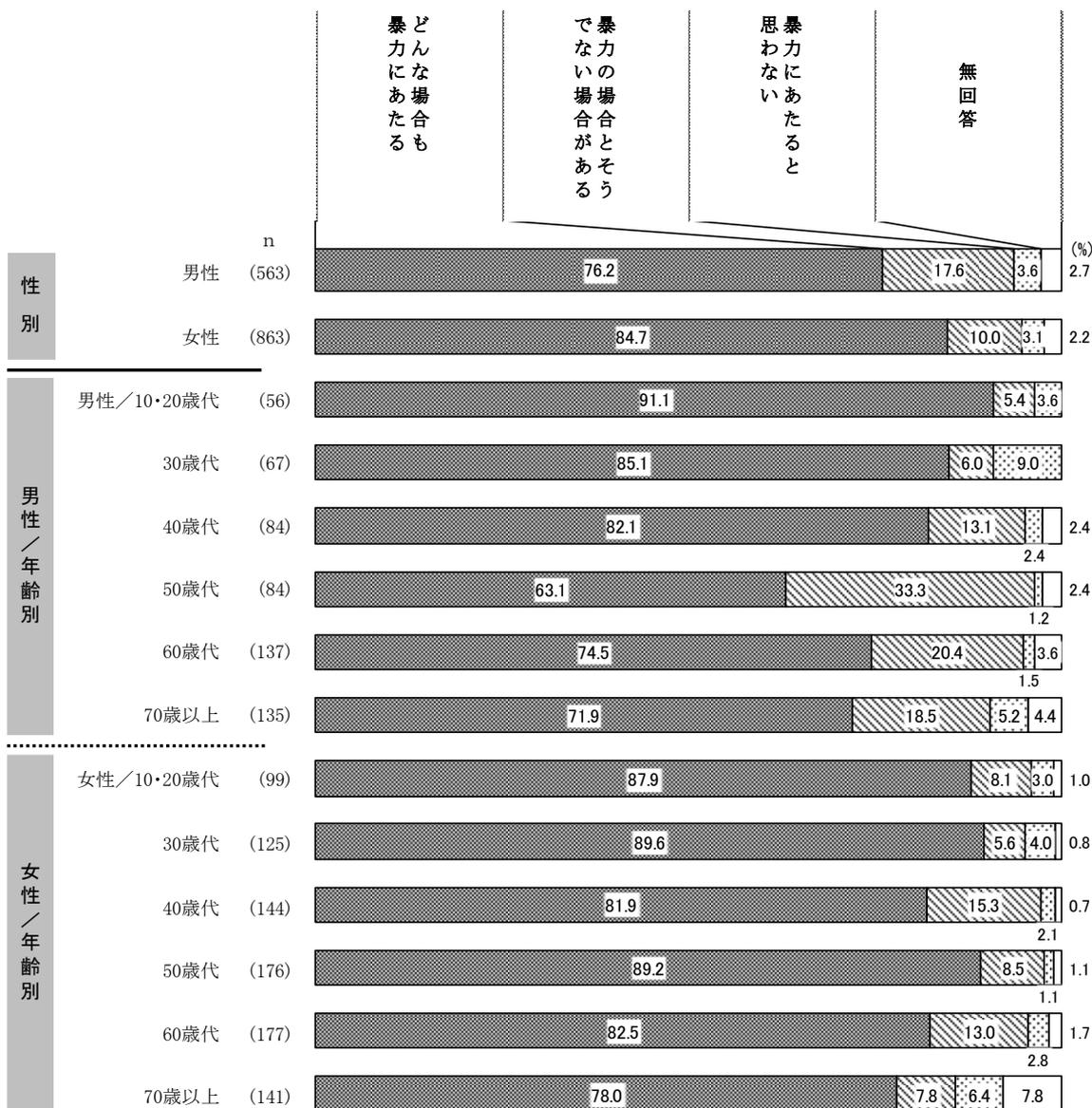
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」がすべての年代で過半数を占めており、特に30歳代（65.7%）で約7割、70歳以上（61.5%）で6割以上となっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」が10・20歳代から50歳代で7割前後となっている。



【(ス)「誰のおかげで生活できるのだ」「役立たず」などと言う 性別・性／年齢別】

性別でみると、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（17.6%）が女性（10.0%）より7.6ポイント高くなっている。一方で、「どんな場合も暴力にあたる」は女性（84.7%）が男性（76.2%）より8.5ポイント高くなっている。

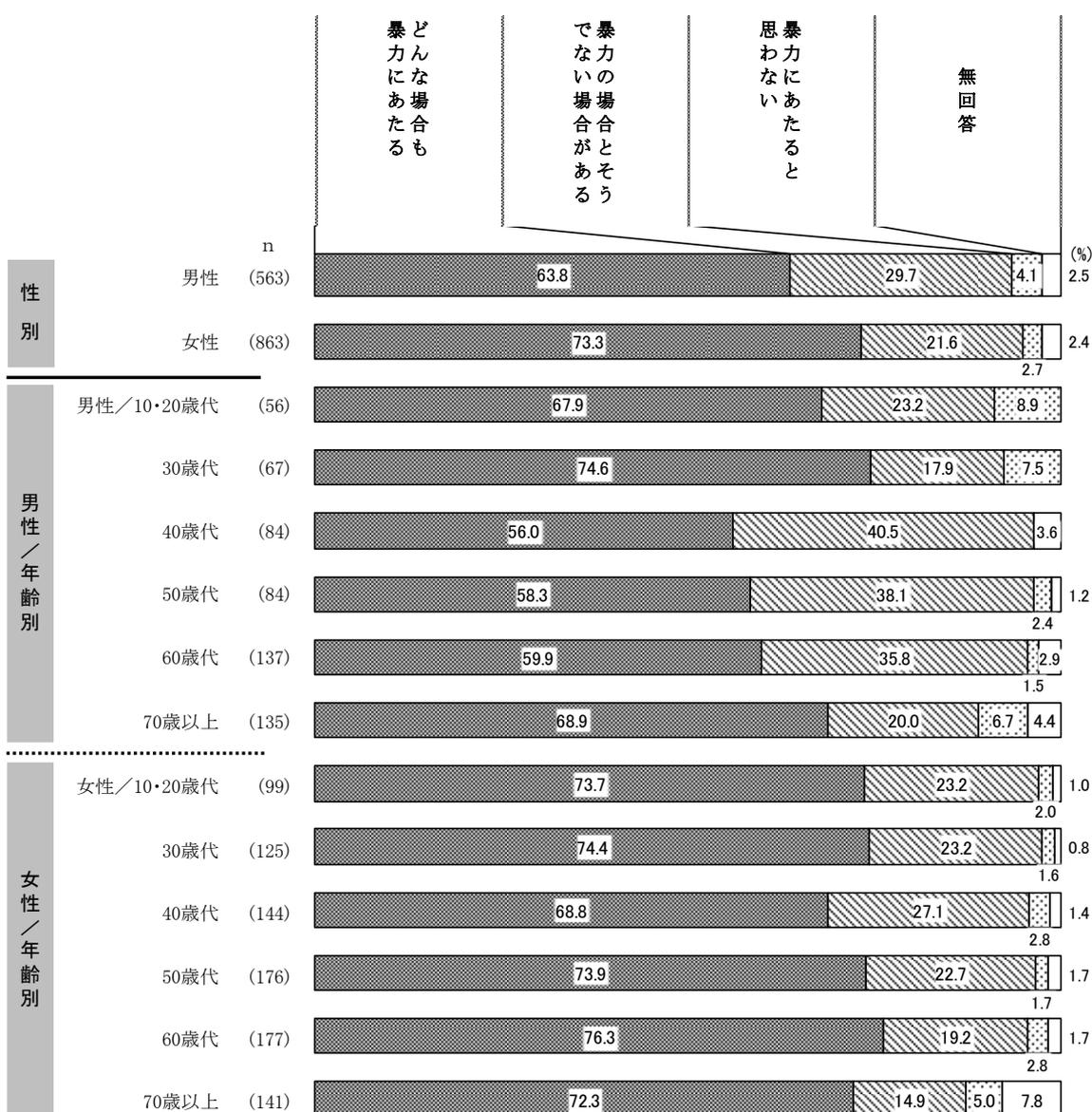
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」が10・20歳代（91.1%）で9割以上と他の年代に比べて高くなっている。一方で、「暴力の場合とそうでない場合がある」が50歳代（33.3%）で3割以上と他の年代に比べて高くなっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」が10・20歳代（87.9%）、30歳代（89.6%）、50歳代（89.2%）で約9割となっている。一方で、「暴力の場合とそうでない場合がある」が40歳代（15.3%）、60歳代（13.0%）で1割以上と他の年代に比べて高くなっている。



【(セ) 大声でどなる 性別・性／年齢別】

性別でみると、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（29.7%）が女性（21.6%）より8.1ポイント高くなっている。一方で、「どんな場合も暴力にあたる」は女性（73.3%）が男性（63.8%）より9.5ポイント高くなっている。

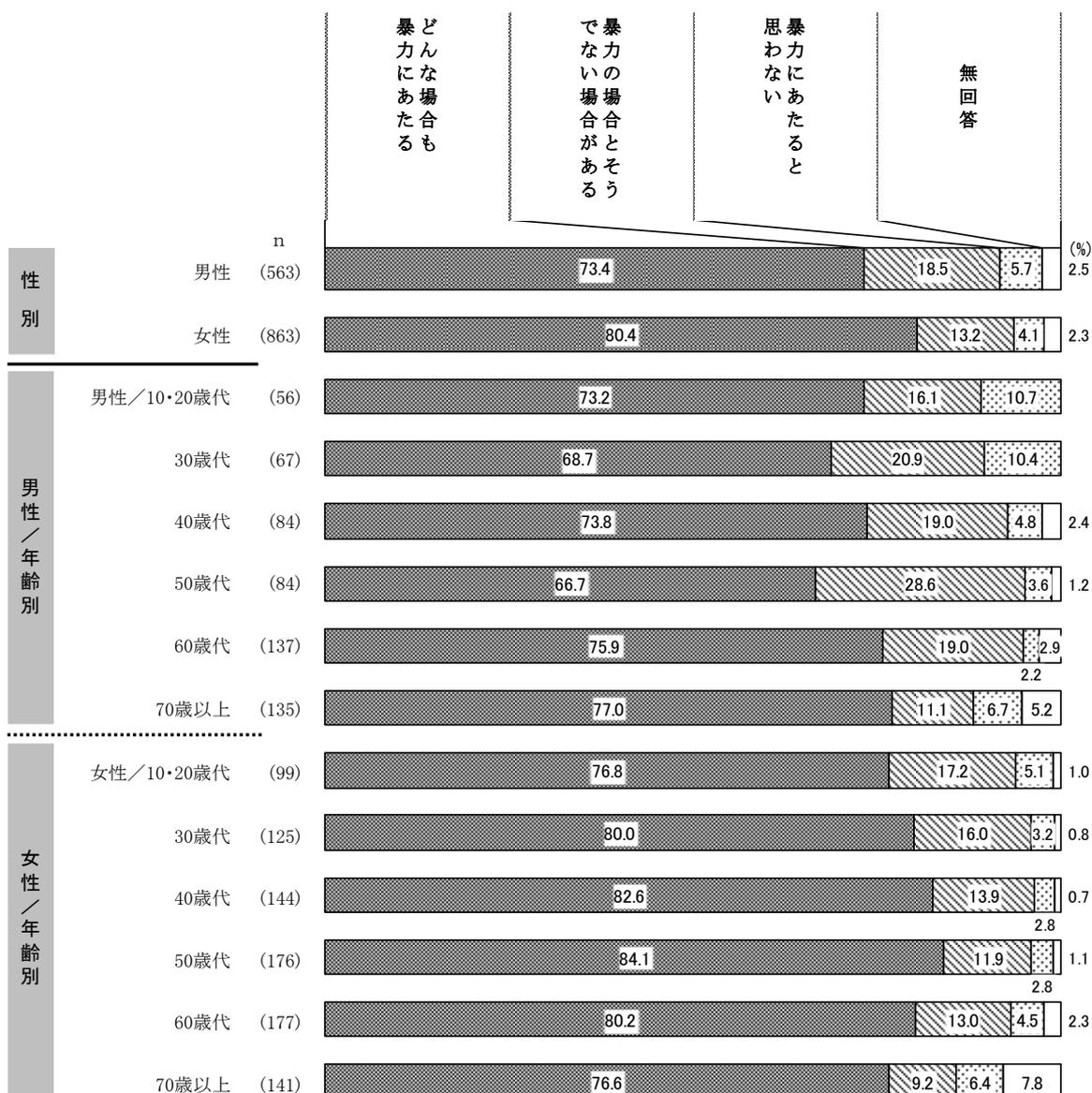
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」が30歳代（74.6%）で7割以上、10・20歳代（67.9%）、70歳以上（68.9%）で約7割となっている。一方で、「暴力の場合とそうでない場合がある」が40歳代（40.5%）で4割以上、50歳代（38.1%）、60歳代（35.8%）で約4割と他の年代に比べて高くなっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」が40歳代を除くすべての年代で7割以上となっており、40歳代（68.8%）で約7割と他の年代に比べて低くなっている。



【(ソ) 生活費を渡さない 性別・性／年齢別】

性別でみると、「暴力の場合とそうでない場合がある」は男性（18.5%）が女性（13.2%）より5.3ポイント高くなっている。一方で、「どんな場合も暴力にあたる」は女性（80.4%）が男性（73.4%）より7.0ポイント高くなっている。

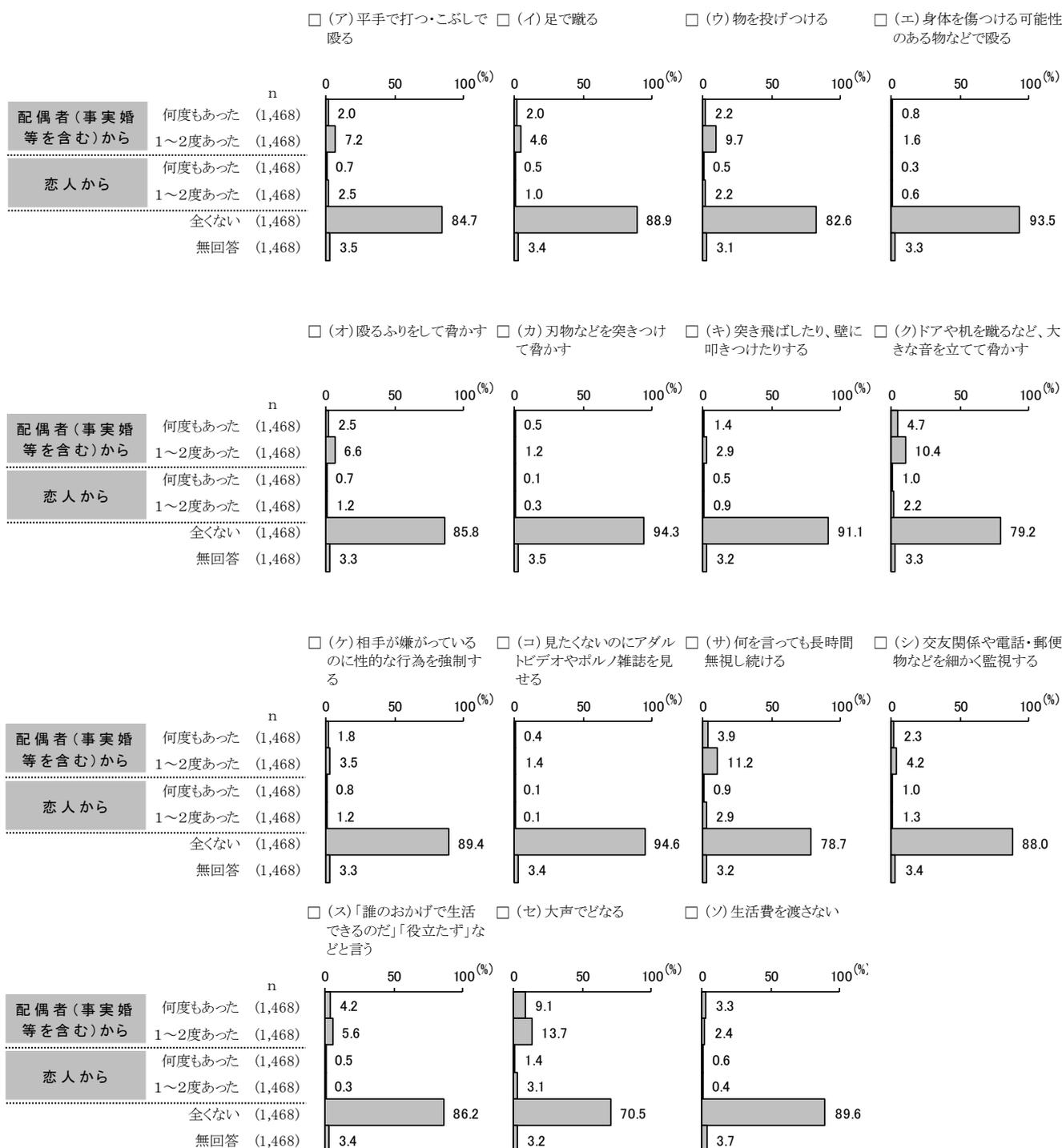
性／年齢別でみると、男性では、「どんな場合も暴力にあたる」が60歳代（75.9%）、70歳以上（77.0%）で約8割となっている。一方で、「暴力の場合とそうでない場合がある」が50歳代（28.6%）で約3割となっている。女性では、「どんな場合も暴力にあたる」が30歳代から60歳代で8割以上を占めている。



(2) 「暴力にあたる」と思う行為を、パートナーから受けた経験について

問18 あなたは、次のような行為を受けたことがありますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。配偶者（事実婚や別居、離別を含む）と恋人両方から受けたことがある場合は、両方について頻度をお答えください。

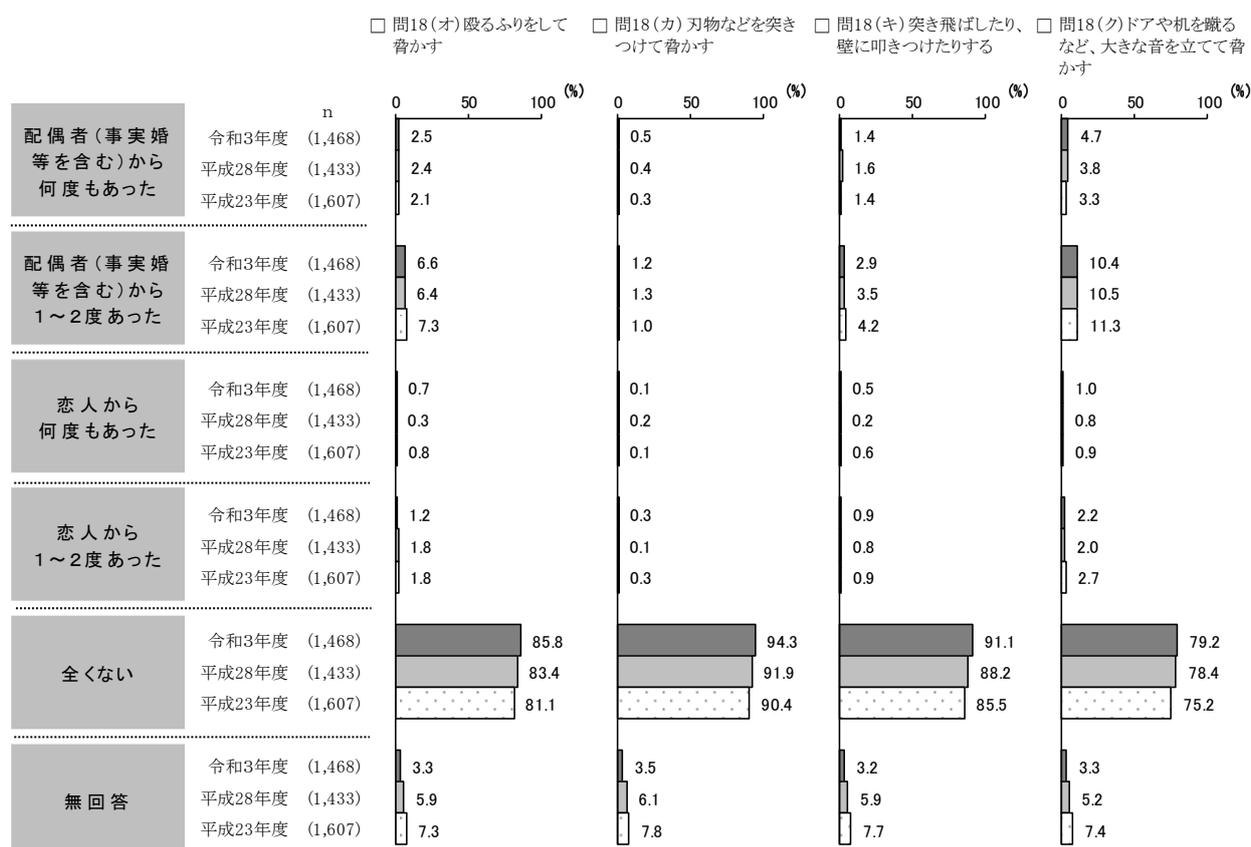
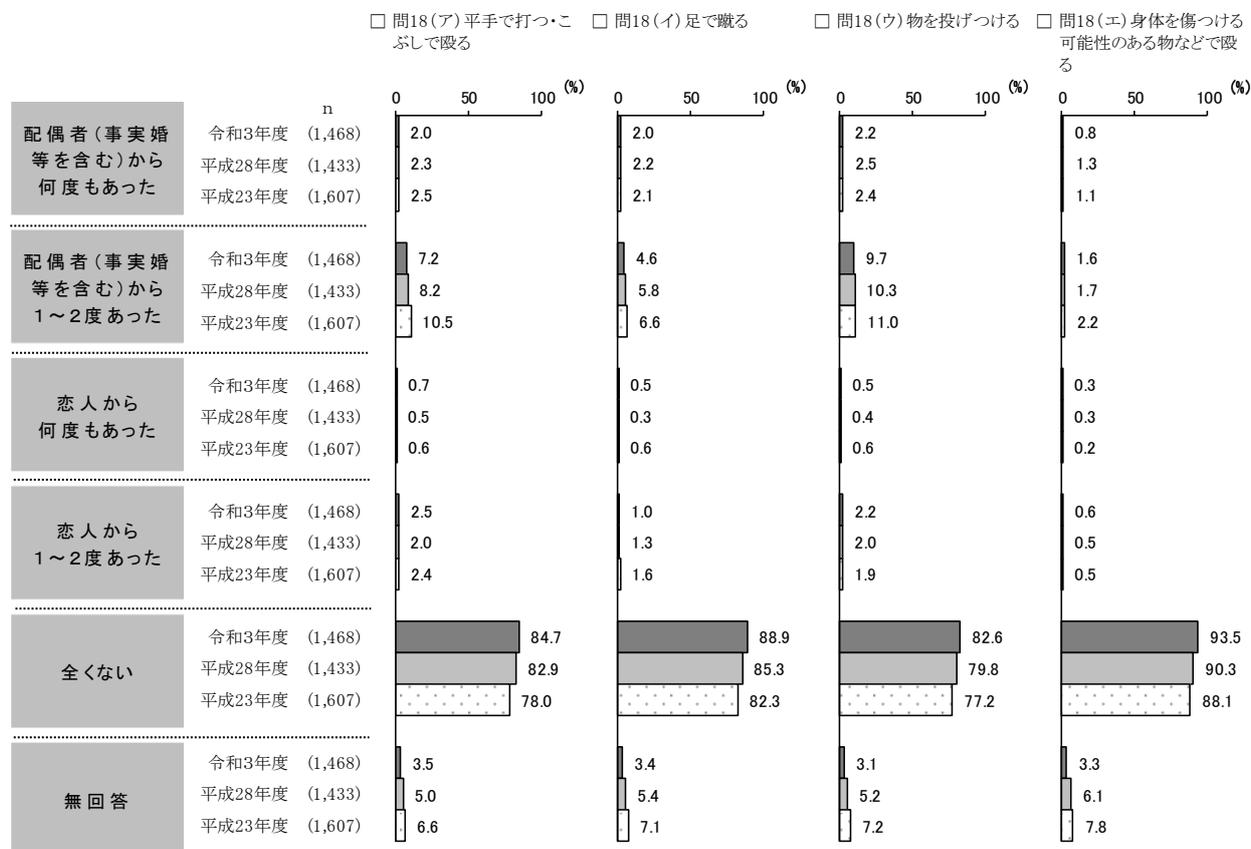
「暴力にあたる」と思う行為を、パートナーから受けた経験について、「何度もあった」と「1～2度あった」を合わせた《経験がある》は、【大声でどなる】（配偶者から22.8%、恋人から4.5%）で最も高く、以下、【何を言っても長時間無視し続ける】（配偶者から15.1%、恋人から3.8%）、【ドアや机を蹴るなど、大きな音を立てて脅かす】（配偶者から15.1%、恋人から3.2%）となっている。



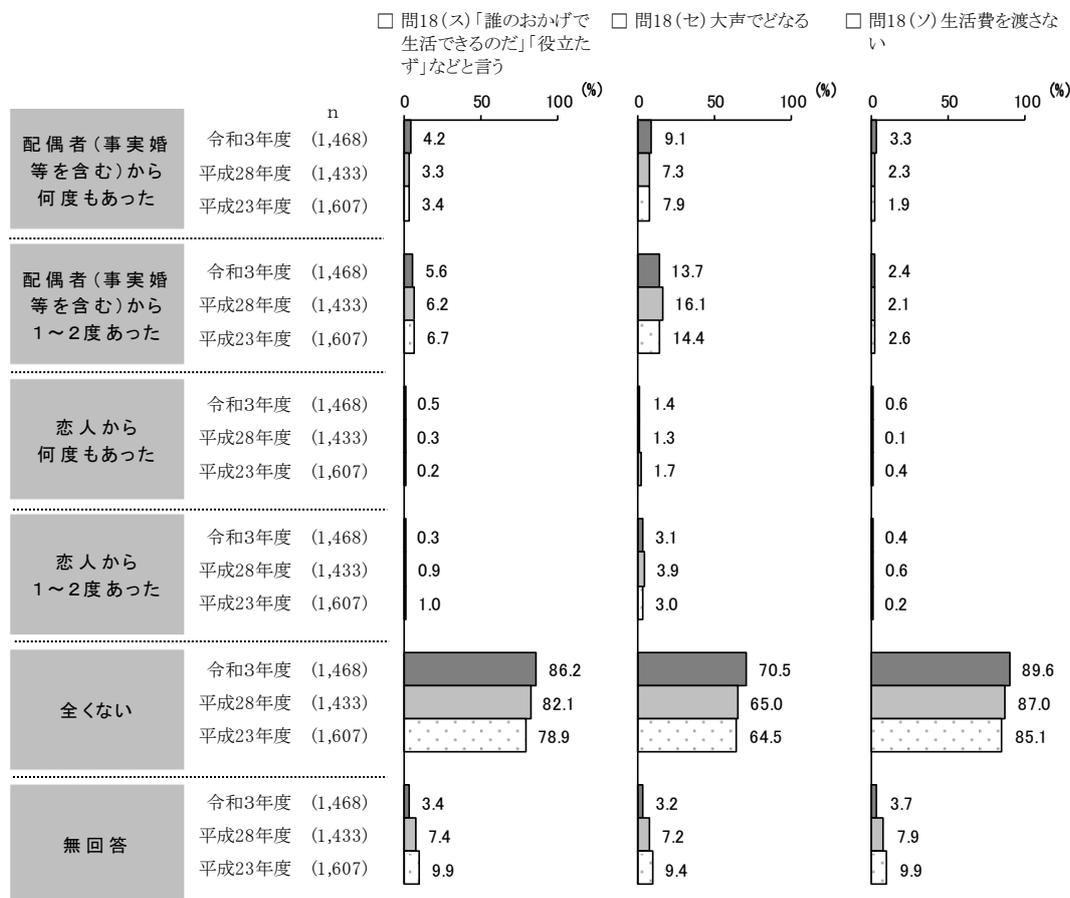
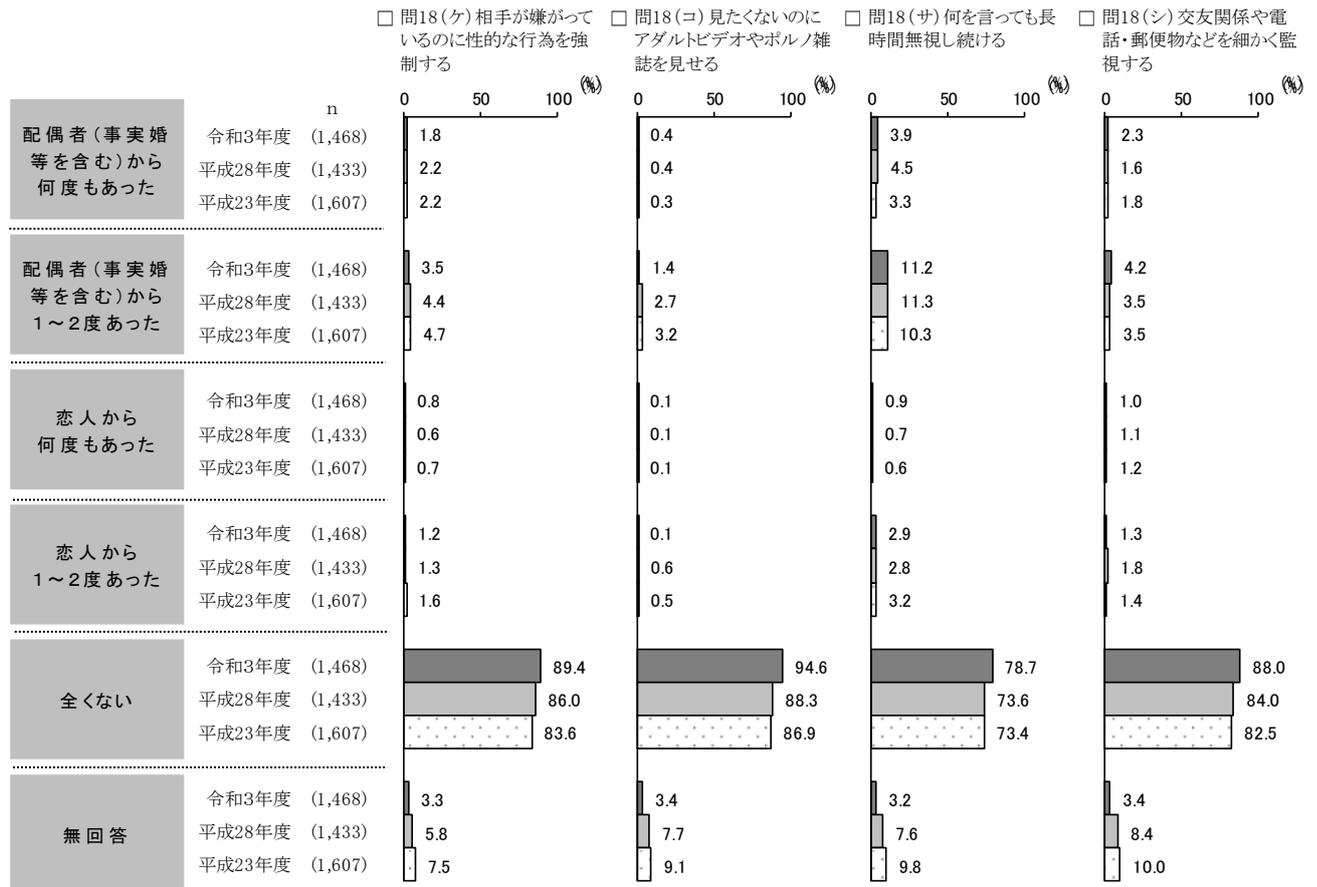
第2章 調査結果の詳細

【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、すべての項目で「全くない」は増加しており、特に【見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる】、【何を言っても長時間無視し続ける】、【大声でどなる】で増加している。



第2章 調査結果の詳細



第2章 調査結果の詳細

【性別・性／年齢別】

性別でみると、配偶者から《経験がある》は【ドアや机を蹴るなど、大きな音を立てて脅かす】で女性（20.5％）が男性（7.1％）より13.4ポイント、【大声でどなる】で女性（27.9％）が男性（15.5％）より12.4ポイント、【「誰のおかげで生活できるのだ」「役立たず」などと言う】で女性（13.7％）が男性（3.7％）より10.0ポイント高くなっている。また、男性で配偶者から《経験がある》は、【大声でどなる】（15.5％）、【何を言っても長時間無視し続ける】（14.0％）で他の項目に比べて高くなっている。

性／年齢別でみると、【大声でどなる】で配偶者から《経験がある》が女性の40歳代（35.5％）、50歳代（33.5％）、60歳代（35.1％）で3割台となっている。また、【ドアや机を蹴るなど、大きな音を立てて脅かす】で配偶者から《経験がある》が男性の50歳代（13.1％）で1割以上、女性の40歳代（29.2％）、50歳代（26.2％）で約3割と他の年代に比べて高くなっている。

問18(ア)平手で打つ・こぶして殴る

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全くない	無回答	
	何度もあった	1〜2度あった	何度もあった	1〜2度あった			
全体	1468	2.0	7.2	0.7	2.5	84.7	3.5
男性	563	1.2	5.9	0.5	2.0	88.3	2.7
女性	863	2.4	8.1	0.7	2.9	83.4	3.0
男性／10・20歳代	56	-	5.4	-	3.6	91.1	-
30歳代	67	1.5	3.0	-	3.0	92.5	-
40歳代	84	3.6	6.0	1.2	1.2	86.9	2.4
50歳代	84	1.2	8.3	1.2	3.6	84.5	3.6
60歳代	137	1.5	5.8	0.7	1.5	86.9	3.6
70歳以上	135	-	5.9	-	0.7	89.6	3.7
女性／10・20歳代	99	-	2.0	1.0	3.0	92.9	1.0
30歳代	125	1.6	2.4	1.6	4.0	90.4	-
40歳代	144	4.2	9.0	-	6.9	79.2	2.8
50歳代	176	1.1	8.0	0.6	1.1	85.8	4.0
60歳代	177	2.3	14.1	-	1.1	81.4	1.7
70歳以上	141	5.0	9.2	1.4	2.1	74.5	7.8

問18(イ)足で蹴る

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全くない	無回答
	何度もあった	1〜2度あった	何度もあった	1〜2度あった		
全体	2.0	4.6	0.5	1.0	88.9	3.4
男性	1.1	4.4	0.2	0.9	90.8	2.8
女性	2.4	4.8	0.5	1.0	88.9	2.8
男性／10・20歳代	-	5.4	-	-	94.6	-
30歳代	1.5	1.5	-	-	97.0	-
40歳代	3.6	6.0	1.2	1.2	86.9	2.4
50歳代	1.2	4.8	-	1.2	88.1	4.8
60歳代	0.7	5.8	-	1.5	88.3	3.6
70歳以上	-	3.0	-	0.7	92.6	3.7
女性／10・20歳代	-	-	1.0	1.0	97.0	1.0
30歳代	1.6	1.6	0.8	-	96.0	-
40歳代	4.2	6.3	-	4.2	84.7	2.1
50歳代	1.7	4.5	0.6	0.6	89.8	3.4
60歳代	3.4	8.5	-	0.6	85.3	2.3
70歳以上	2.8	5.0	0.7	-	84.4	7.1

問18(ウ)物を投げつける

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全くない	無回答	
	何度もあった	1〜2度あった	何度もあった	1〜2度あった			
全体	1468	2.2	9.7	0.5	2.2	82.6	3.1
男性	563	0.9	8.7	0.2	1.8	85.8	3.0
女性	863	3.1	10.5	0.6	2.4	81.5	2.2
男性／10・20歳代	56	-	5.4	-	1.8	92.9	-
30歳代	67	-	4.5	-	3.0	91.0	1.5
40歳代	84	2.4	8.3	1.2	1.2	85.7	2.4
50歳代	84	-	6.0	-	3.6	88.1	3.6
60歳代	137	1.5	12.4	-	1.5	81.0	3.6
70歳以上	135	0.7	10.4	-	0.7	83.7	4.4
女性／10・20歳代	99	1.0	-	1.0	1.0	96.0	1.0
30歳代	125	1.6	4.8	1.6	6.4	85.6	0.8
40歳代	144	5.6	7.6	0.7	5.6	79.2	2.1
50歳代	176	1.1	13.1	0.6	0.6	82.4	2.3
60歳代	177	3.4	16.4	-	0.6	78.5	1.7
70歳以上	141	5.7	15.6	-	1.4	72.3	5.0

問18(エ)身体を傷つける可能性のある物などで殴る

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全くない	無回答
	何度もあった	1〜2度あった	何度もあった	1〜2度あった		
全体	0.8	1.6	0.3	0.6	93.5	3.3
男性	0.5	1.4	0.2	0.5	94.8	2.7
女性	0.9	1.7	0.2	0.7	93.7	2.8
男性／10・20歳代	-	-	-	-	100.0	-
30歳代	-	1.5	-	3.0	95.5	-
40歳代	2.4	1.2	1.2	-	94.0	2.4
50歳代	-	2.4	-	-	94.0	3.6
60歳代	0.7	2.2	-	0.7	92.7	3.6
70歳以上	-	0.7	-	-	95.6	3.7
女性／10・20歳代	-	-	1.0	1.0	97.0	1.0
30歳代	0.8	-	-	0.8	98.4	-
40歳代	1.4	1.4	-	1.4	94.4	2.1
50歳代	-	1.7	-	0.6	93.8	4.0
60歳代	1.7	2.8	-	-	93.8	1.7
70歳以上	1.4	3.5	0.7	0.7	86.5	7.1

問18(オ)殴るふりをして脅かす

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全くない	無回答	
	何度もあった	1〜2度あった	何度もあった	1〜2度あった			
全体	1468	2.5	6.6	0.7	1.2	85.8	3.3
男性	563	0.9	4.4	-	1.4	90.2	3.0
女性	863	3.5	8.2	1.0	1.0	83.9	2.5
男性/10・20歳代	56	3.6	1.8	-	-	94.6	-
30歳代	67	1.5	1.5	-	-	95.5	1.5
40歳代	84	1.2	1.2	-	1.2	94.0	2.4
50歳代	84	-	6.0	-	2.4	88.1	3.6
60歳代	137	-	5.1	-	2.9	87.6	4.4
70歳以上	135	0.7	7.4	-	0.7	87.4	3.7
女性/10・20歳代	99	-	1.0	2.0	4.0	91.9	1.0
30歳代	125	2.4	3.2	2.4	-	92.0	-
40歳代	144	5.6	11.8	0.7	1.4	79.2	2.1
50歳代	176	2.3	8.5	0.6	0.6	85.2	2.8
60歳代	177	5.1	10.2	-	1.1	82.5	1.7
70歳以上	141	4.3	11.3	1.4	-	75.9	7.1

問18(カ)刃物などを突きつけて脅かす

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全くない	無回答	
	何度もあった	1〜2度あった	何度もあった	1〜2度あった			
全体	1468	0.5	1.2	0.1	0.3	94.3	3.5
男性	563	-	1.6	-	0.4	95.6	2.7
女性	863	0.8	0.9	0.1	0.3	94.7	3.1
男性/10・20歳代	56	-	-	-	-	100.0	-
30歳代	67	-	-	-	-	100.0	-
40歳代	84	-	1.2	-	1.2	96.4	2.4
50歳代	84	-	1.2	-	1.2	94.0	3.6
60歳代	137	-	3.6	-	-	92.7	3.6
70歳以上	135	-	1.5	-	-	94.8	3.7
女性/10・20歳代	99	-	1.0	1.0	1.0	96.0	1.0
30歳代	125	-	0.8	-	-	99.2	-
40歳代	144	-	2.1	-	-	95.8	2.1
50歳代	176	0.6	-	-	0.6	94.9	4.0
60歳代	177	1.7	1.1	-	-	95.5	1.7
70歳以上	141	2.1	0.7	-	0.7	87.2	9.2

問18(キ)突き飛ばしたり、壁に叩きつけたりする

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全くない	無回答	
	何度もあった	1〜2度あった	何度もあった	1〜2度あった			
全体	1468	1.4	2.9	0.5	0.9	91.1	3.2
男性	563	0.2	1.1	0.2	0.5	95.4	2.7
女性	863	2.1	4.2	0.6	1.2	89.6	2.5
男性/10・20歳代	56	-	-	-	-	100.0	-
30歳代	67	-	-	-	-	100.0	-
40歳代	84	1.2	2.4	-	-	94.0	2.4
50歳代	84	-	-	-	1.2	95.2	3.6
60歳代	137	-	1.5	-	1.5	93.4	3.6
70歳以上	135	-	1.5	0.7	-	94.1	3.7
女性/10・20歳代	99	-	1.0	2.0	2.0	93.9	1.0
30歳代	125	1.6	2.4	0.8	4.0	91.2	-
40歳代	144	4.2	7.6	0.7	-	86.1	2.1
50歳代	176	1.1	4.5	0.6	0.6	90.3	2.8
60歳代	177	1.7	5.1	-	-	91.5	1.7
70歳以上	141	3.5	2.8	-	1.4	85.1	7.1

問18(ク)ドアや机を蹴るなど、大きな音を立てて脅かす

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全くない	無回答	
	何度もあった	1〜2度あった	何度もあった	1〜2度あった			
全体	1468	4.7	10.4	1.0	2.2	79.2	3.3
男性	563	1.8	5.3	0.4	1.1	89.2	2.8
女性	863	6.5	14.0	1.2	3.0	73.7	2.5
男性/10・20歳代	56	5.4	1.8	-	-	92.9	-
30歳代	67	1.5	1.5	1.5	1.5	97.0	-
40歳代	84	2.4	4.8	-	1.2	89.3	2.4
50歳代	84	3.6	9.5	1.2	2.4	79.8	4.8
60歳代	137	0.7	8.8	-	0.7	86.1	3.6
70歳以上	135	-	3.0	-	0.7	92.6	3.7
女性/10・20歳代	99	1.0	3.0	2.0	4.0	88.9	1.0
30歳代	125	6.4	11.2	2.4	5.6	76.0	-
40歳代	144	12.5	16.7	1.4	2.8	66.7	2.1
50歳代	176	5.7	20.5	0.6	2.8	67.6	4.0
60歳代	177	6.8	18.1	-	1.7	72.9	1.1
70歳以上	141	5.0	8.5	1.4	2.1	76.6	6.4

問18(ケ)相手が嫌がっているのに性的な行為を強制する

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全くない	無回答	
	何度もあった	1〜2度あった	何度もあった	1〜2度あった			
全体	1468	1.8	3.5	0.8	1.2	89.4	3.3
男性	563	-	1.1	0.2	0.2	95.9	2.7
女性	863	2.7	5.2	1.2	1.9	86.6	2.8
男性/10・20歳代	56	-	-	-	-	100.0	-
30歳代	67	-	-	-	-	100.0	-
40歳代	84	-	-	-	-	97.6	2.4
50歳代	84	-	2.4	1.2	-	92.9	3.6
60歳代	137	-	1.5	-	0.7	94.2	3.6
70歳以上	135	-	1.5	-	-	94.8	3.7
女性/10・20歳代	99	-	-	5.1	2.0	91.9	1.0
30歳代	125	3.2	3.2	1.6	2.4	89.6	-
40歳代	144	2.1	4.2	0.7	3.5	88.2	2.1
50歳代	176	2.8	3.4	-	1.7	88.6	3.4
60歳代	177	2.3	9.0	0.6	0.6	86.4	1.7
70歳以上	141	5.0	9.2	0.7	1.4	75.9	7.8

問18(コ)見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全くない	無回答	
	何度もあった	1〜2度あった	何度もあった	1〜2度あった			
全体	1468	0.4	1.4	0.1	0.1	94.6	3.4
男性	563	-	0.4	0.2	-	96.8	2.7
女性	863	0.7	2.1	-	0.2	94.1	2.9
男性/10・20歳代	56	-	-	-	-	100.0	-
30歳代	67	-	-	-	-	100.0	-
40歳代	84	-	-	-	-	97.6	2.4
50歳代	84	-	-	1.2	-	95.2	3.6
60歳代	137	-	1.5	-	-	94.9	3.6
70歳以上	135	-	-	-	-	96.3	3.7
女性/10・20歳代	99	-	-	-	1.0	98.0	1.0
30歳代	125	0.8	0.8	-	-	98.4	-
40歳代	144	-	0.7	-	-	97.2	2.1
50歳代	176	1.1	1.1	-	0.6	93.2	4.0
60歳代	177	0.6	3.4	-	-	93.8	2.3
70歳以上	141	1.4	5.7	-	-	85.8	7.1

第2章 調査結果の詳細

問18(サ)何を言っても長時間無視し続ける

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)				恋人から		全 く な い	無 回 答
	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た				
					何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た		
全 体	1468	3.9	11.2	0.9	2.9	78.7	3.2	
男性	563	2.5	11.5	0.7	4.1	79.8	2.7	
女性	863	4.6	11.0	0.9	2.2	79.0	2.5	
男性/10・20歳代	56	-	7.1	-	5.4	89.3	-	
30歳代	67	4.5	6.0	-	4.5	85.1	-	
40歳代	84	4.8	13.1	1.2	4.8	77.4	2.4	
50歳代	84	2.4	14.3	1.2	7.1	73.8	3.6	
60歳代	137	1.5	13.9	0.7	4.4	76.6	3.6	
70歳以上	135	2.2	11.1	0.7	0.7	81.5	3.7	
女性/10・20歳代	99	1.0	1.0	5.1	2.0	90.9	1.0	
30歳代	125	5.6	3.2	0.8	4.0	87.2	-	
40歳代	144	8.3	13.9	-	4.9	71.5	2.1	
50歳代	176	3.4	10.2	1.1	1.7	80.7	2.8	
60歳代	177	4.5	15.3	-	-	78.5	1.7	
70歳以上	141	4.3	17.7	-	1.4	69.5	7.1	

問18(シ)交友関係や電話・郵便物などを細かく監視する

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全 く な い	無 回 答
	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た		
全 体	2.3	4.2	1.0	1.3	88.0	3.4
男性	1.1	3.7	0.9	1.4	90.4	2.7
女性	3.0	4.3	0.9	1.2	87.9	2.9
男性/10・20歳代	1.8	-	3.6	-	94.6	-
30歳代	-	1.5	3.0	3.0	92.5	-
40歳代	2.4	1.2	1.2	1.2	92.9	2.4
50歳代	1.2	3.6	-	2.4	89.3	3.6
60歳代	0.7	7.3	-	1.5	86.9	3.6
70歳以上	0.7	4.4	-	0.7	90.4	3.7
女性/10・20歳代	-	2.0	4.0	3.0	89.9	1.0
30歳代	2.4	3.2	0.8	1.6	92.0	-
40歳代	4.9	3.5	1.4	2.8	86.8	2.1
50歳代	3.4	3.4	0.6	0.6	88.1	4.0
60歳代	3.4	7.3	-	-	87.6	1.7
70歳以上	2.8	5.0	-	-	84.4	7.8

問18(ス)「誰のおかげで生活できるのだ」「役立たずなどと言う

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全 く な い	無 回 答	
	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た			
							何 度 も あ っ た
全 体	4.2	5.6	0.5	0.3	86.2	3.4	
男性	1.4	2.3	-	0.4	93.3	2.7	
女性	863	5.9	7.8	0.6	0.2	82.6	2.9
男性/10・20歳代	56	5.4	3.6	-	-	91.1	-
30歳代	67	1.5	-	-	-	98.5	-
40歳代	84	2.4	1.2	-	-	94.0	2.4
50歳代	84	1.2	3.6	-	1.2	90.5	3.6
60歳代	137	0.7	3.6	-	-	92.0	3.6
70歳以上	135	-	1.5	-	0.7	94.1	3.7
女性/10・20歳代	99	-	2.0	3.0	-	93.9	1.0
30歳代	125	3.2	7.2	0.8	0.8	88.0	-
40歳代	144	10.4	8.3	-	0.7	78.5	2.1
50歳代	176	6.8	10.2	-	-	78.4	4.5
60歳代	177	9.0	9.0	-	-	80.2	1.7
70歳以上	141	2.8	6.4	0.7	-	83.0	7.1

問18(セ)大声でどなる

調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全 く な い	無 回 答
	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た		
全 体	9.1	13.7	1.4	3.1	70.5	3.2
男性	4.1	11.4	0.2	3.0	79.4	2.7
女性	12.3	15.6	2.0	3.2	65.4	2.5
男性/10・20歳代	7.1	1.8	-	-	91.1	-
30歳代	1.5	-	-	3.0	95.5	-
40歳代	3.6	10.7	-	2.4	82.1	2.4
50歳代	6.0	16.7	-	7.1	70.2	3.6
60歳代	4.4	15.3	-	2.9	73.7	3.6
70歳以上	3.0	14.1	0.7	2.2	76.3	3.7
女性/10・20歳代	1.0	3.0	4.0	3.0	87.9	1.0
30歳代	8.0	12.8	2.4	6.4	72.8	-
40歳代	18.8	16.7	2.1	5.6	57.6	2.1
50歳代	14.2	19.3	1.1	2.3	60.2	3.4
60歳代	15.3	19.8	1.7	1.1	61.0	1.7
70歳以上	11.3	16.3	1.4	2.1	62.4	6.4

問18(ソ)生活費を渡さない

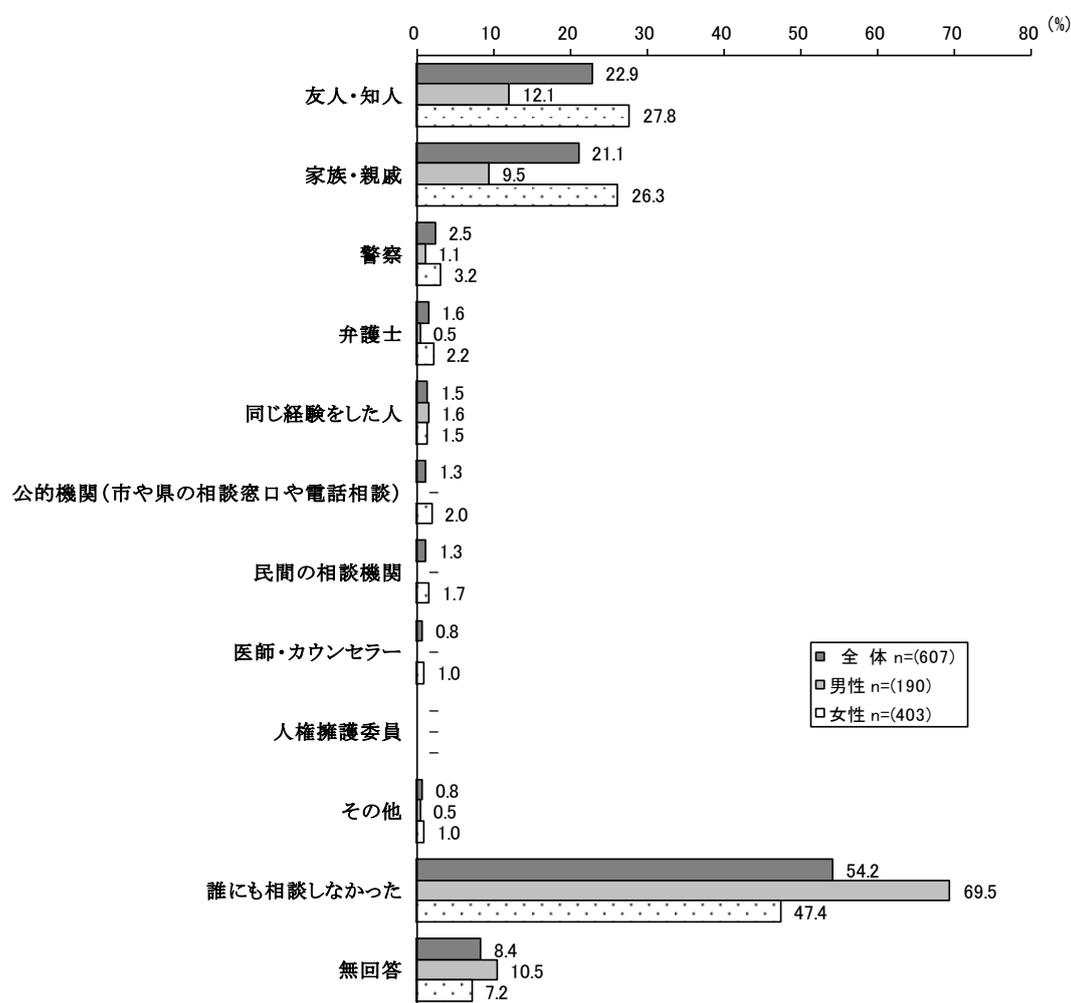
調査数	配偶者 (事実婚等を含む)		恋人から		全 く な い	無 回 答	
	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	1 〜 2 度 あ っ た			
							何 度 も あ っ た
全 体	3.3	2.4	0.6	0.4	89.6	3.7	
男性	563	1.1	1.1	0.2	0.5	94.5	2.8
女性	863	4.8	3.4	0.8	0.2	87.5	3.4
男性/10・20歳代	56	-	3.6	-	-	96.4	-
30歳代	67	-	-	-	-	100.0	-
40歳代	84	1.2	-	-	-	96.4	2.4
50歳代	84	-	1.2	-	2.4	92.9	3.6
60歳代	137	2.9	0.7	0.7	-	92.0	4.4
70歳以上	135	0.7	1.5	-	0.7	93.3	3.7
女性/10・20歳代	99	1.0	-	2.0	-	96.0	1.0
30歳代	125	2.4	4.0	1.6	0.8	90.4	0.8
40歳代	144	6.3	2.1	0.7	-	88.2	2.8
50歳代	176	4.0	3.4	0.6	0.6	87.5	4.0
60歳代	177	6.8	6.2	-	-	83.6	3.4
70歳以上	141	6.4	2.8	0.7	-	83.0	7.1

(3) 「暴力にあたる」と思う行為を受けた際の相談相手について

(問18で1つでも「何度もあった」から「1～2度あった」と答えた方に)
問18-1 誰かに相談しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

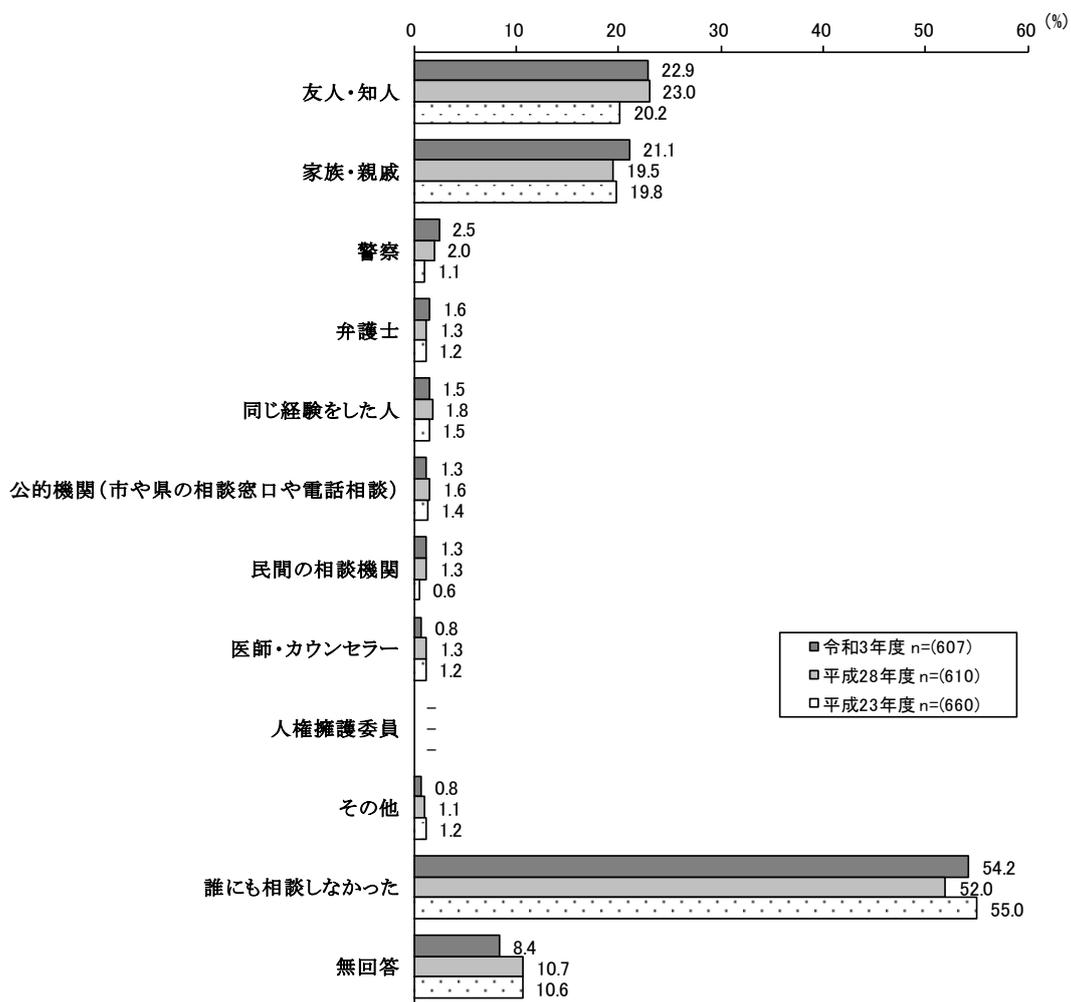
「暴力にあたる」と思う行為を受けた際の相談相手について、「友人・知人」が22.9%と最も高く、以下、「家族・親戚」(21.1%)、「警察」(2.5%)となっている。一方で、「誰にも相談しなかった」が54.2%と過半数を占めている。

性別で見ると、「誰にも相談しなかった」は男性(69.5%)が女性(47.4%)より22.1ポイント高くなっている。一方で、「家族・親戚」は女性(26.3%)が男性(9.5%)より16.8ポイント、「友人・知人」は女性(27.8%)が男性(12.1%)より15.7ポイント高くなっている。



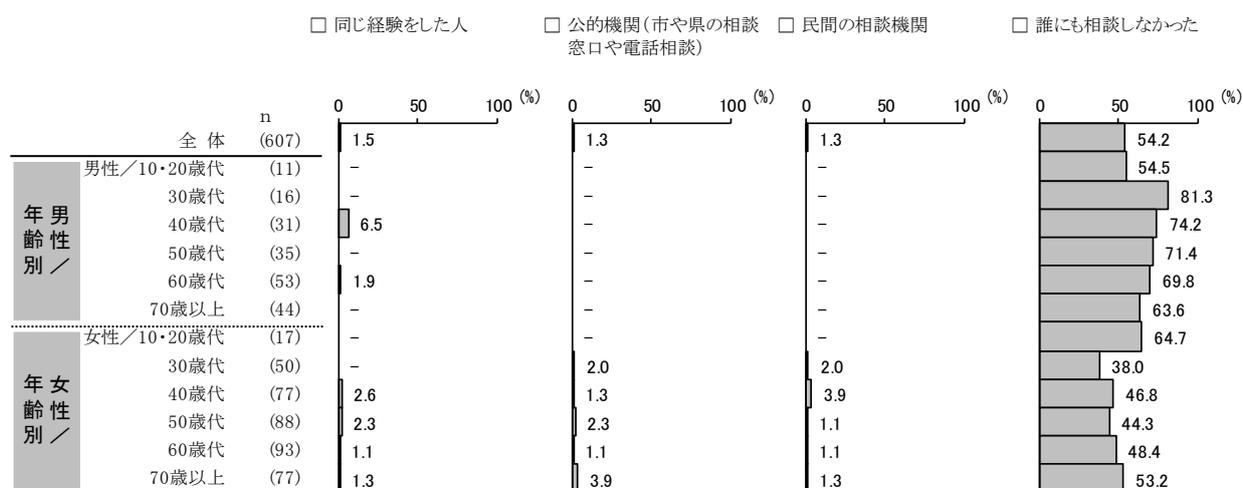
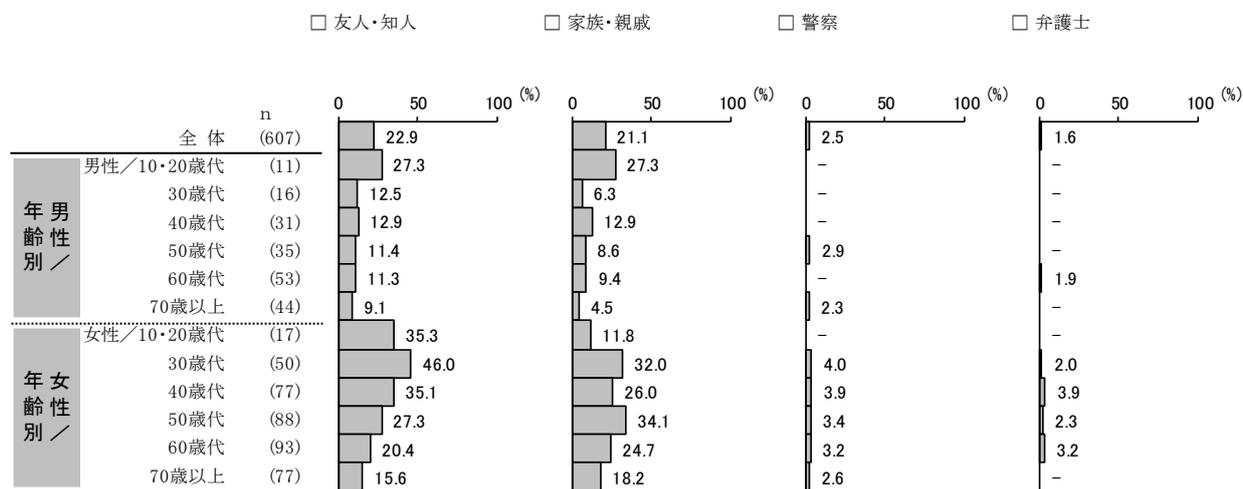
【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、特に大きな変化はみられない。



【性／年齢別（上位7項目＋「誰にも相談しなかった」）】

性／年齢別は一部回答者数が少ないため参考にみると、男性では、「誰にも相談しなかった」がすべての年代で過半数を占めている。また、10・20歳代、30歳代では「友人・知人」、「家族・親戚」以外の回答がみられなかった。女性では、「友人・知人」が30歳代（46.0%）、40歳代（35.1%）で最も高くなっている。「家族・親戚」は50歳代から70歳以上で最も高くなっている。

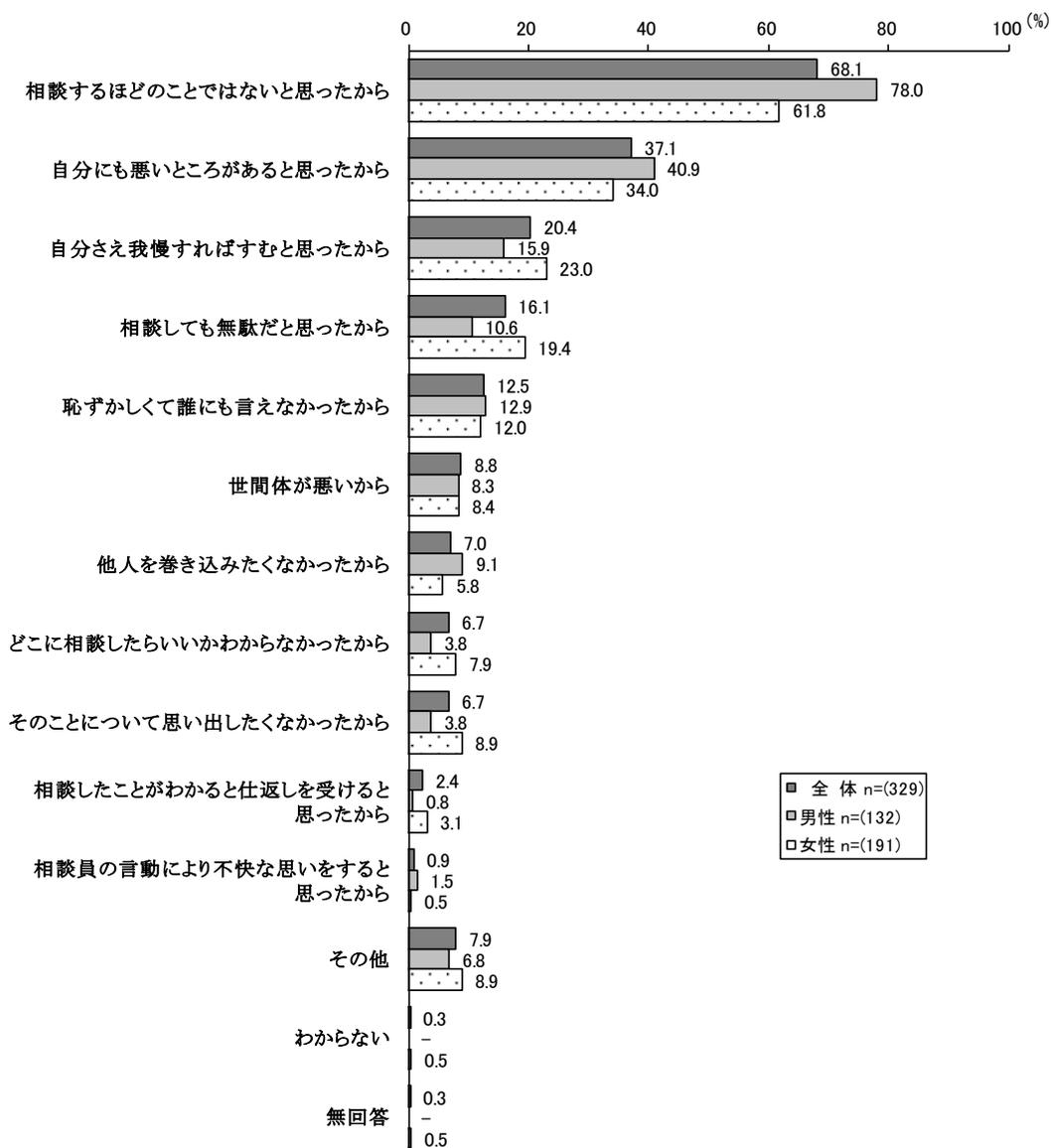


(4) 「暴力にあたる」と思う行為を受けた際、相談しなかった理由

(問18-1で「誰にも相談しなかった」と答えた方に)
 問18-1-1 相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべてお選びください。

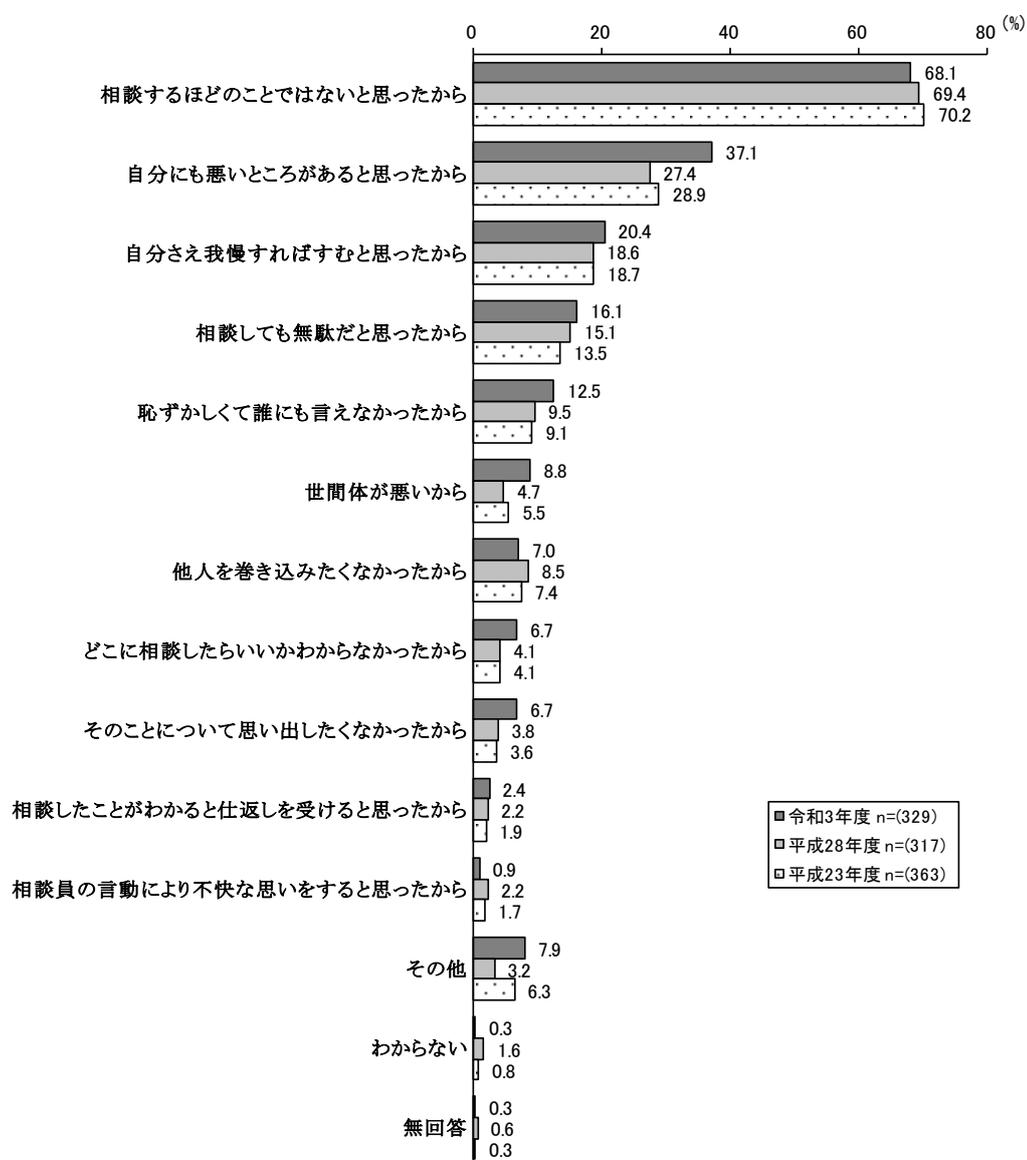
「暴力にあたる」と思う行為を受けた際、相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思ったから」が68.1%と最も高く、以下、「自分にも悪いところがあると思ったから」(37.1%)、「自分さえ我慢すればすむと思ったから」(20.4%)となっている。

性別でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」は男性(78.0%)が女性(61.8%)より16.2ポイント、「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性(40.9%)が女性(34.0%)より6.9ポイント高くなっている。一方で、「相談しても無駄だと思ったから」は女性(19.4%)が男性(10.6%)より8.8ポイント、「自分さえ我慢すればすむと思ったから」は女性(23.0%)が男性(15.9%)より7.1ポイント高くなっている。

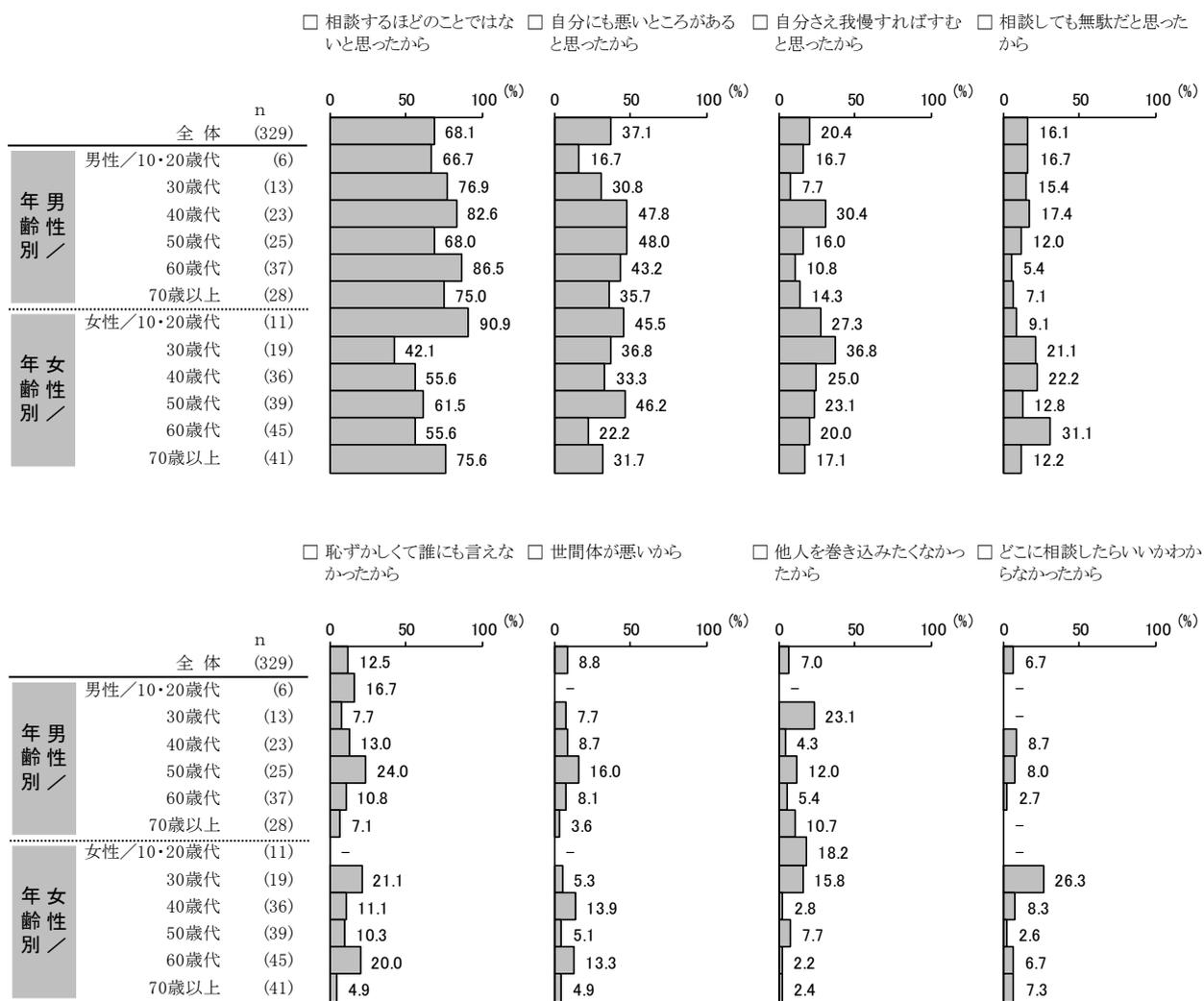


【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「自分にも悪いところがあると思ったから」は9.7ポイント高くなっている。



【参考一性／年齢別（上位8項目）】



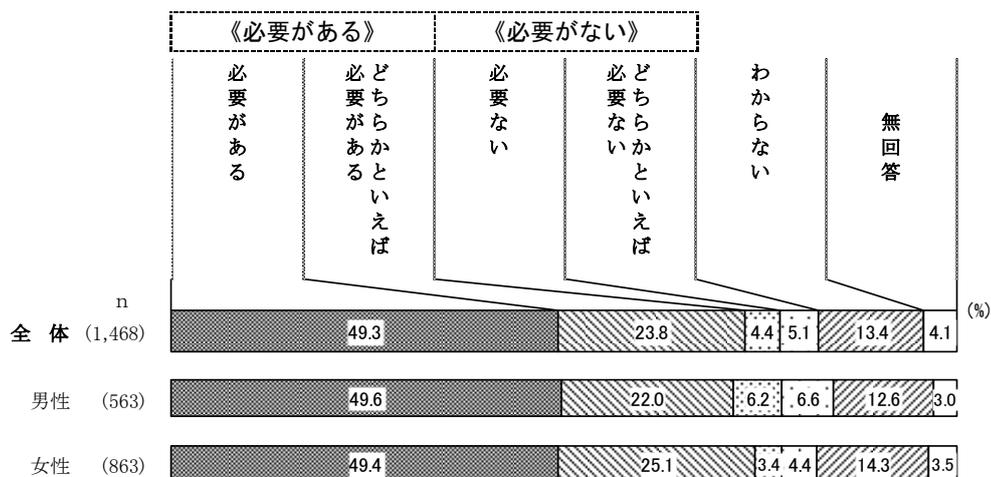
8. 防災について

(1) 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応の必要性

問19 防災・災害復興対策に、男女の性別に配慮した対応がとられる必要があると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

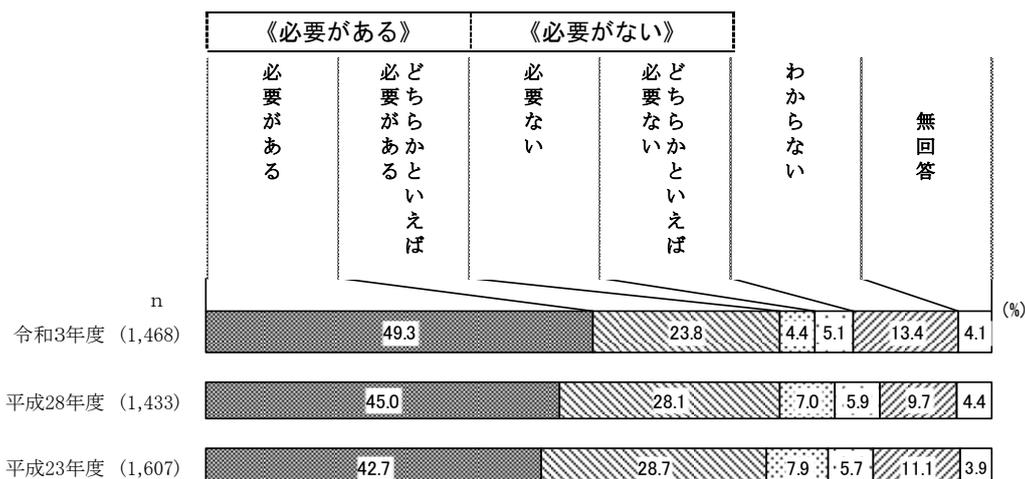
防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応の必要性について、「必要がある」が49.3%と最も高くなっている。また、「必要がある」と「どちらかといえば必要がある」を合わせた《必要がある》は73.1%となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。



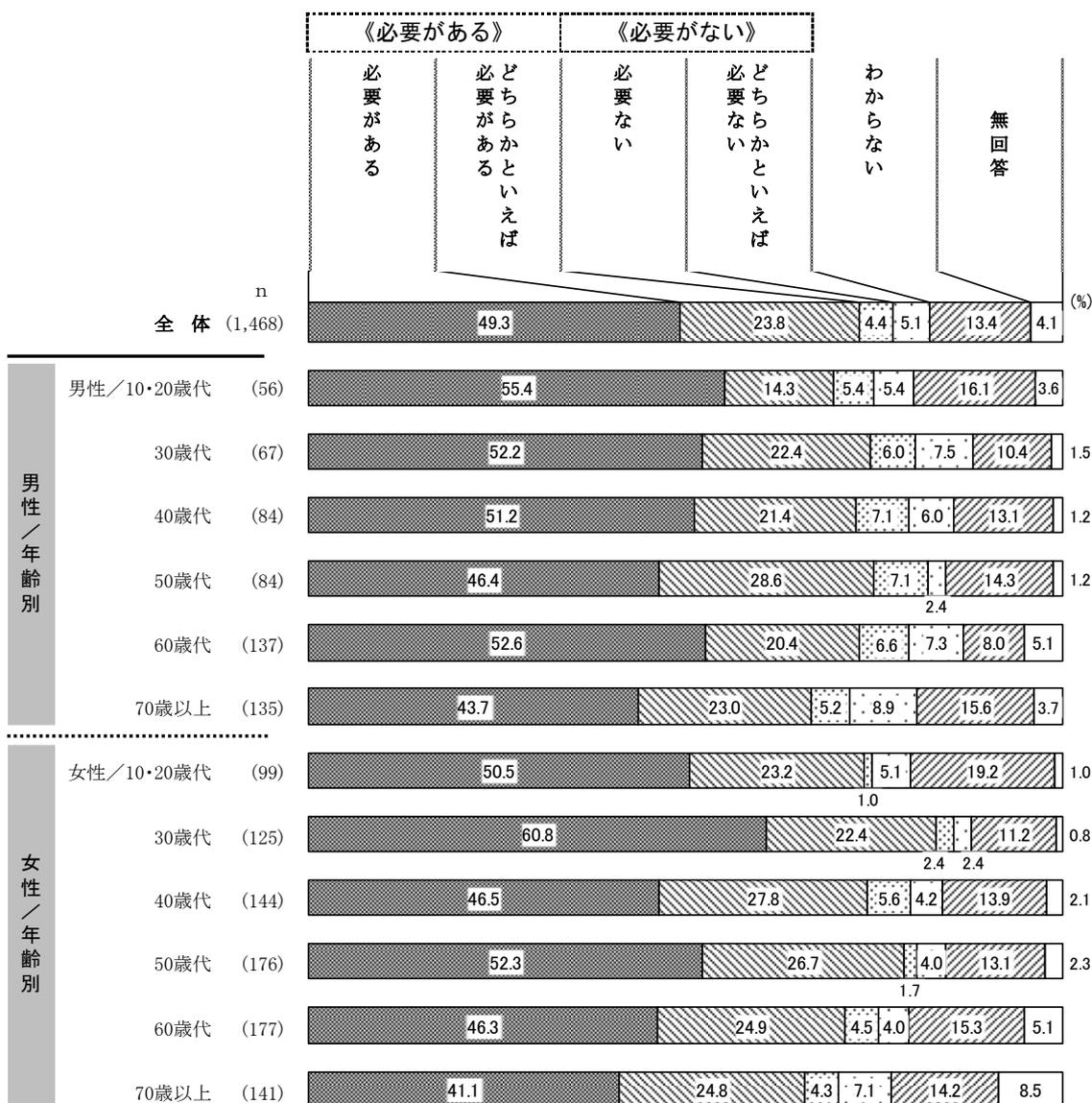
【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、特に大きな変化はみられない。



【性／年齢別】

性／年齢別でみると、男性では、《必要がある》が30歳代から60歳代で7割以上を占めている。女性では、《必要がある》が30歳代（83.2%）で8割以上、50歳代（79.0%）で約8割と高くなっているが、70歳以上で65.9%と他の年代に比べて低くなっている。



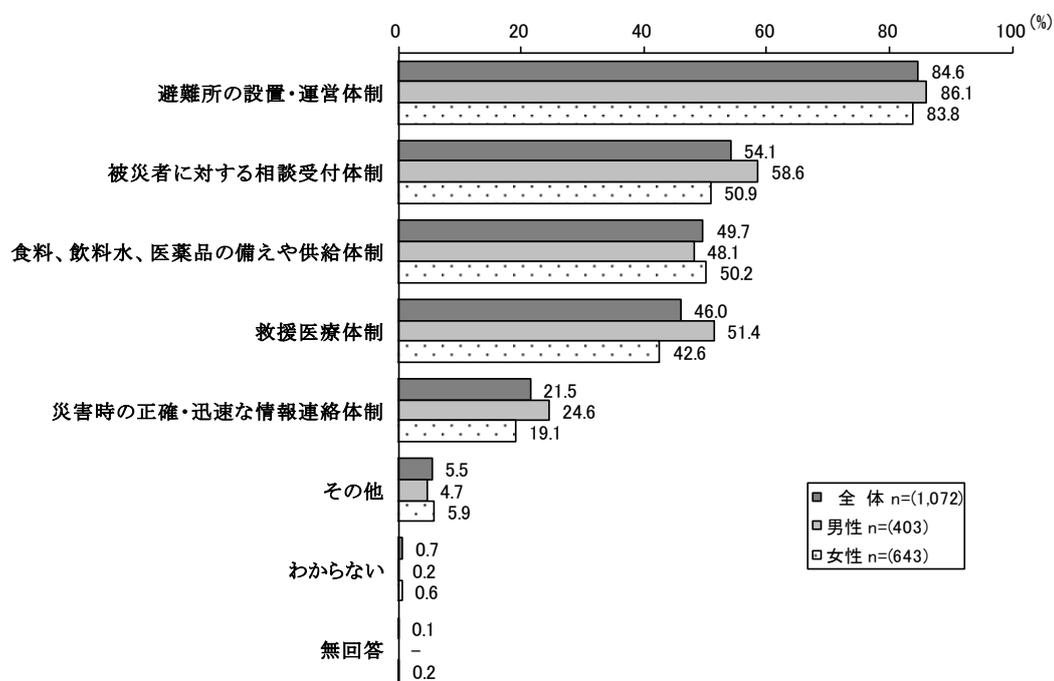
(2) 防災・災害復興対策において、性別に配慮して取り組む必要があるもの

(問19で「必要がある」「どちらかといえば必要がある」と答えた方に)

問19-1 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

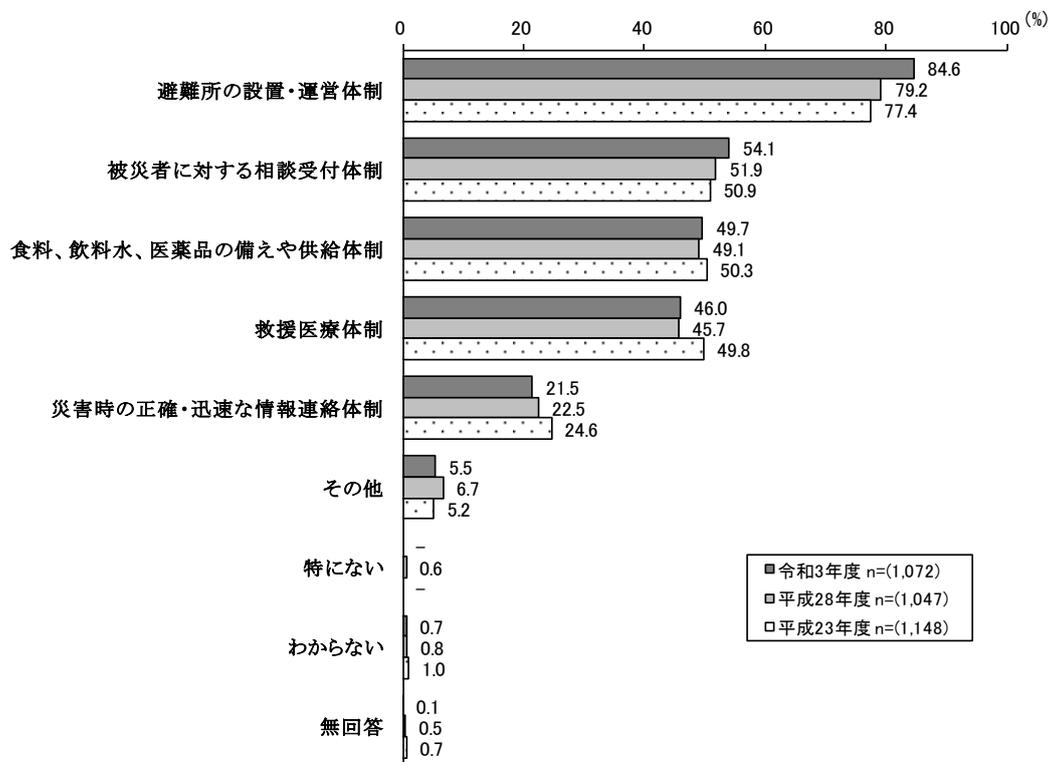
防災・災害復興対策において、性別に配慮して取り組む必要があるものについて、「避難所の設置・運営体制」が84.6%と最も高く、以下、「被災者に対する相談受付体制」(54.1%)、「食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制」(49.7%)、「救援医療体制」(46.0%)となっている。

性別でみると、「救援医療体制」は男性(51.4%)が女性(42.6%)より8.8ポイント、「被災者に対する相談受付体制」は男性(58.6%)が女性(50.9%)より7.7ポイント、「災害時の正確・迅速な情報連絡体制」は男性(24.6%)が女性(19.1%)より5.5ポイント高くなっている。



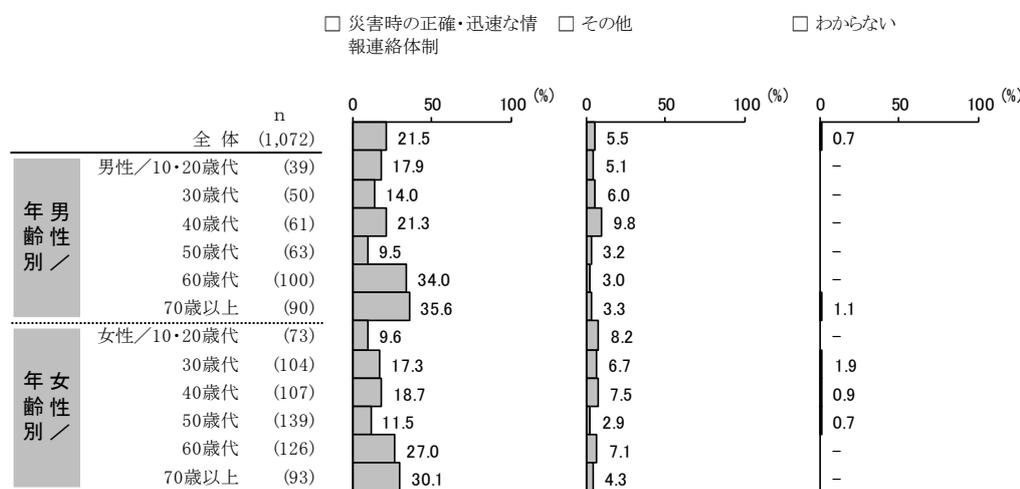
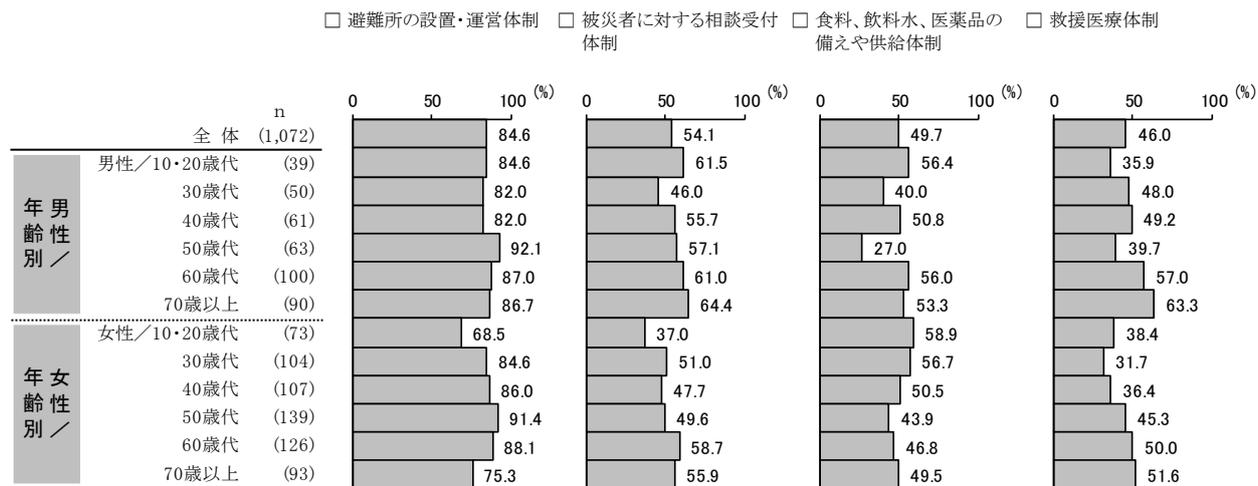
【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「避難所の設置・運営体制」は5.4ポイント高くなっている。



【性／年齢別】

性／年齢別で見ると、男性では、「避難所の設置・運営体制」がすべての年代で最も高く8割以上となっており、特に50歳代（92.1%）で9割以上と高くなっている。また、30歳代を除くすべての年代で「被災者に対する相談受付体制」が次いで高くなっており、30歳代では「救援医療体制」が次いで高くなっている。女性では、「避難所の設置・運営体制」がすべての年代で最も高く、特に50歳代（91.4%）で9割以上と高くなっている。また、10・20歳代から40歳代で「食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制」が次いで高く、50歳代から70歳以上で「被災者に対する相談受付体制」が次いで高くなっている。



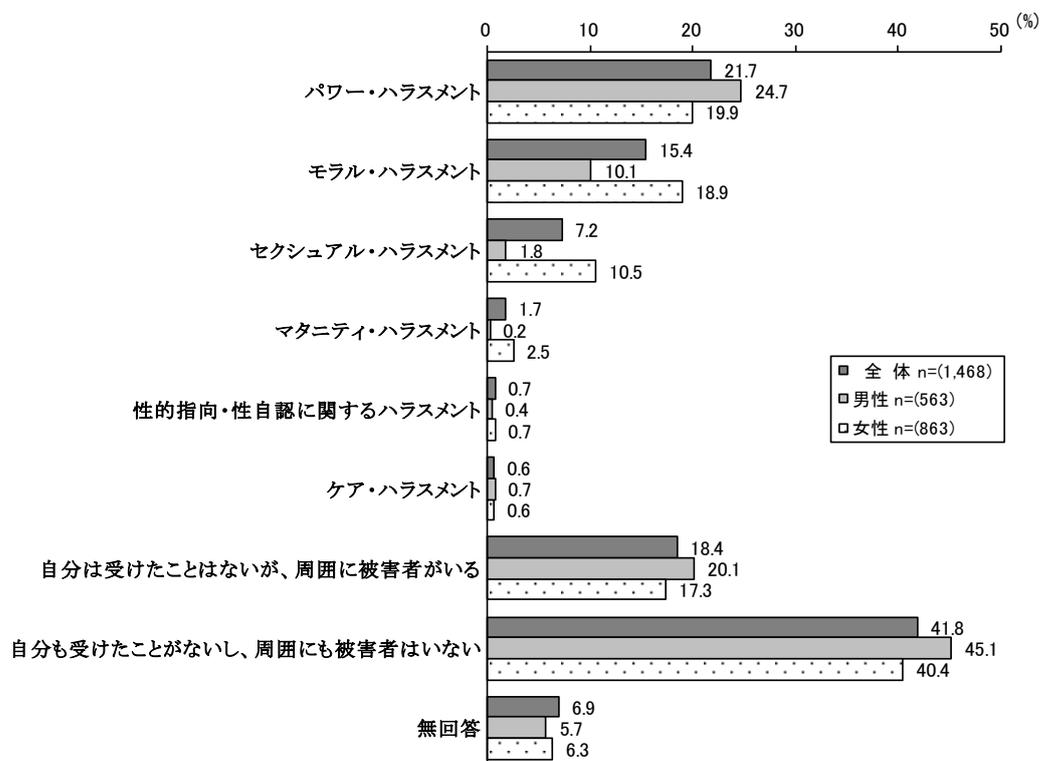
9. 人権について

(1) ハラスメントを受けた経験

問20 あなたは次のようなハラスメントを受けた経験がありますか。あてはまるものをすべてお選びください。

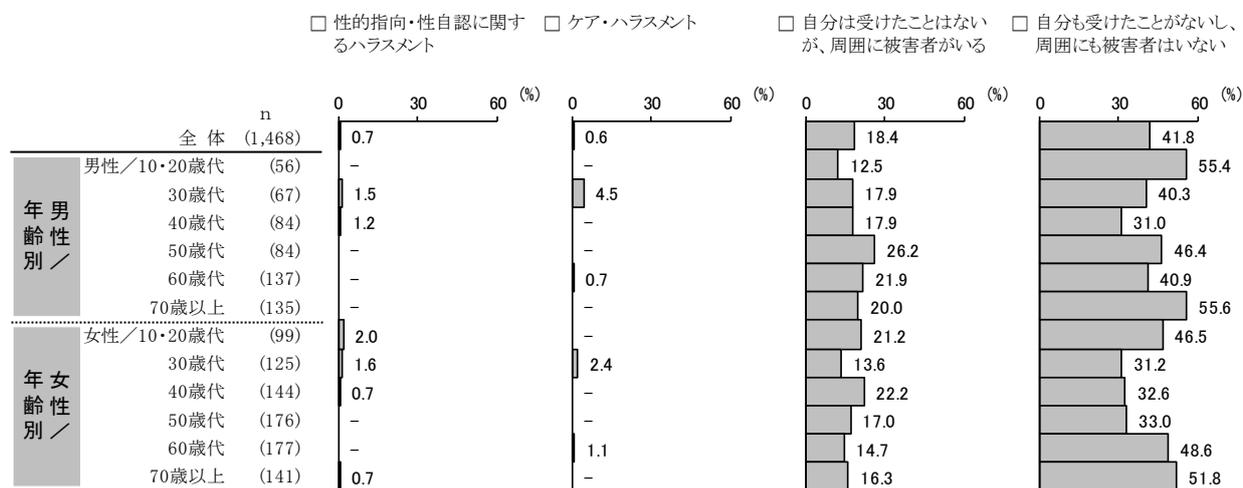
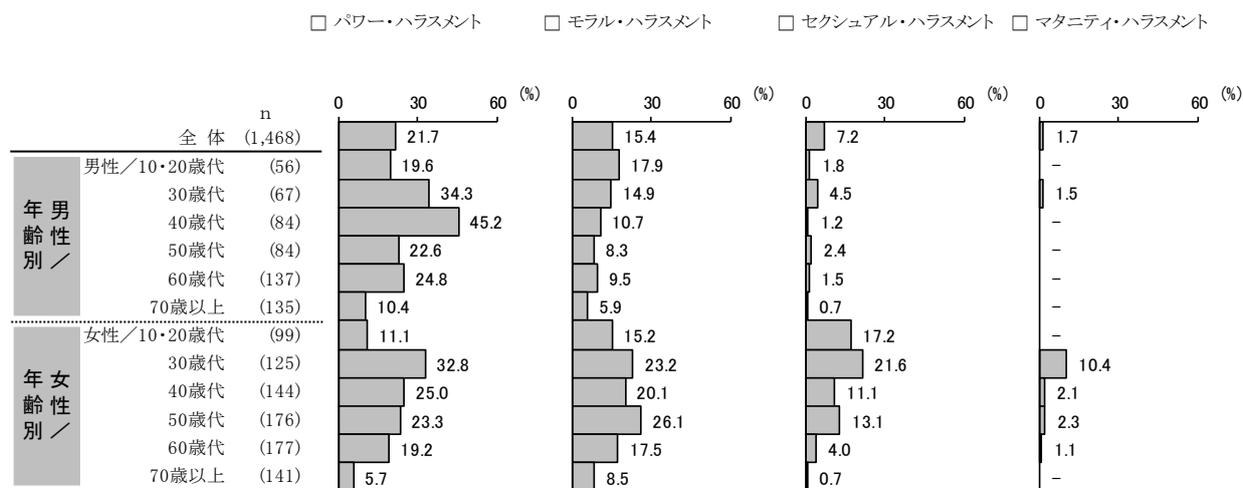
ハラスメントを受けた経験について、ハラスメントの中では「パワー・ハラスメント」が21.7%と最も高く、以下、「モラル・ハラスメント」(15.4%)、「セクシュアル・ハラスメント」(7.2%)となっている。一方で、「自分も受けたことがないし、周囲にも被害者はいない」が41.8%を占めており、「自分は受けたことはないが、周囲に被害者がいる」(18.4%)も約2割を占めている。

性別でみると、「モラル・ハラスメント」は女性(18.9%)が男性(10.1%)より8.8ポイント、「セクシュアル・ハラスメント」は女性(10.5%)が男性(1.8%)より8.7ポイント高くなっている。



【性／年齢別】

性／年齢別でみると、男性では、「自分も受けたことがないし、周囲にも被害者はいない」が10・20歳代（55.4%）、70歳以上（55.6%）で過半数を占めている。ハラスメントの中では、すべての年代で「パワー・ハラスメント」が最も高く、特に40歳代で45.2%と高くなっており、次いで、すべての年代で「モラル・ハラスメント」が高くなっている。女性では、「自分も受けたことがないし、周囲にも被害者はいない」が70歳以上（51.8%）で過半数を占めている。ハラスメントの中では、30歳代（32.8%）、40歳代（25.0%）、60歳代（19.2%）で「パワー・ハラスメント」が最も高く、50歳代、（26.1%）、70歳以上（8.5%）で「モラル・ハラスメント」、10・20歳代（17.2%）で「セクシュアル・ハラスメント」が最も高くなっている。

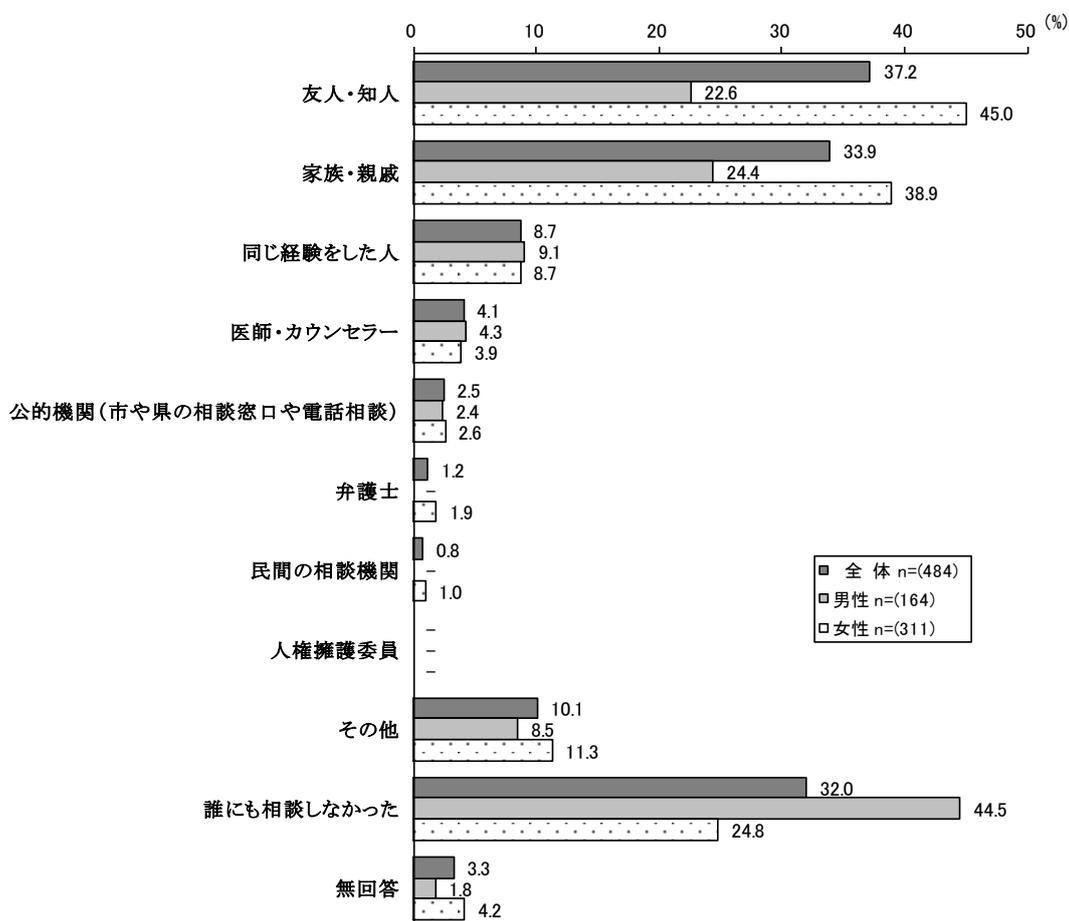


(2) ハラスメントを受けた際の相談相手について

(問20で1つでも「パワー・ハラスメント」から「性的指向・性自認に関するハラスメント」と答えた方に)
 問20-1 ハラスメント被害を誰かに相談しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

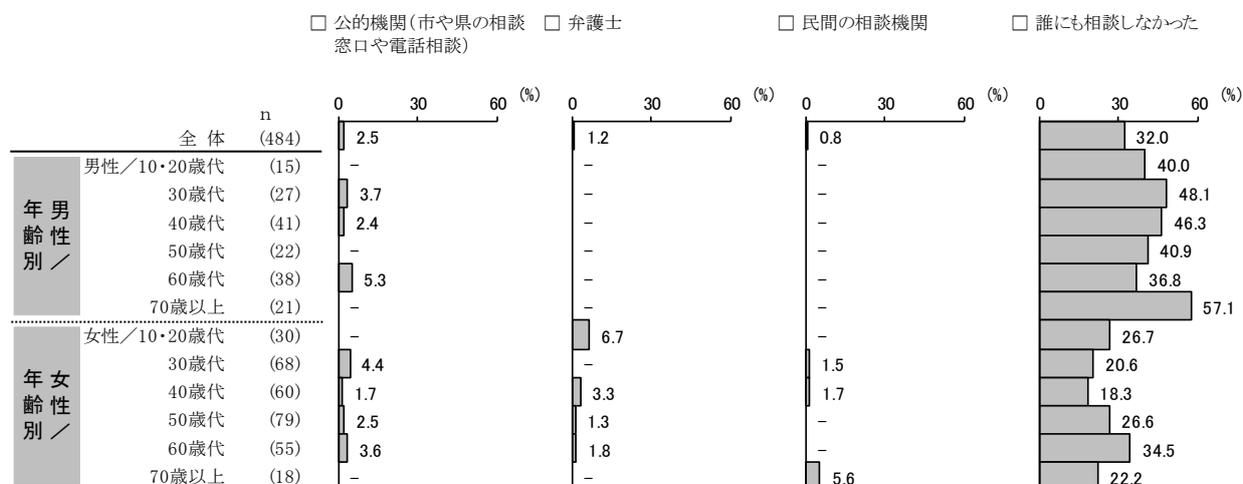
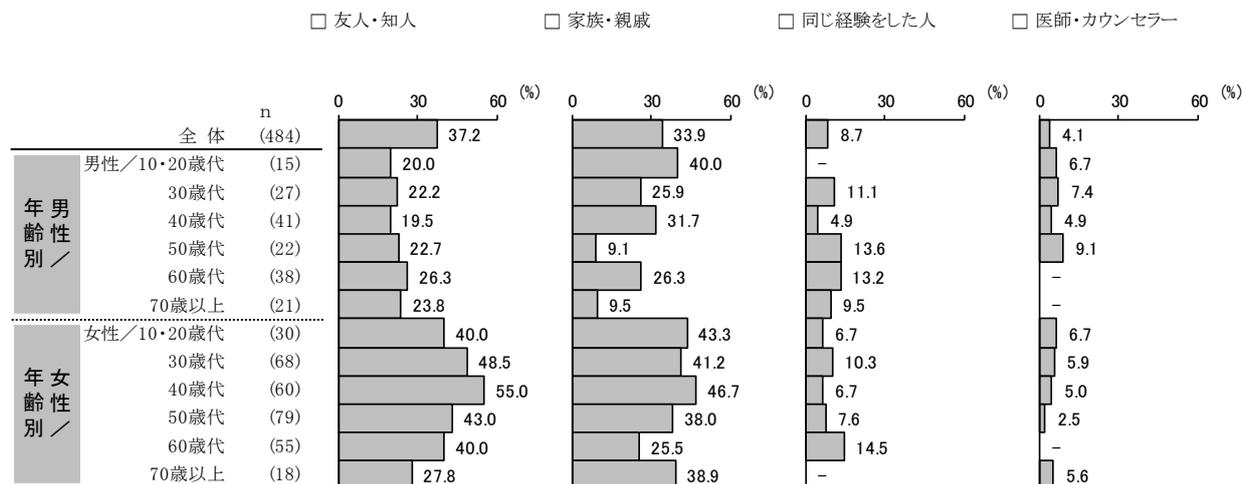
ハラスメントを受けた際の相談相手について、「友人・知人」が37.2%と最も高く、以下、「家族・親戚」(33.9%)、「同じ経験をした人」(8.7%)となっている。一方で、「誰にも相談しなかった」が32.0%となっている。

性別でみると、「誰にも相談しなかった」は男性(44.5%)が女性(24.8%)より19.7ポイント高くなっている。一方で、「友人・知人」は女性(45.0%)が男性(22.6%)より22.4ポイント、「家族・親戚」は女性(38.9%)が男性(24.4%)より14.5ポイント高くなっている。



【性／年齢別（上位7項目＋「誰にも相談しなかった」）】

性／年齢別は一部回答者数が少ないため参考みにみると、男性では、すべての年代で「誰にも相談しなかった」が最も高くなっている。40歳代で「家族・親戚」が31.7%と次いで高く、60歳代では「友人・知人」と「家族・親戚」が26.3%と次いで高くなっている。女性では、30歳代から60歳代で「友人・知人」と「家族・親戚」が最も高く、特に40歳代で55.0%と高くなっている。10・20歳代、70歳以上では「家族・親戚」が最も高くなっており、30歳代（41.2%）、40歳代（46.7%）でも4割台となっている。

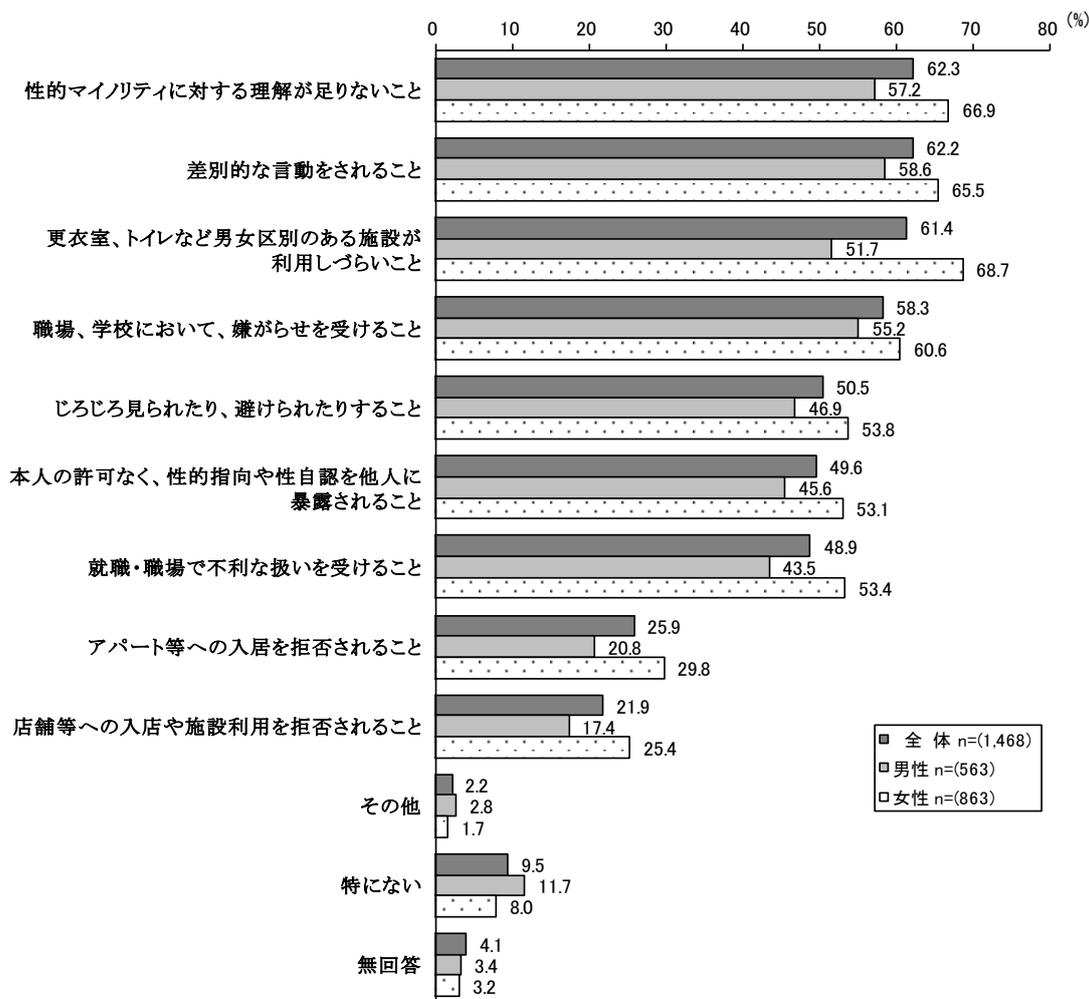


(3) 性的マイノリティが困っていること

問21 あなたは、性的マイノリティ（LGBT等）の当事者が困っていることはどのようなことだと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

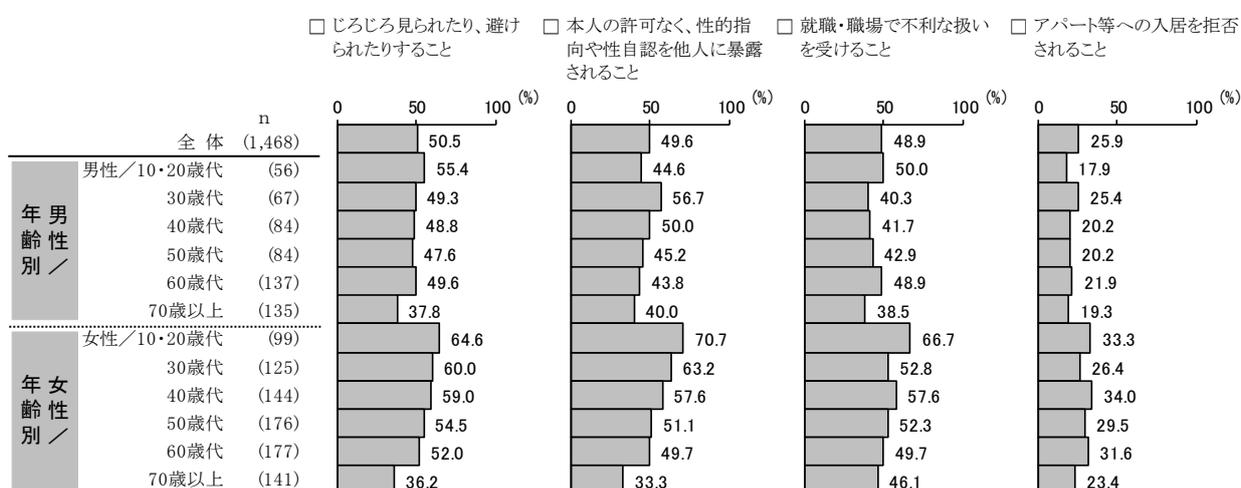
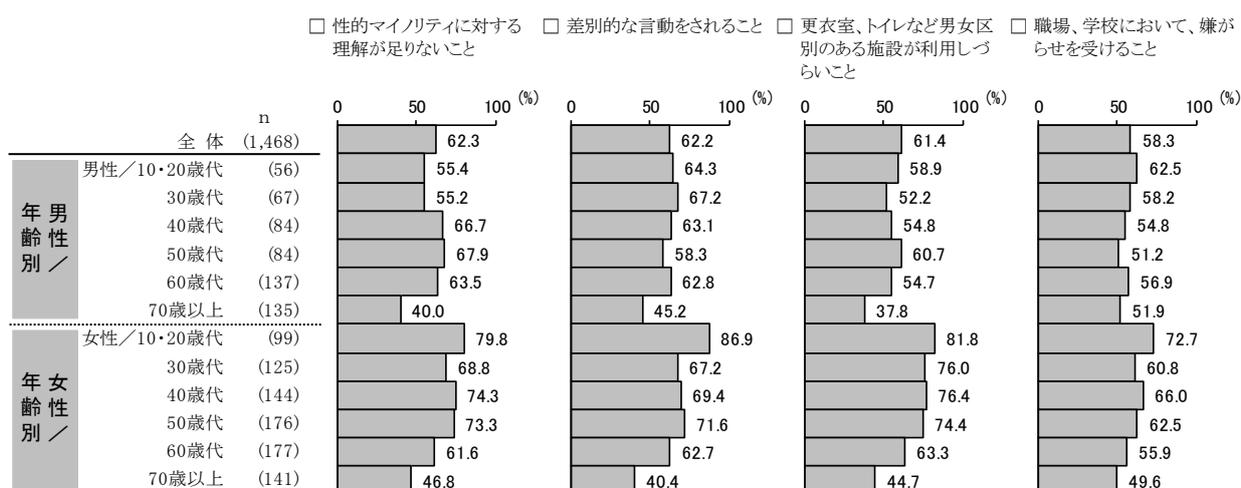
性的マイノリティが困っていることについて、「性的マイノリティに対する理解が足りないこと」が62.3%と最も高く、以下、「差別的な言動をされること」(62.2%)、「更衣室、トイレなど男女区別のある施設が利用しづらいこと」(61.4%)、「職場、学校において、嫌がらせを受けること」(58.3%)となっている。

性別でみると、すべての項目で女性が男性を上回っており、特に「更衣室、トイレなど男女区別のある施設が利用しづらいこと」は女性(68.7%)が男性(51.7%)より17.0ポイント、「就職・職場で不利な扱いを受けること」は女性(53.4%)が男性(43.5%)より9.9ポイント、「性的マイノリティに対する理解が足りないこと」は女性(66.9%)が男性(57.2%)より9.7ポイント、「アパート等への入居を拒否されること」は女性(29.8%)が男性(20.8%)より9.0ポイント高くなっている。



【性／年齢別（上位8項目）】

性／年齢別で見ると、男性では、10・20歳代（64.3%）、30歳代（67.2%）で「差別的な言動をされること」が最も高く、40歳代（63.1%）、60歳代（62.8%）でも6割以上となっている。40歳代から60歳代で「性的マイノリティに対する理解が足りないこと」が最も高く、6割台となっている。70歳以上（51.9%）で「職場、学校において、嫌がらせを受けること」が最も高く、その他の年代でも5割以上となっている。女性では、30歳代から60歳代で「更衣室、トイレなど男女区別のある施設が利用しづらいこと」が最も高く、10・20歳代でも81.8%と高くなっている。10・20歳代では「差別的な言動をされること」（86.9%）、70歳以上では「職場、学校において、嫌がらせを受けること」（49.6%）が最も高くなっている。

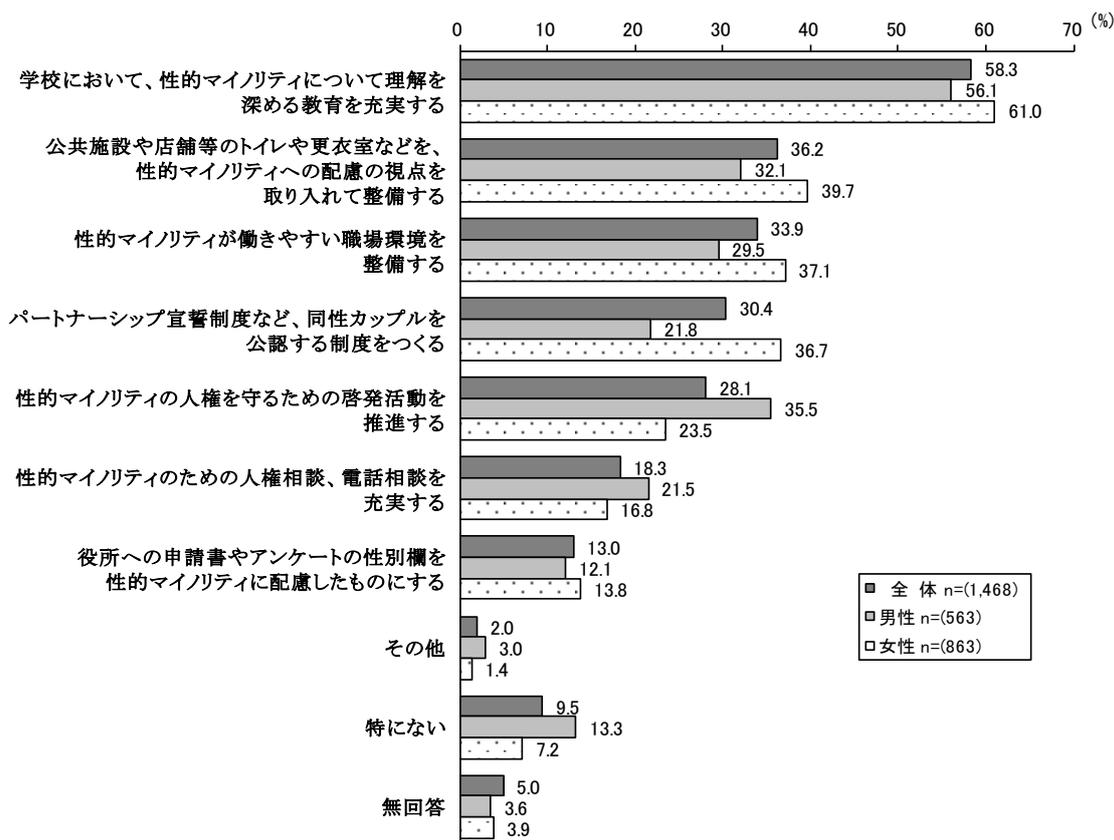


(4) 性的マイノリティの人権を守るために必要なこと

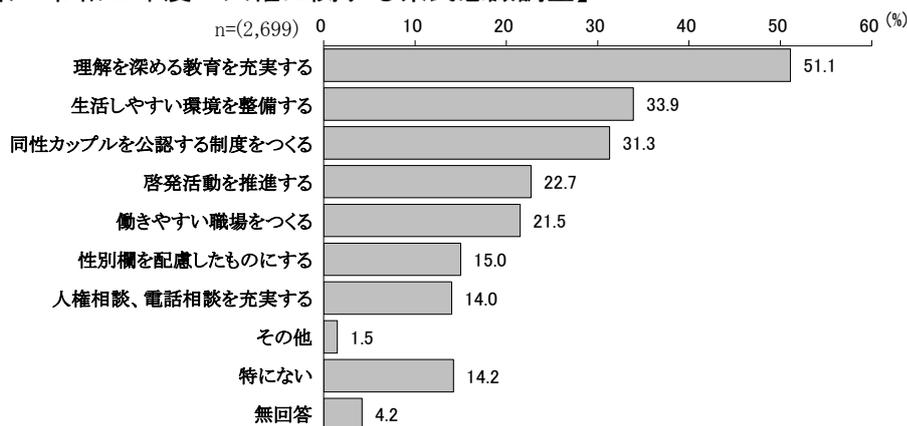
問22 性的マイノリティの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまでお選びください。

性的マイノリティの人権を守るために必要なことについて、「学校において、性的マイノリティについて理解を深める教育を充実する」が58.3%と最も高く、以下、「公共施設や店舗等のトイレや更衣室などを、性的マイノリティへの配慮の視点を取り入れて整備する」(36.2%)、「性的マイノリティが働きやすい職場環境を整備する」(33.9%)、「パートナーシップ宣誓制度など、同性カップルを公認する制度をつくる」(30.4%)となっている。

性別でみると、「性的マイノリティの人権を守るための啓発活動を推進する」は男性(35.5%)が女性(23.5%)より12.0ポイント高くなっている。一方で、「パートナーシップ宣誓制度など、同性カップルを公認する制度をつくる」は女性(36.7%)が男性(21.8%)より14.9ポイント、「性的マイノリティが働きやすい職場環境を整備する」は女性(37.1%)が男性(29.5%)より7.6ポイント、「公共施設や店舗等のトイレや更衣室などを、性的マイノリティへの配慮の視点を取り入れて整備する」は女性(39.7%)が男性(32.1%)より7.6ポイント高くなっている。

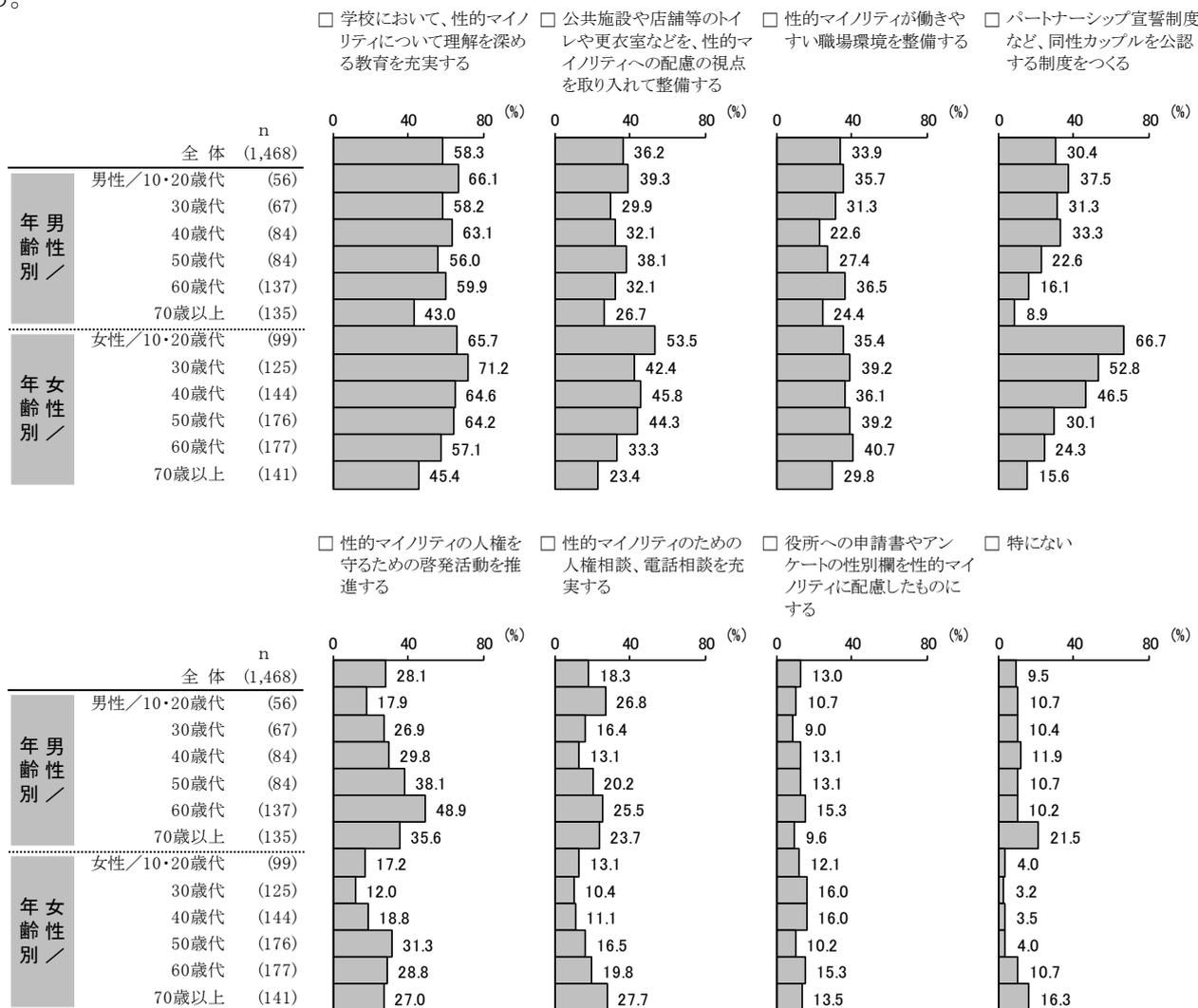


【参考一 埼玉県 令和2年度 人権に関する県民意識調査】



【性／年齢別（上位7項目＋「特にない」）】

性／年齢別で見ると、男性では、すべての年代で「学校において、性的マイノリティについて理解を深める教育を充実する」が最も高く、特に10・20歳代（66.1%）で約7割、40歳代（63.1%）で6割以上と他の年代に比べて高くなっている。女性では、30歳代から70歳以上で「学校において、性的マイノリティについて理解を深める教育を充実する」が最も高く、特に30歳代（71.2%）で7割以上と他の年代に比べて高くなっている。10・20歳代では「パートナーシップ宣誓制度など、同性カップルを公認する制度をつくる」が66.7%と最も高くなっているが、年代が上がるほど低くなる傾向がある。

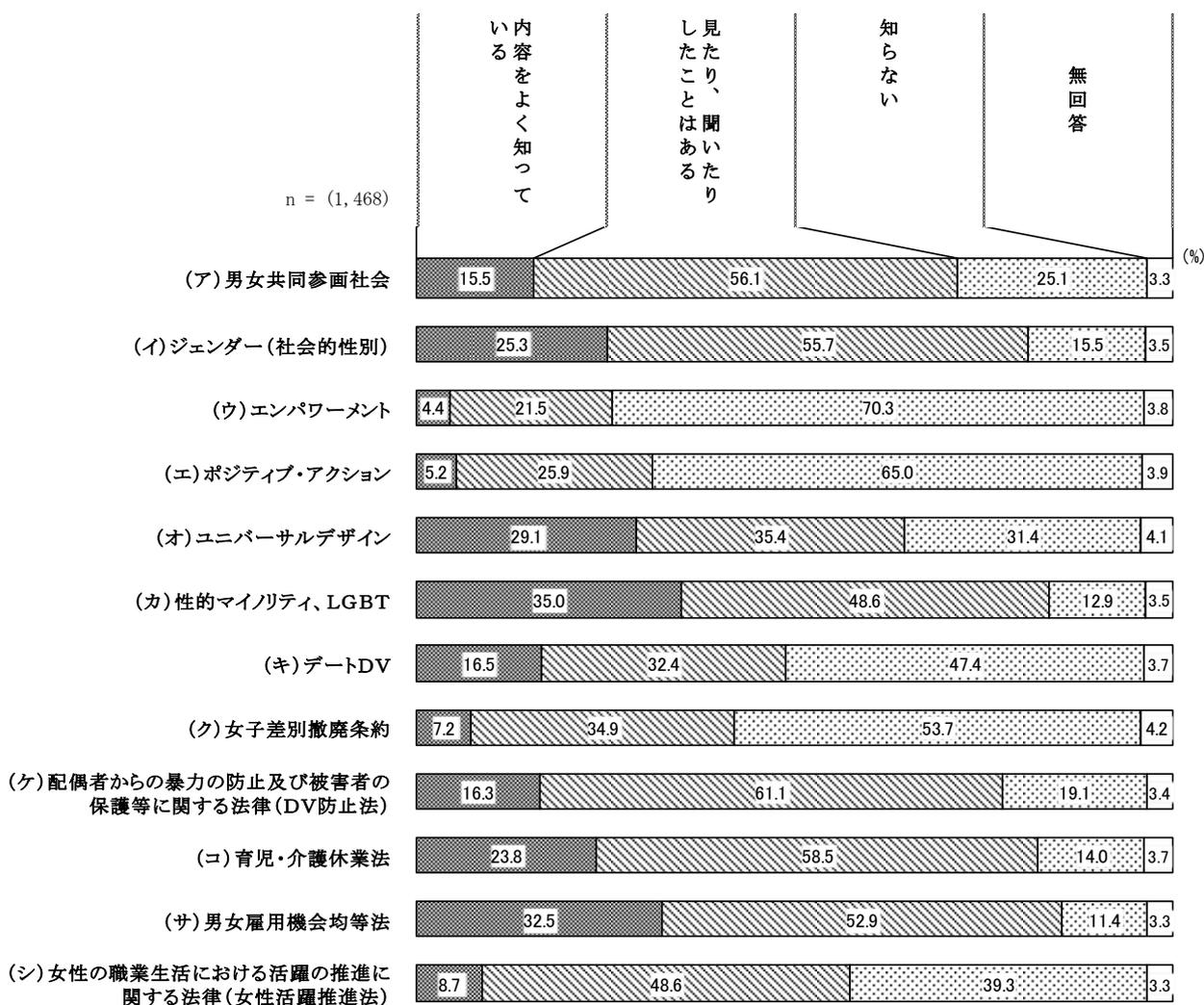


10. 男女共同参画の推進について

(1) 男女共同参画関連事項の認知度

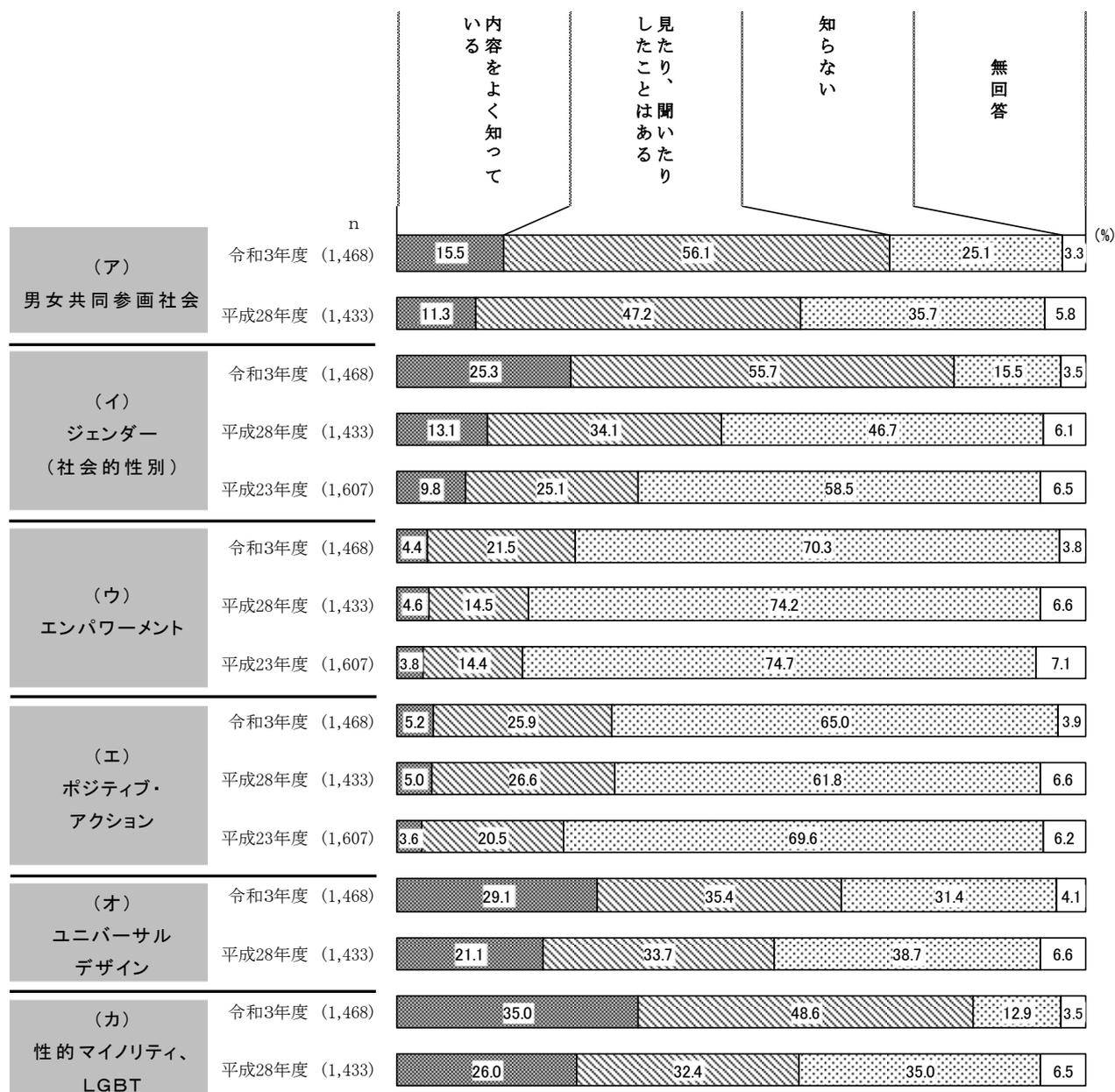
問23 次に挙げる男女共同参画に関する社会の動きや言葉についてうかがいます。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

男女共同参画関連事項の認知度について、「内容をよく知っている」は、【性的マイノリティ、LGBT】で35.0%と最も高く、以下、【男女雇用機会均等法】(32.5%)、【ユニバーサルデザイン】(29.1%)となっている。また、「見たり、聞いたりしたことはある」は、【配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)】で61.1%と最も高く、以下、【育児・介護休業法】(58.5%)、【男女共同参画社会】(56.1%)、【ジェンダー(社会的性別)】(55.7%)となっている。

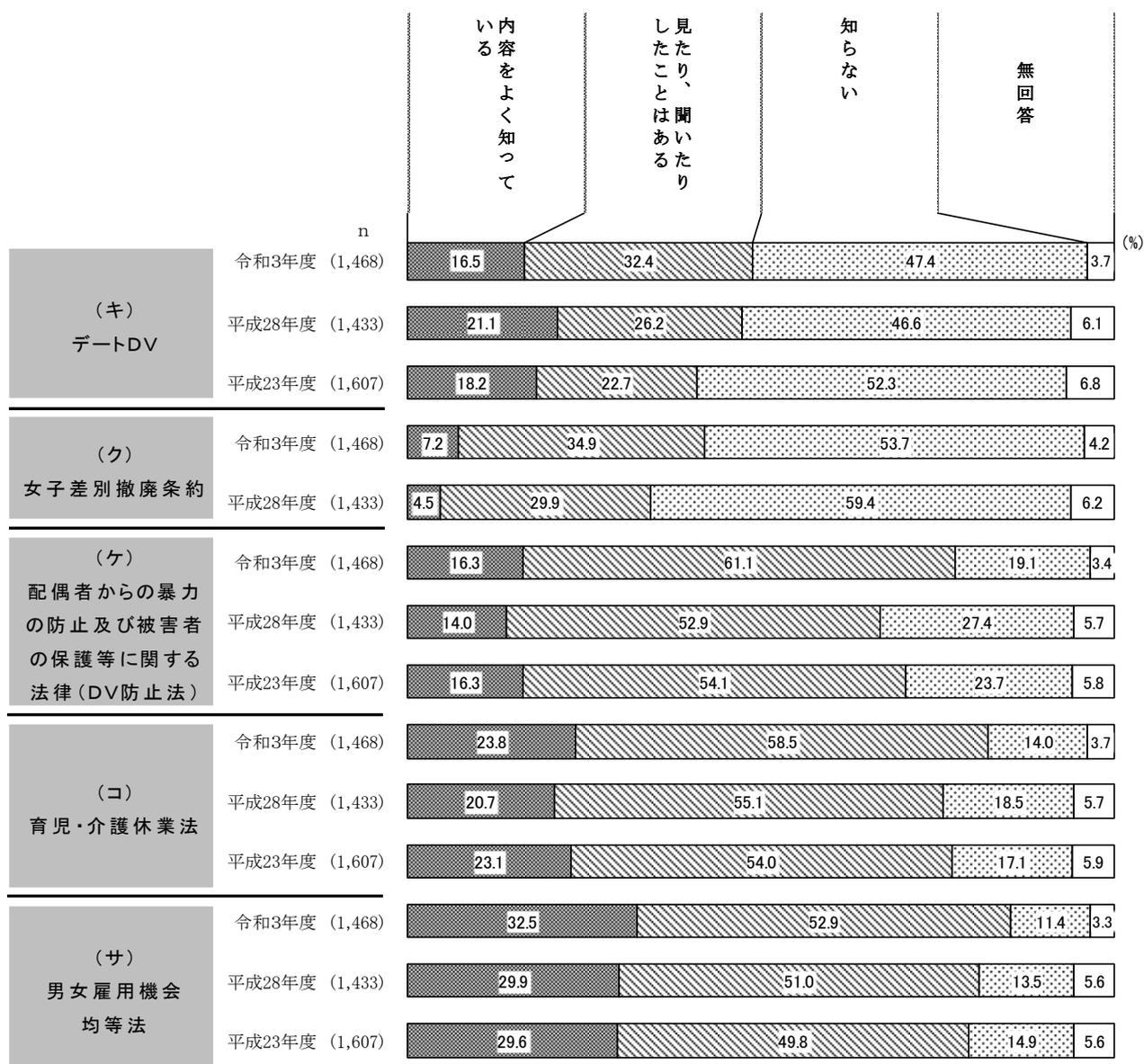


【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「内容をよく知っている」は【ジェンダー（社会的性別）】で12.2ポイント、【性的マイノリティ、LGBT】で9.0ポイント、【ユニバーサルデザイン】で8.0ポイント増加している。



第2章 調査結果の詳細

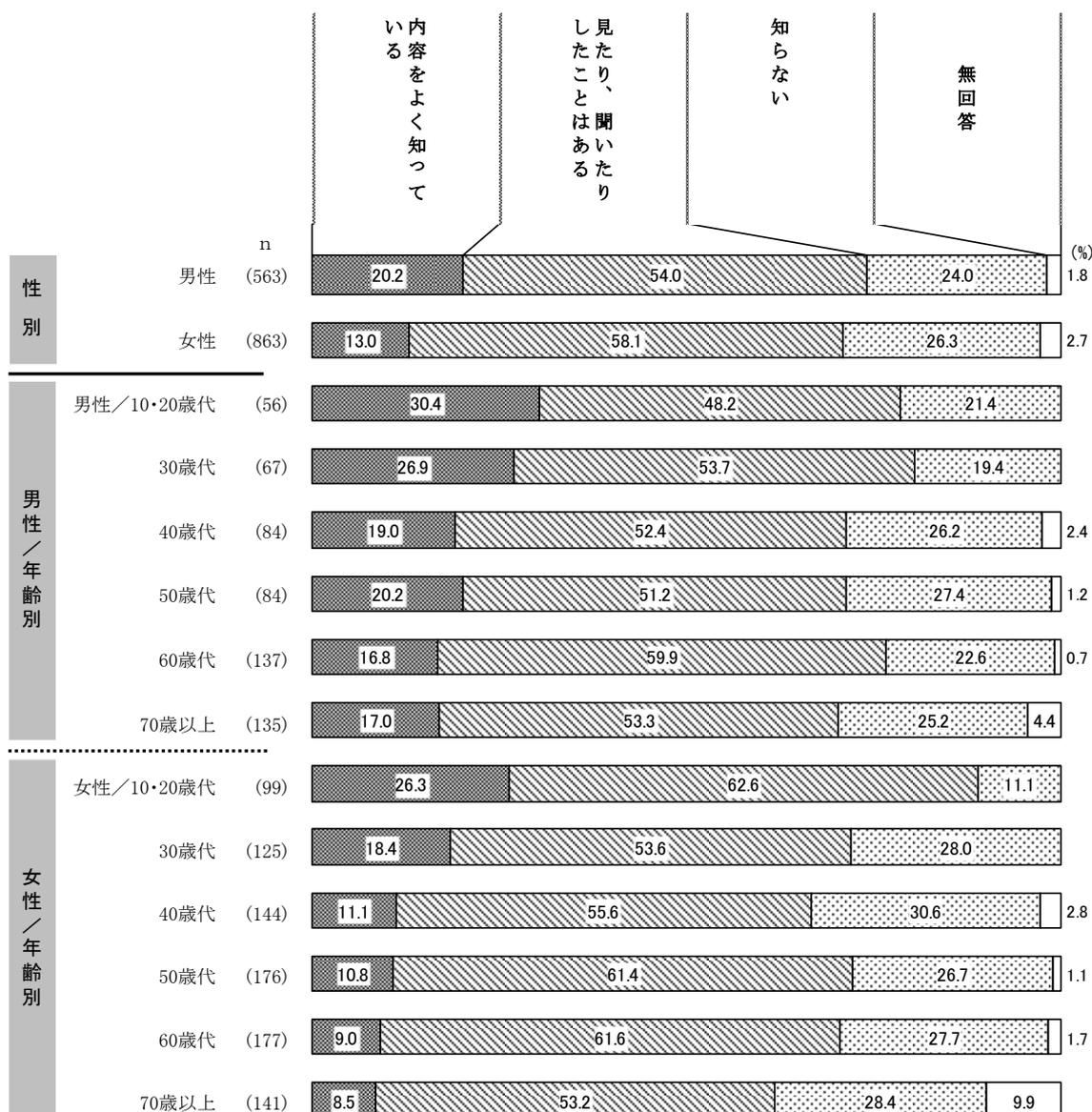


※ 「(シ) 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」は令和3年度調査からの新規項目
 ※ 「(ア) 男女共同参画社会」、「(オ) ユニバーサルデザイン」、「(ク) 女子差別撤廃条約」は平成28年度調査からの項目
 ※ 「(カ) 性的マイノリティ、LGBT」は平成28年度調査までは「セクシュアル・マイノリティ、LGBT」

【(ア) 男女共同参画社会 性別・性／年齢別】

性別でみると、「内容をよく知っている」は男性（20.2%）が女性（13.0%）より7.2ポイント高くなっている。

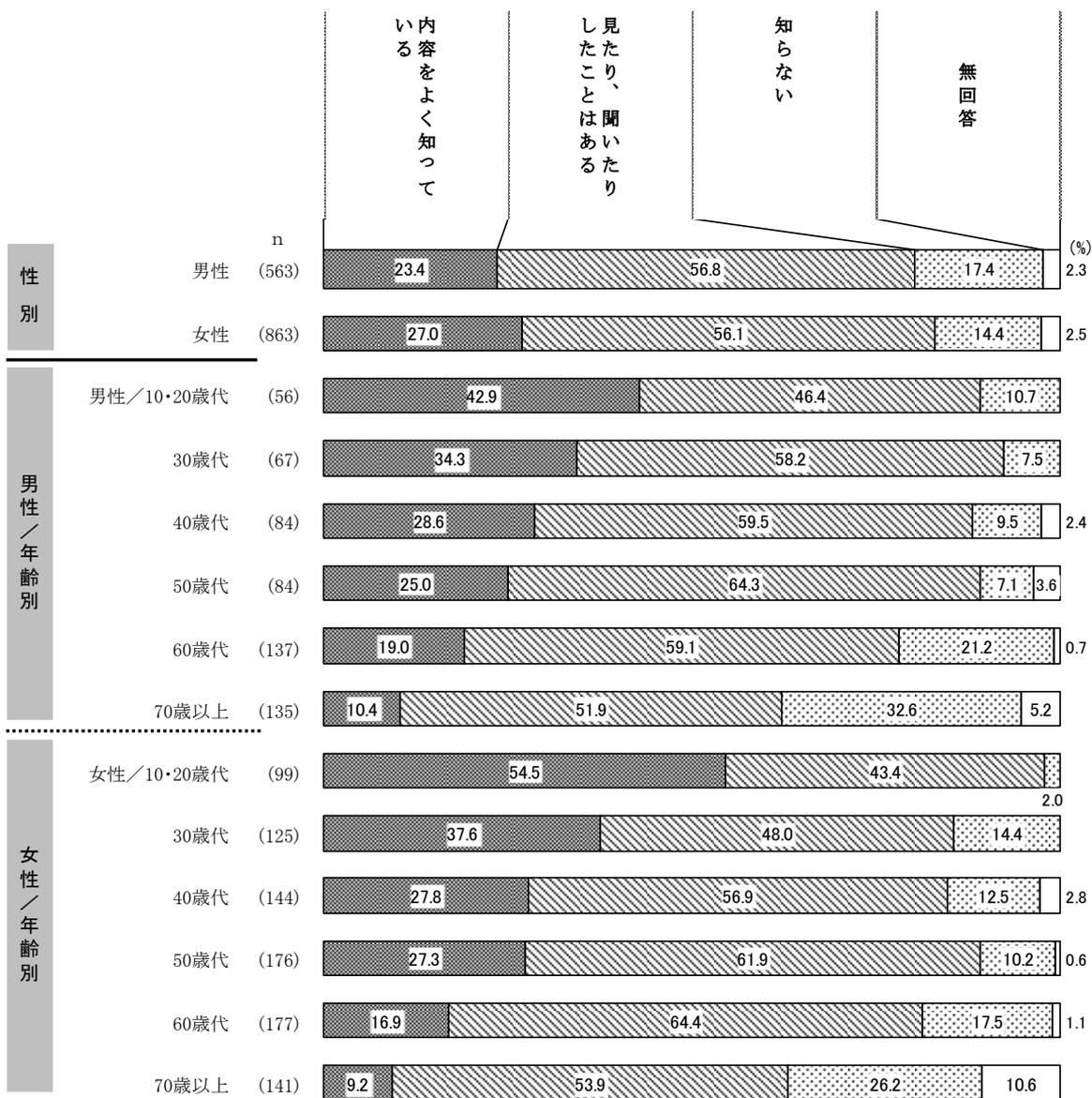
性／年齢別でみると、男性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代（30.4%）で3割以上と他の年代に比べて高くなっている。女性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代（26.3%）で約3割となっているが、年代が上がるほど低くなる傾向がある。



【(イ) ジェンダー（社会的性別） 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間で特に大きな差はみられない。

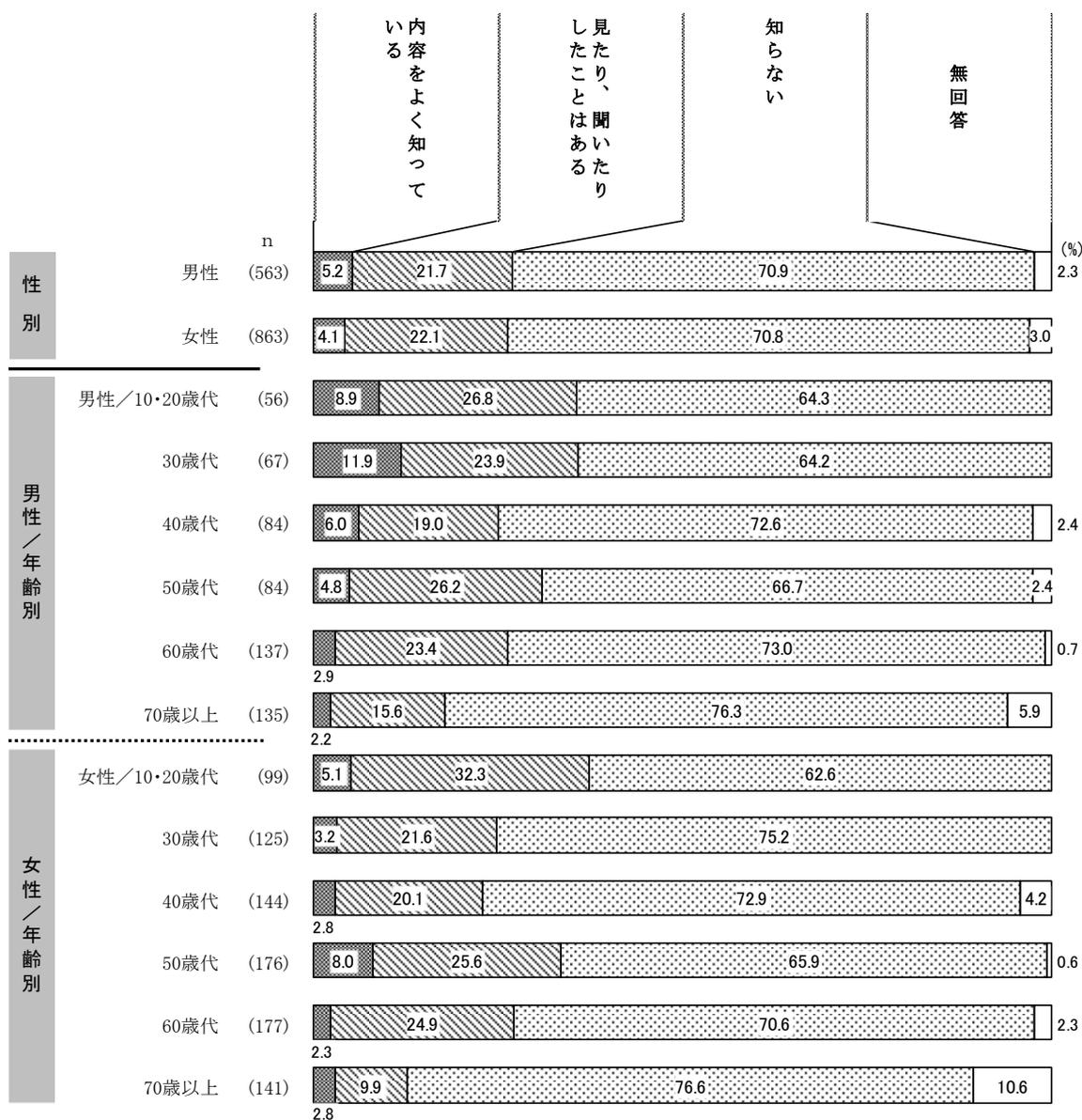
性／年齢別でみると、男女とも「内容をよく知っている」は年代が上がるほど低くなる傾向がある。女性では、10・20歳代で「内容をよく知っている」が54.5%と過半数を占めている。



【(ウ) エンパワーメント 性別・性/年齢別】

性別でみると、男女間で特に大きな差はみられない。

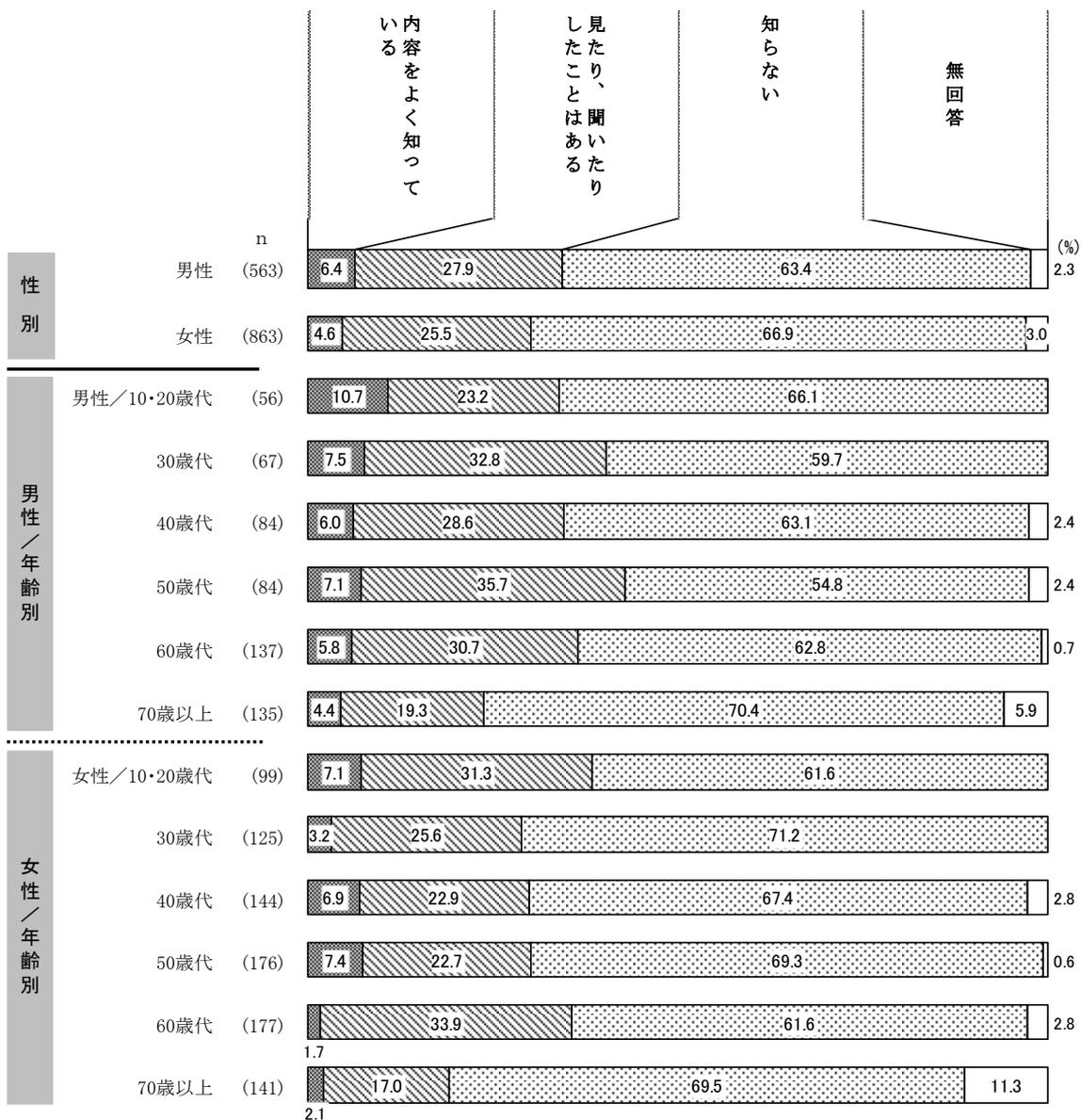
性/年齢別でみると、男性の30歳代を除く男女すべての年代で「内容をよく知っている」は1割未満となっており、男性の30歳代では11.9%となっている。



【(エ) ポジティブ・アクション 性別・性/年齢別】

性別でみると、男女間で特に大きな差はみられない。

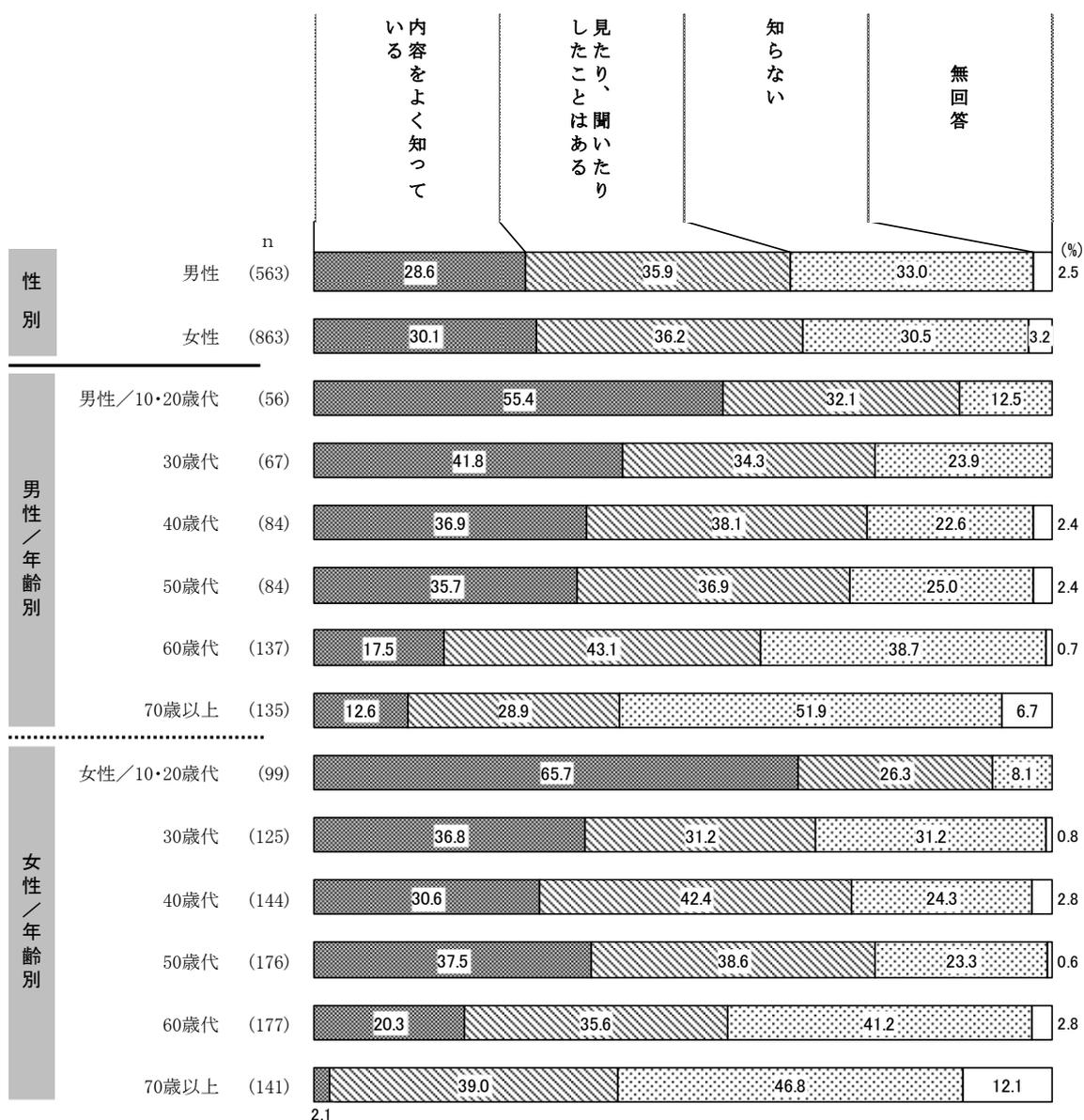
性/年齢別でみると、男性の10・20歳代を除く男女すべての年代で「内容をよく知っている」は1割未満となっており、男性の10・20歳代では10.7%となっている。



【(オ) ユニバーサルデザイン 性別・性/年齢別】

性別でみると、男女間で特に大きな差はみられない。

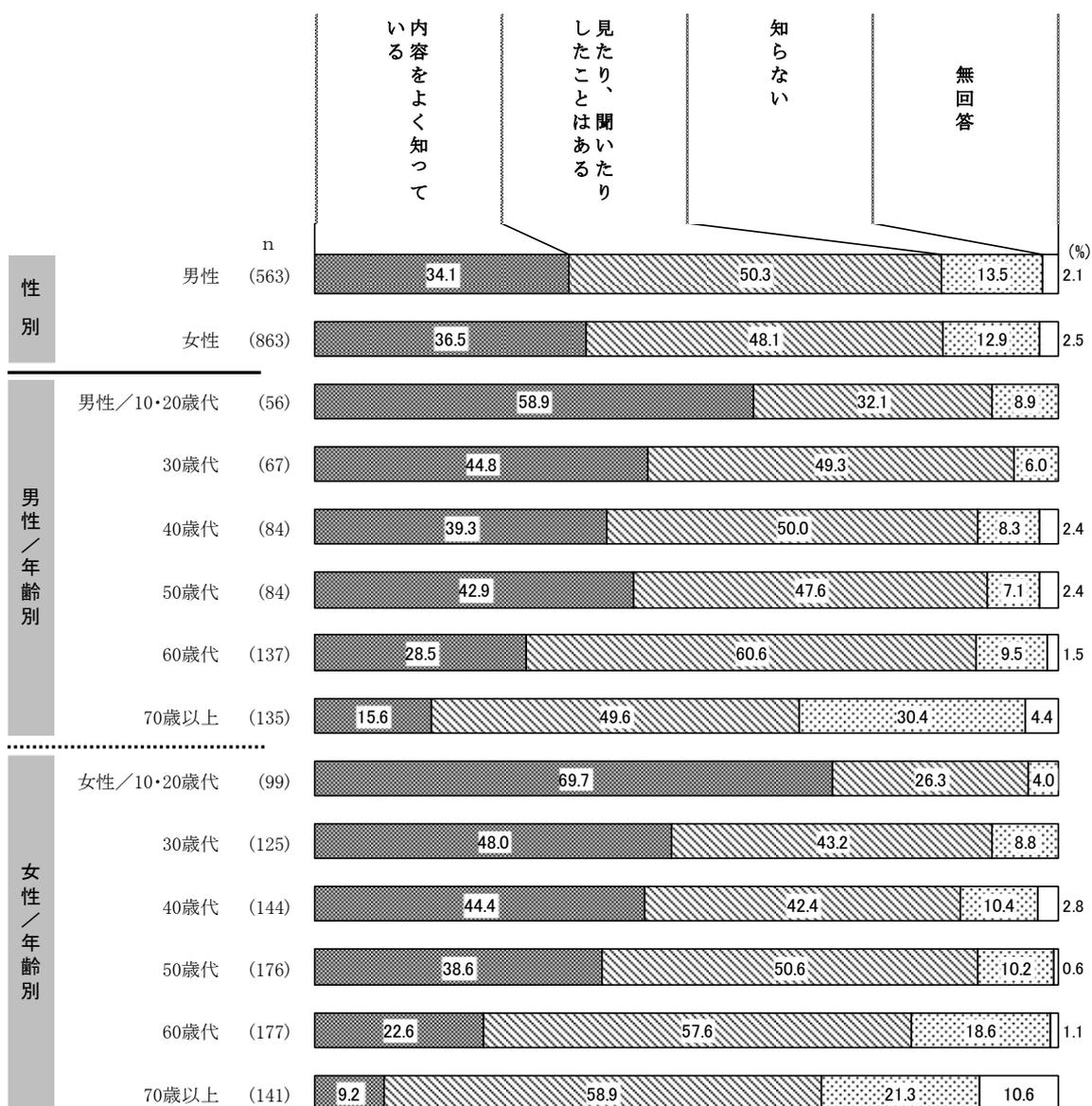
性・年齢別でみると、男性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代で55.4%と過半数を占めており、30歳代（41.8%）でも4割以上となっているが、年代が上がるほど低くなる傾向がある。女性では、「内容をよく知っている」は10・20歳代（65.7%）で約7割と他の年代と比べて高くなっており、30歳代（36.8%）、50歳代（37.5%）では約4割となっている。



【(カ) 性的マイノリティ、LGBT 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間で特に大きな差はみられない。

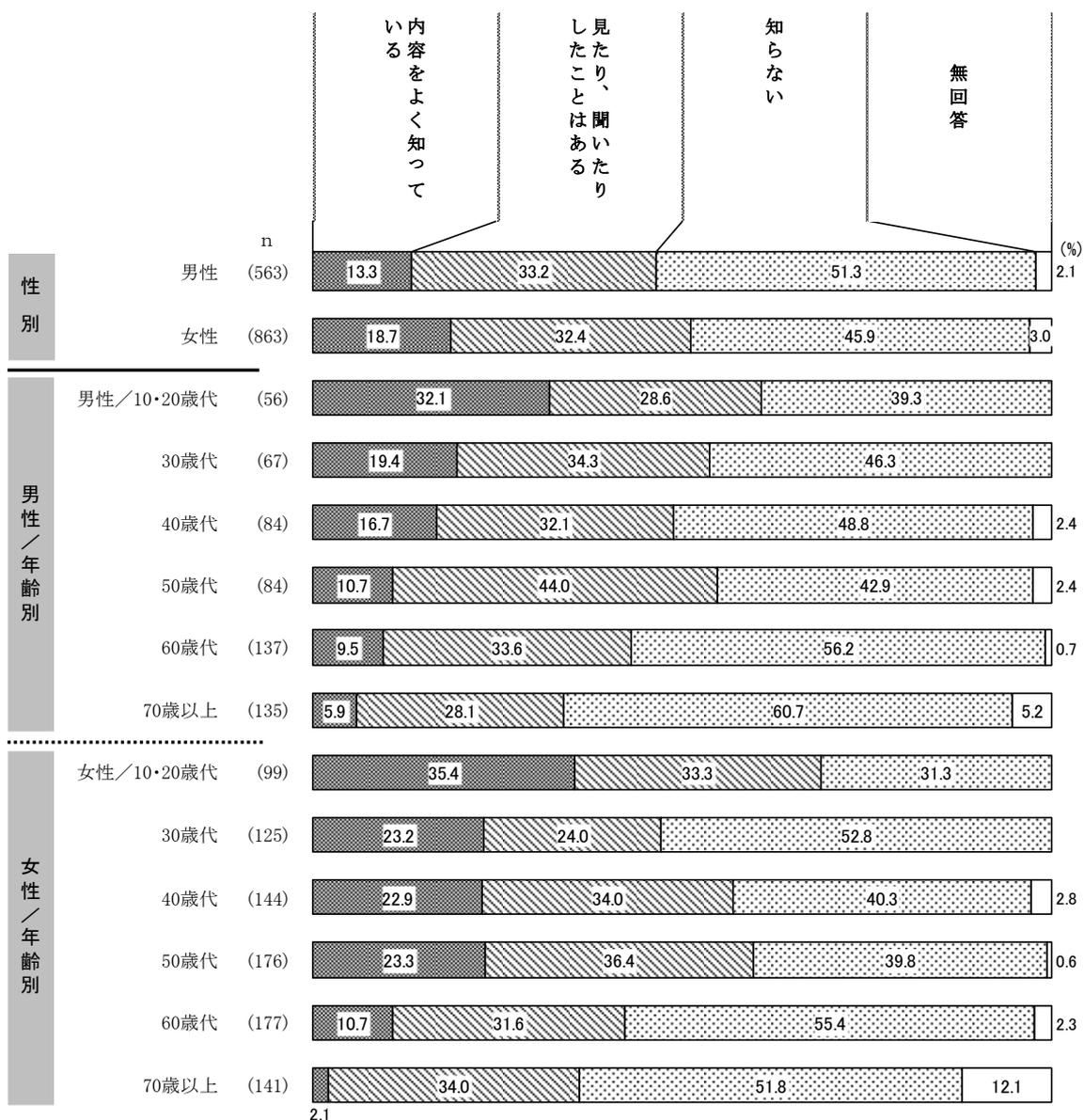
性／年齢別でみると、男性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代で58.9%と過半数を占めており、30歳代（44.8%）、50歳代（42.9%）で4割以上となっている。女性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代で69.7%と約7割を占めており、30歳代（48.0%）で約5割となっているが、年代が上がるほど低くなる傾向があり、70歳以上では9.2%となっている。



【(キ) デートDV 性別・性／年齢別】

性別でみると、「内容をよく知っている」は女性（18.7%）が男性（13.3%）より5.4ポイント高くなっている。

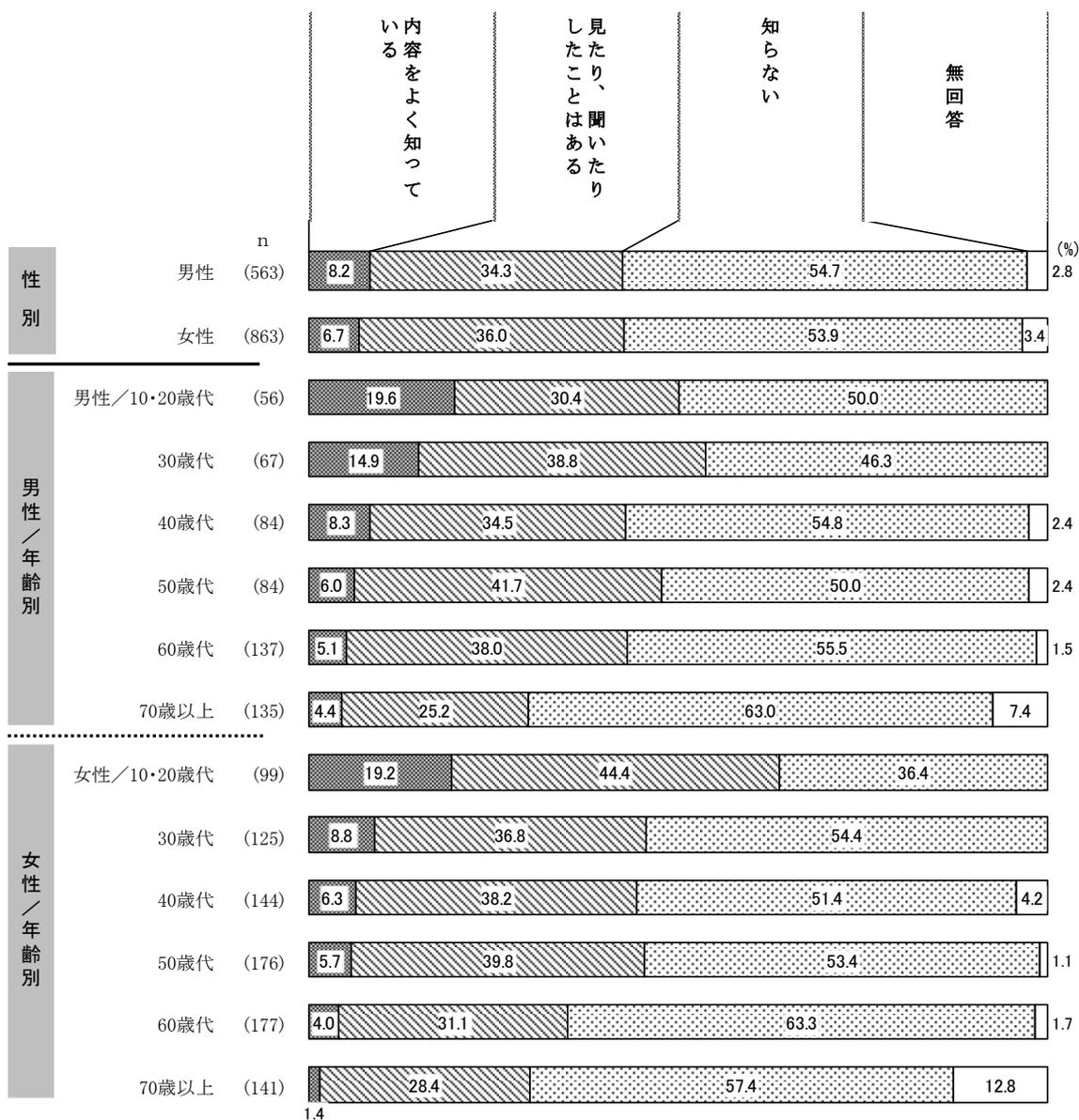
性／年齢別でみると、男性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代で32.1%と3割以上、30歳代（19.4%）、40歳代（16.7%）でも約2割となっているが、年代が上がるほど低くなる傾向がある。女性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代で35.4%と約4割、30歳代から50歳代で2割以上となっているが、60歳代（10.7%）、70歳以上（2.1%）で他の年代と比べて低くなっている。



【(ク) 女子差別撤廃条約 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間で特に大きな差はみられない。

性／年齢別でみると、男女ともに10・20歳代で「内容をよく知っている」が約2割を占め、男性の30歳代（14.9%）でも1割以上となっているが、その他の年代では1割未満となっており、男女ともに年代が上がるほど低くなる傾向がある。

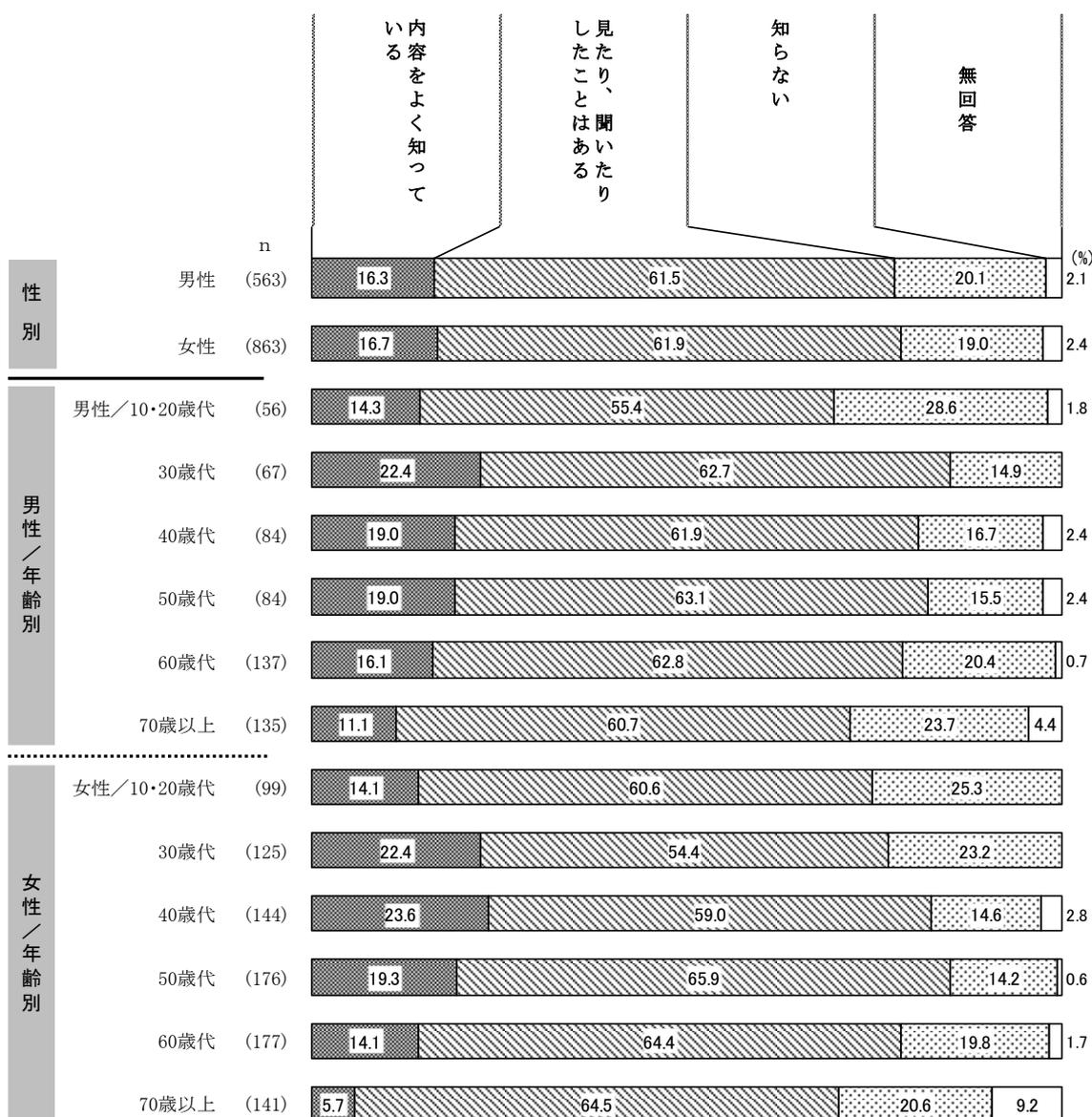


【(ケ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）

性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間で特に大きな差はみられない。

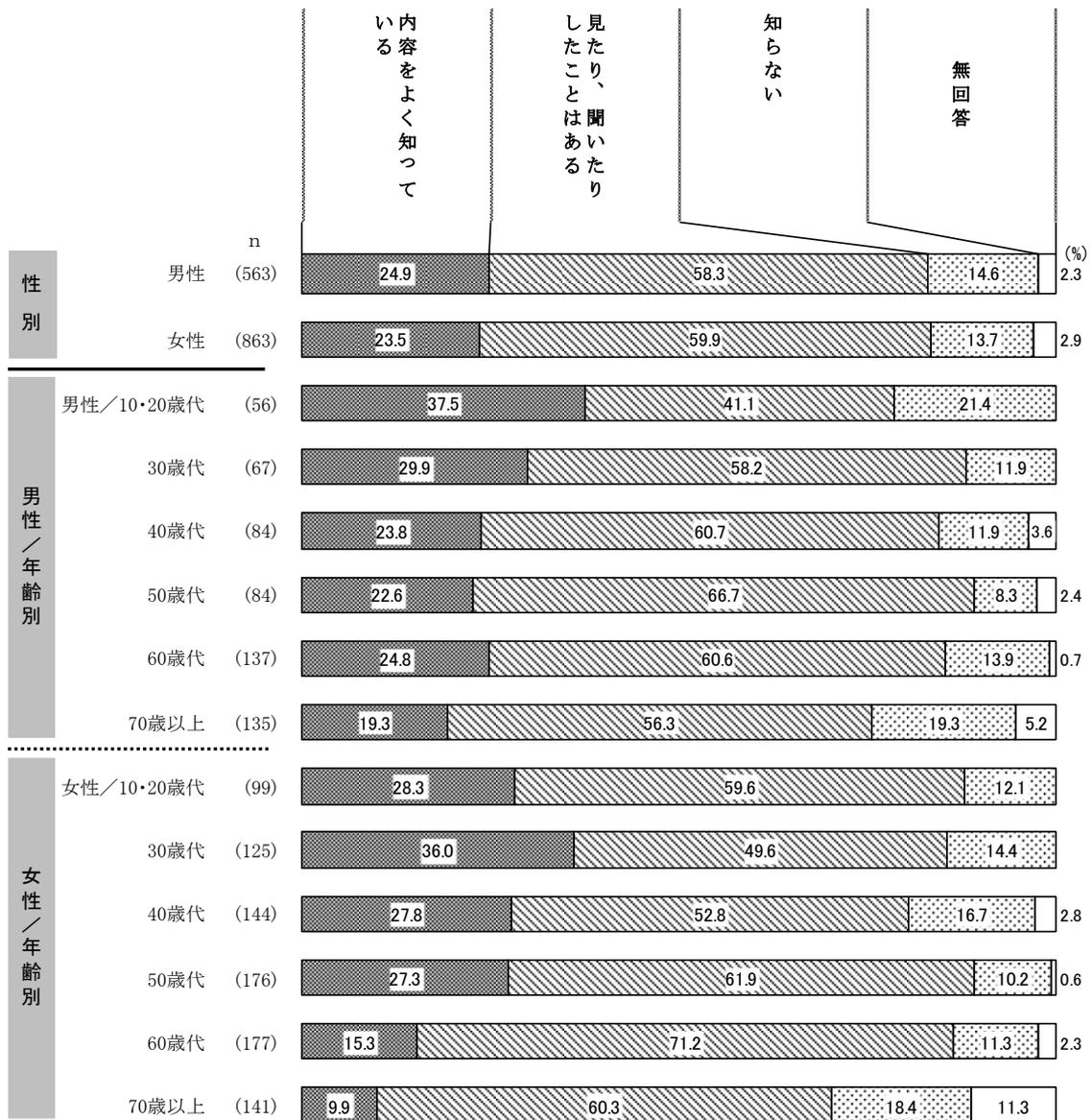
性／年齢別でみると、男性では、「内容をよく知っている」が30歳代（22.4%）、40歳代（19.0%）、50歳代（19.0%）で2割前後となっている。女性では、「内容をよく知っている」が30歳代（22.4%）、40歳代（23.6%）で2割以上となっている。



【(コ) 育児・介護休業法 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間で特に大きな差はみられない。

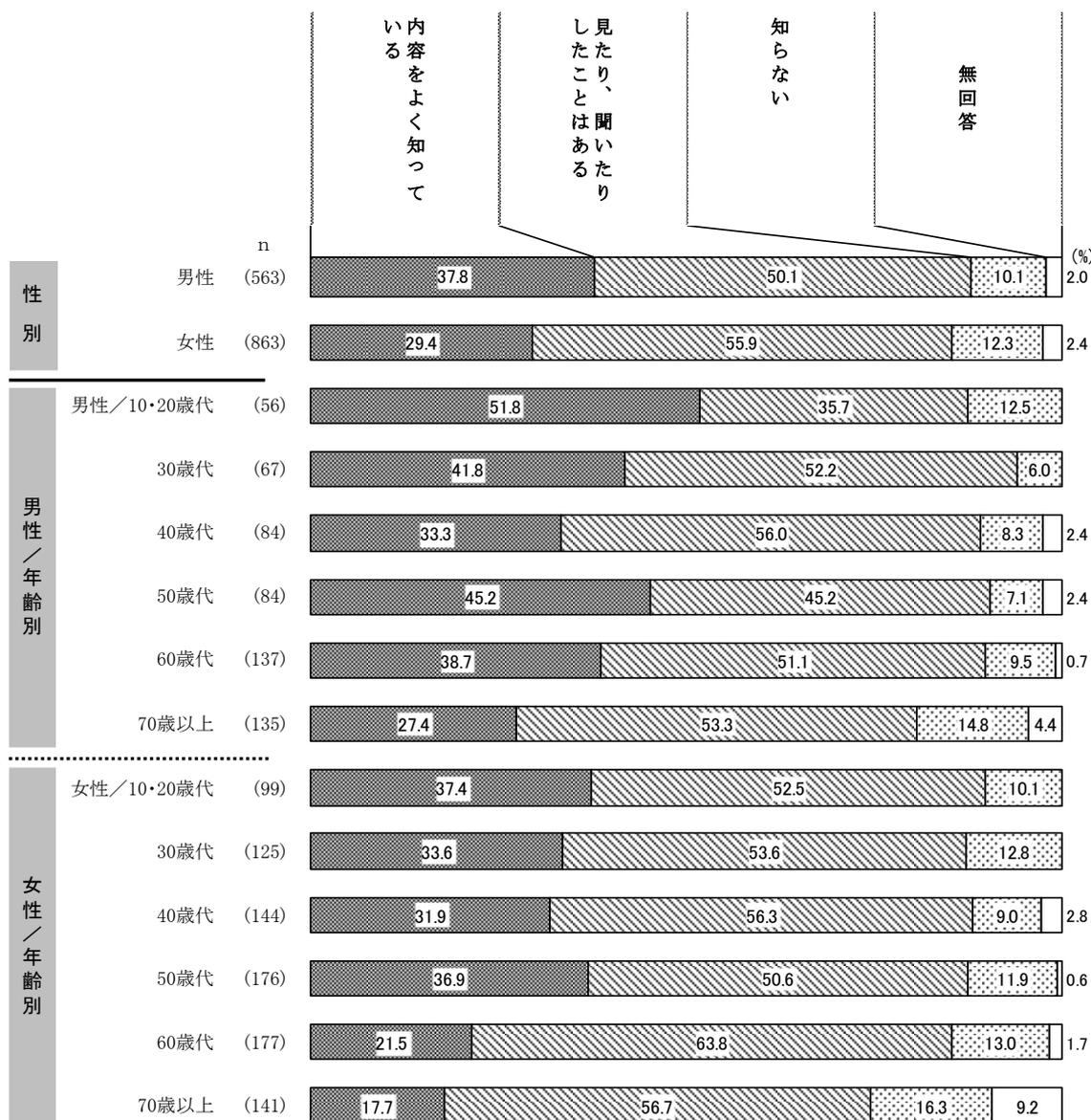
性／年齢別でみると、男性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代（37.5%）で約4割、30歳代（29.9%）で約3割となっている。女性では、「内容をよく知っている」が30歳代（36.0%）で約4割、10・20歳代（28.3%）、40歳代（27.8%）、50歳代（27.3%）で約3割となっている。



【(サ) 男女雇用機会均等法 性別・性／年齢別】

性別でみると、「内容をよく知っている」は男性（37.8%）が女性（29.4%）より8.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、男性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代（51.8%）で過半数を占めており、50歳代（45.2%）でも約5割となっている。女性では、10・20歳代から50歳代で3割以上となっており、特に10・20歳代（37.4%）、50歳代（36.9%）で約4割と高くなっている。

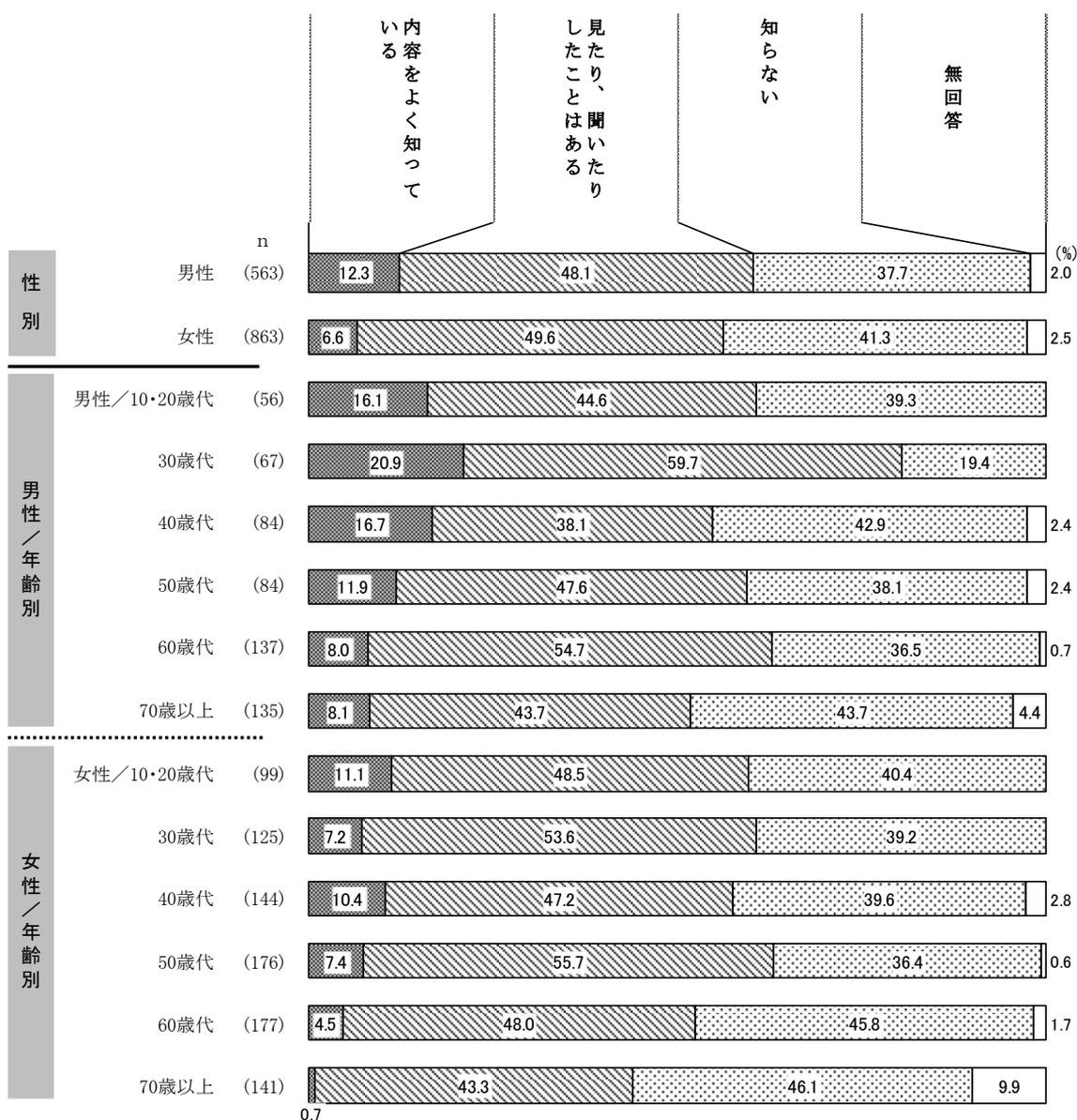


【(シ) 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）

性別・性／年齢別】

性別でみると、「内容をよく知っている」は男性（12.3%）が女性（6.6%）より5.7ポイント高くなっている。

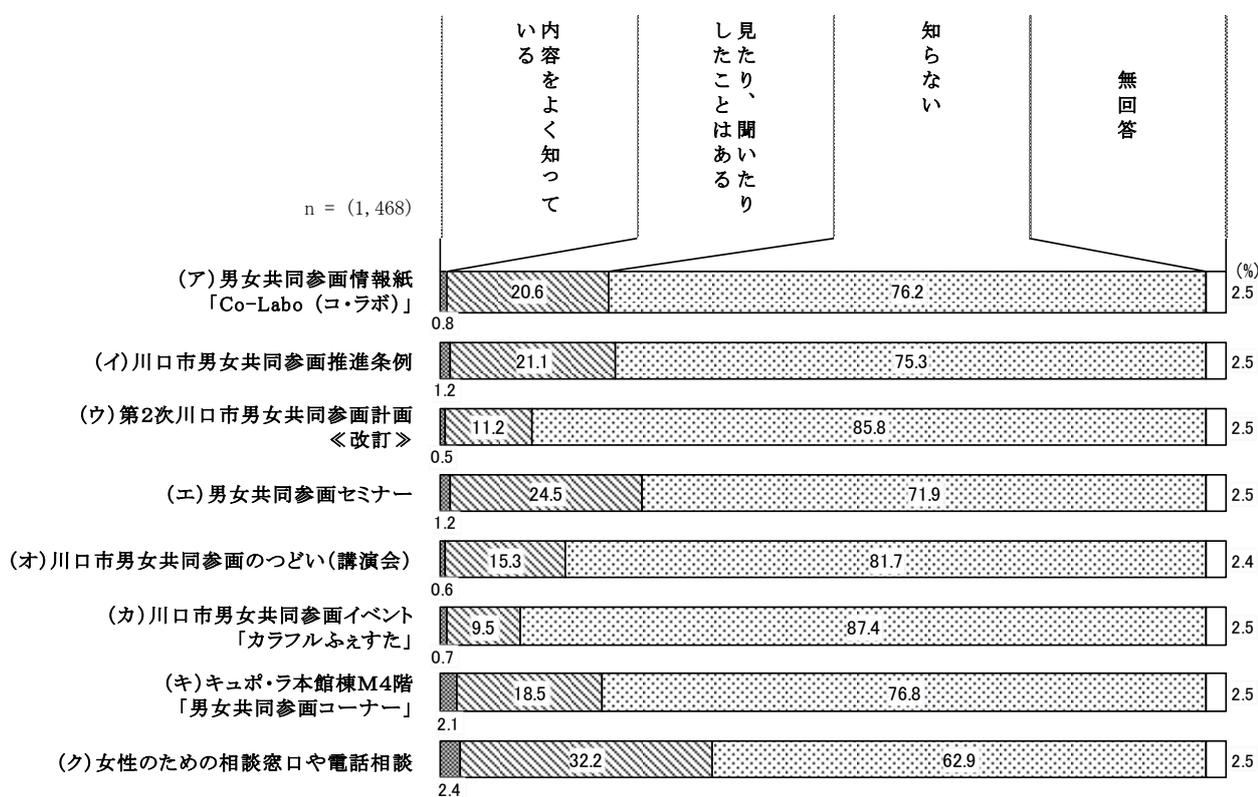
性／年齢別でみると、男性では、「内容をよく知っている」が30歳代（20.9%）で2割以上、10・20歳代（16.1%）、40歳代（16.7%）でも約2割となっている。女性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代（11.1%）、40歳代（10.4%）で1割以上となっている。



(2) 市が取り組んでいる男女共同参画事業の認知度

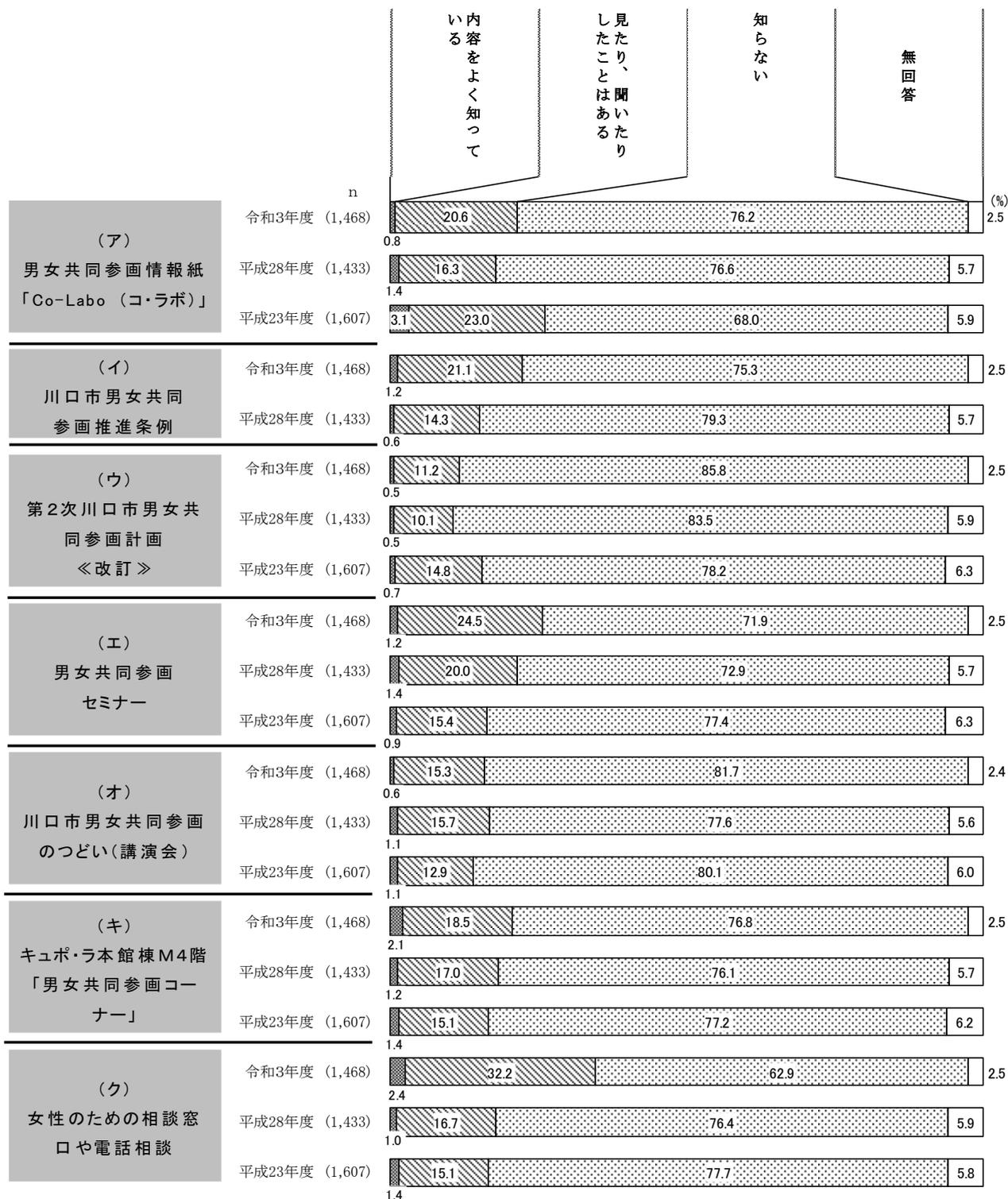
問24 川口市が取り組んでいる次の施策・事業についてうかがいます。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

市が取り組んでいる男女共同参画事業の認知度について、「内容をよく知っている」は、すべての項目で1割未満となっている。「見たり、聞いたりしたことはある」は、【女性のための相談窓口や電話相談】で32.2%と最も高く、以下、【男女共同参画セミナー】(24.5%)、【川口市男女共同参画推進条例】(21.1%)、【男女共同参画情報紙「Co-Labo (コ・ラボ)】(20.6%) となっている。



【経年比較】

平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「見たり、聞いたりしたことはある」は【川口市男女共同参画推進条例】で6.8ポイント増加している。

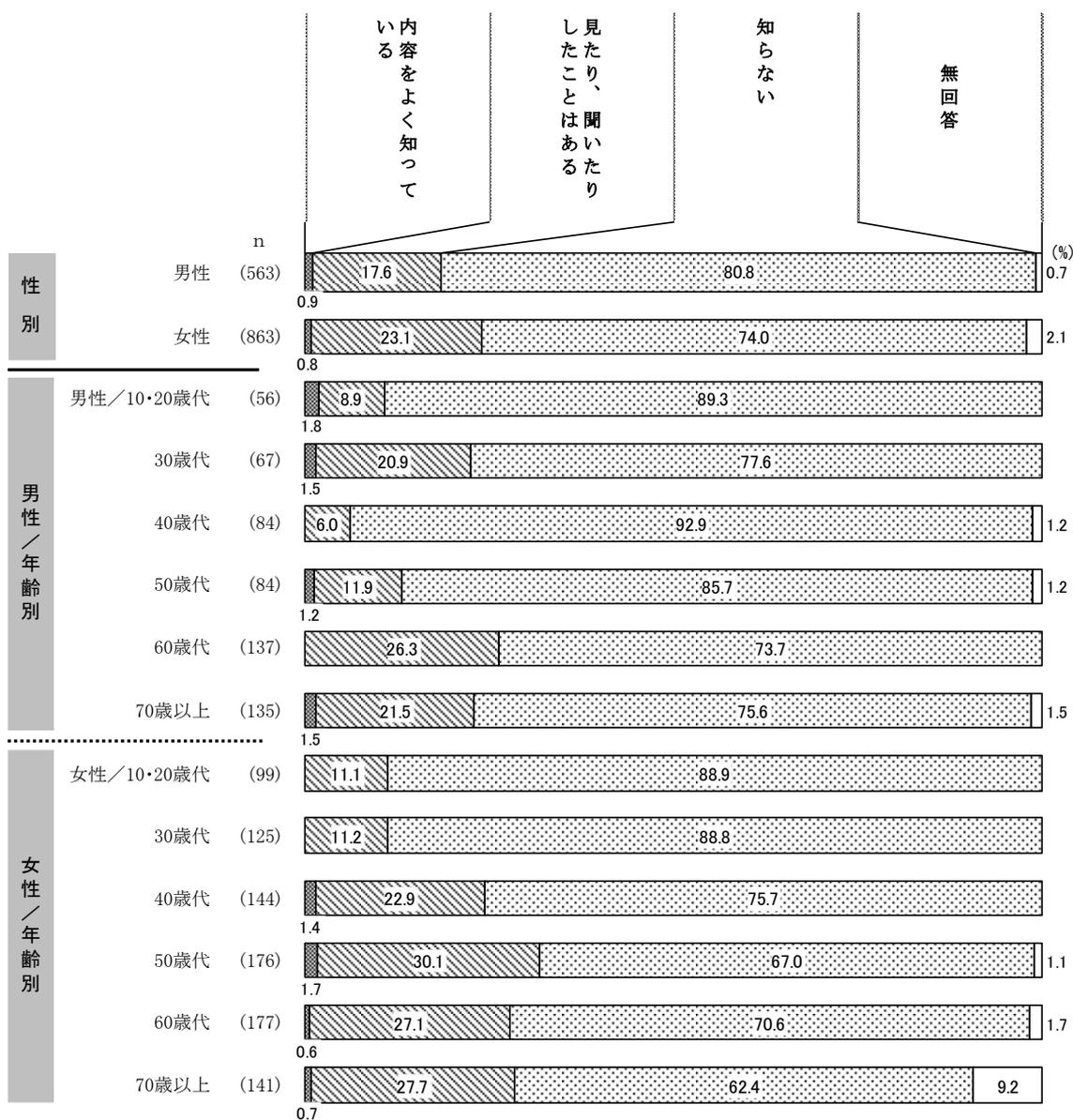


※「(ア) 男女共同参画情報紙『Co-Labo (コ・ラボ)』」は平成23年度調査までは「情報誌『ワン・ステップ』」
 ※「(イ) 川口市男女共同参画推進条例」は平成28年度調査からの項目
 ※「(ウ) 第2次川口市男女共同参画計画「改訂」」は平成28年度調査までは「第2次川口市男女共同参画計画」
 ※「(ク) 女性のための相談窓口や電話相談」は平成28年度調査までは「女性のための悩みごと電話相談」

【(ア) 男女共同参画情報誌「Co-Labo (コ・ラボ)」 性別・性／年齢別】

性別でみると、「見たり、聞いたりしたことはある」は女性（23.1%）が男性（17.6%）より5.5ポイント高くなっている。

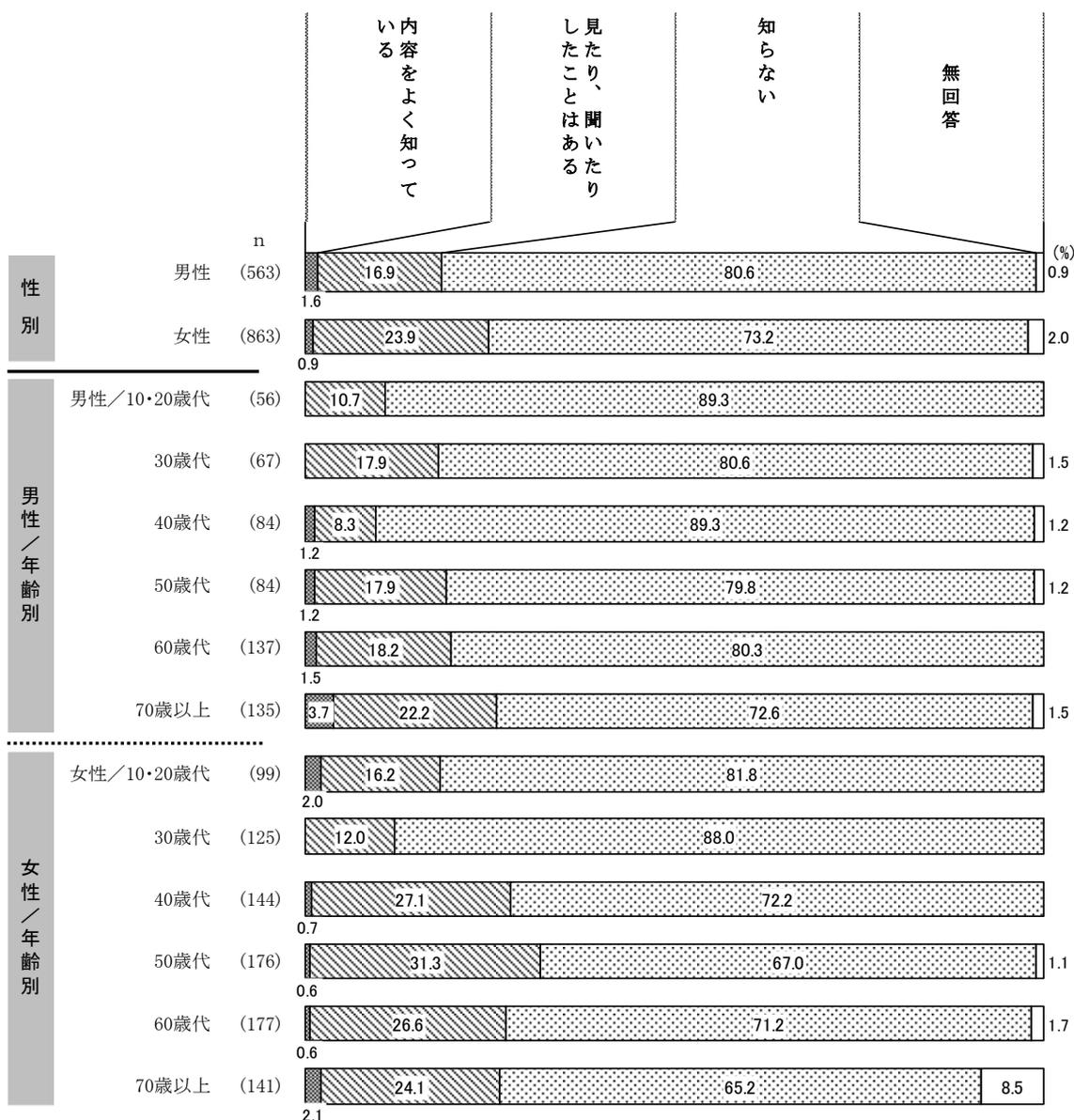
性／年齢別でみると、男性では、「見たり、聞いたりしたことはある」が60歳代（26.3%）で約3割、30歳代（20.9%）、70歳以上（21.5%）で2割以上となっている。女性では、「見たり、聞いたりしたことはある」が50歳代（30.1%）、60歳代（27.1%）、70歳以上（27.7%）で3割前後となっている。



【(イ) 川口市男女共同参画推進条例 性別・性／年齢別】

性別でみると、「見たり、聞いたりしたことはある」は女性（23.9%）が男性（16.9%）より7.0ポイント高くなっている。

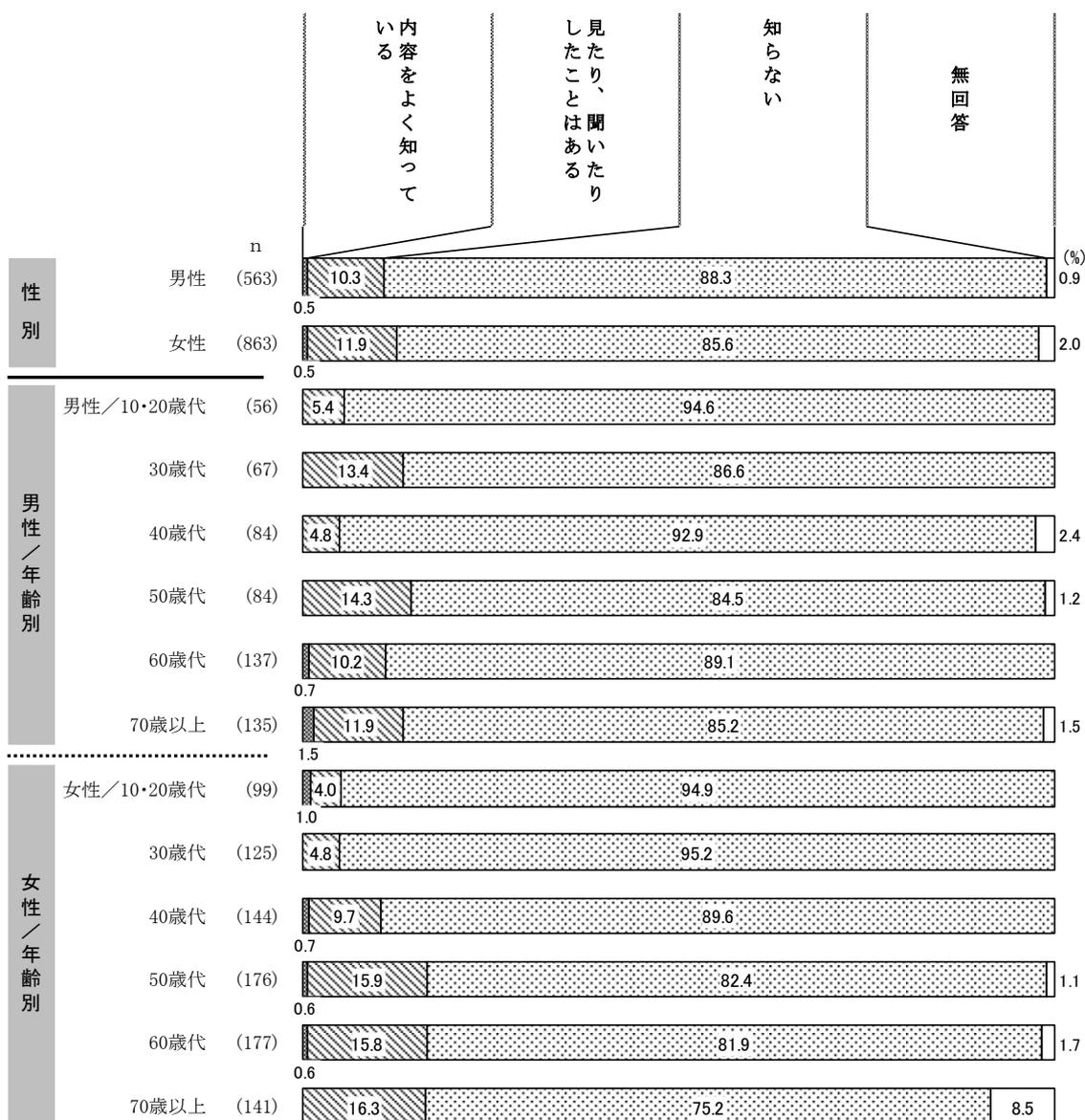
性／年齢別でみると、男性では、「見たり、聞いたりしたことはある」は70歳以上（22.2%）で2割以上、30歳代（17.9%）、50歳代（17.9%）、60歳代（18.2%）で約2割となっている。女性では、「見たり、聞いたりしたことはある」は50歳代（31.3%）で3割以上、40歳代（27.1%）、60歳代（26.6%）で約3割となっている。



【(ウ) 第2次川口市男女共同参画計画<改訂> 性別・性/年齢別】

性別でみると、男女間に大きな差はみられない。

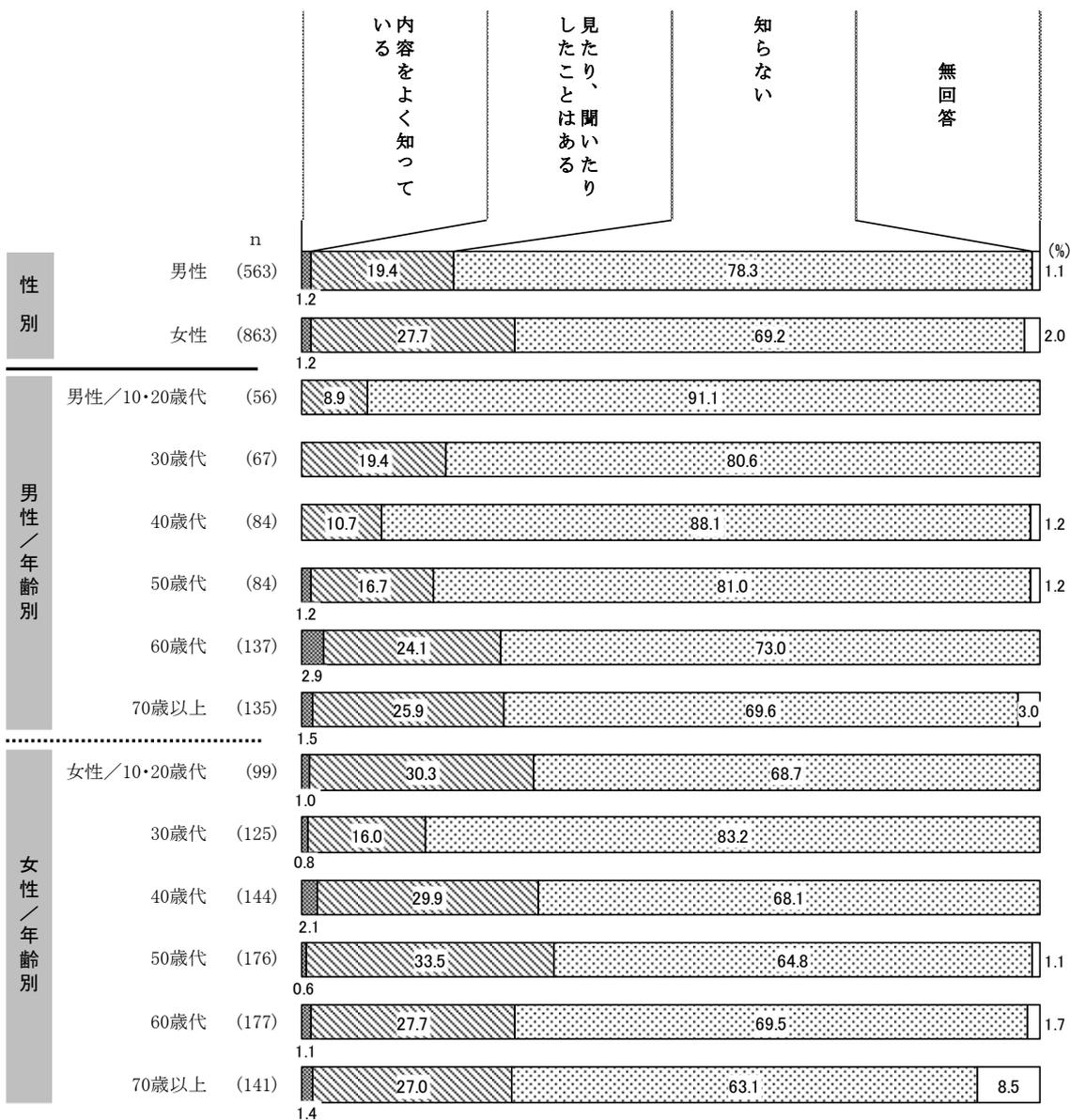
性/年齢別でみると、男性では、「内容をよく知っている」は10・20歳代から50歳代で回答がみられなかった。「見たり、聞いたりしたことはある」が30歳代、50歳代から70歳以上で1割以上となっている。女性では、「見たり、聞いたりしたことはある」は50歳代から70歳以上で1割以上となっている。



【(エ) 男女共同参画セミナー 性別・性/年齢別】

性別で見ると、「見たり、聞いたりしたことはある」は女性（27.7%）が男性（19.4%）より8.3ポイント高くなっている。

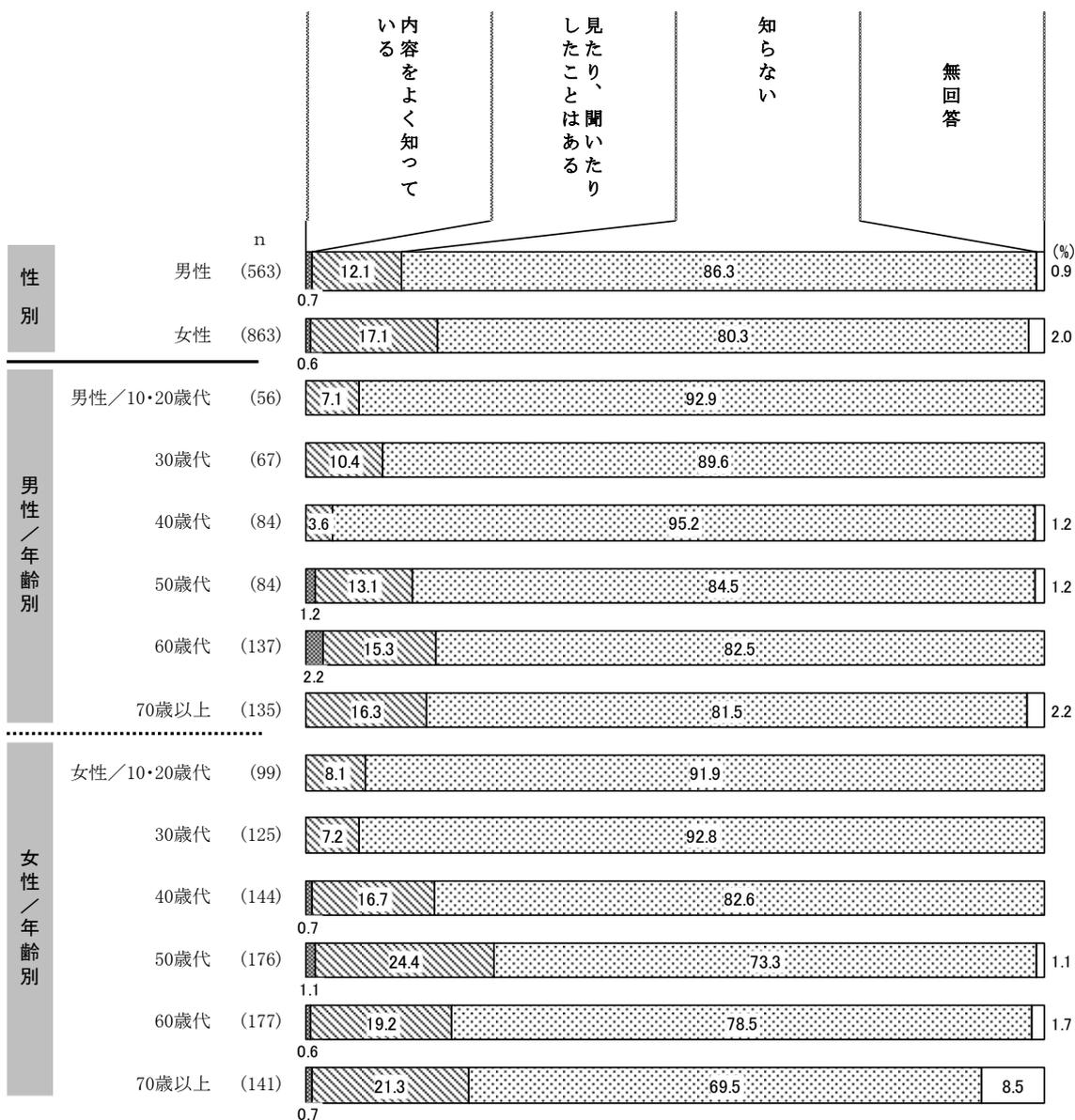
性/年齢別で見ると、男性では、「内容をよく知っている」は10・20歳代から40歳代で回答がみられなかった。「見たり、聞いたりしたことはある」は70歳以上（25.9%）と60歳代（24.1%）で2割台半ばとなっている。女性では、「見たり、聞いたりしたことはある」は10・20歳代（30.3%）、50歳代（33.5%）で3割以上となっており、40歳代（29.9%）、60歳代（27.7%）、70歳以上（27.0%）でも約3割となっている。



【(オ) 川口市男女共同参画のつどい（講演会） 性別・性／年齢別】

性別でみると、「見たり、聞いたりしたことはある」は女性（17.1%）が男性（12.1%）より5.0ポイント高くなっている。

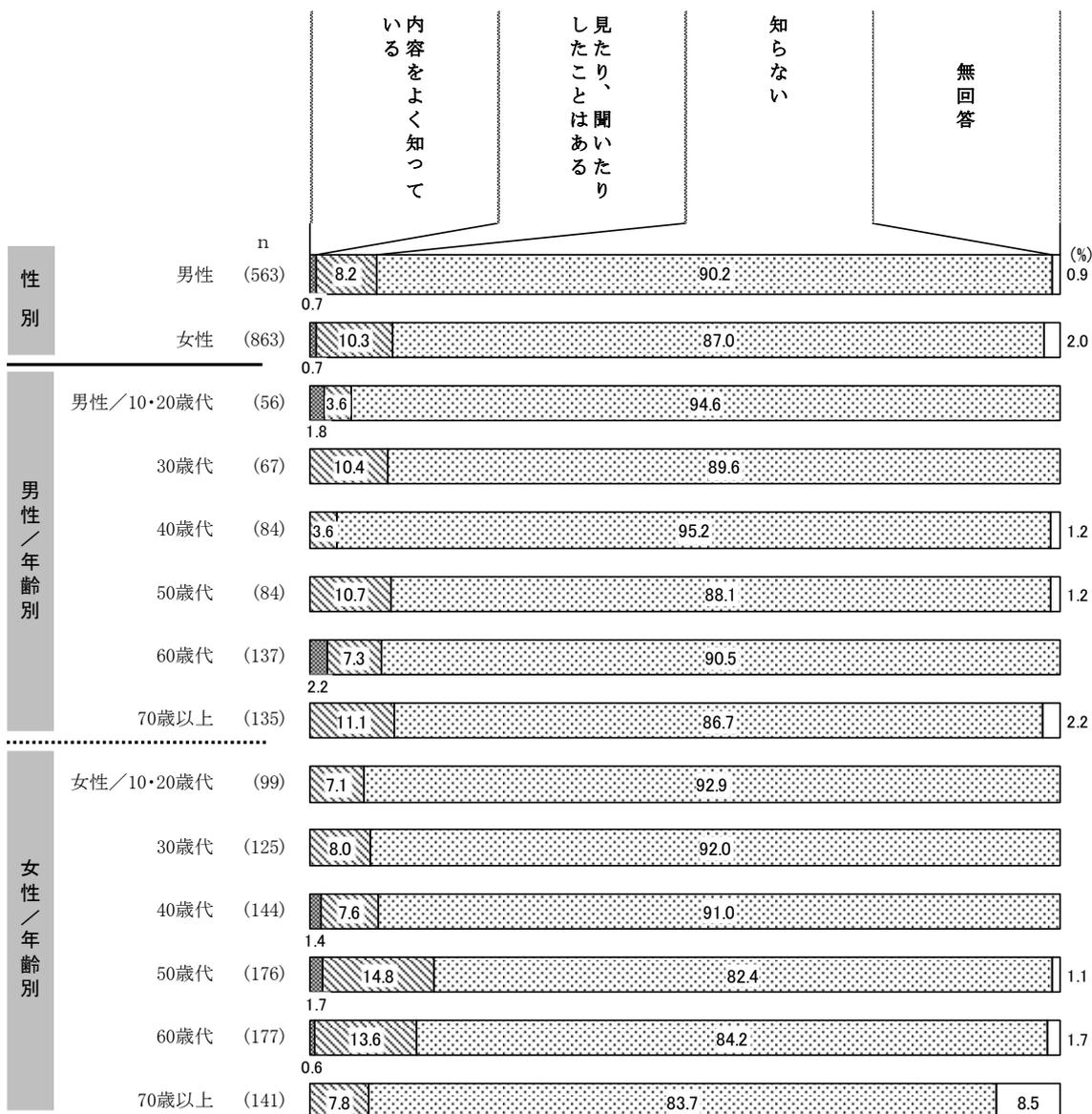
性／年齢別でみると、男性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代から40歳代、70歳以上で回答がみられなかった。「見たり、聞いたりしたことはある」は60歳代（15.3%）、70歳以上（16.3%）で約2割、30歳代（10.4%）、50歳代（13.1%）でも1割以上となっている。女性では、「内容をよく知っている」が10・20歳代、30歳代で回答がみられなかった。「見たり、聞いたりしたことはある」は50歳代（24.4%）、70歳以上（21.3%）で2割以上となっている。



【(カ) 川口市男女共同参画イベント「カラフルふえすた」 性別・性／年齢別】

性別でみると、男女間で特に大きな差はみられない。

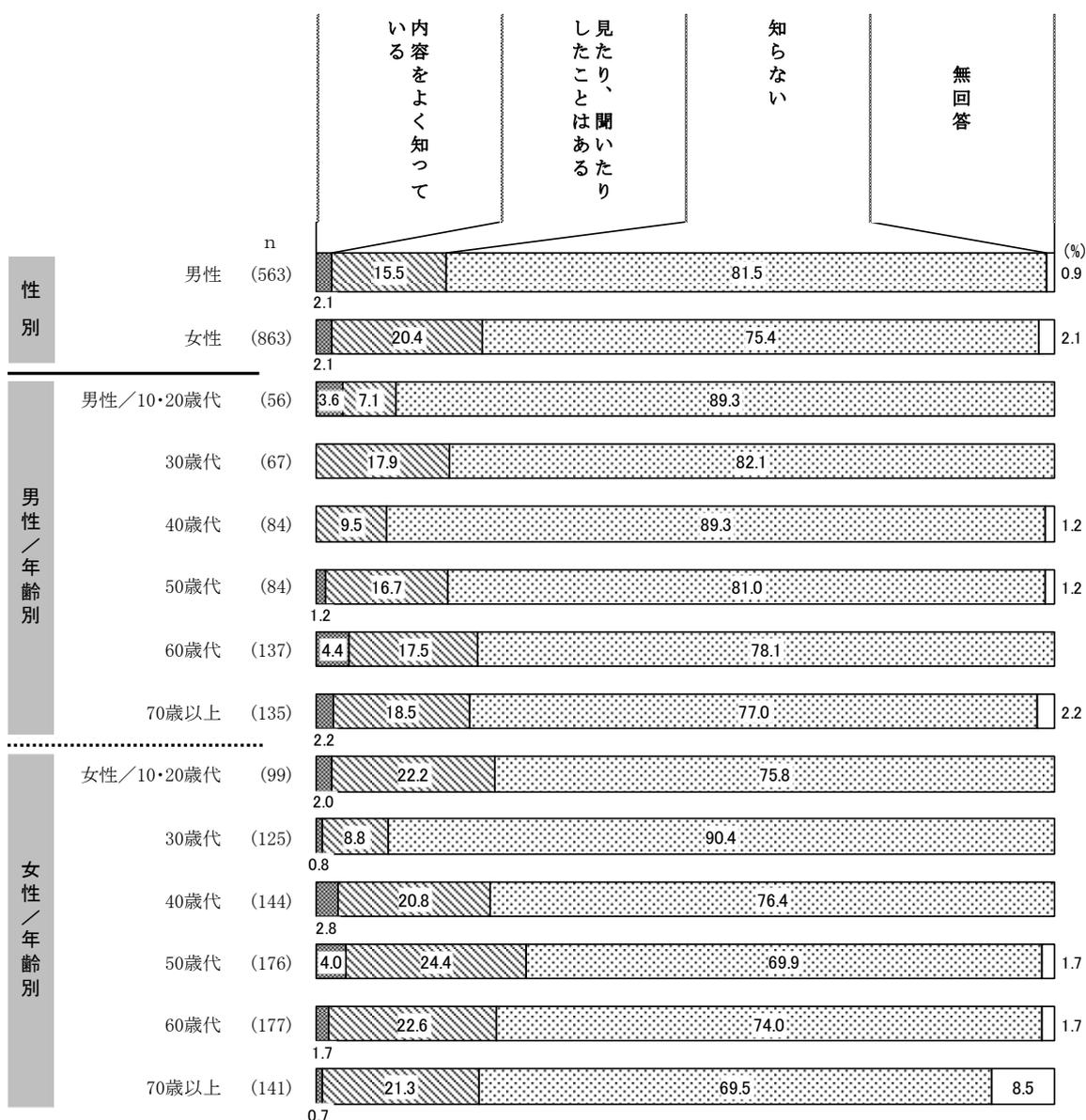
性／年齢別でみると、男性では、「内容をよく知っている」は10・20歳代、60歳代で回答があった。「見たり、聞いたりしたことはある」は30歳代（10.4%）、50歳代（10.7%）、70歳以上（11.1%）で1割以上と他の年代に比べて高くなっている。女性では、「内容をよく知っている」は40歳代から60歳代で回答があった。「見たり、聞いたりしたことはある」は50歳代（14.8%）、60歳代（13.6%）で1割以上と他の年代に比べて高くなっている。



【(キ) キュポ・ラ本館棟M4階「男女共同参画コーナー」 性別・性／年齢別】

性別でみると、「知らない」は男性（81.5%）が女性（75.4%）より6.1ポイント高くなっている。

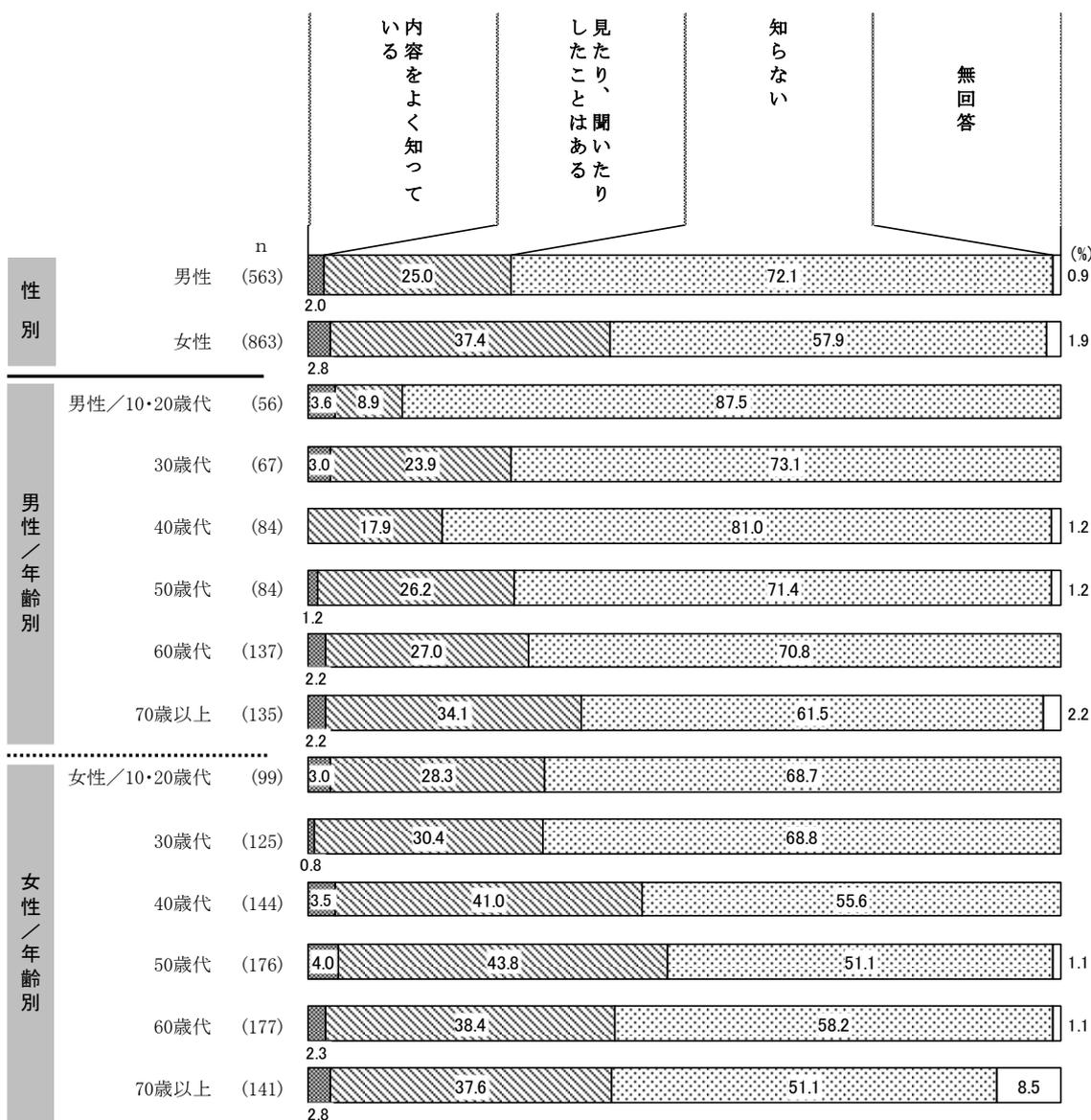
性／年齢別でみると、男性では、「見たり、聞いたりしたことはある」が30歳代、50歳代から70歳以上で約2割となっている一方で、10・20歳代（7.1%）、40歳代（9.5%）では1割未満となっている。女性では、「見たり、聞いたりしたことはある」は30歳代を除くすべての年代で2割以上となっている。



【(ク) 女性のための相談窓口や電話相談 性別・性/年齢別】

性別で見ると、「見たり、聞いたりしたことはある」は女性（37.4%）が男性（25.0%）より12.4ポイント高くなっている。

性/年齢別で見ると、男性では、「見たり、聞いたりしたことはある」が70歳以上（34.1%）で3割以上、50歳代（26.2%）、60歳代（27.0%）で約3割となっている。女性では、「見たり、聞いたりしたことはある」が40歳代（41.0%）、50歳代（43.8%）で4割以上、60歳代（38.4%）、70歳以上（37.6%）で約4割となっている。

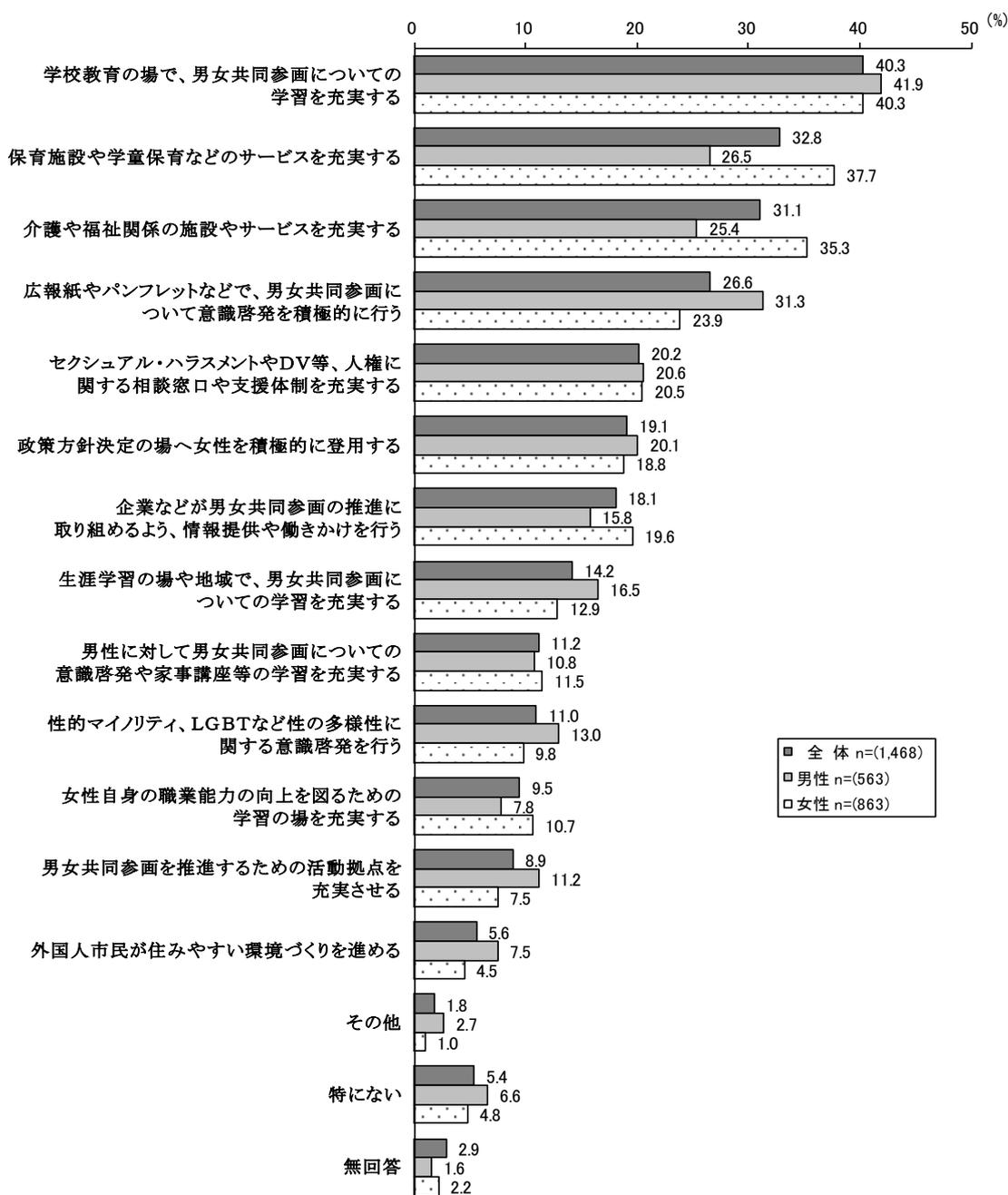


(3) 男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきこと

問25 男女共同参画社会の実現に向けて、今後川口市はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。3つまでお選びください。

男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきことについて、「学校教育の場で、男女共同参画についての学習を充実する」が40.3%と最も高く、以下、「保育施設や学童保育などのサービスを充実する」(32.8%)、「介護や福祉関係の施設やサービスを充実する」(31.1%)となっている。

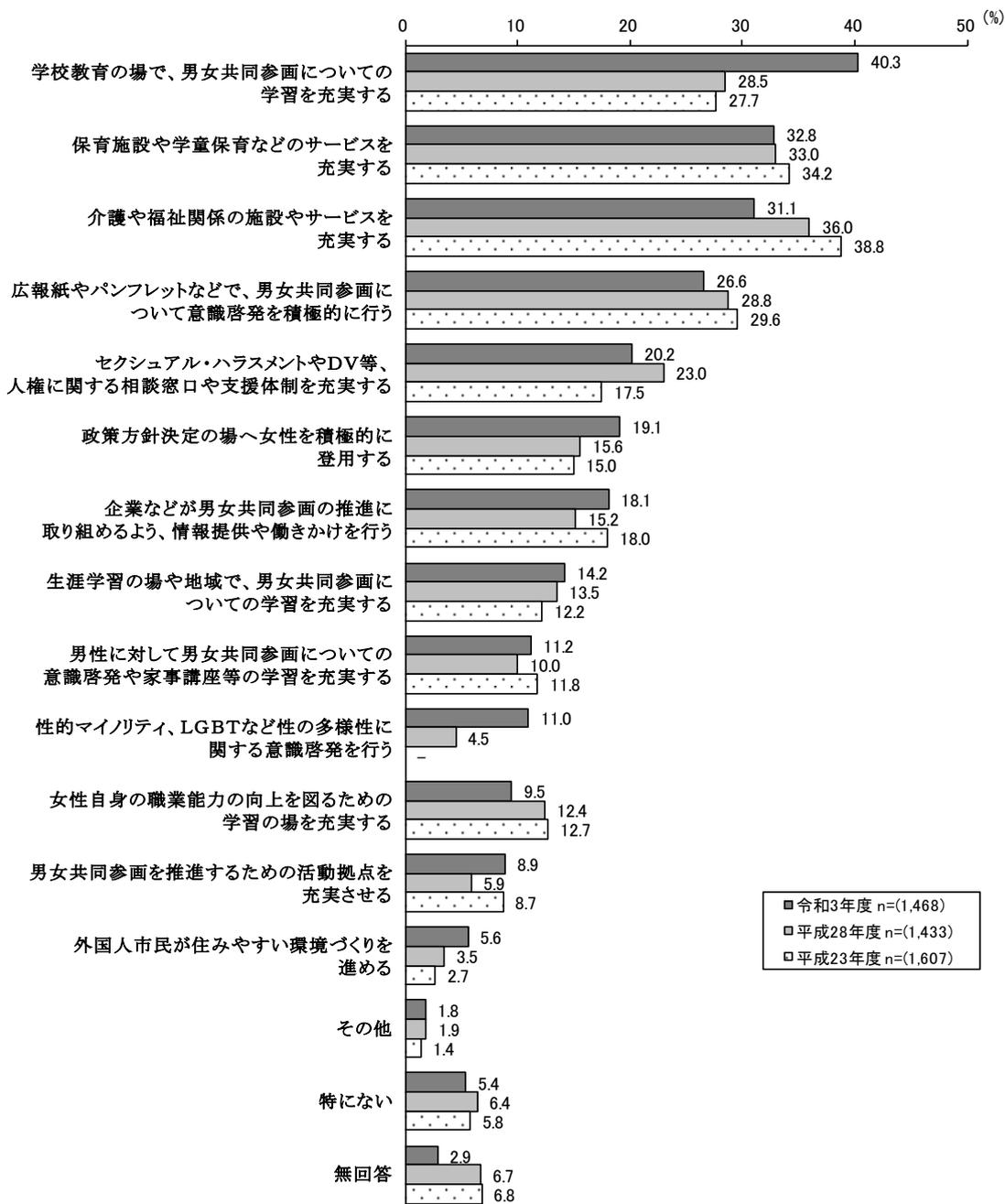
性別でみると、「広報紙やパンフレットなどで、男女共同参画について意識啓発を積極的に行う」は男性(31.3%)が女性(23.9%)より7.4ポイント高くなっている。一方で、「保育施設や学童保育などのサービスを充実する」は女性(37.7%)が男性(26.5%)より11.2ポイント、「介護や福祉関係の施設やサービスを充実する」は女性(35.3%)が男性(25.4%)より9.9ポイント高くなっている。



第2章 調査結果の詳細

【経年比較】

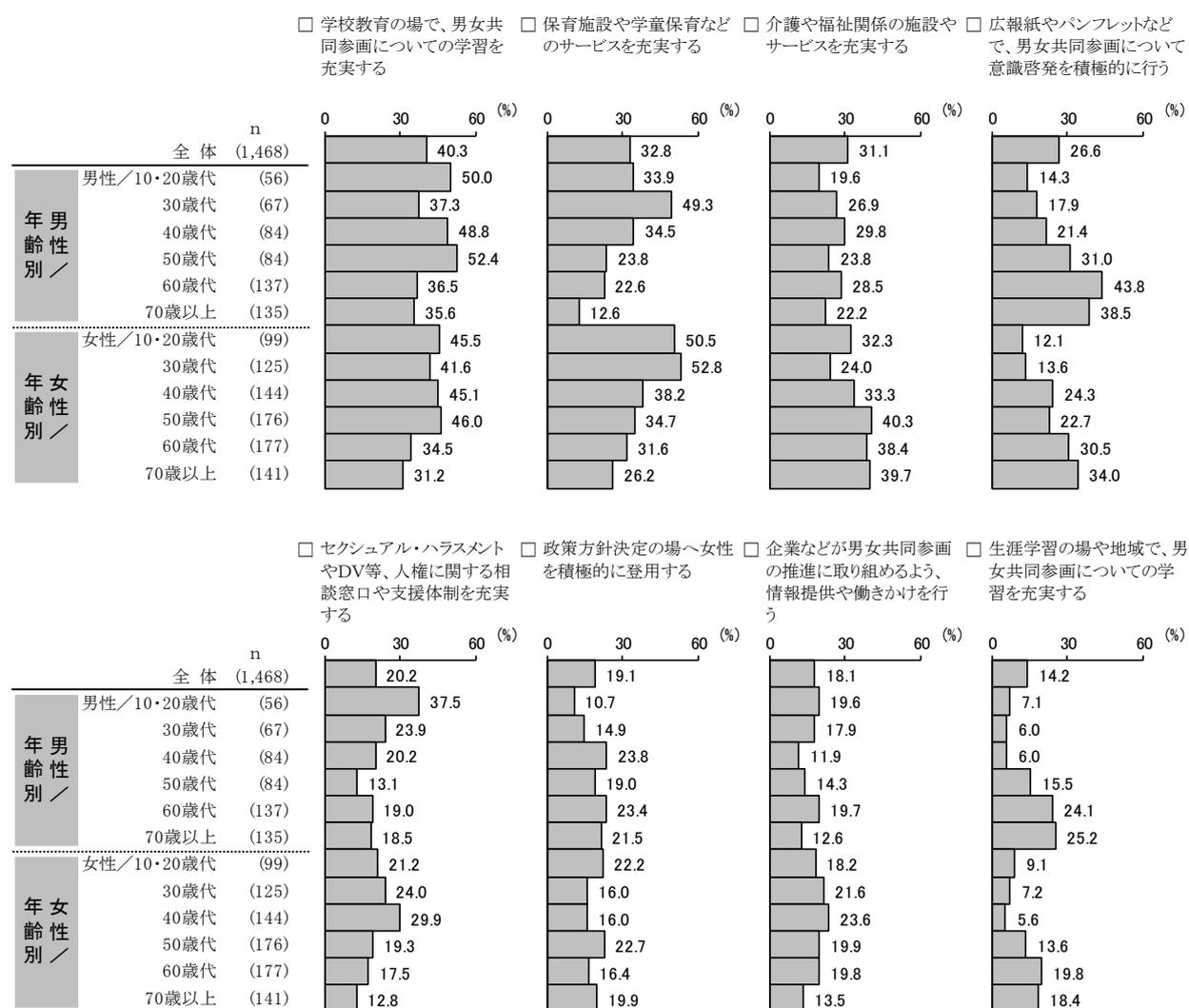
平成28年度の川口市の調査結果と比べると、「学校教育の場で、男女共同参画についての学習を充実する」は11.8ポイント、「性的マイノリティ、LGBTなど性の多様性に関する意識啓発を行う」は6.5ポイント増加している。



※「性的マイノリティ、LGBTなど性の多様性に関する意識啓発を行う」は平成28年度調査までは「セクシュアル・マイノリティ、LGBTなど性の多様性に関する意識啓発を行う」

【性／年齢別（上位8項目）】

性／年齢別で見ると、男性では、「学校教育の場で、男女共同参画についての学習を充実する」が10・20歳代（50.0%）、40歳代（48.8%）、50歳代（52.4%）で最も高く、その他の年代でも約4割となっている。30歳代では「保育施設や学童保育などのサービスを充実する」、60歳代、70歳以上で「広報紙やパンフレットなどで、男女共同参画について意識啓発を積極的に行う」が最も高くなっている。また、10・20歳代では「セクシュアル・ハラスメントやDV等、人権に関する相談窓口や支援体制を充実する」が37.5%と他の年代に比べて高くなっている。女性では、「学校教育の場で、男女共同参画についての学習を充実する」が40歳代（45.1%）、50歳代（46.0%）で最も高く、10・20歳代、30歳代でも4割以上となっている。10・20歳代、30歳代で「保育施設や学童保育などのサービスを充実する」、60歳代、70歳以上で「介護や福祉関係の施設やサービスを充実する」が最も高くなっている。



(4) 自由意見

問26 市の男女共同参画の推進に関する施策や男女共同参画社会についてご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

市の男女共同参画の推進に関する施策や男女共同参画社会について意見や要望を自由に記述していただいたところ、121人から貴重な回答が得られた。以下は内容ごとに分類したものであるが、記述内容が複数の分野にわたる場合は、それぞれ1とカウントしているため件数は延べ件数となる。ここでは、各項目から回答を抜粋して掲載する。

男女共同参画に関する意識の啓発・教育について	31件
男女共同参画に関する市の取り組みについて	18件
男女共同参画に関する広報・情報提供について	18件
女性の就労、社会参画について	15件
「男女共同参画社会」のあり方について	10件
子育て・家事について	9件
多様性の考慮について	5件
男女間の暴力や差別について	2件
アンケート調査について	19件
その他	9件
合 計 (延べ)	136件

■男女共同参画に関する意識の啓発・教育について (31件)

- ・すべてが平等とせず、男性と女性は元々からだの作りが違うことも含め、小学校のころから男女共同参画について、教育して欲しい。
- ・男女共同参画などと意識をしている事が逆に進まない事です。すんなりと出来る事が必要であるので、だれでも参加出来るようにしておく事が大事です。
- ・男女共同参画社会について、今後は、勉強をもっとしていこうと思います。
- ・市の男女共同参画の推進や男女共同参画社会をつくるためには、市議会議員さん等、お偉い方の意識を変える事が最も重要な事であり、意識を変える事で女性が尊重される社会になるのではないかと考えます。
- ・自分の普段の生活とどう関わるのかわからず、それが関心の低い要因となっている。多くの人の生活に、“このように直結しているからもっと皆に考えて欲しい”というように啓発活動を行って欲しいと思う。
- ・男性・女性にかぎらず、働く、勉強する、学ぶことはとても大切と考えます。上から圧力をかけるのではなく、社会全体が自然に目標に向けた流れを作っていけたら、素晴らしいと思います。

- ・男女同参画社会＝男女平等とは違う。結局、本人の意識が変わらないといけないので子どもの頃から学習していかないといけないのではないかな。
- ・学校教育の場から、男女共同参画社会について、理解させていくことが重要である。
- ・人間は皆、自由、平等、民主主義、基本的人権を守り、育てる義務があると教育する。
- ・どんな場面においても男・女が対等に活躍するのが普通という世の中になって欲しい。性による区分けでなく、個人のもつ力が正当に評価、活用されることが生きがいにもつながると思います。
- ・各種SNSを利用して啓蒙活動し、より多くの人々が認識・参加できるようにすればと思う。市民の意見も投稿でき、意見が反映されれば、参加意欲も増すと思う。動画も3～5分程度にまとめたものをいくつかあると、わかりやすいのではないかなと思う
- ・子どものうちから学校で教えていくと、それが普通になると思う。今の大人は忙しすぎて、あまり興味がない

■男女共同参画社会に関する市の取り組みについて（18件）

- ・市の政策決定の場に、女性、LGBTQ、外国人住民、子ども、高齢者、障がいを持つ人々を参加・取りこめられるようにして欲しいです。ヒアリングやワークショップなどを開催して、意見を集約してみたいです。また、上記のような人々の内、被参政権を持つ人々が市議会議員になれるようサポート・周知などの取り組みをして欲しいです。
- ・社会生活の場、公共の場において、実際（現実）に見える現実として成立している状況を作りだすこと。見える、現実化が大事と思う。文字で「らしい」ことを書きつらねても読むだけでは右から左。男女の差別なく生活、働いている暮らしの現実が街中に実として存在する市政が必要です。
- ・実際の川口市の現状、今後のあるべき姿の2点を明確にし、施策等を実施していただきたいです。私自身、2014年から企業に勤めていますが、2014年と2021年を比べると女性の進出はだいぶ進んだと感じています。
- ・男性女性がともに安心して暮らしていける社会をめざす。
- ・情報提供や働きかけを行うことで推進したと思わないで欲しい。
- ・コロナ禍の中で不安が増大しているけれど、とにかくひとり一人の市民の声に傾聴して欲しい。そして、それに対する処方箋に対しては、愚直に実行してすべての人の幸せを目指していくことが大切ではないでしょうか。

■男女共同参画に関する広報・情報提供について（18件）

- ・市のLINEでの情報発信力の向上。転入された住民に登録をすすめるなど登録者数の増加を図り、内容を充実させる。
- ・私は生まれてから21年間川口市に住んでいますが、普通に生活をしていて男女共同参画についての取り組みを川口市がどのように行っているのかまったく知りませんでした。周知等が不足しているのではないかと思います。市民がこのことについてもっと興味を持つことが重要だと考えます。
- ・若い世代にも、こういう施策や事業をやっていますというアピールをした方が良いと思います。若者の理解があつてこそ成り立つものなのかと思っています。
- ・広報紙やパンフレットは自ら見ようとしないと思われ（仕事している女性はほぼ見ないのではないか）。LINEやインスタグラムのSNSなどを使って新しい情報発信を増やして欲しい。
- ・さまざまなメディアを使った積極的な情報発信があるといいと思います。
- ・市で男女共同参画推進の活動があることを知らなかったのもっとパンフレットなどを配るなどをすることで、認知を広げれば、より効果的な推進が可能になるなどと思った。

■女性の就労・社会参画について（15件）

- ・女性の賃金を上げて欲しい。女性一人でも働いて暮らしていけるぐらいに。
- ・若い女性の政治家を増やしましょう。市長に女性が立候補できるようにしましょう。全体的に欧州連合（特に北欧）を見習いましょう。
- ・男女共同参画の目的が、男も女も意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会ならば、職場での個々の意見や意欲などをしっかりと出せる（ヤジや差別などが無い）職場環境を作るべき。
- ・自治会・町内会に関わってみても、女性の会長や副会長が少なく感じます。社会の基層に女性の参画が少ないわけですので、当然、その他の組織も女性の参画が少なくなるはず。早急に、自治会・町内会に女性の会長や副会長が増えるように働きかけて下さい。
- ・商工会等を通じて、職場に施策等を表現し身近な物にする。
- ・職種によっては、女性が進出したことにより、男性の負担が増える場合がある。仕事量が慢性的に多い職場だと女性に残業をあまりさせられないので、結局、周りの男性への負担が多くなる現状、現場もある。
- ・現代は、子どもは学校、大人は会社にいる時間が長すぎると感じます。男女共同参画についての理解を含め、市民が自らの教養を深め、さまざまな経験ができるよう、時間的に余裕のある生活ができるようになると思います。

■「男女共同参画社会」のあり方について（10件）

- ・性別ではなく一人の人間としてお互いを尊重できる社会というのは、難しいことなのでしょうか。社会としては難しくとも家庭の中くらいはそうありたいです。
- ・男女は平等ではなく、対等だと考えるべきではないかと思います。男には男にしかできないこと、女には女にしかできないことがあると思うので、それぞれの社会での役割に合った生活のできる世の中になって欲しいです。
- ・男だから・女だからではなく、各個人が思うような生き方が実現できるような社会が理想だと思う。
- ・世代、年齢、生活環境の違いによって、考え方や取り組みたい事、取り組めない事があると思う。男女として考えるのではなく、適材適所の人選が自然と出来る事が本当の男女共同参画なのではないだろうか。

■子育て・家事について（9件）

- ・男性は仕事だけしていればえらいのか。もう少し子育てが女性だけでなく、両方である時代になって欲しい。母親は家事をして休みがないのだから。休んでいると思われるのが腹立つ。
- ・「結婚はしない」「結婚しても子どもはもたない（不妊を除く）」「うまくいかなければ離婚する」これらのことが簡単にあたりまえに受け入れられる社会であってほしくはない。少子高齢化がますます加速し、これからの世の中を背負って立つ子どもたちを健全に育成していける社会であって欲しい。そのための子育て環境をととのえることが大切だと思う。
- ・身近の人で、育児を担っている男性がいる。保育園のお迎えがあるという理由で、18時に仕事を終わりにする。保育施設の充実が必要だと思います。（仕事と家庭の両立のために。）
- ・出産・育児については、1回だけでも必ず男性が参加する講座、体験等が必要。パートナーからの働きかけだけでは、実感・理解が伴わないことが多く、医師や保育園、子育て支援などの専門家の話をきくことがとても大切です。
- ・川口市は、子育てするには、十分な施設や環境が整っていると思います。ただ、遠方にしか親族がない場合だと、2人目の子供を持つ事に不安を感じてしまうので、サポートするサービスがあれば良いのにとと思います。

■多様性の考慮について（5件）

- ・SDGsなどはTVの報道などで認知度が高まったので、その1つのゴールとしてジェンダー平等推進と女性の地位向上の大切さ、を教育の場で訴える。
- ・職場（小学校）で研修が多く行われるようになったが、LGBT等や男女差別への理解が足りない年配の人が多。引きつづき研修を行う必要がある。
- ・「男女共同参画」という言葉自体がなじめない。「ジェンダー」という言葉は今や世界共通の概念になっています。ジェンダー（社会的、文化的な男女の性差）平等社会として欲しいです。セックス（男女の身体的性差）に対してジェンダーがあります。

■男女間の暴力や差別について（2件）

- ・コロナ禍、女性や子どもの自殺率が上がっている。かなりの見えないところでDV、虐待の被害があるのだと考えている。もっと身近なところでの支援が必要である。大きな講習会等はあまり意味がないと考える。

■アンケート調査について（19件）

- ・川口市が、男女共同参画にこんなに力を入れていた事を今迄知らなかったが、この様なアンケートに参加し、（男女共同参画のことを）初めて知ったので、今後は広報紙をよく読み、勉強しようと思いました。
- ・このアンケート上で「男女共同参画社会」とは何かという定義がされていない。川口市が取り組んでいるとあるが、言葉だけでは何をやっているのか分からない。
- ・川口市が多々の施策をしていることを知り、驚きました。これからは気がついたら参加したいと思います。このようなアンケートをするのも、有効だと思います。頑張ってください。
- ・今回市民意識調査の文書をいただきましたが、このなかで、男女共同参画に関する社会の動きや、言葉についてまったく理解していないことに気が付き、恥ずかしい次第です。今後少しずつ勉強していきたいと思います。
- ・このような意識調査はインターネット上で回答できるようにしていただきたいです。

■その他（9件）

- ・パラリンピック観戦していて気が付いたのですが、障害者の社会参画も川口市は進んでいるのでしょうか。
- ・働きながら主人の介護を15年してまいりました。これも私の勤務先の会社の理解があってこそと存じます。社長を初め、上司の方々は皆、良い方ばかりでした。でも中間管理職の人は自分が一番の人ばかりで、よく衝突したものです。私は、草加より転居して30年になりますが、とても住み易い市だと感じています。とても幸せですよ。今後ともよろしくお願い致します。
- ・申しわけありませんが、私自身は協働推進課、男女共同参画係というものがあることさえ知りませんでした。

第 3 章 資 料

男女共同参画に関する市民意識調査

【男女共同参画に関する市民意識調査へのご協力をお願い】

市民の皆様には、日ごろから市政の推進に対しまして、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、男女がともにいきいきと、対等なパートナーとして、伸びやかに生きることのできるまちづくりを目指して、「第2次川口市男女共同参画計画《改訂》」に基づいて、様々な取り組みを進めております。

このたび、市民の皆様の男女共同参画に関する意識の変化を把握し、今後、市が取り組むべき施策の参考資料とするために、調査を実施することといたしました。

今回の調査では、満18歳以上の市民の皆様の中から、無作為に4,000人の方を選ばせていただき、ご協力をお願いしております。調査結果は「〇〇の意見が〇%」などという形でとりまとめ、ご回答いただきました内容は本調査の目的以外に使用いたしません。また、記入者が特定されることはありません。

市民の皆様とともに、川口市を魅力的で元気なまちにするために、アンケートの趣旨をご理解いただき、ぜひともご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年9月 川口市長 奥ノ木 信夫

＊ ＊ ご記入にあたってのお願い ＊ ＊

- 1 必ず、封筒の宛名ご本人様に回答をお願いいたします。
- 2 回答に氏名・住所を記入していただく必要はありません。
- 3 回答には、濃いえんぴつか、黒または青のボールペン・万年筆をご使用ください。
- 4 回答方法は、あてはまる選択肢の番号を○で囲んでください。
- 5 ご自分の意見に近い選択肢がない場合は「その他（ ）」の選択肢の番号を○で囲み、（ ）の中にその具体的な内容をご記入ください。
- 6 設問によって回答していただく方が限られる場合があります。説明文や矢印に従ってお進みください。

すべての記入が終わりましたら、お忙しいところ恐縮ですが、
令和3年9月30日（木）までに
 同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、投函してください。

● 調査票に関するお問い合わせ先 ●

川口市 市民生活部 協働推進課

〒332-0015 川口市川口1-1-1 キュポ・ラ本館棟M4階

TEL：048-227-7605

問い合わせ時間：火曜日～土曜日 9：00～17：15（祝日はお休み）

1 男女の平等について

問1 あなたは、次の分野において、男女は平等になっていると思いますか。また、社会全体としてはどうですか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
(ア) 家庭生活	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育	1	2	3	4	5	6
(エ) 法律や制度	1	2	3	4	5	6
(オ) 社会通念・慣習	1	2	3	4	5	6
(カ) 政治の場	1	2	3	4	5	6
(キ) 地域活動	1	2	3	4	5	6
(ク) 社会全体として	1	2	3	4	5	6

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えになりますか。あてはまるものを1つお選びください。

1. 賛成	3. どちらかといえば反対
2. どちらかといえば賛成	4. 反対
	5. わからない

問3 結婚、家庭等について、あなたの考えはどれですか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
(ア) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
(イ) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
(ウ) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5

2 男女平等教育について

問4 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、学校、家庭、職場、社会等のあらゆる場で特
にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。それぞれについて、あてはまるものを1つ
ずつお選びください。

		も と も 必 要 で あ る	必 要 で あ る	必 要 で は な い	わ か ら な い
学 校 教 育	(ア) 男女平等についての授業を行う	1	2	3	4
	(イ) 性別にかかわらず、児童・生徒の個性や能力に応じた生活指導、進路指導を行う	1	2	3	4
	(ウ) 教員など指導的立場にあるものに研修を行う	1	2	3	4
家 庭	(エ) 男女平等についての子ども向け、家庭向けパンフレットを作成する	1	2	3	4
	(オ) 互いの性を尊重しあうことの大切さを教える	1	2	3	4
	(カ) 子どもを産み育てることの大切さを教える	1	2	3	4
職 場	(キ) 職場内で男女平等についての研修を行う	1	2	3	4
	(ク) 会社役員や人事担当などに男女平等についての研修を行う	1	2	3	4
社 会	(ケ) 市民意識啓発のために講演会やセミナーを開催する	1	2	3	4
(コ) その他（具体的に： _____）					

3 家庭生活について

問5 あなたは、家事、育児、介護、町会・自治会活動、PTA活動の役割について、どのようにお
考えですか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

	が 主 に 女 性	し 男 女 が 協 力	が 主 に 男 性	ほ う が あ る 時 間	わ か ら な い
(ア) 家事	1	2	3	4	5
(イ) 育児	1	2	3	4	5
(ウ) 介護	1	2	3	4	5
(エ) 町会・自治会活動	1	2	3	4	5
(オ) PTA活動	1	2	3	4	5

第3章 資料

問6 あなたは、家事、育児、介護、町会・自治会活動、PTA活動について、現在、平日で平均どのくらい関わっていますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

	ほとんど関わっていない	30分程度	1時間程度	2～3時間程度	4～5時間程度	6～7時間程度	8時間以上	わからない	該当する家族はいない
(ア) 家事	1	2	3	4	5	6	7	8	
(イ) 育児	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(ウ) 介護	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(エ) 町会・自治会活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9
(オ) PTA活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9

4 ワーク・ライフ・バランスについて

問7 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | |
|--------------------|---------|
| 1. 内容をよく知っている | 3. 知らない |
| 2. 見たり、聞いたりしたことはある | |

問8 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望（理想）に最も近いものを1つお選びください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 「仕事」を優先 |
| 2. 「家庭生活」を優先 |
| 3. 「地域・個人の生活」を優先 |
| 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先 |
| 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先 |
| 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 |
| 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 |
| 8. わからない |

問9 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）に最も近いものを1つお選びください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 「仕事」を優先 |
| 2. 「家庭生活」を優先 |
| 3. 「地域・個人の生活」を優先 |
| 4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先 |
| 5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先 |
| 6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 |
| 7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先 |
| 8. わからない |

問10 あなたは、男性の育児休業、介護休業取得についてどのようにお考えですか。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つずつお選びください。

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
(ア) 育児休業	1	2	3	4	5
(イ) 介護休業	1	2	3	4	5

問11 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまでお選びください。

1. 給与などの男女間格差をなくすこと
2. 年間労働時間を短縮すること
3. 育児・介護休業、育児短時間勤務などの制度を企業が整えること
4. 代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境をつくること
5. 育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること
6. 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること
7. 地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること
8. 在宅勤務や時差勤務など、柔軟な勤務制度を導入すること
9. 職業上、必要な知識・技術などの職業訓練を充実すること
10. 男性が家事や育児を行う能力を高めること
11. 男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること
12. その他（具体的に： _____)
13. わからない

5 就労について

問12 女性の働き方は、どのようなかたちが望ましいと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

1. ずっと仕事を続ける
2. 結婚したら仕事をやめ、家事や育児に専念する
3. 子育て時期だけ一時やめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
4. 子育て時期だけ一時やめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
5. 子どもができるまでは仕事を持ち、子どもができたなら家事や育児に専念する
6. 仕事は持たない
7. その他（具体的に： _____)
8. わからない

第3章 資料

問13 一般的に働く場において、女性の管理職への登用について、どのように感じますか。あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- | | | |
|------------------|--------------|----------|
| 1. 進んでいる | 3. あまり進んでいない | 5. わからない |
| 2. どちらかといえば進んでいる | 4. 進んでいない | |

問14 一般的に働く場において、女性の管理職への登用に関して、どのような課題があると思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|--------------------------------|--|
| 1. 女性を登用するためのキャリア形成支援が不十分であること | |
| 2. 昇進を望まない女性が多い（管理職への意識が低い）こと | |
| 3. 女性管理職のロールモデルがないこと | |
| 4. 男性に比べ、女性は正当な評価がされないこと | |
| 5. 女性管理職登用に関して、経営層の意識が低いこと | |
| 6. その他（具体的に： _____） | |
| 7. 課題はない | |

6 社会活動への参加について

問15 あなたは、地方自治体（県や市町村）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|----------------|-----------------|----------|
| 1. 十分反映されている | 3. あまり反映されていない | 5. わからない |
| 2. ある程度反映されている | 4. ほとんど反映されていない | |

（問15で「3. あまり反映されていない」「4. ほとんど反映されていない」と答えた方に）

問15-1 その理由は何ですか。あてはまるものを3つまでお選びください。

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 女性の議員が少ない | |
| 2. 行政機関の管理職に女性が少ない | |
| 3. 審議会や委員会に女性委員が少ない | |
| 4. 町会や自治会のリーダーに女性が少ない | |
| 5. 女性自身の意欲や責任感が乏しい | |
| 6. 男性の意識・理解が足りない | |
| 7. 社会のしくみが女性に不利 | |
| 8. その他（具体的に： _____） | |

問16 あなたは、以下に挙げる活動の中で、過去2年の間に行ったことがある活動はありますか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 町会や自治会などの活動
2. 公共施設での活動
3. 青少年育成に関する活動（ボーイスカウト・ガールスカウト、子ども会など）
4. 交通安全に関する活動（子どもの登下校時の安全監視など）
5. 保健・医療・衛生に関する活動（病院ボランティアなど）
6. 募金活動、チャリティーバザーの活動
7. 防犯・防災活動や災害援助活動
8. 体育・スポーツ・文化に関する活動（スポーツ・レクリエーション指導、祭り、学校でのクラブ活動における指導など）
9. 自然環境保護に関する活動（環境美化・清掃活動、リサイクル活動、牛乳パックの回収など）
10. お年寄りや障がいのある人のための福祉活動
11. 保育園・幼稚園・学校などのPTA活動
12. 家事や子どもの養育を通じての活動
13. 国際交流・協力に関する活動
14. その他（具体的に： _____）
15. 特にない

（問16で「15. 特にない」と答えた方に）

問16-1 あなたが活動しなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 仕事が忙しいから | 7. 近くに活動の場がないから |
| 2. 家事や育児・介護などが忙しいから | 8. 参加したいと思う活動がないから |
| 3. 経済的余裕がないから | 9. 参加方法がわからない、きっかけがないから |
| 4. どのような活動があるかわからないから | 10. その他 |
| 5. 一緒に活動する仲間がないから | （具体的に： _____） |
| 6. 家族の理解や協力ががないから | 11. 特にない |

7 男女間の暴力について

問17 あなたは、次のようなことが配偶者（事実婚や別居、離別を含む）やパートナー、恋人間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

	どんな場合も暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたると思わない
(ア) 平手で打つ・こぶしで殴る	1	2	3
(イ) 足で蹴る	1	2	3
(ウ) 物を投げつける	1	2	3
(エ) 身体を傷つける可能性のある物などで殴る	1	2	3
(オ) 殴るふりをして脅かす	1	2	3
(カ) 刃物などを突きつけて脅かす	1	2	3
(キ) 突き飛ばしたり、壁に叩きつけたりする	1	2	3
(ク) ドアや机を蹴るなど、大きな音を立てて脅かす	1	2	3
(ケ) 相手が嫌がっているのに性的な行為を強制する	1	2	3
(コ) 見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
(サ) 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
(シ) 交友関係や電話・郵便物などを細かく監視する	1	2	3
(ス) 「誰のおかげで生活できるのだ」「役立たず」などと言う	1	2	3
(セ) 大声でどなる	1	2	3
(ソ) 生活費を渡さない	1	2	3

問18 あなたは、次のような行為を受けたことがありますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。配偶者（事実婚や別居、離別を含む）と恋人両方から受けたことがある場合は、両方について頻度をお答えください。

	配偶者から (事実婚等を含む)		恋人から		全 く な い
	あ 何 度 も あ っ た も	あ 1 つ つ あ っ た 2 度	あ 何 度 も あ っ た も	あ 1 つ つ あ っ た 2 度	
(ア) 平手で打つ・こぶしで殴る	1	2	3	4	5
(イ) 足で蹴る	1	2	3	4	5
(ウ) 物を投げつける	1	2	3	4	5
(エ) 身体を傷つける可能性のある物などで殴る	1	2	3	4	5
(オ) 殴るふりをして脅かす	1	2	3	4	5
(カ) 刃物などを突きつけて脅かす	1	2	3	4	5
(キ) 突き飛ばしたり、壁に叩きつけたりする	1	2	3	4	5
(ク) ドアや机を蹴るなど、大きな音を立てて脅かす	1	2	3	4	5
(ケ) 相手が嫌がっているのに性的な行為を強制する	1	2	3	4	5
(コ) 見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	4	5
(サ) 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3	4	5
(シ) 交友関係や電話・郵便物などを細かく監視する	1	2	3	4	5
(ス) 「誰のおかげで生活できるのだ」「役立たず」などと言う	1	2	3	4	5
(セ) 大声でどなる	1	2	3	4	5
(ソ) 生活費を渡さない	1	2	3	4	5

(問18で1つでも「1. 何度もあった」から「4. 1～2度あった」と答えた方に)

問18-1 誰かに相談しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 家族・親戚	7. 民間の相談機関
2. 友人・知人	8. 弁護士
3. 同じ経験をした人	9. 警察
4. 医師・カウンセラー	10. その他
5. 公的機関（市や県の相談窓口や電話相談）	（具体的に：）
6. 人権擁護委員	11. 誰にも相談しなかった

次ページの間18-1-1へ

第3章 資料

(問18-1で「11. 誰にも相談しなかった」と答えた方に)

問18-1-1 相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 相談するほどのことではないと思ったから
2. 相談しても無駄だと思ったから
3. どこに相談したらいいかわからなかったから
4. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
5. そのことについて思い出したくなかったから
6. 相談員の言動により不快な思いをすと思ったから
7. 自分さえ我慢すればすむと思ったから
8. 相談したことがわかると仕返しを受けると思ったから
9. 世間体が悪いから
10. 他人を巻き込みたくなかったから
11. 自分にも悪いところがあると思ったから
12. その他（具体的に： _____)
13. わからない

8 防災について

問19 防災・災害復興対策に、男女の性別に配慮した対応がとられる必要があると思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|------------------|-----------------|----------|
| 1. 必要がある | 3. 必要ない | 5. わからない |
| 2. どちらかといえば必要がある | 4. どちらかといえば必要ない | |

→ (問19で「1. 必要がある」「2. どちらかといえば必要がある」と答えた方に)

問19-1 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うものは何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 避難所の設置・運営体制
2. 被災者に対する相談受付体制
3. 食料、飲料水、医薬品の備えや供給体制
4. 救援医療体制
5. 災害時の正確・迅速な情報連絡体制
6. その他（具体的に： _____)
7. わからない

9 人権について

問20 あなたは次のようなハラスメントを受けた経験がありますか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. パワー・ハラスメント
2. セクシュアル・ハラスメント
3. マタニティ・ハラスメント
4. モラル・ハラスメント※¹
5. ケア・ハラスメント※²
6. 性的指向・性自認に関するハラスメント
7. 自分は受けたことはないが、周囲に被害者がいる
8. 自分も受けたことがないし、周囲にも被害者はいない

※¹ モラル・ハラスメントとは、言葉や態度などによる精神的な暴力、嫌がらせです。

※² ケア・ハラスメントとは、働きながら育児や介護を行う労働者に対し、嫌がらせや制度を利用させない行為です。

→ (問20で1つでも「1. パワー・ハラスメント」から「6. 性的指向・性自認に関するハラスメント」と答えた方に)

問20-1 ハラスメント被害を誰かに相談しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 家族・親戚 | 7. 民間の相談機関 |
| 2. 友人・知人 | 8. 弁護士 |
| 3. 同じ経験をした人 | 9. その他 |
| 4. 医師・カウンセラー | (具体的に: _____) |
| 5. 公的機関 (市や県の相談窓口や電話相談) | 10. 誰にも相談しなかった |
| 6. 人権擁護委員 | |

問21 あなたは、性的マイノリティ (LGBT※等) の当事者が困っていることはどのようなことだと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 職場、学校において、嫌がらせを受けること
2. 差別的な言動をされること
3. じろじろ見られたり、避けられたりすること
4. 性的マイノリティに対する理解が足りないこと
5. 更衣室、トイレなど男女区別のある施設が利用しづらいこと
6. 本人の許可なく、性的指向や性自認を他人に暴露されること
7. 就職・職場で不利な扱いを受けること
8. アパート等への入居を拒否されること
9. 店舗等への入店や施設利用を拒否されること
10. その他 (具体的に: _____)
11. 特にない

※ LGBTとは、レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(生まれた時の性別と自認する性別が一致しない人)など、性的マイノリティの方を表す総称のひとつです。その他にも、多様なセクシュアリティがあります。

第3章 資料

問22 性的マイノリティの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまでお選びください。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 性的マイノリティの人権を守るための啓発活動を推進する 2. 性的マイノリティのための人権相談、電話相談を充実する 3. 学校において、性的マイノリティについて理解を深める教育を充実する 4. パートナーシップ宣誓制度*など、同性カップルを公認する制度をつくる 5. 性的マイノリティが働きやすい職場環境を整備する 6. 公共施設や店舗等のトイレや更衣室などを、性的マイノリティへの配慮の視点を取り入れて整備する 7. 役所への申請書やアンケートの性別欄を性的マイノリティに配慮したものにする 8. その他（具体的に： _____ ） 9. 特にない |
|---|

※ パートナーシップ宣誓制度とは、市町村が、同性のカップルを「婚姻に相当する関係」と認め、市町村独自の証明書を発行する制度です。

10 男女共同参画の推進について

問23 次に挙げる男女共同参画に関する社会の動きや言葉についてうかがいます。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

	内容をよく 知っている	見たり、聞いたり したことはある	知らない
(ア) 男女共同参画社会	1	2	3
(イ) ジェンダー（社会的性別）	1	2	3
(ウ) エンパワーメント	1	2	3
(エ) ポジティブ・アクション	1	2	3
(オ) ユニバーサルデザイン	1	2	3
(カ) 性的マイノリティ、LGBT	1	2	3
(キ) デートDV	1	2	3
(ク) 女子差別撤廃条約	1	2	3
(ケ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	1	2	3
(コ) 育児・介護休業法	1	2	3
(サ) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(シ) 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）	1	2	3

問24 川口市が取り組んでいる次の施策・事業についてうかがいます。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

	内容をよく知っている	見たり、聞いたりしたことはある	知らない
(ア) 男女共同参画情報紙「Co-Labo (コ・ラボ)」	1	2	3
(イ) 川口市男女共同参画推進条例	1	2	3
(ウ) 第2次川口市男女共同参画計画《改訂》	1	2	3
(エ) 男女共同参画セミナー	1	2	3
(オ) 川口市男女共同参画のつどい(講演会)	1	2	3
(カ) 川口市男女共同参画イベント「カラフルふえすた」	1	2	3
(キ) キュポ・ラ本館棟M4階「男女共同参画コーナー」	1	2	3
(ク) 女性のための相談窓口や電話相談	1	2	3

問25 男女共同参画社会の実現に向けて、今後川口市はどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。3つまでお選びください。

1. 広報紙やパンフレットなどで、男女共同参画について意識啓発を積極的に行う
2. 学校教育の場で、男女共同参画についての学習を充実する
3. 生涯学習の場や地域で、男女共同参画についての学習を充実する
4. セクシュアル・ハラスメントやDV等、人権に関する相談窓口や支援体制を充実する
5. 性的マイノリティ、LGBTなど性の多様性に関する意識啓発を行う
6. 政策方針決定の場へ女性を積極的に登用する
7. 女性自身の職業能力の向上を図るための学習の場を充実する
8. 男性に対して男女共同参画についての意識啓発や家事講座等の学習を充実する
9. 保育施設や学童保育などのサービスを充実する
10. 介護や福祉関係の施設やサービスを充実する
11. 企業などが男女共同参画の推進に取り組めるよう、情報提供や働きかけを行う
12. 外国人市民が住みやすい環境づくりを進める
13. 男女共同参画を推進するための活動拠点を充実させる
14. その他(具体的に: _____)
15. 特にない

第3章 資料

問26 市の男女共同参画の推進に関する施策や男女共同参画社会についてご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

あなたご自身のことについて

F 1 あなたの性別は次のうちどれですか。あてはまるものを1つお選びください。(戸籍上の性別に関係なくお答えください。)

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 1、2以外 |
|-------|-------|----------|

F 2 あなたの年齢は次のうちどれですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1. 18～19歳 | 4. 30～34歳 | 7. 45～49歳 | 10. 60～64歳 |
| 2. 20～24歳 | 5. 35～39歳 | 8. 50～54歳 | 11. 65～69歳 |
| 3. 25～29歳 | 6. 40～44歳 | 9. 55～59歳 | 12. 70歳以上 |

F 3 あなたの職業(2つ以上の職業に就いている方は、主なもの)は次のうちどれですか。あてはまるものを1つお選びください。

- | | | |
|-------------|--------------|---------------------|
| 1. 事業主 | 5. 派遣・契約・嘱託 | 9. 無職 |
| 2. 自営業・家業 | 6. パート・アルバイト | 10. その他
(具体的に：) |
| 3. 自由業 | 7. 専業主婦・専業主夫 | |
| 4. 会社員・団体職員 | 8. 学生 | |

F 4 あなたは結婚していますか。あてはまるものを1つお選びください。

- | |
|--------------------|
| 1. 結婚している(事実婚を含む) |
| 2. 結婚していたが、離別・死別した |
| 3. 結婚していない(未婚) |

F 4-1 夫婦の働き方

- | |
|-------------|
| 1. 共働き |
| 2. 夫だけ働いている |
| 3. 妻だけ働いている |
| 4. 夫婦とも無職 |

F 5 お子さんはいらっしゃいますか。あてはまるものを1つお選びください。

1. いない	2. 1人	5. 4人
	3. 2人	6. 5人以上
	4. 3人	

F 5-1 一番下のお子さんはおいくつですか。_____に年齢をご記入ください。

_____ 歳

F 6 あなたが同居している家族構成は次のどれにあてはまりますか。あてはまるものを1つお選びください。

1. 一人世帯	2. 一世代世帯（夫婦のみ）	4. 三世代世帯（親と子と孫）
	3. 二世帯世帯（親と子）	5. その他 (具体的に： _____)

F 6-1 回答者ご本人様以外で、65歳以上のご家族と同居されていますか。あてはまるものを1つお選びください。

1. 同居している	2. 同居はしていない
-----------	-------------

ご協力、ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、令和3年9月30日（木）までに、

同封の『返信用封筒』に入れてポストに投函してください。

切手は不要です。また、個人情報保護のため、調査票や封筒にご住所やお名前をお書きにならないよう、お願いいたします。

令和3年度 男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

令和4年1月

調査主体： 川口市 市民生活部 協働推進課
川口市川口1丁目1番1号 キュポ・ラ本館棟M4階
電話 048-227-7605

調査機関： 株式会社サーベイリサーチセンター
